2025 総合検査案内

検査項目索引

オ

カ

キ

サ

検査項目索引

検査項目索引

検査項目索引

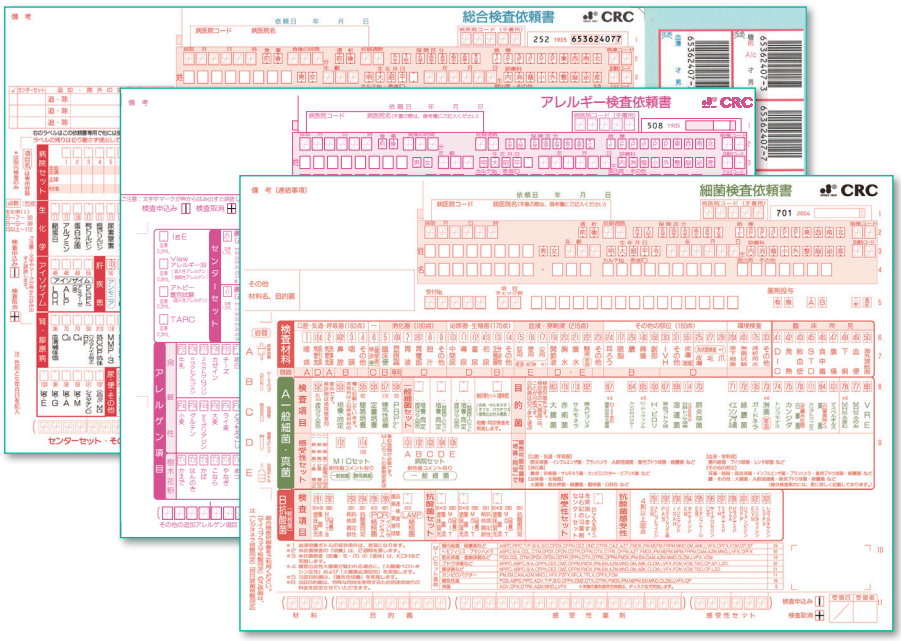
検査ご依頼の方法

所定の検査依頼書および検体ラベル、検体容器をご利用ください。
検査依頼書・ラベル等は、ご連絡によりお届けいたします。
検体容器は、項目ごとに容器欄に番号で記載しております。「容器一覧」及び各頁の容器見本をご参照ください。

検査依頼書

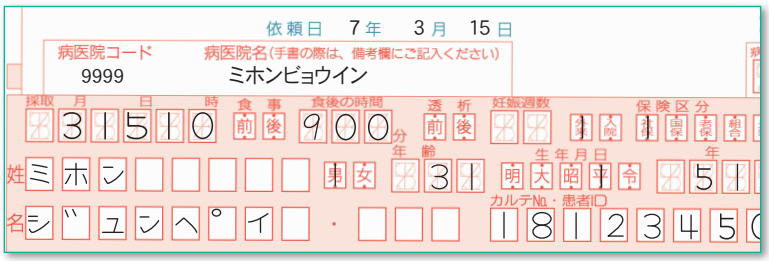
1. 種類

- 総合検査依頼書（OCR用）
- 細菌検査依頼書（OCR用）
- 特定検査依頼書（OCR用）
- 病理検査依頼書（OCR用）
- 細胞診検査依頼書（OCR用）
- アレルギー検査依頼書（OCR用）
- 骨髄検査依頼書
- クロスマッチ検査依頼書
- 特殊検査依頼書

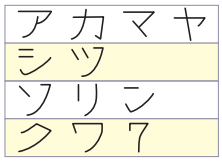


2. ご記入要領

- OCR用の検査依頼書へのご記入は、鉛筆（HB）をご使用ください。
- 受付処理はコンピューターで行いますので、折り曲げたり破ったりしないようご注意ください。
- 患者名や担当医欄は、カタカナでご記入ください。
- 依頼書には、**貴院名・患者名・カルテNo・生年月日・性別・入院・外来・病棟名**のほか、**担当医名・採取月日・採取時刻**などをご記入ください。
- 妊娠週・透析の前後、蓄尿量・蓄尿時間等も、必要に応じてご記入ください。
- ご依頼の検査項目は該当箇所にご指示ください。（OCR用では、[I] のようにご記入ください。）
- 依頼書に記載されていない項目をご依頼の場合には、備考欄にご依頼項目名をご記入ください。
- 依頼書は数枚複写になっており、一部を検体受領明細書に代えさせていただきますので、ご了承ください。

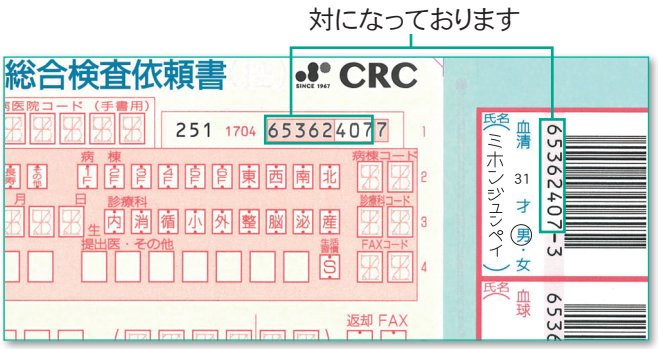


誤読しやすい文字



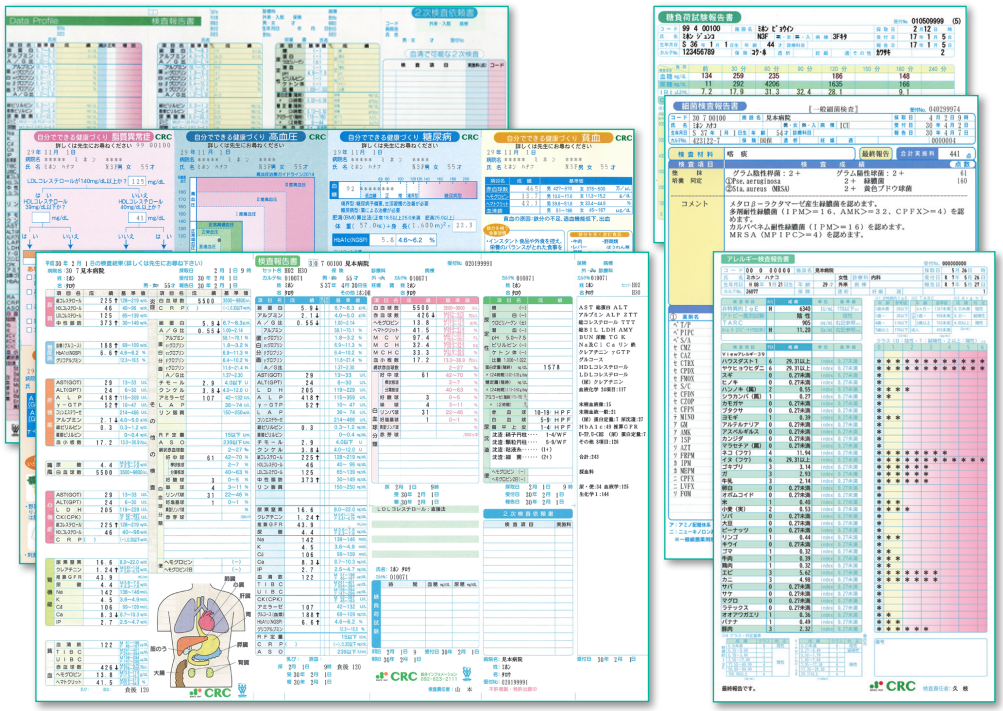
3. 検体ラベル

- 依頼書についているラベルは、患者名などをご記入の上、検体容器にお貼りください。このラベルは依頼書と対になっておりますので、必ず当該検体のみにご使用ください。
- OCR用依頼書でない場合は、所定のラベルに、貴院名・患者名・検査項目・材料名・採取日などをご記入の上、検体容器にお貼りください。



検査報告書

- 汎用報告書
- 特殊検査報告書
- 生活習慣病報告書
- アレルギー検査報告書
- 細菌検査報告書
- 糖負荷試験報告書
- 腫瘍マーカー検査報告書
- アイソザイム検査報告書
- 胃がんリスク層別化検査報告書
- 肝炎ウイルス検査報告書
- 甲状腺検査報告書
- 薬物測定報告書
- 妊婦検査報告書
- 骨塩定量検査報告書
- 血液型検査成績書



検査成績ご報告

- 検査成績は、原則として当社の所定の報告書にて、営業員が直接お届けいたします。
- 検体をお預かりした翌日を起算日とし、成績を先生のお手元に届けるまでの日数を所要日数として、本文中の各項目毎の所要日数欄に記載しております。但し、日曜日・祝日・再検査・追加検査が必要な場合は、更に若干の日数を要します。
- 「正常参考値および判定基準」は、当社では基準値で表示しております。
- 緊急報告をご希望の際は、予めご指示ください。成績判明次第ご報告いたします。
- 別に定めた「緊急報告する検査値の範囲」を超える成績を示した項目につきましては、とくにご指示がない場合でも、ご連絡いたします。
- 最終委託先は、本文の備考欄に番号で記載しており、報告書には項目ごとに、この番号を明示いたします。
  02.LSIメディエンス　04.エスアールエル　11.シー・アール・シー総合研究所　12.臨床病態医学研究所　13.シー・アール・シー久留米研究所
- 本文の「基準値」欄の略号　　M：男性（Male）　F：女性（Female）
- 本文の「基準値」欄の単位・記号

g	gram	（1 g）	U	Unit	（単位）	mEq	milli Equivalent	（ミリ当量）
mg	milligram	（10^{-3}g）	mU	milli Unit	（10^{-3}U）	mOsm	milli Osmole	
μg	microgram	（10^{-6}g）	μU	micro Unit	（10^{-6}U）	h	hour	
ng	nanogram	（10^{-9}g）	IU	International Unit		min	minute	
pg	picogram	（10^{-12}g）	UA	Allergen Unit		sec	second	
L	liter	（1L）	mmol	millimole	（10^{-3}mol）	%	Percent	（1/100）
dL	deciliter	（0.1L）	μmol	micromole	（10^{-6}mol）	‰	Permille	（1/1000）
mL	milliliter	（10^{-3}L）	nmol	nanomole	（10^{-9}mol）	SI	Stimulation Index	
μL	microliter	（10^{-6}L）	pmol	picomole	（10^{-12}mol）	cpm	count per minute	
			fmol	femtomole	（10^{-15}mol）	mAU	milli Arbitrary Unit	

再検査及び検体の保管

- 再検査及び追加検査は、当検査所での基準に基づき検査いたします。検体量不足の場合は、検査できない場合もあります。
- 検査実施後の検体は、当社規定により一定の期間保存後（別頁「検体保存期間」をご参照ください）、医療廃棄物基準に則り廃棄いたします。尚、検査精度の維持、向上などの目的で使用する場合は、個人情報保護法及びガイドラインを遵守し、プール化及び匿名化が可能なものについて使用します。また、委託された医療機関以外の第三者への検体の提供に応じることはできません。

検体の受領・搬送方法

ご依頼の検体は、貴院のご指定の場所まで、当社営業員が受領にお伺いします。

検体受領場所〔　　〕　搬送時間〔　　時間〕

最終委託先までの搬送時間　02〔6時間〕　04〔6時間〕　12〔10分〕　13〔1時間〕

検体のお取り扱い方法

1. 血液

・採血時間

生化学検査や内分泌ホルモン検査など、多くの項目で早朝空腹安静時を原則とします。
項目によっては随時の採血可能な場合もございますので、ご一報ください。（至急検査は、この限りではありません）

・溶血の防止

注射器で採血する場合、無理な吸引や泡立ちを避け、検体容器に血液を移す際には、針をはずして、管壁を血液がゆっくり伝わるようにして移してください。
急激な温度変化や物理的な刺激を与えないでください。（但し、採血後、直ちに全血のまま凍結する場合や、直ちに遠心分離を行う場合などは除きます）

・検体量および採血量

検体必要量は、本文の検体量欄に、各項目毎に記載しております。但し、一度に多項目をご依頼される際の必要量は、記載合計量の50～80%を目安にしてください。
採血量は、血清では検体量の4～5倍、血漿では3～4倍量を採血してください。

・血清・血漿の分離操作

血清は、採血後、血液を室温で凝固させ、凝固完了後に遠心分離してください。
血漿は、所定の抗凝固剤と混和した後、直ちに遠心分離してください。
遠心分離には、遠心力（×g）が約1500gで15分間遠心し、上清を分離する必要があります。

下記表は1500gの場合の遠心器ロータの回転半径と回転数を示します。
遠心力の換算表

ロータの回転半径（cm）	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30
毎分の回転数（rpm）	3700	3300	3100	2900	2700	2600	2500	2400	2300	2200	2100

注記：遠心時の温度は通常15℃～24℃で行ってください。検査項目が熱に不安定な場合は冷却遠心を行うべきですが、過度の冷却は赤血球からカリウムの漏出を促し、血清中のカリウム濃度が上昇しますので注意が必要です。また、血清（血漿）分離後、分離剤が入った試験管で冷蔵保存した検体を再度遠心すると、漏出や溶血によって赤血球中に高濃度で存在するカリウム、AST、LDHの影響で上清の血清（血漿）の検査値が高値になりますのでご注意ください。

・保存条件

各項目ごとに本文の保存欄に以下の略号で記載しております。

凍：必ず凍結保存する。（凍結する場合、ポリチューブやポリ容器をお使いください）
冷：必ず冷蔵保存する。（4℃前後で冷蔵してください）
室：必ず室温保存する。（20℃前後が望ましい）
遮：必ず遮光を行う。（直射日光や蛍光灯・紫外線などを避けてください）

採取した検体材料そのものの保存条件ではありません。ご注意ください。

・廃棄物

検体採取に用いた器具類の処分は、医療廃棄物基準に則り安全に廃棄してください。

2. 尿

24時間蓄尿での注意

防腐剤や安定化剤を必要とする際は、予め蓄尿瓶に所定の添加剤を入れてください。
冷暗所で蓄尿混和、完了後もよく混和し、必要量を所定容器に移してご提出ください。
必ず尿量を測定し、依頼書の尿量欄へご記入ください。

3. その他

材料採取や保存・提出方法などで注意が必要な項目につきましては、本文中の各項目毎の備考欄に記載しておりますので、ご参照ください。

検査についてのお問い合わせ

検査内容やデータについてのお問い合わせ、ご意見、ご指摘あるいはご要望事項などございましたら、営業担当者、最寄りの支所または、総合インフォメーション 092-623-2111 へご連絡ください。

衛生検査所登録

1. 登録番号

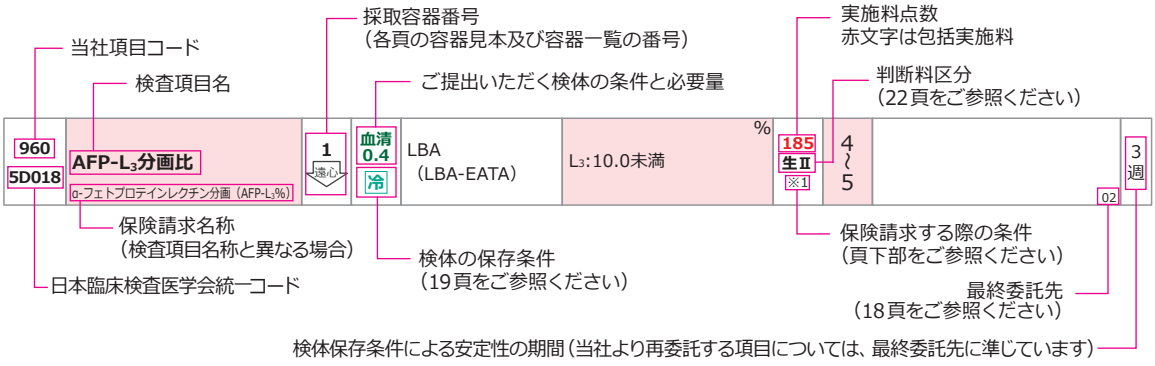
福岡県衛生検査所登録第 91 号

2. 登録業務

生化学的検査	生化学検査	血清学的検査	血清学検査	寄生虫学的検査	寄生虫学検査
	尿・糞便等一般検査		免疫学検査		
血液学的検査	血球算定検査	微生物学的検査	細菌培養同定検査		
	血液像検査		薬剤感受性検査		
	出血・凝固検査		病原体遺伝子検査		

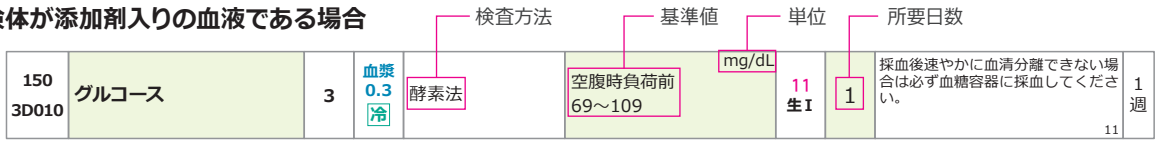
本文の記載例

1. 検体が血清である場合



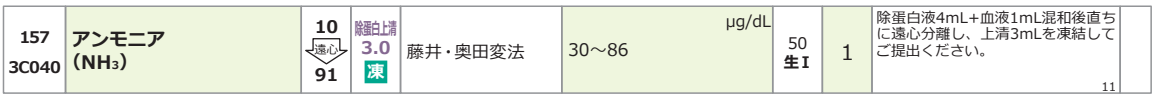
当社「汎用容器（分離剤入り）1」に血液を採取し、遠心操作後、そのままご提出ください。（採取、提出とも同一容器（1）で、別容器への移し替えは不要です）

2. 検体が添加剤入りの血液である場合



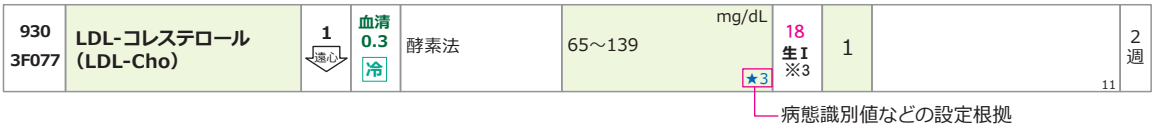
当社「血糖容器3」に血液2mLを採取し、転倒混和の上、そのままご提出ください。

3. 添加剤入り容器に採血後、遠心分離し上清をご提供いただく場合



当社「血中アンモニア容器10」に血液1mLを採取し、遠心操作後、上清を別容器91に移し替えて凍結してご提出ください。

4. 検査値の読み方と注意点



料金のご請求とお支払い方法

請求書は、原則として1ヵ月分をまとめてお届けします。お支払いはご契約に基づいてお願いいたします。

検査方法の略号

BLEIA	生物発光酵素免疫測定法
	Bioluminescent Enzyme Immunoassay
CF	補体結合（反応）
	Complement Fixation
CLEIA	化学発光酵素免疫測定法
	Chemiluminescent Enzyme Immunoassay
CLIA	化学発光免疫測定法
	Chemiluminescent Immunoassay
CPBA	競合性蛋白結合分析法（ラジオアイソトープ使用）
	Competitive Protein Binding Analysis
ECLIA	電気化学発光免疫測定法
	Electro Chemiluminescence Immunoassay
EIA	酵素免疫測定法
	Enzyme Immunoassay
ELISPOT	エリスポット法
	Enzyme-Linked Immunospot
EMIT	
	Enzyme-multiplied Immunoassay Technique
FAT	蛍光抗体法
	Fluorescent Antibody Test
FEIA	蛍光酵素免疫測定法
	Fluorescence-enzyme Immunoassay
FISH	蛍光in situ ハイブリダイゼーション
	Fluorescence in situ Hybridization
FPIA	蛍光偏光免疫測定法
	Fluorscence Polarization Immunoassay
GC	ガスクロマトグラフィー
	Gas Chromatography
GC-MS	ガスクロマトグラフィー・マススペクトロメトリー
	Gas Chromatography-Mass spectrometry
HA	赤血球凝集反応
	Hemagglutination
HEIA	ホモジニアスエンザイムイムノアッセイ法
	Homogeneous Enzyme Immunoassay
HI	赤血球凝集抑制反応
	Hemagglutination Inhibition
HPLC	高速液体クロマトグラフィー
	High Performance Liquid Chromatography
IAHA	免疫粘着赤血球凝集反応
	Immuno adherence hemagglutination
ICA	免疫クロマトグラフィー法
	Immunochromatography Assay
IR	赤外吸収スペクトロメトリー
	Infrared Absorption Spectrometry
IRMA	免疫放射定量法
	Immuno Radio Metric Assay
KIMS	
	Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution

LA	ラテックス凝集比濁法
	Latex Agglutination immunoassay
LA	ラテックス凝集反応
	Latex Agglutination
LAMP	
	Loop-Mediated Isothermal Amplification
LC-MS/MS	液体クロマトグラフ質量分析法
	Liquid Chromatography / Tandem Mass Spectrometry
LPIA	ラテックス近赤外免疫比濁法
	Latex Photometric Immunoassay
MPHA	混合受身赤血球凝集法
	Mixed Passive Hemagglutination
NT	中和試験
	Neutralization Test
PA	粒子凝集反応
	Particle Agglutination
PCR	ポリメラーゼ連鎖反応
	Polymerase Chain Reaction
PHA	受身赤血球凝集反応
	Passive Hemagglutination
REA	酵素アイソトープ
	Radio Enzymatic Assay
RFLP	制限酵素断片長多型
	Restriction Fragment Length Polymorphism
RIA	放射性免疫測定法（ラジオイムノアッセイ）
	Radio Immunoassay
RPHA	逆受身赤血球凝集反応
	Reversed Passive Hemagglutination
RRA	ラジオレセプターアッセイ
	Radio Receptor Assay
RT-PCR	逆転写酵素を用いたポリメラーゼ連鎖反応
	Reverse Transcription-polymerase chain reaction
SDA	
	Strand Displacement Amplitication
TIA	免疫比濁法
	Turbidimetric Immunoassay
TLC	薄層クロマトグラフィー
	Thin Layer Chromatography
TMA	
	Transcription-Mediated Amplification
TRAP	
	Telomeric Repeat Amplification Protocol
UV法	紫外部吸光光度分析法
	Ultraviolet absorption spectophotometry
VDRL	
	Venereal disease Research Laboratory
WB	ウエスタンブロット法
	Western Blot

実施料について

本文中の「実施料」欄は、令和7年4月現在の検体検査実施料に準じております。

「実施料」欄の検体検査以外の生体検査、特定薬剤治療管理料は、点数に〔　〕や（　）を付しています。

「実施料」欄の**赤文字**は、各分野毎の**包括になる項目**を表します。包括項目は下記の通りです。

検体検査判断料について

本文中の「実施料・判断料」欄に下記の通り記載しています。

1. 尿・糞便等検査判断料 ……	34点	尿・便	2.遺伝子関連・染色体検査判断料	100点	遺・染
3. 血液学的検査判断料 ……	125点	血液	4.生化学的検査（Ⅰ）判断料 ……	144点	生Ⅰ
5. 生化学的検査（Ⅱ）判断料 ……	144点	生Ⅱ	6.免疫学的検査判断料 ……	144点	免疫
7. 微生物学的検査判断料 ……	150点	微生	8.病理判断料 ……	130点	病理

検体検査判断料は、該当する検体検査の種類・回数にかかわらず、各々月1回に限り算定する。

実施料の包括規定

下記（適用項目）に掲げた検査項目で、1回に採取した材料を用いて、複数項目検査した場合、実施料は所定点数にかかわらず項目数に応じて、右表の包括実施料となります。

【血液学的検査：出血・凝固検査】

検　査　項　目		
Dダイマー定性	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体（PIC）	凝固因子（第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第XIII因子）
von Willebrand因子（VWF）活性	プロテインS抗原	
Dダイマー	プロテインS活性	プロテインC抗原
プラスミンインヒビター（アンチプラスミン）	β-トロンボグロブリン（β-TG）	プロテインC活性
Dダイマー半定量	トロンビン・アンチトロンビン複合体（TAT）	tPA・PAI-1複合体
α_2-マクログロブリン	血小板第4因子（PF_4）	
PIVKA-Ⅱ	プロトロンビンフラグメントF1+2	
凝固因子インヒビター	トロンボモジュリン	
von Willebrand因子（VWF）抗原	フィブリンモノマー複合体	

項目数	包括実施料
3項目又は4項目	530
5項目以上	722

【生化学的検査（Ⅰ）：血液化学検査】

検　査　項　目		
総ビリルビン	クレアチン	無機リン及びリン酸
直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	グルコース	総コレステロール
総蛋白	乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）
アルブミン（BCP改良法・BCG法）	アミラーゼ	アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）
尿素窒素	ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）	LDL-コレステロール
クレアチニン	クレアチンキナーゼ（CK）	蛋白分画
尿酸	アルドラーゼ	銅（Cu）
アルカリホスファターゼ（ALP）	遊離コレステロール	リパーゼ
コリンエステラーゼ（ChE）	鉄（Fe）	イオン化カルシウム
γ-グルタミルトランスフェラーゼ（γ-GT）	血中ケトン体・糖・クロール検査（試験紙法・アンプル法・固定化酵素電極によるもの）	マンガン（Mn）
中性脂肪		
ナトリウム及びクロール	不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）	
カリウム	総鉄結合能（TIBC）（比色法）	
カルシウム	リン脂質	
マグネシウム	HDL-コレステロール	

項目数	包括実施料
5項目以上7項目以下	93
8項目又は9項目	99
10項目以上	103

【生化学的検査（Ⅱ）：内分泌学的検査】

検　査　項　目		
成長ホルモン（GH）	低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）	副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）
卵胞刺激ホルモン（FSH）	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）	デオキシピリジノリン（DPD）（尿）
C-ペプチド（CPR）	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）	17-ケトジェニックステロイド（17-KGS）
黄体形成ホルモン（LH）	オステオカルシン（OC）	エリスロポエチン
テストステロン	骨型アルカリホスファターゼ（BAP）	ソマトメジンC
遊離サイロキシン（FT_4）	遊離テストステロン	17-ケトステロイド分画（17-KS分画）
遊離トリヨードサイロニン（FT_3）	Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（PINP）	17α-ヒドロキシプロゲステロン（17α-OHP）
コルチゾール	副甲状腺ホルモン（PTH）	抗IA-2抗体
アルドステロン	カテコールアミン分画	プレグナンジオール
サイログロブリン	インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（IntactPINP）	メタネフリン
ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体（DHEA-S）	17-ケトジェニックステロイド分画（17-KGS分画）
サイロキシン結合グロブリン（TBG）	低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）半定量	メタネフリン・ノルメタネフリン分画
脳性Na利尿ペプチド（BNP）	サイクリックAMP（cAMP）	心房性Na利尿ペプチド（ANP）
カルシトニン	エストラジオール（E_2）	抗利尿ホルモン（ADH）
ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量	Ⅰ型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体（β-CTX）（尿）	プレグナントリオール
ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）半定量	Ⅰ型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体（β-CTX）	ノルメタネフリン
抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）	エストリオール（E_3）	インスリン様成長因子結合蛋白3型（IGFBP-3）
脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）	エストロゲン半定量	遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画
ヒト胎盤性ラクトーゲン（HPL）	エストロゲン定量	
サイロキシン結合能（TBC）	副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント（C-PTHrP）	
プロゲステロン	副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）	
グルカゴン	カテコールアミン	

項目数	包括実施料
3項目以上5項目以下	410
6項目又は7項目	623
8項目以上	900

【生化学的検査（Ⅱ）：腫瘍マーカー】　〈悪性腫瘍特異物質治療管理料では、**測定法が精密項目**〉

検　査　項　目		
α-フェトプロテイン（AFP）	神経特異エノラーゼ（NSE）	組織因子経路インヒビター2（TFPI2）
癌胎児性抗原（CEA）	SPan-1	γ-セミノプロテイン（γ-Sm）
扁平上皮癌関連抗原（SCC抗原）	CA72-4	ヒト精巣上体蛋白4（HE4）
組織ポリペプタイド抗原（TPA）	シアリルTn抗原（STN）	可溶性メソテリン関連ペプチド
NCC-ST-439	塩基性フェトプロテイン（BFP）	S2,3PSA%
CA15-3	遊離型PSA比（PSA F/T比）	プロステートヘルスインデックス（phi）
DUPAN-2	サイトケラチン19フラグメント（シフラ）	癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液）
エラスターゼ1	シアリルLe^{x}抗原（CSLEX）	癌胎児性抗原（CEA）半定量（乳頭分泌液）
前立腺特異抗原（PSA）	BCA225	HER2蛋白
CA19-9	サイトケラチン8・18（尿）	アポリポ蛋白A2（APOA2）アイソフォーム
PIVKA-Ⅱ半定量	抗p53抗体	可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）
PIVKA-Ⅱ定量	Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（ICTP）	
CA125	ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）	
核マトリックスプロテイン22（NMP22）定量（尿）	CA54/61	
核マトリックスプロテイン22（NMP22）定性（尿）	α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）	
シアリルLe^x-i抗原（SLX）	CA602	

項目数	包括実施料
2項目	230
3項目	290
4項目以上	385

【免疫学的検査：肝炎ウイルス関連検査】

検　査　項　目	
HBs抗原	HBVコア関連抗原（HBcrAg）
HBs抗体	デルタ肝炎ウイルス抗体
HBe抗原	HCV特異抗体価
HBe抗体	HBVジェノタイプ判定
HCV抗体定性・定量	
HCVコア蛋白	
HBc抗体半定量・定量	
HCVコア抗体	
HA-IgM抗体	
HA抗体	
HBc-IgM抗体	
HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性	
HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量	
HE-IgA抗体定性	
HCV血清群別判定	

項目数	包括実施料
3項目	290
4項目	360
5項目以上	425

【免疫学的検査：自己抗体検査】

検　査　項　目	
抗サイログロブリン抗体	抗SS-B/La抗体定性
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	抗SS-B/La抗体半定量
抗Jo-1抗体定性	抗SS-B/La抗体定量
抗Jo-1抗体半定量	抗SS-A/Ro抗体定性
抗Jo-1抗体定量	抗SS-A/Ro抗体半定量
抗RNP抗体定性	抗SS-A/Ro抗体定量
抗RNP抗体半定量	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体
抗RNP抗体定量	抗ARS抗体
抗Sm抗体定性	抗MDA5抗体
抗Sm抗体半定量	抗TIF1-γ抗体
抗Sm抗体定量	抗Mi-2抗体
C_1q結合免疫複合体	
抗Scl-70抗体定性	
抗Scl-70抗体半定量	
抗Scl-70抗体定量	

項目数	包括実施料
2項目	320
3項目以上	490

慢性維持透析患者外来医学管理料　2211点

入院中の患者以外の慢性維持透析患者に対して検査の結果に基づき計画的な医学管理を行った場合に、月1回に限り算定する。次に掲げるものは所定点数に含まれるものとし、また、尿・糞便等検査判断料、血液学的検査判断料、生化学的検査（Ⅰ）判断料、生化学的検査（Ⅱ）判断料又は免疫学的検査判断料は別に算定できないものとする。

【尿中一般物質定性半定量検査】

【尿沈渣（鏡検法）】

【糞便検査】

検　査　項　目
糞便中ヘモグロビン定性

【血液形態・機能検査】

検　査　項　目		
赤血球沈降速度（ESR）	末梢血液一般検査	末梢血液像（鏡検法）
網赤血球数	末梢血液像（自動機械法）	ヘモグロビンA1c（HbA1c）

【出血・凝固検査】

検　査　項　目
出血時間

【血液化学検査】

検　査　項　目		
総ビリルビン	ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）	LDL-コレステロール
総蛋白	カリウム	1,25ジヒドロキシビタミンD_3
クレアチニン	中性脂肪	HDL-コレステロール
アルブミン（BCP改良法・BCG法）	ナトリウム及びクロール	蛋白分画
尿素窒素	マグネシウム	不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）
乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）	カルシウム	総鉄結合能（TIBC）（比色法）
尿酸	鉄（Fe）	フェリチン半定量
グルコース	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）	血液ガス分析
アミラーゼ	無機リン及びリン酸	アルミニウム（Al）
アルカリフォスファターゼ（ALP）	総コレステロール	ペントシジン
コリンエステラーゼ（ChE）	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5AG）	フェリチン定量
クレアチンキナーゼ（CK）	アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）	シスタチンC
γ-グルタミルトランスフェラーゼ（γ-GT）	グリコアルブミン	

【内分泌学的検査】

検　査　項　目		
トリヨードサイロニン（T_3）	遊離トリヨードサイロニン（FT_3）	カルシトニン
サイロキシン（T_4）	C-ペプチド（CPR）	心房性Na利尿ペプチド（ANP）
甲状腺刺激ホルモン（TSH）	遊離サイロキシン（FT_4）	脳性Na利尿ペプチド（BNP）
副甲状腺ホルモン（PTH）		

【感染症免疫学的検査】

検　査　項　目		
梅毒血清反応（STS）定性	梅毒血清反応（STS）半定量	梅毒血清反応（STS）定量

【肝炎ウイルス関連検査】

検　査　項　目		
HBs抗原	HBs抗体	HCV抗体定性・定量

【血漿蛋白免疫学的検査】

検　査　項　目		
C反応性蛋白（CRP）	C_3	トランスフェリン（Tf）
血清補体価（CH_{50}）	C_4	β_2-マイクログロブリン
免疫グロブリン		

【緊急報告する検査項目と検査値の範囲】

検査項目	基準値	低値（以下）	高値（以上）	単位	備考
Na	138～146	110	170	mmol/L	
K	3.6～4.9	2.5	6.5	mmol/L	注1 注2
Ca	8.7～10.3	6.0	14.0	mg/dL	注2
総ビリルビン	0.3～1.2		12.0	mg/dL	
尿素窒素（BUN）	8.0～22.0		80.0	mg/dL	注2
アンモニア	30～86		300	μg/dL	注3
AST（GOT）	13～33		500	U/L	
ALT（GPT）	6～30		500	U/L	
LDH	119～229		1000	U/L	注1
CK（CPK）	M 62～287 F 45～163		1000	U/L	
アミラーゼ（血清）	42～132		1000	U/L	
グルコース（空腹時）	69～109	50	500	mg/dL	注4
直接クームス試験	（－）		（＋）		注5
PT（INR）	0.85～1.15		4.00		
白血球数（WBC）	3500～9800	1000	25000	/μL	注6
ヘモグロビン（Hb）	M 13.5～17.6 F 11.3～15.2	5.0		g/dL	注6
血小板数（Plt）	13.0～36.9	3.0	100.0	万/μL	注6 注7
白血球分類	St 2～7 Seg 40～63 Eo 0～5 Mo 3～11 Ly 22～46 Ba 0～1 ※鏡検法	芽球出現 異常細胞出現 異型リンパ球20%の増加		%	注6
微生物検査	① 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律一、二、三類感染症 ② 血液培養（＋） ③ 髄液検体の細菌検出時 ④ 抗酸菌検出時				

検査項目	基準値	高値（以上）	単位
リチウム	0.6～1.2	2.0	mmol/L
フェニトイン	10.0～20.0	25.0	μg/mL
フェノバルビタール	10.0～30.0	60.0	μg/mL
カルバマゼピン	4.0～12.0	12.0	μg/mL
バルプロ酸ナトリウム	50～100	150	μg/mL
ジゴキシン	0.8～2.0	2.5	ng/mL
テオフィリン	10.0～20.0	25.0	μg/mL
プリミドン	5.0～12.0	15	μg/mL
エトスクシミド	40.0～100.0	120.0	μg/mL
プロカインアミド	4.0～8.0	16.0	μg/mL
サリチル酸	150～300	400	μg/mL
リドカイン	1.5～5.0	6.0	μg/mL

注1：溶血、採血日と測定日が異なる場合を除く
注2：透析患者検体は除外
注3：除蛋白不良が考えられる場合はコメントにて連絡
注4：血清グルコースは500以上のみ
注5：新生児に限る
注6：初診時より検出した場合のみ
注7：血小板凝集による場合を除く

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
生体色素									
110 3J010	**総ビリルビン(T-BIL)**	1 遠心	血清 0.3 冷 遮	バナジン酸酸化法	0.3～1.2 mg/dL	11 生I	1	11	1週
111 3J015	**直接ビリルビン(D-BIL)** 直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	1 遠心	血清 0.3 冷 遮	バナジン酸酸化法	0.0～0.4 mg/dL	11 生I	1	11	1週
2084 3J020	**間接ビリルビン(I-BIL)**	1 遠心	血清 0.5 冷 遮	バナジン酸酸化法(計算法)	0.2～0.6 mg/dL		1	11	1週
蛋白									
102 3A010	**総蛋白(TP)**	1 遠心	血清 0.3 冷	ビューレット法	6.7～8.3 g/dL	11 生I ※1	1	11	2週
104 3A015	**アルブミン** アルブミン(BCP改良法・BCG法)	1 遠心	血清 0.3 冷	BCP改良法	4.0～5.0 g/dL	11 生I ※1	1	11	2週
148 3A016	**A／G比**			計算法	1.00～2.14		1	A/G比は、総蛋白とアルブミンを同時ご依頼の場合、自動的にご報告させていただきます。 11	
2973 3A020	**蛋白分画(PR-F)**	1 遠心	血清 0.3 冷	キャピラリー電気泳動法	ALB 55.8 ～ 66.1 % α1 2.9 ～ 4.9 % α2 7.1 ～ 11.8 % β1 4.7 ～ 7.2 % β2 3.2 ～ 6.5 % γ 11.1 ～ 18.8 % A/G 1.30 ～ 1.90	18 生I ※1	1	11	1週

※1　蛋白分画、総蛋白及びアルブミンを併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
酵素									
101 3B035	AST (GOT)	1 遠心	血清 0.3 冷	JSCC標準化対応法	13～33 U/L	17 生I	1	11	1週
103 3B045	ALT (GPT)	1 遠心	血清 0.3 冷	JSCC標準化対応法	6～30 U/L	17 生I	1	11	1週
2991 3B050	乳酸脱水素酵素 (LDH)	1 遠心	血清 0.3 冷	IFCC標準化対応法	119～229 U/L	11 生I	1	溶血血清は高値を示す場合があります。 11	3日
2979 3B070	アルカリフォスファターゼ (ALP) アルカリホスファターゼ（ALP）	1 遠心	血清 0.3 冷	IFCC標準化対応法	38～113 U/L	11 生I	1	11	2週
109 3B135	ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP)	1 遠心	血清 0.3 冷	L-ロイシル-P-ニトロアニリド基質法	36～74 U/L	11 生I	1	11	2週
153 3B090	γ-グルタミルトランスペプチダーゼ (γ-GTP)	1 遠心	血清 0.3 冷	JSCC標準化対応法	10～47 U/L	11 生I	1	11	2週
131 3B110	コリンエステラーゼ (Ch-E)	1 遠心	血清 0.3 冷	JSCC標準化対応法	214～466 U/L	11 生I	1	11	2週
151 3B010	CK (CPK) クレアチンキナーゼ	1 遠心	血清 0.3 冷	JSCC標準化対応法	M62～287 F45～163 U/L	11 生I	1	11	1週
675 3B100	アルドラーゼ (ALD)	1 遠心	血清 0.5 冷	UV法	2.7～5.9 IU/L	11 生I	3～4	溶血血清は高値を示す場合があります。 02	3～4日
181 3B125	グアナーゼ	1 遠心	血清 0.5 冷	酵素法	0.4～1.1 IU/L	35 生I	5～6	02	
113 3B160	アミラーゼ (AMY) 〈血清〉	1 遠心	血清 0.3 冷	JSCC標準化対応法	42～132 U/L	11 生I	1	11	2週
114 3B160	アミラーゼ (AMY) 〈尿〉	5	尿 1.0 冷	JSCC標準化対応法	随時尿115～780 U/L 2時間尿 6～44 U/h	11 生I	1	11	3日
130 3B180	リパーゼ	1 遠心	血清 0.5 冷	酵素法	13～55 U/L	24 生I	1	11	2週
582 3B185	トリプシン	1 遠心	血清 0.4 冷	EIA	100～550 ng/mL	189 生I	4～6	02	3週
186 3B192	膵ホスホリパーゼA_2 (膵PLA_2) ホスフォリパーゼA_2 (PLA_2)	1 遠心 91	血清 0.3 凍	RIA (ビーズ固相法)	130～400 ng/dL	204 生I	3～6	02	3ヵ月

1 汎用容器

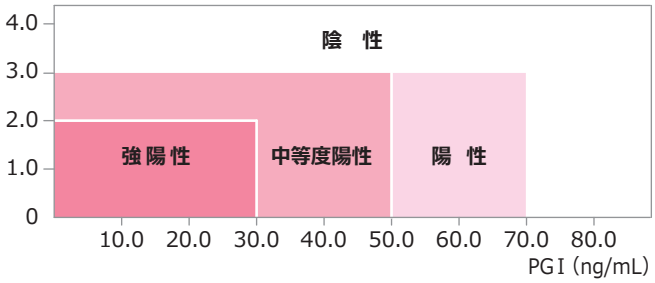
5 滅菌スピッツ

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
酵素										
564 3B330	N-アセチル-β-D-グルコサミニダーゼ(NAG)		5	尿 0.5 冷	人工基質MPT法	11.5以下 U/L	41 尿・便	3〜4	pH4.0以下の酸性尿、あるいはpH8.0以上のアルカリ尿では、測定値が低下する場合があります。 02	1週
821 3B255	リゾチーム(ムラミダーゼ)	〈血清〉	1 遠心	血清 0.4 冷	比濁法	5.0〜10.2 μg/mL		3〜5	04	
2067 3B255		〈 尿 〉	5	尿 0.4 冷	比濁法	0.1未満 μg/mL		3〜5	04	
407 3B130	アデノシンデアミナーゼ(ADA)	〈血清〉	1 遠心	血清 0.4 冷	酵素法	8.6〜20.5 U/L	32 生I	3〜4	02	1週
448 3B130		〈胸水〉	68	胸水 0.4 冷	酵素法	境界値50 U/L	32 生I	3〜4	02	1週
2148 3B130		〈腹水〉	69	腹水 0.4 冷	酵素法	U/L	32 生I	3〜4	02	
288 3B339	ペプシノゲン(PG)		1 遠心	血清 0.5 冷	LA	下表参照		2〜4	11	2週
2723 3B347	胃がんリスク層別化検査(ABC分類)		1 遠心	血清 0.8 冷	(ペプシノゲン) LA (ヘリコバクター・ピロリ抗体) LA	下表参照		2〜4	ペプシノゲンとヘリコバクター・ピロリ抗体のご依頼が必要です。 11	

ペプシノゲンによる胃粘膜萎縮度の判定基準

判定	測定値 PGI (ng/mL)	測定値 I/II比
陰性	下記条件以外	
陽性	70.0以下	かつ 3.0以下
中等度陽性	50.0以下	かつ 3.0以下
強陽性	30.0以下	かつ 2.0以下

I/II比



胃がんリスク層別化検査(ABC分類)の判定基準

		ヘリコバクター・ピロリ抗体〔LA〕 陰性(−) 10未満(U/mL)	ヘリコバクター・ピロリ抗体〔LA〕 陽性(+) 10以上(U/mL)
ペプシノゲン〔LA〕	陰性(−)	A：健康な胃 健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。 念のため、一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です。	B：少し弱った胃 胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。 一度、内視鏡検査を受けましょう。 ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。
	陽性(+)	D：かなり弱った胃 胃がんなどの病気になるリスクがあります。 必ず内視鏡検査を受けましょう。 また、毎年、内視鏡検査を受けましょう。	C：弱った胃 胃がんなどの病気になりやすいタイプです。 定期的に内視鏡検査を受けましょう。 ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

E：除菌群(判定対象外)

ヘリコバクター・ピロリ菌除菌後の人は、E群(除菌群)として定期的に内視鏡検査を受けましょう。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
アイソザイム									
165 3B055	**LDHアイソザイム** LDアイソザイム	1 遠心	血清 0.3 室	アガロースゲル 電気泳動法	% 1型 20.0～31.0 2型 28.8～37.0 3型 21.5～27.6 4型 6.3～12.4 5型 5.4～13.2	48 生I	3～5	低温冷蔵ではLDH4・5の失活が生じます。 溶血の場合はLDH1・2が上昇します。 02	4日
651 3B080	**アルカリフォスファターゼアイソザイム(ALPアイソザイム)** ALPアイソザイム	1 遠心	血清 0.3 冷	アガロースゲル 電気泳動法	% 1型 0.0～5.3 2型 36.6～69.2 3型 25.2～54.2 4型 — 5型 0.0～18.1 6型 —	48 生I	3～5	02	1週
761 3B025	**CKアイソザイム(CPKアイソザイム)**	1 遠心	血清 0.3 冷	アガロースゲル 電気泳動法	% BB 0.0～2.0 MB 0.0～3.0 MM 96.0～100.0	55 生I	3～5	02	1週
574 3B015	**CK-MB(CPK-MB)** CK-MB(免疫阻害法・蛋白量測定)	1 遠心 91	血清 0.5 凍	FEIA	ng/mL 3.7以下	90 生I	1	11	3カ月
663 3B165	**アミラーゼアイソザイム(AMYアイソザイム)** 〈血清〉	1 遠心	血清 0.5 冷	アガロース 電気泳動法	% S1～S4 — P1～P4 — TOTAL-S 36.0～84.3 TOTAL-P 15.7～64.0	48 生I	3～5	04	
647 3B165	**アミラーゼアイソザイム(AMYアイソザイム)** 〈尿〉	5	尿 0.5 冷	アガロース 電気泳動法	% S1～S4 — P1～P4 — TOTAL-S 17.7～61.3 TOTAL-P 38.7～82.3	48 生I	3～5	04	
396 3B175	**膵アミラーゼ(P-AMY)** 〈血清〉	1 遠心	血清 0.5 冷	阻害抗体法	U/L 16～52	48 生I	3～4	02	1週
2001 3B175	**膵アミラーゼ(P-AMY)** 〈尿〉 アミラーゼアイソザイム	5	尿 0.5 冷	阻害抗体法	U/L	48 生I	3～4	02	1週

1 汎用容器

5 滅菌スピッツ

68 胸水検査容器

69 腹水検査容器

含窒素成分

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
117 3C025	尿素窒素 (UN)(BUN)	〈血清〉	1 遠心	血清 0.3 冷	ウレアーゼ GIDH法	8.0～22.0 mg/dL	11 生I	1	11	1週
118 3C025		〈 尿 〉	5	尿 1.0 冷	ウレアーゼ GIDH法	6.0～17.0 g/day	11 生I	1	11	
143 3C015	クレアチニン (CRE)	〈血清〉	1 遠心	血清 0.3 冷	酵素法	M 0.61～1.04 F 0.47～0.79 mg/dL	11 生I	1	11	1週
144 3C015		〈 尿 〉	5	尿 1.0 冷	酵素法	M 1.0～1.5 F 0.7～1.2 g/day	11 生I	1	11	
2541 8A065	推算GFR (eGFRcreat)				計算法	mL/min/1.73m² 注1		1	クレアチニン〈血清〉のご依頼と性別・年齢の情報が必要です。 11	
2526 3C016	シスタチンC		1 遠心	血清 0.3 冷	LA	M 0.60～0.98 F 0.49～0.82 mg/L	112 生I ※1	2～3	11	1週
2732 8A066	推算GFRcys (eGFRcys)				計算法	mL/min/1.73m² 注1		2～3	シスタチンCのご依頼と性別・年齢の情報が必要です。 11	
145 3C010	クレアチン	〈血清〉	1 遠心	血清 0.4 冷	酵素法	M 0.2～0.5 F 0.4～0.9 mg/dL	11 生I	3～4	02	
146 3C010		〈 尿 〉	5	尿 0.5 冷	酵素法	M 180.0以下 F 330.0以下 mg/day	11 生I	3～4	02	
119 3C020	尿酸 (UA)	〈血清〉	1 遠心	血清 0.3 冷	酵素法 (ウリカーゼ・HMMPS法)	M 3.6～7.0 F 2.3～7.0 mg/dL ★1	11 生I	1	11	2週
120 3C020		〈 尿 〉	5	尿 1.0 冷	酵素法 (ウリカーゼ・HMMPS法)	0.4～1.0 g/day	11 生I	1	11	
157 3C040	アンモニア (NH_3)		10 遠心 91	除蛋白上清 3.0 凍	藤井・奥田変法	30～86 μg/dL	50 生I	1	除蛋白液4mL+血液1mL混和後直ちに遠心分離し、上清3mLを凍結してご提出ください。 11	

注1：報告書の単位は、「mL/min」と略しております。

★1　基準値上限は、日本痛風・核酸代謝学会「高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン」における高尿酸血症の定義に基づいたものです。

※1　シスタチンCは、尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。ただし、ペントシジンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

[GFR（糸球体濾過量）の推算式]

※18歳以上に適用されます。
※GFRの単位中で、1.73m²は、日本人の健常成人における平均体表面積を意味します。

●血清クレアチニン値に基づく推算式

男性：$eGFRcreat\ (mL/min/1.73m^2) = 194 \times Cr^{-1.094} \times Age^{-0.287}$

女性：$eGFRcreat\ (mL/min/1.73m^2) = 194 \times Cr^{-1.094} \times Age^{-0.287} \times 0.739$

Cr：血清クレアチニン値（mg/dL）　Age：年齢

●血清シスタチン値に基づく推算式

男性：$eGFRcys\ (mL/min/1.73m^2) = (104 \times Cys\text{-}C^{-1.019} \times 0.996^{Age}) - 8$

女性：$eGFRcys\ (mL/min/1.73m^2) = (104 \times Cys\text{-}C^{-1.019} \times 0.996^{Age} \times 0.929) - 8$

Cys-C：血清シスタチンC値（mg/L）　Age：年齢

[CKDの定義]

①尿異常・画像診断・血液・病理で腎障害の存在が明らか。
特に0.15g/gCr以上の蛋白尿（30mg/gCr以上のアルブミン尿）の存在が重要。

②GFR<60mL/min/1.73m²
①、②のいずれか、または両方が3カ月以上持続する。

[CKDの重症度分類]

出典：日本腎臓学会編「CKD診療ガイド2012」

原疾患		蛋白尿区分		A1	A2	A3
糖尿病		尿アルブミン定量（mg/日） 尿アルブミン/Cr比（mg/gCr）		正　常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
				30未満	30～299	300以上
高血圧、腎炎 多発性嚢胞腎 移植腎、不明 その他		尿蛋白定量（g/日） 尿蛋白/Cr比（g/gCr）		正　常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
				0.15未満	0.15～0.49	0.50以上
GFR区分（mL/min/1.73m²）	G1	正常または高値	≧90			
	G2	正常または軽度低下	60～89			
	G3a	軽度～中等度低下	45～59			
	G3b	中等度～高度低下	30～44			
	G4	高度低下	15～29			
	G5	末期腎不全（ESKD）	<15			

重症度は原疾患・GFR区分・蛋白尿区分を合わせたステージにより評価する。CKDの重症度は死亡、末期腎不全、心血管死亡発症のリスクを緑のステージを基準に、黄、ピンク、赤の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する。

アミノ酸

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
526 3C045	アミノ酸分画 〈血漿〉 アミノ酸(5種類以上)	8 遠心 91	血漿 0.5 凍	LC-MS/MS	33頁参照	1107 生Ⅱ	6〜7	採血後直ちに遠心分離し、速やかに血漿を凍結してください。 02	2週
2004 3C045	アミノ酸分画 〈尿〉 アミノ酸(5種類以上)	5	尿(早朝2番尿) 0.5 凍	LC-MS/MS	33頁参照	1107 生Ⅱ	6〜7	早朝2番尿を直ちに凍結してください。(トルエン、塩酸などの防腐剤は加えないでください。) 02	2週
838 3C046	アミノ酸11分画 アミノ酸(5種類以上)	8 遠心 91	血漿 0.5 凍	LC-MS/MS	33頁参照	1107 生Ⅱ	5〜6	採血後直ちに遠心分離し、速やかに血漿を凍結してください。 02	2週
2124 3C047	総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比(BTR)	1 遠心 91	血清 0.5 凍	酵素法	BTR 4.41〜10.05 BCAA 344〜713 μmol/L チロシン 51〜98	283 生Ⅱ	3〜4	溶血検体不可 02	
2128 3C070	総ホモシステイン アミノ酸	6 遠心 91	血漿 0.3 冷	LC-MS/MS	nmol/mL M 7.0〜 17.8 F 5.3 〜 15.2	279 生Ⅱ	5〜7	採血後、速やかに血漿分離してください。 04	3週

アミノ酸分画について

特に指定がない場合は非蛋白態アミノ酸を分画します。加水分解を必要とする場合はご指示ください。また、トリプトファンは塩酸加水分解では分解されるため検出不能となります。

〈血漿〉
抗凝固剤はヘパリンが適していますが、短時間保存の場合はEDTA血漿でも有意差はありません。
血清では分離前放置時間内に血球成分により代謝が進行し、一部のアミノ酸（Asp、Glu、Ala、Lys）が増加をきたします。
溶血血漿ではAsp、Gluが著しい高値を、Cys Cys、Trpが低値を示します。

〈尿〉
蓄尿の場合は、細菌繁殖、分解などによりアミノ酸が変化することがありますので、早朝2番尿による測定をおすすめします。

アミノ酸およびニンヒドリン陽性化合物の基準値

アミノ酸分画

成　分　名	略　号	血漿※1（nmol/mL）	尿※1（μmol/L）
タウリン	Tau	34.5～80.6	23.3～2349
ホスフォエタノールアミン	PEA	5.0以下	65.5以下
アスパラギン酸	Asp	5.7以下	13.8以下
ハイドロキシプロリン	Hyp	19.7以下	20.2以下
トレオニン	Thr	89.2～241.6	28.7～788.8
セリン	Ser	78.4～200.1	56.4～1062
アスパラギン	Asn	37.7～78.5	20.6～361.8
グルタミン酸	Glu	13.3～86.7	33.6以下
グルタミン	Gln	503.4～851.4	57.8～1439
サルコシン	Sarco	5.0以下	12.7以下
α-アミノアジピン酸	α-AAA	5.0以下	117.2以下
プロリン	Pro	89.8～304.7	42.0以下
グリシン	Gly	136.8～397.7	277.7～4443
アラニン	Ala	253.6～601.9	38.4～956.7
シトルリン	Cit	18.2～50.1	34.4以下
α-アミノ-n-酪酸	α-AnBA	11.2～40.1	33.7以下
バリン	Val	162.9～351.4	5.1～94.4
シスチン	Cys Cys	34.9～77.7	221.8以下
メチオニン	Met	18.1～43.5	25.1以下
シスタチオニン	Cysthio	5.0以下	58.4以下
イソロイシン	Ile	44.9～120.3	30.9以下
ロイシン	Leu	84.4～200.2	77.5以下
チロシン	Tyr	46.7～103.6	10.0～263.6
β-アラニン	β-Ala	8.0以下	84.6以下
フェニルアラニン	Phe	49.0～90.8	7.9～135.5
β-アミノイソ酪酸	BAIBA	6.7以下	7.8～3013
ホモシスチン	Homocys	5.0以下	5.0以下
γ-アミノ酪酸	GABA	5.0以下	5.0以下
モノエタノールアミン	MEA	6.7～12.2	73.6～1076
ハイドロキシリジン	Hyl	5.0以下	46.0以下
オルニチン	Orn	50.8～137.4	76.1以下
1-メチルヒスチジン	1-Me-His	26.5以下	23.2～1990
ヒスチジン	His	68.0～116.6	86.1～2375
リジン	Lys	138.6～294.2	20.2～1500
3-メチルヒスチジン	3-Me-His	7.2以下	26.2～755.8
トリプトファン	Trp	46.7～92.0	8.4～186.7
アンセリン	Ans	5.0以下	85.4以下
カルノシン	Carno	5.0以下	51.9以下
アルギニン	Arg	44.1～115.2	77.4以下
アロイソロイシン	allo-Ile	5.0以下	5.0以下
グリシルプロリン	Gly-Pro	5.0以下	32.8以下
ホモシトルリン	hCit	5.0以下	43.0以下
S-スルホシステイン	SSC	5.0以下	27.0以下
キヌレニン	Kyn	5.0以下	16.9以下
アルギニノコハク酸	ASA	5.0以下	22.8以下
フィッシャー比※2		2.36～4.69	-

アミノ酸11分画

成　分　名	略　号	血漿※1（nmol/mL）
バリン	Val	162.9～351.4
メチオニン	Met	18.1～43.5
イソロイシン	Ile	44.9～120.3
ロイシン	Leu	84.4～200.2
チロシン	Tyr	46.7～103.6
フェニルアラニン	Phe	49.0～90.8
オルニチン	Orn	50.8～137.4
ヒスチジン	His	68.0～116.6
リジン	Lys	138.6～294.2
トリプトファン	Trp	46.7～92.0
アルギニン	Arg	44.1～115.2
フィッシャー比※2		2.36～4.69

※1 委託先従業員実測値（n=100）より算出

※2 フィッシャー比 $= \frac{\text{バリン+イソロイシン+ロイシン}}{\text{チロシン+フェニルアラニン}}$（フィッシャー比は単位なし）

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
糖代謝・糖類									
150 3D010	グルコース	3	血漿 0.3 冷	酵素法	mg/dL 空腹時負荷前 69～109	11 生I	1	採血後速やかに血清分離できない場合は必ず血糖容器に採血してください。 11	1週
972 3D055	グリコアルブミン(GA)	1 遠心	血清 0.5 冷	酵素法	% 12.3～16.5	55 生I ※1	1	11	1週
812 3D046	ヘモグロビンA1c(HbA1c)	3	血液 2.0 冷	酵素法	% 4.6～6.2	49 血液 ※1	1	11	1週
770 2C010	ヘモグロビンF(HbF)	3	血液 2.0 冷 凍結不可	ステップワイズ-HPLC	% 1.1以下	60 血液	3～4	02	1週
449 3D085	1,5AG 1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5AG)	1 遠心	血清 0.4 冷	酵素法	μg/mL 14.0以上	80 生I ※1	3～4	02	1カ月
807 3E045	ケトン体分画	1 遠心 91	血清 0.3 凍 -70℃以下	酵素法	μmol/L 総ケトン体 26～122 アセト酢酸 13～ 69 3-HBA 76以下	59 生I	3～4	早朝空腹時採血(静脈)。採血後速やかに血清分離し凍結してください。総ケトン体にアセトンは含まれません。 02	1カ月
641 3E010	乳酸 有機モノカルボン酸	11 遠心 91	除蛋白上清 0.5 凍	酵素法	mg/dL 3.7～16.3 (空腹安静時)	47 生I ※2	3～4	専用容器(0.8N過塩素酸入り)は予めご依頼ください。 注1 02	1カ月
693 3E015	ピルビン酸 有機モノカルボン酸	11 遠心 91	除蛋白上清 0.5 凍	酵素法	mg/dL 0.30～0.90 (空腹安静時)	47 生I ※2	3～4	専用容器(0.8N過塩素酸入り)は予めご依頼ください。 注1 02	1カ月

注1：0.8N過塩素酸と血液を等量混合し、十分撹拌し3,000rpm、5分間遠心後、その上清液をご提出ください。

※1　ヘモグロビンA1c(HbA1c)、グリコアルブミン又は1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5AG)のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できる。また、クロザピンを投与中の患者については、ヘモグロビンA1c(HbA1c)を月1回に限り別に算定できる。

※2　有機モノカルボン酸については、グルタチオン、乳酸、ピルビン酸及びα-ケトグルタール酸の各物質の測定を行った場合に、それぞれの測定ごとに所定点数を算定する。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
糖代謝・糖類									
598 3D080	ヒアルロン酸	1 遠心	血清 0.3 冷	LA	ng/mL 50.0以下 (肝硬変の判定基準)130以上	179 生I ※1	3～4	02	
342 5C210	シアル化糖鎖抗原(KL-6)	1 遠心	血清 0.3 冷	CLEIA	U/mL 500以下	108 生I ※2	1	11	2週
2527 3F250	肺サーファクタントプロテインA(SP-A) 肺サーファクタント蛋白-A(SP-A)	1 遠心	血清 0.3 冷	CLEIA	ng/mL 43.8未満	130 生I ※2	3～5	04	
343 3F253	肺サーファクタントプロテインD(SP-D) 肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)	1 遠心	血清 0.5 冷	LA	ng/mL 110.0未満	136 生I ※2	3～4	02	2週
脂質									
107 3F050	総コレステロール(T-Cho)	1 遠心	血清 0.3 冷	酵素法	mg/dL 128～219 ★1	17 生I ※3	1	11	1週
326 3F065	遊離コレステロール(F-Cho)	1 遠心	血清 0.5 冷	酵素法	mg/dL 34～66	11 生I	3～4	02	1週
733 3F070	HDL-コレステロール(HDL-Cho)	1 遠心	血清 0.3 冷	酵素法	mg/dL 40～96 ★2	17 生I ※3	1	11	2週
930 3F077	LDL-コレステロール(LDL-Cho)	1 遠心	血清 0.3 冷	酵素法	mg/dL 65～139 ★3	18 生I ※3	1	11	2週
2595 3F076	LDL／HDL比			計算法			1	HDL-コレステロールとLDL-コレステロールのご依頼が必要です。 11	
2722 3F069	nonHDL-コレステロール(nonHDL-C)			計算法	mg/dL 169以下		1	総コレステロールとHDL-コレステロールのご依頼が必要です。 11	

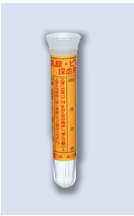
★1 基準値上限は、日本動脈硬化学会「動脈硬化性疾患予防ガイドライン2002年版」における高コレステロール血症の定義に基づいたものです。
★2 基準値下限は、日本動脈硬化学会「動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版」における脂質異常症の定義に基づいたものです。
★3 基準値上限は、日本動脈硬化学会「動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版」における脂質異常症の定義に基づいたものです。

※1 本検査は慢性肝炎の患者に対して、慢性肝炎の経過観察及び肝生検の適応の確認を行う場合に算定できる。
※2 KL-6、肺サーファクタント蛋白-A(SP-A)及び肺サーファクタント蛋白-D(SP-D)のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
※3 HDL-コレステロール、総コレステロール及びLDL-コレステロールを併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。

1 汎用容器

3 血糖容器

11 乳酸・ピルビン酸容器



項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
脂質									
125 3F025	リン脂質 (PL)	1 遠心	血清 0.3 冷	酵素法	mg/dL 150～250	15 生Ⅰ	1	11	2週
123 3F015	中性脂肪 (トリグリセライド)(TG)	1 遠心	血清 0.3 冷	酵素法 (グリセロール消去法)	mg/dL 30～149 ★1	11 生Ⅰ	1	11	2週
660 3F135	リポ蛋白分画　定性	1 遠心	血清 0.3 冷 凍結不可	アガロースゲル 電気泳動法	% M α 26.9～50.5 preβ 7.9～23.8 β 35.3～55.5 F α 32.6～52.5 preβ 6.6～20.8 β 33.6～52.0	49 生Ⅰ	3～5	食事による影響が大きいため早朝空腹時採血を厳守してください。 カイロミクロンは測定できません。 02	4日
2352 3F140	リポ蛋白分画〔HPLC〕 リポ蛋白分画(HPLC法)	1 遠心	血清 0.5 冷 凍結不可	HPLC	下表参照	129 生Ⅰ	6～8	02	
492 3F156	リポ蛋白(a) (Lp(a))	1 遠心	血清 0.5 冷	LA	mg/dL 30.0以下	107 生Ⅰ ※1	3～4	02	2週
371 3F078	レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	1 遠心	血清 0.4 冷 凍結不可	酵素法	mg/dL 7.5以下 注1	174 生Ⅰ ※2	3～4	02	5日
2647 3F087	酸化LDL(MDA-LDL) マロンジアルデヒド修飾LDL(MDA-LDL)	1 遠心 91	血清 0.3 凍	EIA	U/L M 45歳未満 46～82 45歳以上 61～105 F 55歳未満 46～82 55歳以上 61～105	194 生Ⅰ ※3	4～15	採血後，冷蔵保存にて6時間以内に血清分離し、速やかに凍結保存してください。 04	3週

注1：糖尿病、冠動脈疾患等の既往歴のある場合は5.2mg/dL以上をハイリスク域とします。

★1　基準値上限は、日本動脈硬化学会「動脈硬化性疾患予防ガイドライン2012年版」における脂質異常症の定義に基づいたものです。

※1　リポ蛋白(a)は、3月に1回を限度として算定できる。
※2　レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)は、3月に1回を限度として算定できる。
※3　マロンジアルデヒド修飾LDL(MDA-LDL)は、冠動脈疾患既往歴のある糖尿病患者で、冠動脈疾患発症に関する予後予測の補助の目的で測定する場合に3月に1回に限り算定できる。ただし、糖尿病患者の経皮的冠動脈形成術治療時に、治療後の再狭窄に関する予後予測の目的で測定する場合、上記と別に術前1回に限り算定できる。

リポ蛋白分画〔HPLC〕基準値

分画成分名	成分比(%)	定量値(mg/dL)
HDL(高比重リポ蛋白)	23.6 ～ 49.8	40.6 ～ 91.4
LDL(低比重リポ蛋白)	42.2 ～ 63.8	67.8 ～ 132.6
IDL(中間比重リポ蛋白)	2.2 ～ 6.1	3.8 ～ 12.5
VLDL(超低比重リポ蛋白)	2.6 ～ 13.9	4.9 ～ 22.8
Other	0.8 ～ 4.4	1.5 ～ 9.1
総コレステロール	―	120 ～ 219

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
脂質関連									
868 3F110	**総胆汁酸(TBA)** 胆汁酸	1 遠心	血清 0.5 冷	酵素法	μmol/L 10.0以下	47 生Ⅰ	3～4	02	1カ月
2003 3F095	**脂肪酸分画〔24成分〕** 脂肪酸分画	1 遠心	血清 0.5 冷	GC	μg/mL,重量% 下表参照	393 生Ⅱ	12～16	**ヘパリン血漿も検査可** 04	1カ月
2649 3F095	**脂肪酸分画〔4成分〕** 脂肪酸分画	1 遠心	血清 0.5 冷	GC	μg/mL 下表参照	393 生Ⅱ	5～7	DHLA(ジホモ-γ-リノレン酸) AA(アラキドン酸) EPA(エイコサペンタエン酸) DHA(ドコサヘキサエン酸) 04	1カ月

脂肪酸分画〔24成分〕

脂肪酸名	略号(炭素数)	基準値 μg/mL	基準値 重量%
ラウリン酸	C12:0	10.2 以下	0.31 以下
ミリスチン酸	C14:0	10.8 ～ 61.1	0.36 ～ 1.43
ミリストレイン酸	C14:1ω5	3.2 以下	0.09 以下
パルミチン酸	C16:0	495.1～ 918.3	19.18～ 23.84
パルミトレイン酸	C16:1ω7	23.8 ～ 117.3	0.87 ～ 3.18
ステアリン酸	C18:0	167.6～ 312.7	6.13 ～ 8.49
オレイン酸	C18:1ω9	433.9～ 910.1	16.19～ 23.66
リノール酸	C18:2ω6	708.1～1286.0	23.24～ 36.89
γ-リノレン酸	C18:3ω6	2.5 ～ 25.6	0.09 ～ 0.72
リノレン酸	C18:3ω3	11.5 ～ 45.8	0.40 ～ 1.30
アラキジン酸	C20:0	6.9 ～ 14.4	0.24 ～ 0.46
エイコセン酸	C20:1ω9	2.6 ～ 9.5	0.09 ～ 0.30
エイコサジエン酸	C20:2ω6	4.3 ～ 9.3	0.15 ～ 0.26
5-8-11エイコサトリエン酸	C20:3ω9	6.0 以下	0.17 以下
ジホモ-γ-リノレン酸	C20:3ω6	22.6 ～ 72.5	0.79 ～ 2.05

脂肪酸名	略号(炭素数)	基準値 μg/mL	基準値 重量%
アラキドン酸	C20:4ω6	135.7～ 335.3	4.21 ～ 9.30
エイコサペンタエン酸	C20:5ω3	10.2 ～ 142.3	0.36 ～ 3.99
ベヘニン酸	C22:0	14.6 ～ 30.3	0.43 ～ 0.91
エルシン酸	C22:1ω9	1.4 以下	0.04 以下
ドコサテトラエン酸	C22:4ω6	2.9 ～ 10.4	0.10 ～ 0.30
ドコサペンタエン酸	C22:5ω3	9.5 ～ 31.8	0.34 ～ 0.89
リグノセリン酸	C24:0	15.5 ～ 31.2	0.49 ～ 0.90
ドコサヘキサエン酸	C22:6ω3	54.8 ～ 240.3	1.88 ～ 6.86
ネルボン酸	C24:1ω9	27.1 ～ 53.0	0.78 ～ 1.64
T/T比(C20:3ω9/C20:4ω6)		0.02 以下	
EPA/AA比(C20:5ω3/C20:4ω6)		0.05 ～ 0.61	
DHA/AA比(C22:6ω3/C20:4ω6)		0.27 ～ 1.07	
(EPA+DHA)/AA比		0.32 ～ 1.66	
ω3/ω6		0.09 ～ 0.36	

脂肪酸分画〔4成分〕

脂肪酸名	基準値	単位
ジホモ-γ-リノレン酸	22.6～ 72.5	μg/mL
アラキドン酸	135.7～335.3	μg/mL
エイコサペンタエン酸	10.2～142.3	μg/mL
ドコサヘキサエン酸	54.8～240.3	μg/mL

脂肪酸名	基準値
EPA/AA比	0.05～ 0.61
DHA/AA比	0.27～ 1.07
(EPA+DHA)/AA比	0.32～ 1.66

アポリポ蛋白

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
331 3F180	アポリポ蛋白	A−Ⅰ	1 遠心	血清 0.5 冷 1項目増加する毎に0.2追加	TIA	mg/dL M 119～155 F 126～165	1項目 31 2項目 62 3項目以上 94 生Ⅰ ※1	3～4	02	2～3日
332 3F185		A−Ⅱ				mg/dL M 25.9～35.7 F 24.6～33.3				
333 3F190		B				mg/dL M 73～109 F 66～101				
334 3F195		C−Ⅱ				mg/dL M 1.8～4.6 F 1.5～3.8				
335 3F200		C−Ⅲ				mg/dL M 5.8～10.0 F 5.4～ 9.0				
336 3F205		E				mg/dL M 2.7～4.3 F 2.8～4.6				

ビタミン

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
925 3G011	β-カロチン	1 遠心 30	血清 0.6 凍 遮	HPLC	μg/dL M 6.6～ 47.6 F 20.4～105.2		6～12	04	1カ月
810 3G015	ビタミンA	1 遠心 30	血清 0.3 凍 遮	HPLC	μg/dL 27.2～102.7		7～13	02	
679 3G025	ビタミンB_1 (サイアミン)	59	血液 1.0 凍 遮	LC-MS	μg/dL 2.6～5.8	239 生Ⅰ	4～5	02	3週
759 3G030	ビタミンB_2 (リボフラビン)	59	血液 1.0 凍 遮	HPLC	μg/dL 12.8～27.6	235 生Ⅰ	4～5	02	3週
467 3G036	ビタミンB_6	1 遠心 30	血清 0.5 冷 遮	HPLC	ng/mL M PAM 0.6以下 PAL 6.0～40.0 PIN 3.0以下 F PAM 0.6以下 PAL 4.0～19.0 PIN 3.0以下		4～6	PAM：ピリドキサミン PAL：ピリドキサール PIN：ピリドキシン 04	
686 3G040	ビタミンB_{12} (シアノコバラミン)	1 遠心 91	血清 0.4 凍	CLEIA	pg/mL 180～914	136 生Ⅰ	2～3	11	3カ月
632 3G105	葉酸	1 遠心 91	血清 0.5 凍	CLEIA	ng/mL 4.0以上	146 生Ⅰ	2～3	溶血検体では測定値が上昇する場合があります。 11	3カ月

※1 アポリポ蛋白は、AⅠ、AⅡ、B、CⅡ、CⅢ及びEのうち、測定した項目数に応じて、所定点数を算定する。

ビタミン

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
905 3G055	**カルニチン** 総カルニチン 遊離カルニチン	1 遠心	血清 0.5 冷	酵素サイクリング法	総カルニチン μmol/L 45.0～91.0 遊離カルニチン 36.0～74.0 アシルカルニチン 6.0～23.0	95 + 95 生I ※1	3～4	02	
848 3G060	**ビタミンC (アスコルビン酸)**	1 遠心 52 遠心 30	除蛋白上清 0.5 凍 遮	HPLC	μg/mL 5.5～16.8	296 生I	4～6	正確に血清0.5mLを専用容器(52)に加え、混和後遠心分離し、その上清を褐色スピッツ(30)にてご提出ください。 04	1週
2892 3G065	**25-OHビタミンD 〔骨粗鬆症〕** 25-ヒドロキシビタミン	1 遠心	血清 0.3 冷	ECLIA	ng/mL 注1	117 生I ※2	2～3	11	
2844 3G065	**25-OHビタミンD 〔くる病〕** 25-ヒドロキシビタミン	1 遠心	血清 0.3 冷	ECLIA	ng/mL 注2	117 生I ※3	2～3	11	
792 3G066	**25-OHビタミンD分画**	1 遠心 91	血清 0.3 凍	LC-MS/MS	ng/mL D_2：12.1以下 D_3：5.5～41.4		7～13	02	4週
587 3G070	**1α,25-(OH)$_2$ビタミンD (活性型ビタミンD)** 1,25-ジヒドロキシビタミンD3	1 遠心 91	血清 1.0 凍	RIA (二抗体法)	pg/mL 20～60	388 生I ※4	4～7	02	
847 3G080	**ビタミンE (トコフェロール)**	1 遠心 30	血清 0.5 凍 遮	蛍光法	mg/dL 0.75～1.41		4～10	02	

注1：ビタミンD欠乏　20.0未満 ng/mL
ビタミンD不足　20.0～29.9 ng/mL
注2：日本小児内分泌学会の「ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き」には、診断基準(血清25 OHD低値)として下記が記載されています。
・20.0以下 ng/mL
・15.0以下 ng/mLであればより確実

※1　ア.総カルニチン及び遊離カルニチンは、関係学会の定める診療に関する指針を遵守し、測定した場合に算定する。
イ.本検査を先天性代謝異常症の診断補助又は経過観察のために実施する場合は、月に1回を限度として算定する。
ウ.静脈栄養管理若しくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症若しくは小児の患者、人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、バルプロ酸ナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi症候群の患者又は慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助若しくは経過観察のために、本検査を実施する場合は、6月に1回を限度として算定する。
エ.同一検体について、本検査と先天性代謝異常症検査を併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

※2　原発性骨粗鬆症の患者に対して測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。

※3　ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中に測定した場合は、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できる。

※4　1,25-ジヒドロキシビタミンD_3は、慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症I型若しくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD_3剤による治療中に測定した場合に限り算定できる。ただし、活性型ビタミンD_3剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定する。

1 汎用容器


30 褐色スピッツ


52 ビタミンC容器


59 ビタミンB_1・B_2用容器


電解質

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
135 3H010	ナトリウム (Na)	〈血清〉	1 遠心	血清 0.3 冷	電極法	138～146 mmol/L	Na・Cl 11 生I	1	採血後、冷蔵せずに直ちに血清分離してください。 11	2週
317 3H010		〈 尿 〉	5	尿 1.0 冷	電極法	4～8 g/day	Na・Cl 11 生I	1	11	
135 3H020	クロール (Cl)	〈血清〉	1 遠心	血清 0.3 冷	電極法	99～109 mmol/L	Na・Cl 11 生I	1	採血後、冷蔵せずに直ちに血清分離してください。 11	1週
317 3H020		〈 尿 〉	5	尿 1.0 冷	電極法	6～12 g/day	Na・Cl 11 生I	1	11	
134 3H015	カリウム (K)	〈血清〉	1 遠心	血清 0.3 冷	電極法	3.6～4.9 mmol/L	11 生I	1	採血後、冷蔵せずに直ちに血清分離してください。 溶血血清は高値を示す場合があります。 11	1週
327 3H015		〈 尿 〉	5	尿 1.0 冷	電極法	2.0～2.5 g/day	11 生I	1	11	
654 3H025	マグネシウム (Mg)	〈血清〉	1 遠心	血清 0.3 冷	キシリジルブルー法	1.9～2.5 mg/dL	11 生I	1	11	2週
571 3H025		〈 尿 〉	5	尿 0.5 冷	キシリジルブルー法	0.02～0.13 g/day	11 生I	3～5	04	
136 3H030	カルシウム (Ca)	〈血清〉	1 遠心	血清 0.3 冷	アルセナゾⅢ法	8.7～10.3 mg/dL	11 生I ※1	1	11	2週
137 3H030		〈 尿 〉	5	尿 1.0 冷	アルセナゾⅢ法	0.1～0.3 g/day	11 生I ※1	1	11	
140 3H040	無機リン (P)(IP)	〈血清〉	1 遠心	血清 0.3 冷	モリブデン酸直接法	2.5～4.7 mg/dL	17 生I	1	11	1週
168 3H040		〈 尿 〉	5	尿 1.0 冷	モリブデン酸直接法	0.5～2.0 g/day	17 生I	1	11	

※1　カルシウム及びイオン化カルシウムを同時に測定した場合には、いずれか一方についてのみ所定点数を算定する。

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
金属										
155 3I025	銅 (Cu)	〈血清〉	1 遠心	血清 0.4 冷	比色法	70～132 μg/dL	23 生I	3～4	02	
765 3I025	銅 (Cu)	〈尿〉	34	尿 5.0 冷	原子吸光法	18以下 μg/L	23 生I	4～7	02	1カ月
583 3K105	アルミニウム (Al)		44 遠心	血清 0.5 冷	原子吸光法	0.9以下 μg/dL	109 生I	5～6	02	3週
923 3I035	セレン (Se)		44 遠心	血清 0.5 冷	ICP-MS	10.0～16.0 μg/dL	144 生I ※1	4～5	02	3週
141 3I010	鉄 (Fe)		1 遠心	血清 0.5 冷	比色法 (ニトロソ・PSAP法)	M 51～198 F 45～167 μg/dL	11 生I	1	11	2週
149 3I015	総鉄結合能 (TIBC)		1 遠心	血清 0.5 冷	計算法	M 241～401 F 254～394 μg/dL	11 生I ※2	1	11	
742 3I020	不飽和鉄結合能 (UIBC)		1 遠心	血清 0.5 冷	比色法 (ニトロソ・PSAP法)	M 126～294 F 147～299 μg/dL	11 生I ※2	1	11	2週
804 5C095	フェリチン フェリチン定量		1 遠心	血清 0.5 冷	LA	M 31.0～325.0 F 5.0～179.0 ng/mL	102 生I	1	11	2週
762 3I030	亜鉛 (Zn)	〈血清〉	1 遠心 注1	血清 0.5 冷	比色法	80～130 μg/dL 注2	132 生I	1	注3、4 11	18日
763 3I030	亜鉛 (Zn)	〈尿〉	34	尿 5.0 冷	原子吸光法	64～947 μg/L	132 生I	4～7	02	1カ月
736 3K110	鉛		8	血液 1.0 冷	原子吸光法	1.0以下 μg/dL		5～6	02	1カ月

注1：真空採血管のゴム栓には亜鉛が含まれているものがあります。当社指定容器以外を使用する場合は、十分にご注意ください。
（指定容器はゴム栓の影響はありません。）
注2：基準値は日本臨床栄養学会「亜鉛欠乏症の診療指針2018」の亜鉛欠乏症診断基準に則った値です。
注3：日内変動や食物の摂取により血中濃度が低下しますので、朝食前の午前中に採血してください（基準値は朝食前の採血により得られたデータです）。
注4：測定値に影響が出ますので溶血検体でのご依頼は避けてください。

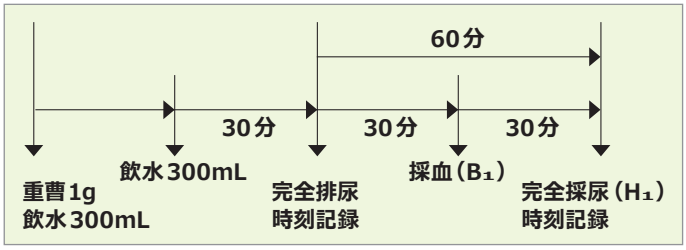
※1 セレンは、長期静脈栄養管理若しくは長期成分栄養剤を用いた経腸栄養管理を受けている患者、人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者又は重症心身障害児（者）に対して、診察及び他の検査の結果からセレン欠乏症が疑われる場合の診断及び診断後の経過観察を目的として実施した場合に限り算定する。
※2 総鉄結合能（TIBC）と不飽和鉄結合能（UIBC）を同時に実施した場合は、不飽和鉄結合能（UIBC）又は総鉄結合能（TIBC）の所定点数を算定する。

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
金属										
707 3K115	クロム (Cr)	〈血液〉	8	血液 0.5 冷	原子吸光法	μg/dL		7〜13	02	3週
2009 3K115	クロム (Cr)	〈血清〉	44 遠心	血清 0.5 冷	原子吸光法	μg/dL		7〜13	02	3週
2010 3K115	クロム (Cr)	〈 尿 〉	34	尿 1.0 冷	原子吸光法	μg/L		7〜13	02	3週
2317 3K120	カドミウム (Cd)	〈血液〉	8	血液 0.5 冷	ICP-MS	μg/dL 0.5以下		5〜8	02	3週
2318 3K120	カドミウム (Cd)	〈 尿 〉	34	尿 1.0 冷	ICP-MS	μg/L 3.8以下		5〜11	02	3週
ポルフィリン関連										
640 3J075	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA) δ-アミノレブリン酸(δ-ALA)(尿)		30	尿 1.0 冷 遮	HPLC	mg/L (参考)2.2以下	106 尿・便	5〜6	産業衛生関連検査としてご依頼の場合は、130頁をご参照ください。 02	1カ月
704 3J050	ウロポルフィリン ウロポルフィリン(尿)		30	蓄尿又は部分尿 3.0 冷 遮	HPLC	μg/g・Cre 36以下	105 尿・便	6〜12	02	2週
877 3J040	コプロポルフィリン定量 赤血球コプロポルフィリン	〈血液〉	8	血液 1.5 冷 遮 凍結不可	HPLC	μg/dL RBC 1以下	210 生I	6〜11	02	
648 3J040	コプロポルフィリン定量 コプロポルフィリン(尿)	〈 尿 〉	30	蓄尿又は部分尿 3.0 冷 遮	HPLC	μg/g・Cre 170以下	131 尿・便	6〜12	02	1週
2011 3J055	赤血球プロトポルフィリン		8	血液 0.5 冷 遮	HPLC	μg/dL 全血	272 生I	5〜11	産業衛生関連検査としてご依頼の場合は、130頁をご参照ください。 02	3週

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
クリアランス検査									
573 8A110	アミラーゼクレアチニンクリアランス(ACCR)	1 遠心 および 5	血清 0.5 冷 および 尿 5.0 冷	血清及び尿中のアミラーゼとクレアチニン値から計算	1.3～3.3 %		1	年齢、身長、体重、採尿時間、尿量を必ず明記してください。 11	
8A040	尿酸クリアランス	1 遠心 および 5	血清 0.5 冷 および 蓄尿 5.0 冷	酵素法(ウリカーゼTOOS)	6.2～12.6 mL/min		1	体表面積1.73m²を使用 年齢、身長、体重、採尿時間、尿量を必ず明記してください。 11	
2706 8A040	尿酸クレアチニンクリアランス比	1 遠心 および 5	血清 0.5 冷 および 蓄尿 5.0 冷	血清及び尿中の尿酸とクレアチニン値から計算	5.5～11.1 %		1	年齢、身長、体重、採尿時間、尿量を必ず明記してください。 11	

尿酸クリアランス

1. 早朝空腹時、重曹1gを300mLの水と共に服用させる。
2. 検査時さらに水300mLを飲水。
3. 飲水30分後に完全排尿し、排尿完了時刻を正確に記録。
   (時間測定開始)
4. 開始30分後に2mL採血します。
5. 開始1時間後、完全採尿し、正確に尿量及び終了時間を記録します。



以上のようにして得た血清(B₁)、尿(H₁)を4～6℃で保存し提出してください。
年齢、身長、体重、採尿時間、尿量を必ず明記してください。
〔注意〕検査の3日前より高プリン体食、飲酒は控えてください。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
その他									
841 3Z040	エタノール(アルコール)	8	血液 1.0 凍	GC	mg/mL 0.1未満	105 生I	7〜8	検出限界未満を基準値とします。ガラス管の場合は、プラスチック容器に移してから凍結してください。 注1 02	12日
2771 3K065	メタノール	5	尿 2.0 凍	GC	mg/L 3未満		5〜7	検出限界未満を基準値とします。 02	15日
727 3Z065	結石鑑別(結石分析)	5	結石 10mg 室	IR(KBr Wafer法)	% 組成比率	117 生II	7〜9	注2、3、4、5 02	
782 3H045	浸透圧〈血清〉	1 遠心	血清 0.5 冷	オズモメーター	mOsm/L 270〜295	15 血液	1	11	2週
793 3H045	浸透圧〈尿〉	5	尿 2.0 冷	オズモメーター	mOsm/L 50〜1300	16 尿・便	1	11	1週
787 3H045	浸透圧〈透析液〉	5	透析液 2.0 冷	オズモメーター	mOsm/L		1	11	1週

注1:採血に当たってエタノール消毒を行う場合、血液中への混入がないようご注意ください。(エタノール乾燥後に採血、あるいは他の消毒薬を使用)
注2:専用容器は必ず密栓し(シャーレの代用不可)、摘出臓器および結石の種別(胆石、尿路結石などの別)を必ず明示してください。
注3:試料は乾燥させた上で、所定の専用容器にてご提出ください。血液などの付着した試料については蒸留水で洗浄後、乾燥させてご提出ください。
液状成分を含む試料は、分析対象として不適当です。
注4:試料はガーゼやティッシュペーパーなどで包まず、結石の外観を目視可能な状態でご提出ください。
注5:多数検体の場合は、予めご連絡ください。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)〈有効治療濃度〉	実施料 判断料	所要日数	主な商品名	備考	検体の安定性
抗てんかん剤										
869 3L175	フェノバルビタール	1 遠心 91	血清 0.2 冷	KIMS	10.0～30.0 μg/mL	(470)	1	フェノバール、ルミナール、ワコビタール	11	1週
875 3L190	プリミドン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	EMIT	5.0～12.0 μg/mL	(470)	3～4	マイソリン、プリムロン	02	1カ月
873 3L185	フェニトイン	1 遠心 91	血清 0.2 冷	KIMS	10.0～20.0 μg/mL	(470)	1	ジフェニルヒダントイン、ヒダントール、アレビアチン	11	4日
874 3L115	カルバマゼピン	1 遠心 91	血清 0.2 冷	KIMS	4.0～12.0 μg/mL	(470)	1	テグレトール、テレスミン、レキシン	11	5日
876 3L195	バルプロ酸ナトリウム	1 遠心 91	血清 0.2 冷	HEIA	50～100 μg/mL	(470)	1	デパケン、バレリン、エピレナート、ハイセレニン	11	1週
878 3L135	エトスクシミド	1 遠心 91	血清 0.4 冷	EIA	40.0～100.0 μg/mL	(470)	3～4	ザロンチン、エピレオプチマル、エトサクシミド	02	1カ月
879 3L205	トリメタジオン	1 遠心 91	血清 0.5 凍	LC-MS/MS	300～500 μg/mL	(470)	5～11	ミノアレ バスタレル	活性代謝物であるジメタジオンを測定します。 02	1カ月
883 3L125	クロナゼパム	1 遠心 91	血清 0.5 冷	LC-MS/MS	10.0～70.0 ng/mL	(470)	2～5	ランドセン、リボトリール	13	2週
880 3L165	ニトラゼパム	1 遠心 91	血清 0.5 冷	LC-MS/MS	20.0～100.0 ng/mL	(470)	4～5	ベンザリン、ネルボン、ネルロレン、ヒルスカミン	02	3週
881 3L130	ジアゼパム	1 遠心 91	血清 0.5 冷	LC-MS/MS	有効治療濃度 200～500 中毒域 1000以上 ng/mL	(470)	4～6	セルシン、ホリゾン、ジアパックス, セレナミン、ダイアップ	ジアゼパムおよび活性代謝物であるデスメチルジアゼパムの各定量値を報告します。 02	1カ月

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管を使用しないでください。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)〈有効治療濃度〉	実施料 判断料	所要日数	主な商品名	備考	検体の安定性
抗てんかん剤										
891 3L210	ゾニサミド	1 遠心 91	血清 0.3 冷	LC-MS/MS	μg/mL 10.0～30.0	(470)	2～5	エクセグラン	13	
2580 3L215	ガバペンチン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	LC-MS/MS	μg/mL	(470)	4～6	ガバペン	02	1カ月
440 3L145	クロバザム	1 遠心 91	血清 0.5 冷	LC-MS/MS	ng/mL	(470)	4～5	マイスタン	クロバザムおよび活性代謝物であるデスメチルクロバザムの各定量値を報告します。 02	3週
2679 3L230	レベチラセタム	1 遠心 91	血清 0.3 冷	LC-MS/MS	μg/mL トラフ 12.0～46.0	(470)	2～5	イーケプラ	13	1カ月
2684 3L220	ラモトリギン	1 遠心 91	血清 0.5 凍	LC-MS/MS	μg/mL	(470)	2～5	ラミクタール	13	
2691 3L225	トピラマート	1 遠心 91	血清 0.3 冷	LC-MS/MS	μg/mL トラフ 5.0～20.0	(470)	4～5	トピナ	02	1カ月
2737 3L235	スチリペントール	6 遠心 91	血漿 0.3 冷	LC-MS/MS	μg/mL	(470)	4～5	ディアコミット	**血清も検査可** 02	1カ月
2807 3L240	ルフィナミド	1 遠心 91	血清 0.3 冷	LC-MS/MS	μg/mL	(470)	4～6	イノベロン	**EDTA血漿も検査可** 02	1カ月
2837 3L245	ペランパネル	6 遠心 91	血漿 0.3 冷	LC-MS/MS	ng/mL	(470)	4～5	フィコンパ	**血清も検査可** 02	1カ月
2839 3L248	ラコサミド	6 遠心 91	血漿 0.3 冷	LC-MS/MS	μg/mL	(470)	4～5	ビムパット	**血清も検査可** 02	1カ月
2432 3L253	ブリーバラセタム	1 遠心 91 注1	血清 0.3 冷	LC-MS/MS	μg/mL	(470)	4～6	ブリィビアクト	**EDTA血漿も検査可** 02	1カ月

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管を使用しないでください。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

注1：全血で放置すると酵素による分解により、測定値に影響を及ぼす可能性があります。採血後は速やかに遠心分離し指定容器に移してください。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)〈有効治療濃度〉	実施料 判断料	所要日数	主な商品名	備考	検体の安定性
向精神薬										
813 3L320	炭酸リチウム	1 遠心 91	血清 0.3 冷	比色法	mmol/L 0.6～1.2	(470)	1	リーマス、リチオマール、リチウム	リチウムとして測定します。 11	1週
890 3L300	ハロペリドール	1 遠心 91	血清 0.2 冷	EIA	ng/mL 3.0～17.0	(470)	2～3	セレネース、ハロステン、ケセラン、リントン、ハロマンス、ネオペリドール	11	
973 3L302	ブロムペリドール	1 遠心 91	血清 0.2 冷	EIA	ng/mL 15.0以下	(470)	2～3	インプロメン、ロペール、ルナブロン	11	
2360 3L304	クロザピン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	LC-MS/MS	ng/mL	(470)	4～5	クロザリル	クロザピンおよび活性代謝物であるデスメチルクロザピンの各定量値を報告します。 EDTA血漿も検査可 02	1カ月
545 3L265	クロルプロマジン	1 遠心 91	血清 1.0 凍	LC-MS/MS	ng/mL 30～350		5～7	ウインタミン、コントミン	02	1カ月
強心剤										
713 3L765	ジゴキシン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	KIMS	ng/mL 0.8～2.0	(470)	1	ジゴシン	11	1日
599	メチルジゴキシン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	KIMS	ng/mL	(470)	1	ラニラピッド	ジゴキシンとして測定します。 11	1日
免疫抑制剤										
504 3M805	シクロスポリン	63	血液 1.0 冷	ECLIA	ng/mL	(470)	3～4	サンディミュン、ネオーラル、アマドラ	ヘパリン加血液は不可 02	1週
230 3M810	タクロリムス	63	血液 1.0 冷	ECLIA	ng/mL 5～20	(470)	3～4	プログラフ、グラセプター	02	1週
2816 3M815	エベロリムス	63	血液 1.0 冷	ECLIA	ng/mL 注1	(470)	3～4	サーティカン	シロリムス投与歴がある患者検体は検査不可。 ヘパリン加血液は不可 注2 02	1週
2808 3M816	ミコフェノール酸	6 遠心 91	血漿 0.3 冷	LC-MS/MS	μg/mL	(470)	4～5	セルセプト	注3 02	1カ月
気管支拡張剤										
889 3M070	テオフィリン	1 遠心 91	血清 0.2 冷	KIMS	μg/mL 10.0～20.0	(470)	1	テオドール、テオロング、ユニフィル	11	1週

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管を使用しないでください。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

注1：免疫抑制剤として、シクロスポリンと併用した場合のトラフ3～8ng/mL、抗悪性腫瘍剤として使用した場合のトラフ5～15ng/mL。
注2：免疫抑制剤サーティカンが対象です。
注3：活性代謝物であるミコフェノール酸（MPA）を測定します。

1 汎用容器

6 内分泌検査容器

63 内分泌血液検査容器

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)〈有効治療濃度〉	実施料 判断料	所要日数	主な商品名	備考	検体の安定性
抗不整脈剤										
893 3L895	プロプラノロール	1 遠心 91	血清 0.3 冷	HPLC	ng/mL 50.0～100.0		注1	インデラル、ヘルツール、ノルモテンス	04	
892 3L890	プロカインアミド	1 遠心 91	血清 0.3 冷	HEIA	μg/mL 4.0～8.0	(470)	3～4	アミサリン、塩酸プロカインアミド	02	1カ月
887 3L865	ジソピラミド	1 遠心 91	血清 0.5 冷	LC-MS/MS	μg/mL 2.0～5.0	(470)	2～4	リスモダン、ノルペース、カフィール、リスラミドR	13	
527 3L875	リドカイン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	EIA	μg/mL 1.2～5.0	(470)	3～5	キシロカイン	04	
509 3L855	アプリンジン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	LC-MS/MS	μg/mL 0.25～1.25	(470)	4～5	アスペノン	02	1カ月
515 3L896	ピルシカイニド	1 遠心 91	血清 0.5 冷	LC-MS/MS	μg/mL 0.20～1.00	(470)	2～4	サンリズム	13	
225 3L897	プロパフェノン	8 遠心 91	血漿 0.5 冷	LC-MS/MS	ng/mL 50～1500 (5-OHプロパフェノンとプロパフェノンの総量値)	(470)	4～6	プロノン、ソビラール	プロパフェノンおよび主代謝物である5-OHプロパフェノンの各定量値を報告します。 02	1カ月
500 3L880	メキシレチン	1 遠心 91	血清 0.5 冷	LC-MS/MS	μg/mL 0.7～2.0	(470)	2～4	メキシチール	13	
226 3L905	フレカイニド	1 遠心 91	血清 0.5 冷	LC-MS/MS	ng/mL 200～1000	(470)	4～5	タンボコール	02	1カ月
227 3L898	シベンゾリン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	LC-MS/MS	ng/mL 70～250 朝投与直前(トラフ濃度)	(470)	2～4	シベノール	13	
2068 3L899	ピルメノール	8 遠心 91	血漿 0.5 冷	LC-MS/MS	μg/mL 注2	(470)	4～7	ピメノール	02	1カ月
2069 3L800	アミオダロン	8 遠心 91	血漿 0.5 冷	LC-MS/MS	ng/mL	(470)	4～5	アンカロン	アミオダロンおよび主代謝物であるモノデスエチルアミオダロンの各定量値を報告します。 02	3週
2727 3L802	ベプリジル	6 遠心 91	血漿 0.3 冷	LC-MS/MS	ng/mL 250～800	(470)	4～5	ベプリコール	**血清も検査可** 02	1カ月
2320 3L801	ソタロール	6 遠心 91	血漿 0.3 冷	LC-MS/MS	μg/mL	(470)	4～7	ソタコール	**血清も検査可** 02	1カ月

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管を使用しないでください。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

注1：不定期アッセイ（ご依頼の際には、お問い合わせください。）
注2：最小有効血中濃度は0.40μg/mL前後と推定されています。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)〈有効治療濃度〉	実施料 判断料	所要日数	主な商品名	備考	検体の安定性
抗生剤・抗ウイルス剤										
894 3M606	ゲンタマイシン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	EMIT	μg/mL 注1	(470)	3～4	硫酸ゲンタマイシン、ゲンタシン、ルイネシン、リフタマイシン、エルタシン	02	1カ月
895 3M602	トブラマイシン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	HEIA	μg/mL 注1	(470)	3～4	トブラシン	02	1カ月
896 3M601	アミカシン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	KIMS	μg/mL 注2	(470)	3～4	アミカマイシン、ロミカシン、プルテツシン	02	1カ月
228 3M613	アルベカシン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	LA	μg/mL ピーク 15.0～20.0 トラフ 1.0～ 2.0未満	(470)	3～4	ハベカシン	02	1カ月
191 3M530	バンコマイシン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	LA	μg/mL トラフ 10.0～15.0	(470)	3～4	塩酸バンコマイシン	02	1カ月
638 3M532	テイコプラニン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	LA	μg/mL トラフ 15.0～30.0	(470)	3～4	タゴシッド	02	1カ月
抗真菌剤										
2682 3M698	ボリコナゾール	1 遠心 91	血清 0.3 冷	LC-MS/MS	μg/mL トラフ ≧ 1.00～2.00 注3	(470)	4～5	ブイフェンド	02	1カ月
その他										
2827	フルニトラゼパム	1 遠心 91	血清 1.0 凍	LC-MS/MS	ng/mL		5～7	サイレース、ロヒプノール、ビビットエース、フルトラース	02	1カ月
232 3L005	アセトアミノフェン	1 遠心 91	血清 0.3 冷	HEIA	μg/mL 中毒域 4時間後 200以上 12時間後 50以上	180 生I ※1	3～4	アスペイン、ナパ、ピリナジン、カロナール、アセトアモノフェン	02	1カ月
836 3M205	サリチル酸	1 遠心 91	血清 0.3 冷	酵素法	μg/mL 抗リウマチ薬として 150～300	(470)	3～4	アスピリン、サンスポミン、アセチルサリチル酸、ミニマックス、バファリン	02	1カ月
486 3M725	メトトレキサート	1 遠心 91	血清 0.3 冷	EIA	μmol/L 中毒域(大量投与時) 24時間後 10.00以上 48時間後 1.00以上 72時間後 0.10以上	(470)	3～4	メソトレキセート、トレキサメット	02	1週
2885 3M750	イマチニブ	6 遠心 91	血漿 0.3 冷	LC-MS/MS	ng/mL	(470)	4～7	グリベック	02	1カ月
548 3L555	L・ドーパ	6 遠心 91	血漿 2.0 凍 注4	LC-MS/MS	ng/mL		4～6	ドパストン、ドパゾール、ドパール	血清は検査不可 02	

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管を使用しないでください。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

注1：グラム陰性菌感染症に対する標準治療
ピーク 15.0～20.0μg/mL
トラフ 1.0未満μg/mL
注2：グラム陰性菌感染症に対する標準治療
ピーク 50.0～60.0μg/mL
トラフ 4.0未満μg/mL
注3：トラフ≧4.00～5.00μg/mLの場合に肝障害に注意する。
注4：検体採取後、速やかに提出できない場合は、-70℃以下で保存してください。

※1 アセトアミノフェンは、同一の患者につき1月以内に2回以上行った場合は、第1回目の測定を行ったときに1回に限り算定する。

1 汎用容器

6 内分泌検査容器

8 ヘパリン容器

主な薬物検査の採血時期

	薬剤名	採血時期
抗てんかん剤	クロバザム	投与直前（トラフ）注1
	フェノバルビタール	投与直前（トラフ）注1
	プリミドン	投与直前（トラフ）
	フェニトイン	経　口：投与直前（トラフ） 静　注：投与直前（トラフ）
	カルバマゼピン	投与直前（トラフ）
	バルプロ酸ナトリウム	投与直前（トラフ）
	エトスクシミド	投与直前（トラフ）注1
	トリメタジオン	投与直前（トラフ）注1
	クロナゼパム	投与直前（トラフ）注1
	ニトラゼパム	投与直前（トラフ）注1
	ジアゼパム	投与直前（トラフ）注1
	ゾニサミド	投与直前（トラフ）注1
向精神薬	炭酸リチウム	投与直前（トラフ）
	クロルプロマジン	投与直前（トラフ）注1
	ハロペリドール	投与直前（トラフ）注1
	ブロムペリドール	投与直前（トラフ）注1
抗不整脈剤	プロプラノール	経　口：投与直前（トラフ）
	プロカインアミド	投与直前（トラフ）
	ジソピラミド	カプセル：投与直前（トラフ）および 投与後2～4時間（ピーク） 徐放錠：投与直前（トラフ）および 投与後4～7時間（ピーク） 注射剤：投与直前（トラフ）
	リドカイン	静　注：投与後2時間 点滴静注：終了後6～12時間
	アプリンジン	経　口：投与直前（トラフ）および 投与後2～4時間（ピーク） 静　注：投与直前（トラフ）
	ピルシカイニド	経　口：投与直前（トラフ）または 投与後1～2時間（ピーク） 静　注：投与直前（トラフ）
	メキシレチン	投与直前（トラフ） 副作用徴候発現時：投与後2～3時間（ピーク）
	プロパフェノン	経　口：投与直前（トラフ） 投与後2時間（ピーク）、副作用回避のため
	フレカイニド	経　口：投与直前（トラフ）
	シベンゾリン	経　口：投与直前（トラフ） 静　注：投与直前（トラフ）
	ピルメノール	経　口：投与直前（トラフ）
	アミオダロン	経　口：投与直前（トラフ）
	ベプリジル	経　口：投与直前（トラフ）

	薬剤名	採血時期
強心剤	ジゴキシン	経　口：投与直前（トラフ）または 投与6時間以降 注射剤：投与直前（トラフ）または 静注後3時間以降
	メチルジゴキシン	経　口：投与直前（トラフ）または 投与6時間以降 注射剤：投与直前（トラフ）または 静注後3時間以降
免疫抑制剤	シクロスポリン	経　口：投与直前（トラフ） 静　注：投与直前（トラフ） 必要に応じて投与直後（ピーク）
	タクロリムス	経　口：投与直前（トラフ） 静　注：投与直前（トラフ） 必要に応じて投与直後（ピーク）
気管支拡張剤	テオフィリン	速放性製剤：投与直前（トラフ）および 投与後2時間（ピーク） 徐放性製剤：投与直前（トラフ）および 投与後4時間後（ピーク） 静注・点滴静注：投与直前（トラフ）および 投与後30分（ピーク） 持続静注：投与後4～6時間および その後12～24時間ごと
抗生剤	ゲンタマイシン	点滴開始1時間後 （30分で投与した場合、終了30分後）（ピーク）
	トブラマイシン	点滴開始1時間後 （30分で投与した場合、終了30分後）（ピーク）
	アミカシン	投与前30分以内（トラフ）
	アルベカシン	投与前30分以内（トラフ）
	バンコマイシン	投与前30分以内（トラフ）
	テイコプラニン	投与前30分以内（トラフ）
その他	アセトアミノフェン	投与直前（トラフ） 大量に服用した患者においては中毒発現が疑われる場合随時
	サリチル酸（アスピリン）	投与直前（トラフ）
	メトトレキサート	ロイコボリン救援療法時 24、48、72時間後
	L・ドーパ	経　口：投与直前（トラフ）

注1：半減期が長いため随時でも可能ですが、定刻をお守りください。

特定薬剤治療管理料

当社で受託していない検査項目も掲載しています

薬剤名	検査項目（算定備考上の名称）	特定薬剤治療管理料※1 1～3カ月	特定薬剤治療管理料※1 4カ月以降	加算点	備考
抗てんかん剤（てんかん）	フェノバルビタール プリミドン フェニトイン カルバマゼピン バルプロ酸ナトリウム エトスクシミド トリメタジオン クロナゼパム ニトラゼパム ジアゼパム ゾニサミド ガバペンチン クロバザム レベチラセタム ラモトリギン トピラマート スチリペントール ルフィナミド ペランパネル ラコサミド ビガバトリン ブリーバラセタム	(単一薬剤) 470点 (複数薬剤) 940点	(単一薬剤) 470点 (複数薬剤) 940点	280点 ※2	※4
ジギタリス製剤（心疾患）	ジゴキシン	470点	235点		
アミノ配糖体抗生物質（入院中）	ゲンタマイシン トブラマイシン アミカシン アルベカシン				※5
グリコペプチド系抗生物質（入院中）	バンコマイシン テイコプラニン				
トリアゾール系抗真菌剤（入院中）（重症または難治性真菌感染症、造血幹細胞移植（深在性真菌症の予防を目的とするものに限る））	ボリコナゾール				
テオフィリン製剤	テオフィリン				※6
不整脈用剤（不整脈）	キニジン プロカインアミド N-アセチルプロカインアミド ジソピラミド リドカイン アプリンジン ピルジカイニド塩酸塩 プロパフェノン メキシレチン フレカイニド シベンゾリンコハク酸塩 ピルメノール アミオダロン ソタロール塩酸塩 ベプリジル塩酸塩				
ハロペリドール製剤 ブロムペリドール製剤（統合失調症）	ハロペリドール ブロムペリドール				
リチウム製剤（躁うつ病）	炭酸リチウム				
バルプロ酸ナトリウム カルバマゼピン（躁うつ病または躁病）	バルプロ酸ナトリウム カルバマゼピン		470点		
免疫抑制剤（臓器移植後）	シクロスポリン タクロリムス水和物 エベロリムス ミコフェノール酸モフェチル		470点	2740点 ※3	※7
免疫抑制剤	シクロスポリン			280点 ※2	※8
免疫抑制剤	タクロリムス水和物				※9
サリチル酸系製剤	サリチル酸		235点		※10
メトトレキサート（悪性腫瘍）	メトトレキサート				
バルプロ酸ナトリウム（片頭痛）	バルプロ酸ナトリウム				
イマチニブ	イマチニブ				
エベロリムス（結節性硬化症）	エベロリムス				
シロリムス製剤（リンパ脈管筋腫症）	シロリムス				
スニチニブ（腎細胞癌）	スニチニブ				
治療抵抗性統合失調症治療薬（統合失調症）	クロザピン				

※1　特定薬剤治療管理料1は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。（てんかん患者において2種類以上のてんかん剤を投与しており、同一暦月に複数の抗てんかん剤の血中濃度を測定した場合、1月に2回に限り算定できる）
※2　薬剤の投与を行った初回月に限る。（バンコマイシンは1回に限り、530点を加算）
※3　臓器移植を行った月から3月以内。
※4　ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合、またはてんかん重積状態の患者に対して抗てんかん剤の注射等を行った場合、所定点数にかかわらず、1回に限り740点を算定する。
※5　数日間以上投与している入院患者について、投与薬剤の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。
※6　気管支喘息、喘息性（様）、気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫または未熟児無呼吸発作。
※7　臓器移植後の患者でミコフェノール酸モフェチルまたはエベロリムスを含む2種類以上の免疫抑制剤を投与する場合、ミコフェノール酸モフェチルは6月に1回に限り250点を、エベロリムスは初回投与を行った月を含む3月に限り月1回、4月目以降は4月に1回に限り250点を所定点数に加算する。
※8　ベーチェット病（活動性・難治性眼症状を有するもの）、その他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分で視力低下のおそれのある活動性の中間部または後部の非感染性ぶどう膜炎に限る）、再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎（既存治療で十分な効果が得られない患者に限る）、ネフローゼ症候群、川崎病（急性期の患者）。
※9　全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎、間質性肺炎（多発性筋炎又は皮膚筋炎に合併するものに限る）。
※10 若年性関節リウマチ、リウマチ熱、慢性関節リウマチ。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
下垂体									
166 4A055	甲状腺刺激ホルモン (TSH)	1 遠心	血清 0.3 冷	ECLIA	μIU/mL 0.50～5.00	98 生Ⅱ	1	11	1週
743 4A020	プロラクチン (PRL)	1 遠心	血清 0.5 冷	ECLIA	ng/mL 下表参照	98 生Ⅱ	1	11	2週
684 4A030	黄体形成ホルモン (LH)	1 遠心	血清 0.5 冷	ECLIA	mIU/mL 下表参照	105 生Ⅱ	1	11	2週
683 4A035	卵胞刺激ホルモン (FSH)	1 遠心	血清 0.5 冷	ECLIA	mIU/mL 下表参照	105 生Ⅱ	1	11	2週
174 4A010	成長ホルモン (GH)	1 遠心	血清 0.5 冷	ECLIA	ng/mL M 2.47以下 F 0.13～9.88	105 生Ⅱ	3～4	04	
177 4A025	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	6 遠心 91	血漿 0.3 凍	ECLIA	pg/mL (早朝安静時) 7.2～63.3	184 生Ⅱ	3～4	溶血検体では測定値が低下傾向となります。 02	3カ月
744 4A070	バゾプレシン (AVP)(ADH) 抗利尿ホルモン(ADH)	6 遠心 91	血漿 1.2 凍	RIA (二抗体法)	pg/mL 水制限 4.0以下 自由飲水 2.8以下	224 生Ⅱ	6～8	溶血の影響により測定値が変動する可能性があります。 02	
708 4A015	ソマトメジン-C (IGF-Ⅰ)	1 遠心 91	血清 0.4 凍	ECLIA	ng/mL 下表参照	212 生Ⅱ	3～4	性別、年齢を必ずご記入ください。 02	1カ月

ソマトメジン-C(IGF-Ⅰ)基準値

(ng/mL)

男性						女性					
年齢(歳)	−2SD～+2SD	年齢(歳)	−2SD～+2SD	年齢(歳)	−2SD～+2SD	年齢(歳)	−2SD～+2SD	年齢(歳)	−2SD～+2SD	年齢(歳)	−2SD～+2SD
0	11～149	27	116～322	54	84～239	0	15～154	27	141～328	54	76～211
1	14～148	28	114～315	55	84～238	1	23～186	28	137～320	55	75～210
2	18～154	29	111～309	56	83～237	2	32～213	29	133～312	56	74～208
3	24～164	30	109～303	57	82～236	3	40～227	30	129～304	57	73～207
4	32～176	31	107～297	58	81～235	4	48～238	31	126～297	58	72～205
5	44～193	32	105～292	59	80～233	5	56～252	32	122～290	59	71～203
6	55～215	33	103～287	60	79～232	6	69～287	33	119～283	60	70～201
7	63～247	34	102～283	61	77～230	7	89～357	34	115～277	61	69～198
8	72～292	35	100～279	62	76～228	8	111～438	35	112～271	62	68～196
9	84～350	36	99～275	63	75～226	9	133～517	36	109～265	63	66～194
10	99～423	37	97～272	64	73～224	10	155～588	37	106～260	64	65～191
11	113～499	38	96～269	65	72～221	11	175～638	38	103～254	65	64～188
12	125～557	39	95～266	66	70～219	12	188～654	39	100～250	66	62～186
13	133～579	40	94～263	67	68～216	13	193～643	40	98～245	67	61～183
14	138～570	41	94～261	68	66～213	14	193～625	41	95～240	68	60～180
15	141～552	42	93～259	69	65～209	15	192～614	42	93～236	69	59～177
16	142～543	43	92～257	70	63～206	16	192～611	43	90～233	70	57～175
17	142～540	44	92～255	71	61～202	17	191～599	44	88～229	71	56～172
18	142～526	45	91～253	72	58～198	18	188～574	45	87～226	72	55～170
19	143～501	46	90～250	73	56～194	19	182～539	46	85～224	73	54～167
20	142～470	47	90～250	74	54～190	20	175～499	47	83～221	74	53～165
21	139～436	48	89～248	75	52～185	21	168～459	48	82～219	75	52～163
22	135～405	49	88～246	76	50～181	22	161～425	49	81～218	76	50～160
23	131～379	50	87～245	77	48～177	23	155～397	50	80～216	77	49～158
24	128～356	51	87～243	78	45～172	24	151～375	51	79～215	78	48～155
25	125～337	52	86～242	79	43～167	25	147～358	52	78～213	79	44～152
26	119～329	53	85～240	80～	41～163	26	146～336	53	77～212	80～	43～149

プロラクチン(PRL)基準値

(ng/mL)

性別		基準値
男性		4.29～13.69
女性	閉経前	4.91～29.32
	閉経後	3.12～15.39

黄体形成ホルモン(LH)
卵胞刺激ホルモン(FSH)基準値

(mIU/mL)

性別		黄体形成ホルモン	卵胞刺激ホルモン
男性		2.2 ～ 8.4	1.8 ～ 12.0
女性	卵胞期	1.4 ～ 15.0	3.0 ～ 10.0
	排卵期	8.0 ～ 100.0	5.0 ～ 24.0
	黄体期	0.5 ～ 15.0	1.3 ～ 6.2
	閉経後	11.0 ～ 50.0	26.0 ～ 120.0

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
甲状腺									
156 4B010	トリヨードサイロニン(T_3)	1 遠心	血清 0.2 冷	ECLIA	0.80～1.60 ng/mL	99 生Ⅱ	2～3	11	1週
716 4B030	サイロキシン(T_4)	1 遠心	血清 0.2 冷	ECLIA	6.1～12.4 μg/dL	105 生Ⅱ	2～3	11	1週
749 4B015	遊離トリヨードサイロニン(FT_3)	1 遠心	血清 0.2 冷	ECLIA	2.30～4.00 pg/mL	121 生Ⅱ	1	11	1週
788 4B035	遊離サイロキシン(FT_4)	1 遠心	血清 0.2 冷	ECLIA	0.90～1.70 ng/dL	121 生Ⅱ	1	11	1週
158 4B045	サイロキシン結合グロブリン(TBG)	1 遠心 91	血清 0.3 凍	CLEIA	14.0～31.0 μg/mL	130 生Ⅱ	3～6	02	2週
610 4B040	サイログロブリン(Tg)	1 遠心	血清 0.3 冷	ECLIA	33.70以下 ng/mL	128 生Ⅱ	2～3	11	2週
249 5G290	抗サイログロブリン抗体(Tg-Ab)	1 遠心	血清 0.5 冷	ECLIA	28未満 IU/mL	136 免疫	2～3	11	4日
194 5G285	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)	1 遠心	血清 0.5 冷	ECLIA	16未満 IU/mL	138 免疫 ※1	2～3	11	8日
639 5G310	TSHレセプター抗体Ⅲ(TRAbⅢ) 抗TSHレセプター抗体(TRAb)	1 遠心	血清 0.5 冷	ECLIA	1.0未満 IU/L バセドウ病診断のためのカットオフ値 2.0未満	214 免疫 ※2	2～3	血漿は検査不可 11	6日
384 5G300	TSH刺激性レセプター抗体(TSAb)(甲状腺刺激抗体) 甲状腺刺激抗体(TSAb)	1 遠心	血清 0.4 冷	バイオアッセイ法	110未満 %	330 免疫 ※2	4～7	溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。 血清以外は検査不可 02	2週

※1 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体を、抗甲状腺マイクロゾーム抗体半定量と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
※2 抗TSHレセプター抗体(TRAb)及び甲状腺刺激抗体(TSAb)を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定する。

1 汎用容器

6 内分泌検査容器

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
副甲状腺									
827 4C035	カルシトニン(CT)	1 遠心 91	血清 0.5 凍	ECLIA	pg/mL M 9.52以下 F 6.40以下	130 生Ⅱ	3 ~ 5	速やかに血清分離後、凍結保存してください。 04	
618 4C025	副甲状腺ホルモンintact(PTH-intact) 副甲状腺ホルモン(PTH)	6	血漿 0.5 冷	ECLIA	pg/mL 10~65	161 生Ⅱ	2 ~ 4	PTHは採血後、直ちに冷却下で血漿を分離する方が不活性化を防ぎます。 11	2日
2133 4C026	副甲状腺ホルモン whole(whole PTH) 副甲状腺ホルモン(PTH)	6	血漿 0.5 冷	ECLIA	pg/mL 14.9~56.9	161 生Ⅱ	2 ~ 4	PTHは採血後、直ちに冷却下で血漿を分離する方が不活性化を防ぎます。 11	2日
614 4C034	副甲状腺ホルモン関連蛋白intact(PTHrP-intact) 副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	7 遠心 91	血漿 0.5 凍	IRMA (ビーズ固相法)	pmol/L 1.1未満	186 生Ⅱ ※1	5 ~ 8	PTHrp-intactは採血後、直ちに冷却下で血漿を分離する方が不活性化を防ぎます。 **血清は検査不可** 02	4カ月
367 4Z280	オステオカルシン(BGP) オステオカルシン(OC)	1 遠心 91	血清 0.3 凍	FEIA	ng/mL 8.3~32.7	157 生Ⅱ ※2 ※3	3 ~ 6	溶血検体では、測定値が低値傾向となる場合があります。 02	1カ月

※1 副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント(C-PTHrP)又は副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)は、高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合に限り算定する。
※2 Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)、オステオカルシン(OC)又はデオキシピリジノリン(DPD)(尿)を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。
※3 オステオカルシン(OC)は、続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定及び原発性又は続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合に限り算定できる。

1 汎用容器

5 滅菌スピッツ

6 内分泌検査容器

7 アプロチニン容器

63 内分泌血液検査容器


項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
副腎髄質									
723 4E016	カテコールアミン3分画 〈血漿〉 カテコールアミン分画	6 遠心 91	血漿 1.0 凍	HPLC	ng/mL A 0.17以下 NA 0.15～0.57 DA 0.03以下	161 生Ⅱ	4～5	採血後、速やかに血漿分離の後、−20℃以下の条件でご提出ください。 02	10日
519 4E016	カテコールアミン3分画 〈尿〉 カテコールアミン分画	5	酸性蓄尿 1.0 冷	HPLC	μg/day A 1.1～22.5 NA 29.2～118.0 DA 100.0～1000.0	161 生Ⅱ	4～5	6N塩酸約20mL(蓄尿1L当り)または市販の酸性蓄尿添加剤を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出ください。 02	1カ月
2012 4E021	遊離カテコールアミン3分画 カテコールアミン分画	5	酸性蓄尿 1.0 冷	HPLC	μg/day A 0.6～14.1 NA 9.7～41.4 DA 120～310	161 生Ⅱ	4～5	6N塩酸約20mL(蓄尿1L当り)または市販の酸性蓄尿添加剤を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出ください。 02	5日
528 4E040	メタネフリン2分画 メタネフリン・ノルメタネフリン分画	5	酸性蓄尿 2.0 冷	LC-MS/MS	mg/day メタネフリン(MN) 0.05～0.20 ノルメタネフリン(NMN) 0.10～0.28	220 生Ⅱ	4～5	6N塩酸約20mL(蓄尿1L当り)または市販の酸性蓄尿添加剤を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出ください。 02	1カ月
518 4E060	バニリルマンデル酸(VMA)	5	酸性蓄尿 1.0 冷	LC-MS/MS	mg/day 1.4～4.9	90 生Ⅱ	4～5	6N塩酸約20mL(蓄尿1L当り)または市販の酸性蓄尿添加剤を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出ください。 02	1カ月
2507 4E060	バニリルマンデル酸(VMA)〔クレアチニン補正値〕	5	尿 1.0 冷	LC-MS/MS	μg/mg・Cre 1.2～4.9	90 生Ⅱ	4～5	正常児参考基準値については、下表をご参照ください。 02	
750 4E055	ホモバニリン酸(HVA)	5	酸性蓄尿 1.0 冷	LC-MS/MS	mg/day 1.6～5.5	69 生Ⅱ	4～5	6N塩酸約20mL(蓄尿1L当り)または市販の酸性蓄尿添加剤を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出ください。 02	1カ月
2508 4E055	ホモバニリン酸(HVA)〔クレアチニン補正値〕	5	尿 1.0 冷	LC-MS/MS	μg/mg・Cre 1.6～5.5	69 生Ⅱ	4～5	正常児参考基準値については、下表をご参照ください。 02	
2119 4E050	ドーパミン・総	6 遠心 91	血漿 2.0 凍	HPLC	ng/mL 0.5～6.2		7～12	02	
751 4E065	セロトニン 〈血液〉	63	血液 0.6 凍	LC-MS/MS	ng/mL 52.8～200.0		4～10	血液はプラスチック容器で凍結してください。 02	
2020 4E065	セロトニン 〈血漿〉	6 遠心 91	多血小板血漿(PRP)注1 0.6 凍	LC-MS/MS	ng/mL 623.0以下		4～10	02	
187 4E070	5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)	5	酸性蓄尿 1.0 冷	LC-MS/MS	mg/day 0.6～4.1	95 生Ⅱ	4～5	6N塩酸約20mL(蓄尿1L当り)または市販の酸性蓄尿添加剤を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出ください。 02	1カ月
2457 4E070	5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)〔クレアチニン補正〕	5	尿 1.0 冷	LC-MS/MS	μg/mg・Cre 0.4～3.5	95 生Ⅱ	4～5	02	

注1：多血小板血漿(PRP)は採血後、4℃、900rpm、20分遠心分離後、PRPを採取して凍結保存。

バニリルマンデル酸(VMA)〔クレアチニン補正値〕
ホモバニリン酸(HVA)〔クレアチニン補正値〕
正常児参考基準値

月齢	VMA(μg/mg・Cre) mean±S.D	HVA(μg/mg・Cre) mean±S.D
1～3	8.6 ± 4.10	18.1 ± 6.18
4	8.9 ± 3.35	18.2 ± 4.79
5	9.1 ± 3.20	17.9 ± 4.96
6	9.1 ± 3.25	17.5 ± 4.88
7	9.0 ± 3.29	17.2 ± 5.16
8	8.8 ± 3.43	16.6 ± 5.42
9	8.6 ± 3.20	16.7 ± 5.28
10	8.8 ± 3.32	16.4 ± 5.40
11～12	8.3 ± 3.44	16.1 ± 5.54
1～12	9.1 ± 3.38	17.4 ± 4.98

出典：沼田公介,他：小児科診療　12,2921,1990.

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
副腎皮質									
670 4Z010	血漿レニン活性 (PRA) レニン活性	6 遠心 91	血漿 0.6 凍	EIA	ng/mL/hr 臥位 0.2～2.3 座位 0.2～3.9 立位 0.2～4.1	100 生Ⅱ ※1	4～5	注1、2 02	1カ月
2023 4Z020	レニン濃度 (ARC) レニン定量	6 遠心 91	血漿 0.5 凍 -20℃以下	CLEIA	pg/mL 2.21～39.49	102 生Ⅱ ※1	3～4	注3、4 02	1カ月
688 4D115	アルドステロン〈血漿〉	6 遠心 91	血漿 0.5 凍	CLEIA	pg/mL 4.0～82.1	122 生Ⅱ	3～4	注3、4、5 02	
779 4D115	アルドステロン〈尿〉	5	蓄尿 2.0 凍	CLEIA	μg/day 1.0～19.3	122 生Ⅱ	4～6	蓄尿時は冷暗所に保管してください。(塩酸およびC-ペプチド安定化剤は使用しないでください。)検体提出時は凍結してご提出ください。 注5 02	
2702 4D120	アルドステロン/レニン活性比 (PAC／PRA)			計算法	200未満 (境界域:100~200未満)		4～5	アルドステロン〈血漿〉と血漿レニン活性のご依頼が必要です。 注5 02	
2703 4D122	アルドステロン/レニン濃度比 (PAC／ARC)			計算法	40未満 (境界域:20~40未満)		3～4	アルドステロン〈血漿〉とレニン濃度のご依頼が必要です。 注5 02	

注1:採血時刻、安静度、体位によって測定値に差がでますので、早朝空腹時30分間安静後の採血をお勧めいたします。(臥位は30分以上横になった状態での採血をお勧めいたします)
注2:溶血検体では、測定値が低下傾向となる場合があります。
注3:検体は採血後、速やかに遠心分離してください。
注4:採血時刻、安静度、体位によって測定値に差がでますので、早朝空腹時30分間安静後の採血をお勧めいたします。
注5:結果の解釈は日本内分泌学会「原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」をご参照ください。

※1　レニン活性とレニン定量を併せて行った場合は、一方の所定点数のみ算定する。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
副腎皮質									
815 3B325	アンジオテンシンⅠ転換酵素(ACE)	1 遠心	血清 0.5 冷	笠原法	IU/L 7.7～29.4	136 生Ⅰ	3～4	EDTA血漿は検査不可 02	1カ月
179 4D040	コルチゾール〈血清〉	1 遠心	血清 0.3 冷	CLEIA	μg/dL (午前8～10時) 6.7～22.6	121 生Ⅱ	2～3	11	2日
290 4D045	コルチゾール〈尿〉	5	蓄尿 0.5 冷	CLIA	μg/day 5.5～66.7	121 生Ⅱ	3～5	蓄尿時は冷暗所に保管してください。 02	2週
539 4D090	デハイドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S) デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体(DHEA-S)	1 遠心	血清 0.3 冷	CLEIA	μg/dL 下表参照	164 生Ⅱ	3～4	02	3週

デハイドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)基準値

(μg/dL)

年齢	男性	女性
20～29	159～538	92～399
30～39	125～475	58～327
40～49	123～422	41～218
50～59	76～386	30～201
60～	–	–

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
性腺									
2032 4F055	プレグナンジオール(P_2)	30	蓄尿 2.0 冷	LC-MS/MS	mg/day 59頁参照	213 生Ⅱ	6～8	蓄尿時は冷暗所に保管してください。(保存剤による影響はありません) 随時尿でのご依頼の場合は、濃度報告(mg/L)になります。基準値の設定はありません。 02	1カ月
2033 4F060	プレグナントリオール(P_3)	30	蓄尿 2.0 冷	LC-MS/MS	mg/day 59頁参照	232 生Ⅱ	6～8	蓄尿時は冷暗所に保管してください。(保存剤による影響はありません) 随時尿でのご依頼の場合は、濃度報告(mg/L)になります。基準値の設定はありません。 02	1カ月
631 4F065	テストステロン	1 遠心	血清 0.5 冷	CLIA	ng/mL M 1.92～8.84 F 0.15～0.44(閉経前) 0.12～0.31(閉経後)	119 生Ⅱ	2～3	性別、生年月日を必ず記入してください。午前中(9～12時)に採血してください。 11	3カ月
636 4F070	遊離テストステロン	1 遠心 91	血清 0.3 凍	RIA (チューブ固相法)	pg/mL 59頁参照	159 生Ⅱ	3～6	性別、生年月日を必ず記入してください。午前中(9～12時)に採血してください。 02	2カ月
718 4F045	プロゲステロン	1 遠心	血清 0.5 冷	ECLIA	ng/mL 59頁参照	143 生Ⅱ	1	11	5日
2705 4F100	抗ミュラー管ホルモン(AMH)	1 遠心	血清 0.5 冷	ECLIA	ng/mL 59頁参照	597 生Ⅱ ※1	2～3	11	
747 4F025	エストラジオール(E_2)	1 遠心	血清 0.5 冷	ECLIA	pg/mL 59頁参照	167 生Ⅱ	1	11	2日

※1 抗ミュラー管ホルモン(AMH)は、不妊症の患者に対して、卵巣の機能の評価及び治療方針の決定を目的として、血清又は血漿を検体として測定した場合に、6月に1回に限り算定できる。

プレグナンジオール（P_2）・プレグナントリオール（P_3）基準値

（mg/day）

性 別		P_2	P_3
男 性		0.12～0.93	0.25～1.48
女 性	卵胞期	0.16～1.28	0.07～1.24
	黄体期	0.69～4.70	0.25～1.58
	閉経後	1.00以下	1.00以下

遊離テストステロン基準値

（pg/mL）

性別	年 齢	基 準 値
男 性	20～29歳	7.6 ～ 23.8
	30～39歳	6.5 ～ 17.7
	40～49歳	4.7 ～ 21.6
	50～59歳	4.6 ～ 19.6
	60～69歳	5.3 ～ 11.5
	70歳以上	4.6 ～ 16.9
女 性	20～29歳	0.4 ～ 2.3
	30～39歳	0.6 ～ 2.5
	40～49歳	0.3 ～ 1.8
	50歳以上	0.8 ～ 1.7

プロゲステロン基準値

（ng/mL）

性 別			基 準 値
男 性			0.2以下
女 性	非妊婦	卵胞期	0.3以下
		排卵期	5.7以下
		黄体期	2.1 ～ 24.2
		閉経後	0.3以下
	妊婦	前 期	13.0 ～ 51.8
		中 期	24.3 ～ 82.0
		後 期	63.5 ～ 174.4

抗ミュラー管ホルモン（AMH）基準値

（ng/mL）

性 別		基 準 値
男 性		0.77 ～ 14.5
女 性	20～24歳	2.00 ～ 12.5
	25～29歳	1.95 ～ 10.7
	30～32歳	0.64 ～ 14.2
	33～35歳	0.89 ～ 8.31
	36～38歳	0.40 ～ 6.92
	39～41歳	0.11 ～ 7.26
	42～44歳	0.07 ～ 4.13
	45～49歳	1.52以下

エストラジオール（E_2）基準値

（pg/mL）

性 別			基 準 値
男 性			14.6 ～ 48.8
女 性	非妊婦	卵 胞 期	28.8 ～ 197
		排 卵 期	36.4 ～ 526
		黄 体 期	44.1 ～ 492
		閉 経 後	47.0以下
	妊婦	初期（4～13週）	209 ～ 4289
		中期（14～27週）	2808 ～ 28700
		後期（28～38週）	9875 ～ 31800

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
胎盤									
740 4F080	ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量(HCG定量) 〈血清〉	1 遠心	血清 0.5 冷	FEIA	mIU/mL 下表参照	130 生Ⅱ	1	11	1週
325 4F080	ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量(HCG定量) 〈尿〉	5	尿 2.0 冷	FEIA	IU/L 下表参照	130 生Ⅱ	1	11	3日
799 4F090	遊離HCG-β(HCG-βサブユニット) ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)	1 遠心	血清 0.3 冷	CLIA	ng/mL 1.00未満	129 生Ⅱ ※1	3～4	妊娠の有無、妊娠週数を必ずご記入ください。本検査は、遊離型のHCG-βのみを測定します(LHとの交差反応は認められません)。 02	2週
919 3B200	子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ 顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)	26	子宮頸管粘液 凍	LA	μg/mL 1.60以下	116 尿・便 ※2	3～4	検体の採取については152頁をご参照ください。 02	3カ月
911 5C111	頸管腟分泌液中癌胎児性フィブロネクチン 癌胎児性フィブロネクチン定性(頸管腟分泌液)	27	頸管腟分泌液 凍	EIA	(−)	204 免疫 ※3	3～5	検体の採取については153頁をご参照ください。 02	1カ月

※1 ア.ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)は、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合に限り算定できる。
イ.ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)、ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定性、ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量又は同半定量を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

※2 顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)は、絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合に算定する。

※3 癌胎児性フィブロネクチン定性(頸管腟分泌液)は、破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合又は切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象として測定した場合のみ算定する。癌胎児性フィブロネクチン定性(頸管腟分泌液)及び腟分泌液中インスリン様成長因子結合蛋白1型(IGFBP-1)定性を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量(HCG定量)基準値

性別		妊娠週	血清(mIU/mL)	尿(IU/L)
男性			5未満	5未満
女性	非妊婦		5未満	5未満
	妊婦	4W～7W	612 ～ 187000	1210 ～ 475000
		8W～11W	17700 ～ 315000	21900 ～ 709000
		12W～20W	5400 ～ 169000	2890 ～ 193000
		21W～40W	3440 ～ 69700	1680 ～ 74300

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
膵・消化管									
175 4G010	インスリン(IRI)	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	2.0～15.0 μIU/mL	100 生Ⅱ	2	11	1日
790 5G360	インスリン抗体 抗インスリン抗体	1 遠心	血清 0.3 冷	RIA	0.4未満 U/mL	107 免疫	4～7	02	
375 5G340	抗GAD抗体 抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ(抗GAD抗体)	1 遠心	血清 0.3 冷	EIA	5.0未満 U/mL	134 生Ⅱ ※1	3～5	02	2週
2509 5G342	抗IA-2抗体	1 遠心	血清 0.4 冷	EIA	0.6未満 U/mL	213 生Ⅱ ※2	4～10	02	
680 4G020	C-ペプチド(CPR) 〈血清〉	1 遠心	血清 0.4 冷	CLEIA	負荷前 0.61～2.09 ng/mL	105 生Ⅱ ※3	2	11	1日
710 4G020	C-ペプチド(CPR) 〈尿〉	30	蓄尿 1.0 凍	CLEIA	29.2～167.0 μg/day	105 生Ⅱ ※3	3～5	蓄尿の場合は蓄尿容器に、C-ペプチド専用安定化剤を加えて冷所にて保存してください。蓄尿量を記録し、必要量を凍結してご提出ください。 04	3週
712 4G030	膵グルカゴン グルカゴン	7 遠心 91	血漿 0.4 凍	EIA	5.4～55.0(空腹時) pg/mL	150 生Ⅱ	4～10	溶血の影響により測定値が低値となる可能性があります。乳ビの影響が高値となる可能性があります。 02	

※1 抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。
※2 抗IA-2抗体は、すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)の結果、陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。なお、当該検査を算定するに当たっては、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
※3 C-ペプチド(CPR)を同時に血液及び尿の両方の検体について測定した場合は、血液の場合の所定点数のみを算定する。

●インスリン分泌能(75gOGTT時)

糖負荷後の血中インスリン(IRI)初期反応は糖尿病では低く、これは膵からのインスリン分泌障害を示す指標のひとつです。

$$\text{インスリン分泌能} = \frac{\text{血中インスリンの負荷後30分値と負荷前値との差}}{\text{血糖値の負荷後30分値と負荷前値との差}}$$

※早朝空腹時および負荷後30分の血中インスリンと血糖依頼時に「糖負荷試験報告書」に印字されます。

インスリン分泌能	判定
0.40以上	正常
0.40未満	糖尿病または糖尿病移行の危険性

●HOMA-R:homeostasis model assessment ratio(インスリン抵抗性指数)

インスリン抵抗性の簡便な指標のひとつとして、早朝空腹時の血中インスリン値と血糖値から計算により求められる値です。空腹時血糖値140mg/dL以下の場合は他の算出方法で求めたインスリン抵抗性の値とよく相関します。ただし、空腹時血糖値が140mg/dLを超える場合はその解釈に注意が必要です。

HOMA-R=IRI(μIU/mL)×空腹時血糖値(mg/dL)/405

※早朝空腹時の血中インスリンと血糖依頼時に「糖負荷試験報告書」に印字されます。

HOMA-R値	判定
1.6以下	正常
2.5以上	インスリン抵抗性の疑い

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
骨代謝関連									
520 3B072	骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)	1 遠心 91	血清 0.3 凍	CLEIA	μg/L M 3.7～20.9 F 2.9～14.5(閉経前) 3.8～22.6(閉経後)	157 生Ⅱ ※1	2～3	11	
2676 5C120	Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(PINP)	1 遠心	血清 0.3 冷	ECLIA	ng/mL M 18.1～74.1 F 16.8～70.1(閉経前) 26.4～98.2(閉経後)	160 生Ⅱ ※1	2～4	11	5日
217 5C146	デオキシピリジノリン(DPD) デオキシピリジノリン(DPD)(尿)	5	尿 3.0 冷	EIA	nmol/mmol・Cre M 2.1～5.4 F 2.8～7.6	191 生Ⅱ ※2	3～5	午前中の第二尿をご提出ください。 04	
218 5C123	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	5	尿 3.0 冷	CLEIA	nmolBCE/mmol・Cre M 13.0～66.2 F 9.3～54.3(閉経前) 14.3～89.0(閉経後)	156 生Ⅱ ※2	3～5	午前中の第二尿をご提出ください。 血尿でのご提出は避けてください。 04	
2644 3B222	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)	1 遠心	血清 0.3 冷	EIA	mU/dL M 170～590 F 120～420(YAM)	156 生Ⅱ ※3	2～3	注1 11	2日
2557 4Z282	低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	1 遠心 91	血清 0.5 凍	ECLIA	ng/mL 4.50未満	154 生Ⅱ ※4	3～5	溶血検体不可 04	3週
341 9Z513	骨塩定量検査	注2	専用 室	DIP	63頁参照	140 ※5	2～4	X線フィルムは四つ切または大四つ切をご使用ください。 11	

注1:(YAM)若年成人平均値(20～44歳)

注2:X線フイルムまたは、USBなどの媒体。
USBやCD-Rなどの媒体でご依頼の際は、初期化されたものをご使用ください。出力した各データには病院名、患者名、性別、生年月日を入力してください。

※1 骨型アルカリホスファターゼ(BAP)、Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(PINP)、インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact PINP)及びALPアイソザイム(PAG電気泳動法)のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※2 Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)及びデオキシピリジノリン(DPD)(尿)は、原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できる。Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)、オステオカルシン(OC)又はデオキシピリジノリン(DPD)(尿)を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。

※3 酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)は、代謝性骨疾患及び骨転移(代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る)の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。本検査とⅠ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)、オステオカルシン(OC)又はデオキシピリジノリン(DPD)(尿)を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。なお、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合は、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。

※4 低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)は、骨粗鬆症におけるビタミンK_2剤の治療選択目的で行った場合又は治療経過観察を行った場合に算定できる。ただし、治療開始前においては1回、その後は6月以内に1回に限り算定できる。

※5 骨塩定量検査は、骨粗鬆症の診断及びその経過観察の際のみ算定できる。ただし、4月に1回を限度とする。

骨塩定量検査（DIP法）基準値

年　齢	男　性				女　性				MCI 基準範囲（平均値±2SD）	
	骨密度:m-BMD	判定パラメータ			骨密度:m-BMD	判定パラメータ				
	基準範囲（平均値±2SD）	YAM値 注1	80%値	70%値	基準範囲（平均値±2SD）	YAM値 注1	80%値	70%値	男　性	女　性
20～24	2.321～3.493	2.984	2.387	2.089	2.308～3.268	2.864	2.291	2.005	0.337～0.581	0.352～0.620
25～29	2.386～3.478				2.370～3.338				0.338～0.594	0.356～0.640
30～34	2.452～3.568				2.395～3.359				0.344～0.604	0.360～0.636
35～39	2.469～3.625				2.386～3.374				0.344～0.588	0.352～0.628
40～44	2.397～3.597				2.367～3.367				0.327～0.571	0.347～0.611
45～49	2.344～3.560				2.319～3.351				0.322～0.550	0.346～0.602
50～54	2.378～3.542				2.127～3.283				0.319～0.547	0.335～0.583
55～59	2.309～3.553				1.914～3.090				0.314～0.542	0.310～0.538
60～64	2.317～3.561				1.799～2.951				0.319～0.555	0.294～0.502
65～69	2.186～3.582				1.700～2.844				0.305～0.549	0.278～0.478
70～74	2.184～3.488				1.594～2.750				0.297～0.525	0.268～0.452
75～79	2.022～3.526				1.453～2.693				0.281～0.533	0.254～0.434
80～84	2.072～3.520				1.417～2.533				0.309～0.509	0.244～0.416
85～					1.341～2.353					0.224～0.408

注1：（YAM）若年成人平均値（20～44歳）

2012年度改訂版

骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択の指標及び薬剤効果の指標

デオキシピリジノリン（DPD）

骨量低下リスクのカットオフ値	5.9nmol/mmol・Cre
骨折リスクのカットオフ値	7.6nmol/mmol・Cre

Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）〈血清〉

骨量低下リスクのカットオフ値	13.6nmolBCE/L
骨折リスクのカットオフ値	16.5nmolBCE/L

Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）〈尿〉

骨量低下リスクのカットオフ値	35.3nmolBCE/mmol・Cre
骨折リスクのカットオフ値	54.3nmolBCE/mmol・Cre

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
その他									
295 4Z270	ヒト心房性Na利尿ペプチド(hANP) 心房性Na利尿ペプチド(ANP)	7 遠心 91	血漿 0.3 凍	FEIA	pg/mL 43.0以下	221 生Ⅱ	3～4	溶血検体では、測定値が低下傾向となる場合があります。 02	3カ月
2533 4Z272	脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)	1 遠心	血清 0.5 冷	ECLIA	pg/mL 55以下 (慢性心不全カットオフ:125)	136 生Ⅱ ※1	1	11	3日
383 4Z271	脳性Na利尿ペプチド(BNP)	6 遠心 91	血漿 0.5 凍	CLEIA	pg/mL 18.4以下 (慢性心不全カットオフ:40)	130 生Ⅱ ※2	1	11	1カ月
824 4Z265	ヒスタミン	6 遠心 91	血漿 0.3 凍	EIA	ng/mL 0.15～1.23		15～22	採血後、20分以内に4～10℃、900×gで10分間遠心分離してください。 血漿の上部を所定量ご提出ください。 **血清は検査不可** 02	
820 4Z275	エリスロポエチン(EPO)	1 遠心	血清 0.7 冷	CLEIA	mIU/mL 4.2～23.7	209 生Ⅱ ※3	3～4	02	1カ月
757 4Z255	サイクリックAMP(c-AMP) 〈血漿〉	6 遠心 91	血漿 0.4 凍	RIA (DCC法)	pmol/mL 6.4～20.8	165 生Ⅱ	5～11	02	3カ月
386 4Z255	サイクリックAMP(c-AMP) 〈尿〉	5	蓄尿 1.0 凍	RIA (DCC法)	μmol/day 3.3～6.1	165 生Ⅱ	5～11	トルエン1～2mLを加え、冷所に蓄尿してください。 よく混和し、所定量をご提出ください。 02	3カ月
843 4Z315	肝細胞増殖因子(HGF)	1 遠心 91	血清 0.3 凍	EIA	ng/mL 0.39以下	227 生Ⅰ ※4	3～9	02	
2355 4Z335	sFlt-1/PlGF比	1 遠心 91	血清 0.6 凍	ECLIA	sFlt-1/PlGF比 ≦38.0:1週間以内のPEの非発症予測 >38.0:4週間以内のPEの発症予測	340 免疫 ※5	3～6	sFlt-1(濃度)、PlGF(濃度)、sFlt-1/PlGF比の3つの値を報告します。 02	6カ月

※1 ア.脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)は、心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。
イ.脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)、脳性Na利尿ペプチド(BNP)及び心房性Na利尿ペプチド(ANP)のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
ウ.脳性Na利尿ペプチド(BNP)、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)又は心房性Na利尿ペプチド(ANP)のうち2項目以上を実施した場合は、各々の検査の実施日を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

※2 ア.脳性Na利尿ペプチド(BNP)は、心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。
イ.脳性Na利尿ペプチド(BNP)、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)及び心房性Na利尿ペプチド(ANP)のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
ウ.脳性Na利尿ペプチド(BNP)、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)及び心房性Na利尿ペプチド(ANP)のうち2項目以上を実施した場合は、各々の検査の実施日を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

※3 エリスロポエチンは、以下のいずれかの目的で行った場合に算定する。
ア.赤血球増加症の鑑別診断
イ.重度の慢性腎不全患者又はエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンベータペゴル若しくはHIF-PH阻害薬投与前の透析患者における腎性貧血の診断
ウ.骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定

※4 肝細胞増殖因子(HGF)は、肝炎にて劇症化が疑われる場合又は劇症肝炎の経過観察に用いた場合に限り算定する。

※5 ア.sFlt-1/PlGF比は、血清を検体とし、可溶性fms様チロシンキナーゼ1(sFlt-1)及び胎盤増殖因子(PlGF)を測定し、sFlt-1/PlGF比を算出した場合に算定する。
イ.本検査は、妊娠18週から36週未満の妊娠高血圧腎症が疑われる妊婦であって、以下のリスク因子のうちいずれか1つを有するものに対して実施した場合に、原則として一連の妊娠につき1回に限り算定できる。なお、リスク因子を2つ以上有する場合は、原則として当該点数は算定できない。
(イ)収縮期血圧が130mmHg以上又は拡張期血圧80mmHg以上
(ロ)蛋白尿
(ハ)妊娠高血圧腎症を疑う臨床症状又は検査所見
(ニ)子宮内胎児発育遅延
(ホ)子宮内胎児発育遅延を疑う検査所見
ウ.本検査を算定する場合は、イのリスク因子のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。また、イの(ハ)又は(ホ)に該当する場合は、その医学的根拠を併せて記載すること。なお、医学的な必要性から、リスク因子を2つ以上有する妊婦において算定する場合、又は一連の妊娠につき2回以上算定する場合は、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

腫瘍マーカー検査

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
691 5D010	**癌胎児性抗原(CEA)**	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	5.0以下 ng/mL	99 生Ⅱ ※1	1	11	1週
681 5D015	**AFP定量 (α-フェトプロテイン)** α-フェトプロテイン(AFP)	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	10.0以下 ng/mL	98 生Ⅱ	1	11	1週
960 5D018	**AFP-L3分画比** α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)	1 遠心	血清 0.4 冷	LBA (LBA-EATA)	L3:10.0未満 %	185 生Ⅱ	4～5	02	3週
845 5D520	**PIVKA-Ⅱ** PIVKA-Ⅱ定量	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	40未満 mAU/mL	131 生Ⅱ	1	11	1週
590 5D170	**DUPAN-2**	1 遠心	血清 0.4 冷	EIA	150以下 U/mL	115 生Ⅱ ※1	3～5	04	
2436 3F186	**APOA2アイソフォーム** アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム	1 遠心	血清 0.3 冷	EIA	APOA2-i Index 59.5以上 μg/mL 注1	335 生Ⅱ ※2	6～8	04	
557 3B195	**エラスターゼ1**	1 遠心	血清 0.3 冷	LA	300未満 ng/dL	120 生Ⅱ	2～3	11	2週
567 5D130	**CA19-9**	1 遠心	血清 0.3 冷	CLEIA	37以下 U/mL	121 生Ⅱ	1	11	1週
293 5D220	**SPan-1抗原** SPan-1	1 遠心	血清 0.3 冷	IRMA (ビーズ固相法)	30以下 U/mL	144 生Ⅱ	3～5	02	3週

注1:APOA2-ATが3.25未満、APOA2-TQが5.75未満のいずれか、もしくは両方を満たす場合、APOA2-i Indexは0.0となります。

※1　癌胎児性抗原(CEA)とDUPAN-2を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。

※2　ア.アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォームは、以下の(イ)から(ハ)までのいずれかに該当する患者に対して膵癌の診断の補助を目的として、血液を検体として測定した場合に、膵癌の診断の確定までの間に原則として1回を限度として算定できる。本検査を実施するに当たっては、関連学会が定める指針を遵守するとともに、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

(イ)関連学会が定める指針に基づき膵癌の高度リスクに該当する患者。ただし、本検査を実施する患者が3月以内にCA19-9検査を行われており、CA19-9の値が37.0U/mL以上である場合には、本検査は算定できない。

(ロ)関連学会が定める指針に基づき膵癌の中等度リスクに該当する患者であって、癌胎児性抗原(CEA)検査の結果が陰性であり、CA19-9値が37.0U/mL以上かつ100U/mL以下の患者。

(ハ)関連学会が定める指針に基づき膵癌のリスク因子が3項目以上該当する患者であって、癌胎児性抗原(CEA)及びCA19-9検査の結果が陰性である患者。

イ.アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォームと、癌胎児性抗原(CEA)、DUPAN-2又はSPan-1を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。

ウ.本検査を「ア」の(イ)に対して実施する場合はCA19-9の測定年月日及び測定結果を、「ア」の(ロ)及び(ハ)に対して実施する場合は癌胎児性抗原(CEA)及びCA19-9の測定年月日並びに測定結果を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
腫瘍マーカー検査									
435 5D200	NCC-ST-439	1 遠心	血清 0.4 冷	EIA	U/mL M 4.5未満 F (49歳以下) 7.0未満 (50歳以上) 4.5未満	112 生Ⅱ	4～5	本検査項目は唾液による汚染のため、高値異常を示す場合のあることが確認されています。ご提出の際、検体の取り扱いには十分ご注意ください。 02	2週
345 5D300	扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)	1 遠心	血清 0.5 冷	ECLIA	ng/mL 2.5以下	101 生Ⅱ	2～3	本検査項目は唾液やその他の体液などが混入した場合、高い測定値を示す場合があります。 検体の取扱いに十分ご注意ください。 11	1週
826 5D325	サイトケラチン19フラグメント(シフラ)	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	ng/mL 3.5以下	154 生Ⅱ ※1	1	11	2週
373 5D550	ガストリン放出ペプチド前駆体(Pro GRP)	1 遠心	血清 0.3 冷	ECLIA	pg/mL 81.0未満	175 生Ⅱ ※2	2～3	11	3日
588 5D410	神経特異エノラーゼ(NSE)	1 遠心	血清 0.5 冷	ECLIA	ng/mL 16.3以下	142 生Ⅱ ※2	3～5	溶血検体不可 04	
2564 5D560	抗p53抗体	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	U/mL 1.30以下	163 生Ⅱ ※3	3～5	04	
438 5D025	塩基性フェトプロテイン(BFP)	1 遠心	血清 0.3 冷	EIA	ng/mL 75未満	150 生Ⅱ	4～7	採血後速やかに血清分離してください。 溶血検体不可 02	1カ月

※1 サイトケラチン19フラグメント(シフラ)は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。
※2 ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)を神経特異エノラーゼ(NSE)と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
※3 抗p53抗体は、食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月1回に限り算定できる。

腫瘍マーカー検査

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
572 5D100	CA125	1 遠心	血清 0.3 冷	CLEIA	U/mL 35以下	136 生Ⅱ ※1	1	11	1週
2851 5D110	ヒト精巣上体蛋白4 (HE4)	1 遠心	血清 0.3 冷	CLIA	pmol/L F 70.0以下(閉経前) 140.0以下(閉経後) 注1	200 生Ⅱ	4～6	02	2週
292 5D150	CA72-4	1 遠心	血清 0.5 冷	ECLIA	U/mL 10.0以下	146 生Ⅱ	3～5	04	
2043 5D155	CA54／61	1 遠心	血清 0.5 冷	EIA	U/mL 12以下	184 生Ⅱ	5～18	04	
355 5D153	シアリルTn抗原 (STN)	1 遠心 91	血清 0.3 凍	RIA (ビーズ固相法)	U/mL 45.0以下	146 生Ⅱ	4～9	02	3カ月
589 5D120	CA15-3	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	U/mL 25.0以下	112 生Ⅱ	1	11	1週
579 5D125	BCA225	1 遠心	血清 0.4 冷	CLEIA	U/mL 160.0未満	158 生Ⅱ	3～4	02	3週
811 5D175	シアリルLe^{x}-i抗原 (SLX)	1 遠心	血清 0.3 冷	IRMA (ビーズ固相法)	U/mL 38.0以下	140 生Ⅱ	3～5	溶血検体不可 02	3週
2096 5D177	シアリルLe^{x}抗原 (CSLEX)	1 遠心	血清 0.4 冷	EIA	U/mL 8.0未満	156 生Ⅱ ※2	3～9	04	
2692 5D600	可溶型メソテリン関連蛋白 (メソテリン) 可溶性メソテリン関連ペプチド	1 遠心 91	血清 0.3 凍	CLEIA	nmol/L 1.5未満	220 生Ⅱ ※3	4～10	血漿も検査可 02	

注1：日本人卵巣癌患者における病態の経過観察としてのカットオフ値 70.0以下pmol/L(閉経前、閉経後)

※1 CA125及びCA602を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
※2 ア.シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)は、診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。
イ.シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)とCA15-3を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
※3 ア.可溶性メソテリン関連ペプチドは、悪性中皮腫の診断の補助又は悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して治療効果の判定若しくは経過観察を目的として実施した場合に算定する。
イ.本検査を悪性中皮腫の診断の補助を目的として実施する場合は、以下のいずれかに該当する患者に対して使用した場合に限り算定する。この場合、本検査が必要である理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
(イ)石綿曝露歴があり、胸水、腹水等の貯留が認められる患者
(ロ)体腔液細胞診で悪性中皮腫が疑われる患者
(ハ)画像診断で胸膜腫瘍、腹膜腫瘍等の漿膜腫瘍が認められる患者
ウ.本検査を悪性中皮腫の治療効果の判定又は経過観察を目的として実施する場合は、悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して、本検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。

1 汎用容器

腫瘍マーカー検査

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
434 5D305	前立腺特異抗原(PSA)	1 遠心 91	血清 0.5 凍	ECLIA	ng/mL 4.000以下	121 生Ⅱ ※1	1	直腸検査等前立腺刺激を行なった場合は、7日以上経過後採血してください。 11	3カ月
674 5D308	PSA F/T比 遊離型PSA比(PSA F/T比)	1 遠心 91	血清 0.5 凍	ECLIA	% 19以上	150 生Ⅱ ※2	1	直腸検査等前立腺刺激を行なった場合は、7日以上経過後採血してください。 11	3カ月
430 5D310	γ-セミノプロテイン(γ-Sm)	1 遠心 91	血清 0.4 凍	CLEIA	ng/mL 4.00以下	192 生Ⅱ	3〜4	02	2カ月
239 5C124	Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド(ICTP)	1 遠心	血清 0.5 冷	RIA (二抗体法)	ng/mL 5.5未満 (骨転移判定のカットオフ値)	170 生Ⅱ ※3	3〜5	02	1カ月
520 3B072	骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)	1 遠心 91	血清 0.3 凍	CLEIA	μg/L M 3.7〜20.9 F 2.9〜14.5(閉経前) 3.8〜22.6(閉経後)	157 生Ⅱ	2〜3	11	
217 5C146	デオキシピリジノリン(DPD) デオキシピリジノリン(DPD)(尿)	5	尿 3.0 冷	EIA	nmol/mmol・Cre M 2.1〜5.4 F 2.8〜7.6	191 生Ⅱ ※3	3〜5	午前中の第二尿をご提出ください。 04	
479 5C123	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)	5	尿 3.0 冷	CLEIA	nmolBCE/mmol・Cre 下表参照	156 生Ⅱ ※3	3〜5	午前中の第二尿をご提出ください。血尿でのご提出は避けてください。 04	
2644 3B222	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)	1 遠心	血清 0.3 冷	EIA	mU/dL M 170〜590 F 120〜420(YAM)	156 生Ⅱ ※4	2〜3	11	2日
2613 5D590	HER2蛋白定量 HER2蛋白	1 遠心 91	血清 0.3 凍	CLIA	ng/mL 陰性 15.2以下	320 生Ⅱ ※5	3〜6	「陽性」は、HER2蛋白の過剰発現を意味します。 02	1カ月
914 5J095	可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R)	1 遠心	血清 0.4 冷	CLEIA	U/mL 121〜613	438 生Ⅱ ※6	3〜4	02	2週

※1 前立腺特異抗原(PSA)は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。ただし、前立腺特異抗原(PSA)の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を限度として算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

※2 遊離型PSA比(PSA F/T比)は、診療及び他の検査(前立腺特異抗原(PSA)等)の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。

※3 Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド(ICTP)、Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)又はデオキシピリジノリン(DPD)(尿)は、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。

※4 酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)は、代謝性骨疾患及び骨転移(代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る)の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。本検査とⅠ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)、オステオカルシン(OC)又はデオキシピリジノリン(DPD)(尿)を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。なお、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合は、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。

※5 HER2蛋白は、悪性腫瘍が既に確定診断され、かつ、HER2蛋白過剰発現が認められている患者又は他の測定法により、HER2蛋白過剰発現の有無が確認されていない再発癌患者に対して、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。

※6 可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R)は、非ホジキンリンパ腫、ATL又はメトトレキサート使用中のリンパ増殖性疾患の診断の目的で測定した場合に算定できる。また、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料により算定する。

Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)基準値 (nmolBCE/mmol・Cre)

	基準値
骨吸収亢進の指針	55以上
副甲状腺摘出術の適応	200以上
悪性腫瘍の骨転移の指針(乳癌、前立腺癌、肺癌)	100以上

1 汎用容器

5 滅菌スピッツ

腫瘍マーカーの実施料と管理料

腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に1回を限度として算定する。悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料に含まれ、腫瘍マーカーは、原則として、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できない。

対象となる検査項目

当社で受託していない検査項目も掲載しています

検査項目名	悪性腫瘍であることが強く疑われる患者		悪性腫瘍であると既に診断が確定した患者
	検体検査実施料		悪性腫瘍特異物質治療管理料
尿中BTA*1	(80点)	−	220点
α-フェトプロテイン(AFP)	98点	2項目 230点 3項目 290点 4項目以上 385点	1項目 360点 2項目以上 400点 初回月加算 150点 当該初回月の前月に腫瘍マーカー検査実施料の所定点数を算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。
癌胎児性抗原(CEA)	99点		
扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)	101点		
組織ポリペプタイド抗原(TPA)	110点		
NCC-ST-439 CA15-3	112点		
DUPAN-2	115点		
エラスターゼ1	120点		
前立腺特異抗原(PSA) CA19-9	121点		
PIVKA-Ⅱ半定量 PIVKA-Ⅱ定量	131点		
CA125	136点		
核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿)*2 核マトリックスプロテイン22(NMP22)定性(尿)*2	139点		
シアリルLe^{x}-i抗原(SLX)	140点		
神経特異エノラーゼ(NSE)	142点		
SPan-1	144点		
CA72-4 シアリルTn抗原(STN)	146点		
塩基性フェトプロテイン(BFP) 遊離型PSA比(PSA F/T比)	150点		
サイトケラチン19フラグメント(シフラ)	154点		
シアリルLe^{x}抗原(CSLEX)	156点		
BCA225	158点		
サイトケラチン8・18(尿)*2	160点		
抗p53抗体	163点		
Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド(ICTP)*1	170点		
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	175点		
CA54/61	184点		
α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)	185点		
CA602 組織因子経路インヒビター2(TFPI2)	190点		
γ-セミノプロテイン(γ-Sm)	192点		
ヒト精巣上体蛋白4(HE4)	200点		
可溶性メソテリン関連ペプチド	220点		
S2,3PSA%	248点		
プロステートヘルスインデックス(phi)	281点		
癌胎児性抗原(CEA)定性(乳頭分泌液) 癌胎児性抗原(CEA)半定量(乳頭分泌液)	305点		
HER2蛋白*1	320点		
アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム	335点		
可溶性インターロイキン−2レセプター(SIL-2R)	438点		
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTX)	−		
酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)			
デオキシピリジノリン(DPD)(尿)			

*1:「悪性腫瘍特異物質治療管理料」としてのみ算定。　*2:「検体検査実施料」としてのみ算定。

ウイルス抗体検査

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
666 5F190	単純ヘルペスウイルス(HSV)		1 遠心	血清 0.3 冷	CF	血清最低希釈 4倍	79 免疫	4～6	髄液も検査可 02	1カ月
796 5F191	単純ヘルペスウイルス(HSV)	1型	1 遠心	血清各 0.2 冷	NT	血清最低希釈 4倍	79 免疫	7～20	1型と2型には抗原交差性があります。 髄液も検査可 04	
808 5F192	単純ヘルペスウイルス(HSV)	2型	1 遠心	血清各 0.2 冷	NT	血清最低希釈 4倍	79 免疫	7～20	1型と2型には抗原交差性があります。 髄液も検査可 04	
451 5F190	単純ヘルペスウイルス(HSV)	IgG	1 遠心	血清各 0.2 冷	EIA	EIA価 2.0未満(−)	200 免疫	3～5	判定基準については76頁をご参照ください。 髄液も検査可 04	
735 5F190	単純ヘルペスウイルス(HSV)	IgM	1 遠心	血清各 0.2 冷	EIA	index 0.80未満(−)	200 免疫	3～5	判定基準については76頁をご参照ください。 髄液も検査可 04	
676 5F193	水痘・帯状ヘルペスウイルス(VZV)		1 遠心	血清各 0.3 冷	CF	血清最低希釈 4倍	79 免疫	4～6	髄液も検査可 02	1カ月
433 5F193	水痘・帯状ヘルペスウイルス(VZV)	IgG	1 遠心	血清各 0.3 冷	EIA	EIA価 2.0未満(−)	200 免疫	4～6	判定基準については76頁をご参照ください。 02	1カ月
706 5F193	水痘・帯状ヘルペスウイルス(VZV)	IgM	1 遠心	血清各 0.3 冷	EIA	index 0.80未満(−)	200 免疫	4～6	判定基準については76頁をご参照ください。 02	1カ月
667 5F194	サイトメガロウイルス(CMV)		1 遠心	血清 0.3 冷	CF	血清最低希釈 4倍	79 免疫	4～6	髄液も検査可 02	1カ月
398 5F194	サイトメガロウイルス(CMV)	IgG	1 遠心	血清各 0.3 冷	CLIA	AU/mL 陰性(−) 6.0未満 陽性(+) 6.0以上	200 免疫	3～4	髄液も検査可 02	1カ月
399 5F194	サイトメガロウイルス(CMV)	IgM	1 遠心	血清各 0.3 冷	CLIA	S/CO 陰性(−) 0.85未満 判定保留(±) 0.85～0.99 陽性(+) 1.00以上	200 免疫	3～4	髄液も検査可 02	1カ月
661 5F400	インフルエンザウイルス	A型	1 遠心	血清各 0.3 冷	CF	血清最低希釈 4倍	79 免疫	4～6	髄液も検査可 02	1カ月
662 5F410	インフルエンザウイルス	B型	1 遠心	血清各 0.3 冷	CF	血清最低希釈 4倍	79 免疫	4～6	髄液も検査可 02	1カ月
963 5F399	インフルエンザウイルス		1 遠心	血清 0.4 冷	HI	血清最低希釈10倍	79×2 免疫	4～6	インフルエンザA型およびB型の流行ワクチン株につき、一括検査実施致します。 髄液も検査可 02	1カ月
2213 5F421	パラインフルエンザウイルス	1型	1 遠心	血清各 0.2 冷	HI	血清最低希釈10倍	79 免疫	4～6	髄液も検査可 04	
2214 5F422	パラインフルエンザウイルス	2型	1 遠心	血清各 0.2 冷	HI	血清最低希釈10倍	79 免疫	4～6	髄液も検査可 04	
2215 5F423	パラインフルエンザウイルス	3型	1 遠心	血清各 0.2 冷	HI	血清最低希釈10倍	79 免疫	4～6	髄液も検査可 04	

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
ウイルス抗体検査										
626 5F150	アデノウイルス		1 遠心	血清 0.3 冷	CF	血清最低希釈 4倍	79 免疫	4～6	髄液も検査可 02	1カ月
2201 5F151		1型		血清 各 0.2 冷	NT			8～21		
2202 5F152		2型								
2203 5F153		3型								
2204 5F154		4型								
2205 5F155		5型								
2206 5F156		6型								
2207 5F157		7型								
2209 5F161		11型								
2210 5F169		19型								
2211 5F171		21型								
2212 5F177		37型							髄液も検査可 04	

1 汎用容器

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
ウイルス抗体検査										
721 5F430	RSウイルス		1 遠心	血清 0.3 冷	CF	血清最低希釈 4倍	79 免疫	4～6	髄液も検査可 02	1カ月
2217 5F430				血清 0.2 冷	NT	血清最低希釈 4倍	79 免疫	8～19	髄液も検査可 04	
668 5F432	ムンプスウイルス		1 遠心	血清各 0.3 冷	CF	血清最低希釈 4倍	79 免疫	5～7	髄液も検査可 04	
822 5F432					HI	血清最低希釈 4倍		4～6	髄液も検査可 02	1カ月
128 5F432					NT	血清最低希釈 4倍		8～21	髄液も検査可 04	
537 5F432		IgG			EIA	EIA価 2.0未満(−)	200 免疫	4～6	判定基準については76頁をご参照ください。 02	1カ月
538 5F432		IgM				index 0.80未満(−)			判定基準については76頁をご参照ください。 02	
2283 5F011	パルボウイルスB19	IgG	1 遠心	血清各 0.2 冷	EIA	index 0.80未満(−)		3～5	判定基準については76頁をご参照ください。 04	
2284 5F011		IgM				index 0.80未満(−)	200 免疫 ※1		判定基準については76頁をご参照ください。 04	
665 5F385	日本脳炎ウイルス		1 遠心	血清 0.3 冷	CF	血清最低希釈 4倍	79 免疫	4～6	髄液も検査可 02	1カ月
971 5F385				血清 0.5 冷	HI	血清最低希釈 10倍		5～8	髄液も検査可 04	
458 5F431	麻疹ウイルス		1 遠心	血清 0.2 冷	NT	血清最低希釈 4倍	79 免疫	8～12	髄液も検査可 04	
535 5F431		IgG	1 遠心	血清各 0.3 冷	EIA	EIA価 2.0未満(−)	200 免疫	4～6	判定基準については76頁をご参照ください。 02	1カ月
536 5F431		IgM				index 0.80未満(−)			判定基準については76頁をご参照ください。 02	
178 5F395	風疹ウイルス		1 遠心	血清各 0.3 冷	HI	血清最低希釈 8倍	79 免疫	4～5	髄液も検査可 02	1カ月
354 5F395		IgG			EIA	EIA価 2.0未満(−)	200 免疫	4～6	判定基準については76頁をご参照ください。 02	1カ月
172 5F395		IgM				index 0.80未満(−)			判定基準については76頁をご参照ください。 02	

※1 ヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

ウイルス抗体検査

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
2227 5F282	コクサッキーウイルスA群	2型	1 遠心	血清 各 0.2 冷	NT	血清最低希釈　4倍	79 免疫	8～21	髄液も検査可 04	
2228 5F283		3型								
2229 5F284		4型								
2230 5F285		5型								
2231 5F286		6型								
2232 5F287		7型								
2233 5F289		9型								
2234 5F290		10型								
2235 5F296		16型								
2242 5F301	コクサッキーウイルスB群	1型	1 遠心	血清 各 0.2 冷	NT	血清最低希釈　4倍	79 免疫	8～21	髄液も検査可 04	
2243 5F302		2型								
2244 5F303		3型								
2245 5F304		4型								
2246 5F305		5型								
2247 5F306		6型								

記載していない型でも測定可能な場合がありますので、お問い合わせください。

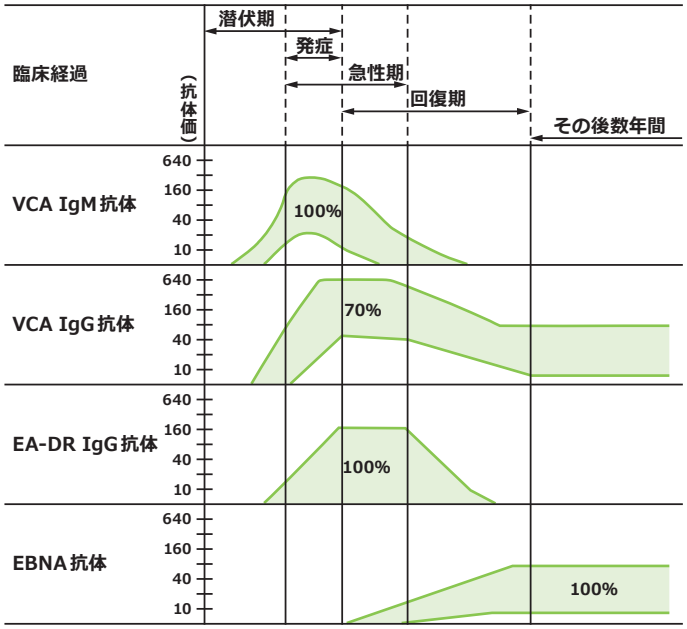
1 汎用容器

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
ウイルス抗体検査										
2252 5F311	エコーウイルス	1型	1 遠心	血清 各 0.2 冷	NT	血清最低希釈　4倍	79 免疫	8～21	髄液も検査可 04	
2253 5F313		3型								
2254 5F314		4型								
2255 5F315		5型								
2256 5F316		6型								
2257 5F317		7型								
2258 5F319		9型								
2259 5F321		11型								
2260 5F322		12型								
2261 5F323		13型								
2262 5F324		14型								
2263 5F326		16型								
2264 5F327		17型								
2265 5F328		18型								
2266 5F329		19型								
2267 5F331		21型								
2268 5F332		22型								

記載していない型でも測定可能な場合がありますので、お問い合わせください。

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
ウイルス抗体検査										
2269 5F334	エコーウイルス	24型	1 遠心	血清 各0.2 冷	NT	血清最低希釈　4倍	79 免疫	8～21	髄液も検査可 04	
2270 5F335	エコーウイルス	25型	1 遠心	血清 各0.2 冷	NT	血清最低希釈　4倍	79 免疫	8～21	髄液も検査可 04	
2271 5F340	エコーウイルス	30型	1 遠心	血清 各0.2 冷	NT	血清最低希釈　4倍	79 免疫	8～21	髄液も検査可 04	
2272 5F270	エンテロウイルス	70型	1 遠心	血清 各0.2 冷	NT	血清最低希釈　4倍		7～20	髄液も検査可 04	
2273 5F271	エンテロウイルス	71型	1 遠心	血清 各0.2 冷	NT	血清最低希釈　4倍		7～20	髄液も検査可 04	
441 5F202	EBウイルス VCA	IgG	1 遠心	血清 各0.2 冷	FAT	血清最低希釈10倍	200 免疫	3～5	04	
442 5F202	EBウイルス VCA	IgA	1 遠心	血清 各0.2 冷	FAT	血清最低希釈10倍	79 免疫	3～5	04	
443 5F202	EBウイルス VCA	IgM	1 遠心	血清 各0.2 冷	FAT	血清最低希釈10倍	200 免疫	3～5	04	
444 5F203	EBウイルス EA-DR	IgG	1 遠心	血清 各0.2 冷	FAT	血清最低希釈10倍	200 免疫	3～5	04	
445 5F203	EBウイルス EA-DR	IgA	1 遠心	血清 各0.2 冷	FAT	血清最低希釈10倍	79 免疫	3～5	04	
447 5F204	EBウイルス EBNA		1 遠心	血清 各0.2 冷	FAT	血清最低希釈10倍	79 免疫	3～5	04	

伝染性単核症におけるEBV特異的抗体の出現と消長



(グラフ中の%は陽性率を示す)

・Burkittリンパ腫ではEA-DR IgGが強陽性となり、VCA IgGも160倍を超える。
・上咽頭癌では上記のほか、VCA IgA、EA-DR IgAも陽性となる場合が多い。

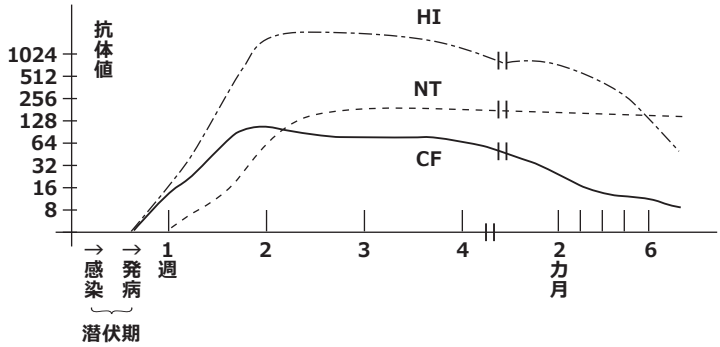
1 汎用容器

ウイルス検査（血清反応）について

1.依頼方法、測定値解釈

測定値は病状との関連で変動しますので（下図参照）必ず急性期（発症2～3日）及び回復期（発症2～3週間後）の血清をペアで依頼してください。尚、急性期と回復期の測定値において4倍（2管差）上昇した場合は血清学的に各々のウイルス感染が疑われ、8倍（3管差）以上上昇した場合は感染とみなします。また、単一血清材料についての有意値は、採血病期、ウイルスの種類、抗体の種類によって異なりますので注意してください。

2.ウイルス血清抗体価の変動図



NT：中和抗体曲線
HI：赤血球凝集抑制抗体曲線
CF：補体結合抗体曲線

3.CF法による「ウイルス抗体価検査」において、多項目を同時にご依頼の際は、右記の血清量および髄液量を目安としてご提出ください。なお、検査項目によって多少異なる場合がありますので、ご注意ください。

2 ～ 5項目 血清 0.6mL（髄液は 1mL）
6 ～ 10項目 〃 1mL（ 〃 1.8mL）
11 ～ 15項目 〃 1.5mL（ 〃 2.5mL）
16 ～ 20項目 〃 2mL（ 〃 3mL）

4.最低希釈倍率以上の値が得られた時、一応血清中（又は髄液中）に抗体が認められたと判断しますが、抗体価が低い場合には、非特異的反応も考えられますのでご注意ください。

5.ウイルス抗体検出（EIA）判定基準

判　定	IgG測定値				IgM測定値		対象項目名
	血　清		髄　液※		血　清		
陰　性（−）	EIA価	2.0未満	EIA価	0.20未満	index	0.80未満	水痘・帯状ヘルペス、風疹、麻疹、単純ヘルペス、ムンプス（※髄液検体における判定基準は「単純ヘルペス」に適応）
判定保留（±）		2.0～3.9		0.20～0.39		0.80～1.20	
陽　性（＋）		4.0以上		0.40以上		1.21以上	
陰　性（−）	index	0.80未満			index	0.80未満	パルボウイルスB19
判定保留（±）		0.80～0.99				0.80～0.99	
陽　性（＋）		1.00以上				1.00以上	

ウイルス検査保険請求の注意点

◆ウイルス抗体価

●同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。

●ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）は、治療上必要な場合に行うものとし、次に掲げるものを当該検査の対象とする。
（イ）アデノウイルス
（ロ）コクサッキーウイルス
（ハ）サイトメガロウイルス
（ニ）EBウイルス
（ホ）エコーウイルス
（ヘ）ヘルペスウイルス
（ト）インフルエンザウイルスA型
（チ）インフルエンザウイルスB型
（リ）ムンプスウイルス
（ヌ）パラインフルエンザウイルスⅠ型
（ル）パラインフルエンザウイルスⅡ型
（ヲ）パラインフルエンザウイルスⅢ型
（ワ）ポリオウイルスⅠ型
（カ）ポリオウイルスⅡ型
（ヨ）ポリオウイルスⅢ型
（タ）RSウイルス
（レ）風疹ウイルス
（ソ）麻疹ウイルス
（ツ）日本脳炎ウイルス
（ネ）オーム病クラミジア
（ナ）水痘・帯状疱疹ウイルス

●ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）に当たって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

◆グロブリンクラス別ウイルス抗体価

●同一検体について、グロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。

●グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。ただし、「（ト）」のヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。
（イ）ヘルペスウイルス
（ロ）風疹ウイルス
（ハ）サイトメガロウイルス
（ニ）EBウイルス
（ホ）麻疹ウイルス
（ヘ）ムンプスウイルス
（ト）ヒトパルボウイルスB19
（チ）水痘・帯状疱疹ウイルス

●同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。

●ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
レトロウイルス									
577 5F560	**HIV抗原・抗体** HIV-1,2抗原・抗体同時測定定性	1 遠心	血清 1.0 冷	CLEIA	(−)	109 免疫 ※1 ※2	1	HIV抗原・抗体はHIV-1抗体、HIV-2抗体およびHIVp24抗原を検出します。 11	2週
2357 5F560	**HIV-1／2抗体〔確認〕** HIV-1特異抗体・HIV-2特異抗体	13 遠心	血清 0.6 冷	イムノクロマトグラフィー法	陰性(−)	660 免疫 ※3	6〜9	他検査と同時にご依頼される場合は別検体でご依頼ください。 02	1カ月
2560 5F500	**HIV-1RNA定量〔TaqMan〕** HIV-1核酸定量	51 遠心	血漿 2.1 冷	リアルタイムRT-PCR	コピー/mL 定量結果:20未満(定量下限) 増幅反応シグナル:検出せず	520 微生 ※4	5〜9	他検査と同時にご依頼される場合は別検体でご依頼ください。 血清は検査不可 02	6日
575 5F450	**HTLV-I抗体(ATLA抗体)** HTLV-I抗体定性	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	COI 1.0未満(−)	85 免疫	1	11	2週
576 5F450	**HTLV-I抗体〔精密〕(ATLA抗体)** HTLV-1抗体	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	COI 1.0未満(−)	159 免疫	1	11	2週
910 5F450	**HTLV-I抗体〔確認〕(ATLA抗体)** HTLV-1抗体(ウエスタンブロット法及びラインブロット法)	1 遠心	血清 0.6 冷	ラインブロット法	下表参照	425 免疫 ※5	4〜10	02	2カ月

※1 診療録等から非加熱血液凝固因子製剤の投与歴が明らかな者及び診療録等が確認できないため血液凝固因子製剤の投与歴は不明であるが、昭和53年から昭和63年の間に入院し、かつ、次のいずれかに該当する者に対して、HIV-1抗体、HIV-1,2抗体定性、同半定量、HIV-1,2抗体定量、HIV-1,2抗原・抗体同時測定定性又はHIV-1,2抗原・抗体同時測定定量を実施した場合は、HIV感染症を疑わせる自他覚症状の有無に関わらず所定点数を算定する。ただし、保険医療機関において採血した検体の検査を保健所に委託した場合は、算定しない。
ア.新生児出血症(新生児メレナ、ビタミンK欠乏症等)等の病気で「血が止まりにくい」との指摘を受けた者
イ.肝硬変や劇症肝炎で入院し、出血の著しかった者
ウ.食道静脈瘤の破裂、消化器系疾患により大量の吐下血があった者
エ.大量に出血するような手術を受けた者(出産時の大量出血も含む。)
なお、間質性肺炎等後天性免疫不全症候群の疾病と鑑別が難しい疾病が認められる場合やHIVの感染に関連しやすい性感染症が認められる場合、既往がある場合又は疑われる場合でHIV感染症を疑う場合は、本検査を算定できる。

※2 ア.輸血(自己血輸血を除く。以下この項において同じ。)を算定した患者又は血漿成分製剤(新鮮液状血漿、新鮮凍結人血漿等)の輸注を行った患者に対して、一連として行われた当該輸血又は輸注の最終日から起算して、概ね2か月後にHIV-1抗体、HIV-1,2抗体定性、同半定量、HIV-1,2抗体定量、HIV-1,2抗原・抗体同時測定定性又はHIV-1,2抗原・抗体同時測定定量の測定が行われた場合は、HIV感染症を疑わせる自他覚症状の有無に関わらず、当該輸血又は輸注につき1回に限り、所定点数を算定できる。
イ.他の保険医療機関において輸血料の算定又は血漿成分製剤の輸注を行った場合であってもアと同様とする。
ウ.アまたはイの場合においては、診療報酬明細書の摘要欄に当該輸血又は輸注が行われた最終日を記載する。

※3 HIV-1特異抗体・HIV-2特異抗体は、スクリーニング検査としてのHIV-1,2抗体定性若しくは同半定量、HIV-1,2抗原・抗体同時測定定性、HIV-1抗体、HIV-1,2抗体定量又はHIV-1,2抗原・抗体同時測定定量によって陽性が確認された症例について、確定診断を目的として、全血、血清又は血漿を検体とし、測定した場合に算定する。なお、本検査を実施した場合、HIV-1抗体(ウエスタンブロット法)及びHIV-2抗体(ウエスタンブロット法)は、別に算定できない。

※4 ア.HIV-1核酸定量は、HIV感染者の経過観察に用いた場合又はHIV-1,2抗体定性、同半定量、HIV-1,2抗原・抗体同時測定定性、HIV-1抗体、HIV-1,2抗原・抗体同時測定定量、又はHIV-1,2抗体定量が陽性の場合の確認診断に用いた場合にのみ算定する。
イ.当該検査とHIV-1抗体(ウエスタンブロット法)を併せて実施した場合は、それぞれを算定することができる。

※5 HTLV-I抗体(ウエスタンブロット法及びラインブロット法)は、HTLV-I抗体定性、半定量又はHTLV-I抗体によって陽性が確認された症例について、確定診断を目的として行った場合に算定する。

HIV-1/2抗体〔確認〕の判定基準

HIV-1抗体 測定結果	判定結果
p31、gp160、p24、gp41のうち、gp160またはgp41のいずれかを含む2本以上のバンドが認められる	陽性
p31、gp160、p24、gp41のいずれも認められない	陰性
上記、陽性および陰性でない場合	判定保留

HIV-2抗体 測定結果	判定結果
gp36、gp140の両バンドが認められる	陽性
gp36、gp140のいずれも認められない	陰性
上記、陽性および陰性でない場合	判定保留

HIV-RNA定量〔TaqMan〕結果の解釈

結果		結果の解釈
定量結果(コピー/mL)	HIV増幅反応シグナル	
10000000以上	(+)	HIV-RNAを検出
20〜9000000	(+)	HIV-RNAを検出
20未満	(+)	HIV-RNAを検出
20未満	検出せず	HIV-RNAを検出しなかった

HTLV-I抗体(ATLA抗体)〔確認〕の判定基準

ラインが認められない		陰性
ラインが1本認められる(≧±)	gag p19かgag p24かenv gp46のいずれかが認められる	陰性
	env gp21が認められる	保留
ラインが2本認められる(≧±)	env gp21が認められない	保留
	env gp21が認められる	陽性
ラインが3本以上認められる(≧±)		陽性

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
ウイルス抗原・核酸の検出									
915 5F190	**単純ヘルペスウイルス特異抗原** 単純ヘルペスウイルス抗原定性	28	塗抹標本 凍 -20℃以下	FAT	1型:陰性(−) 2型:陰性(−)	180 免疫 ※1	4〜6	専用容器は予めご依頼ください。塗抹の際、スライドグラスの裏表をご確認の上、必ず「表」面に塗抹してください。 また、氏名等の記入には鉛筆をご使用ください。検体採取は147頁をご参照ください。02	
2637 5F193	**水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原** 水痘ウイルス抗原定性(上皮細胞)	55	塗抹標本 2枚 凍	FAT	陰性(−)	227 免疫	3〜5	検体採取は147頁をご参照ください。 04	
261 5F101	**ヒトパピローマウイルス(HPV)-DNA同定〔中〜高リスク型〕** HPV核酸検出	25	子宮頸管ぬぐい液 冷	ハイブリッドキャプチャー法	陰性(−)	347 微生 ※2 ※3	3〜5	HPVとして16,18,31,33,35,39,45,51,52,56,58,59および68型の"中〜高リスク型"HPVを検出します(型別判定はできません)。 02	3週
2321 5F102	**ヒトパピローマウイルス(HPV)-DNA同定〔低リスク型〕**	25	子宮頸管ぬぐい液 冷	ハイブリッドキャプチャー法	陰性(−)		3〜9	HPVとして、6,11,42,43および44型の"低リスク型"HPVを検出します(型別判定はできません)。 02	3週
2891 5F101	**ヒトパピローマウイルス(HPV)簡易ジェノタイプ判定〔9種判別〕** HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	61	LBC用採取液 0.5 冷	リアルタイムPCR	検出せず	347 微生 ※2 ※3	2〜4	6種の遺伝子型(16型,18型,31型,45型,51型,52型)の型別判定と、3種の遺伝子グループ(33/58型、35/39/68型、56/59/66型)の検出有無を報告します。 11	
2763 5F101	**ヒトパピローマウイルス(HPV)ジェノタイプ判定**	61	LBC用採取液 3.0 冷	PCR-rSSO法	検出せず	2000 微生 ※4	4〜7	16,18,31,33,35,39,45,51,52,56,58,59および68型の"中〜高リスク型"HPVを検出します。 02	

※1 単純ヘルペスウイルス抗原定性は、ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合に算定できる。
※2 別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、細胞診によりベセスダ分類がASC-USと判定された患者又は過去に子宮頸部(腟部)切除術、子宮頸部摘出術(腟部切断術を含む。)若しくは子宮頸部異形成上皮又は上皮内癌レーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定する。
※3 ア.HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)は、予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US(意義不明異型扁平上皮)と判定された患者又は過去に子宮頸部円錐切除若しくはレーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定できる。なお、過去に子宮頸部円錐切除又はレーザー照射治療を行った患者以外の患者については、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。
イ.HPV核酸検出とHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
※4 ア.HPVジェノタイプ判定は、あらかじめ行われた組織診断の結果、CIN1又はCIN2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定する。
イ.当該検査は、HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)の施設基準を届け出ている保険医療機関のみ算定できる。
ウ.当該検査を算定するに当たっては、あらかじめ行われた組織診断の実施日及び組織診断の結果、CIN1又はCIN2のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
エ.同一の患者について、当該検査を2回目以降行う場合は、当該検査の前回実施日を上記に併せて記載する。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
ウイルス抗原・核酸の検出									
2279 5F194	サイトメガロウイルス抗原pp65抗原〔C10,C11〕 サイトメガロウイルスpp65抗原定性	63	血液 5.0 冷 凍結不可	間接酵素抗体法(アンチジェネミア法)	陰性(−)	356 免疫 ※1	2〜3	採血後、速やかに検体をご提出ください(原則として採血後24時間以内の検体を用います)。 予約検査 注1 02	
2638 5F194	サイトメガロウイルス抗原pp65抗原〔C7-HRP〕 サイトメガロウイルスpp65抗原定性	63	血液 3.0 室	直接酵素抗体法(アンチジェネミア法)	陰性(−)	356 免疫 ※1	2〜4	採血後、速やかに検体をご提出ください(原則として採血後24時間以内の検体を用います)。 予約検査 注1 04	
2414 5F194	サイトメガロウイルス核酸検出〔新生児尿〕 サイトメガロウイルス核酸検出	64	尿 0.2 凍	等温核酸増幅法	陰性	801 微生 ※2	4〜10	生後3週間以内に採取された新生児尿をご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 注2 04	1カ月
2429 5F194	サイトメガロウイルス(CMV)核酸定量 サイトメガロウイルス核酸定量	51 遠心 注3	血漿 1.5 凍 -20℃以下	リアルタイムPCR	IU/mL 定量結果:34.5未満(定量下限) 増幅反応シグナル:検出せず	450 微生 ※3	3〜4	必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出ください(同一検体で病原体核酸検査以外の項目との重複依頼は避けてください)。 02	3カ月
2547 5F630	ノロウイルスRNA	54	糞便1g 吐物2g 冷	リアルタイムRT-PCR	GⅠ(−) GⅡ(−)		2	11	
2506 5F630	ノロウイルス抗原〔BLEIA〕	50	糞便 冷	BLEIA法	陰性(−)		2	4月1日〜9月30日の期間は、所要日数が2〜4日となります。 11	
肝炎ウイルス関連検査									
819 5F350	HA抗体IgM HA-IgM抗体	1 遠心	血清 0.3 冷	CLIA	S/CO 0.80未満(−) 0.80〜1.20(±) 1.21以上(+)	146 免疫 ※4	3〜4	02	3カ月
560 5F350	HA抗体IgG HA抗体	1 遠心	血清 0.3 冷	CLIA	S/CO 1.00未満(−) 1.00以上(+)	146 免疫 ※4	3〜4	02	3カ月
730 5F016	HBs抗原 HBs抗原定性・半定量	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	陰性(−)	29 免疫	1	B型肝炎ウイルス(HBV)感染の診断は、本検査結果のみで行わず、HBc抗体測定等、他の検査結果及び臨床経過を考慮して総合的に判断してください。 11	2週
682 5F016	HBs抗原定量精密 HBs抗原	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	IU/mL 0.005未満(−) 0.005以上(+)	88 免疫	1	B型肝炎ウイルス(HBV)感染の診断は、本検査結果のみで行わず、HBc抗体測定等、他の検査結果及び臨床経過を考慮して総合的に判断してください。 11	2週
731 5F016	HBs抗体 HBs抗体定性	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	陰性(−)	32 免疫	1	11	2週
687 5F016	HBs抗体定量精密 HBs抗体	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	mIU/mL 10.0未満(−) 10.0以上(+)	88 免疫	1	WHOの勧告によると、B型肝炎ウイルス感染防御能を持つHBs抗体濃度は、10.0mIU/mL以上とされています。 11	2週

注1:他検査と同時に依頼される場合は別検体でご依頼ください。
注2:本検査方法ではコンタミネーション(便を含む)の影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
注3:コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。
専用採血管で採血後、遠心分離を行い、そのまま凍結してご提出ください。

※1 サイトメガロウイルスpp65抗原定性は、臓器移植後若しくは造血幹細胞移植後の患者又はHIV感染者又は高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合に限り算定できる。ただし、高度細胞性免疫不全の患者については、当該検査が必要であった理由について、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
※2 ア.サイトメガロウイルス核酸検出は、先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、尿を検体として測定した場合に、1回に限り算定できる。
イ.先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、サイトメガロウイルス核酸検出とウイルス抗体価(定性・半定量・定量)又はグロブリンクラス別ウイルス抗体価におけるサイトメガロウイルスを対象とした検査を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
※3 サイトメガロウイルス核酸定量は、以下のいずれかに該当する場合であって、血液を検体としてサイトメガロウイルスDNAを測定した場合に算定する。
ア.臓器移植後若しくは造血幹細胞移植後の患者、HIV感染者又は高度細胞性免疫不全の患者に対して、サイトメガロウイルス感染症の診断又は治療効果判定を目的として行った場合。
イ.症候性先天性サイトメガロウイルス感染症患者に対して、治療効果判定を目的として行った場合。
※4 HA抗体とHA-IgM抗体を同時に測定した場合は、一方の所定点数のみを算定する。

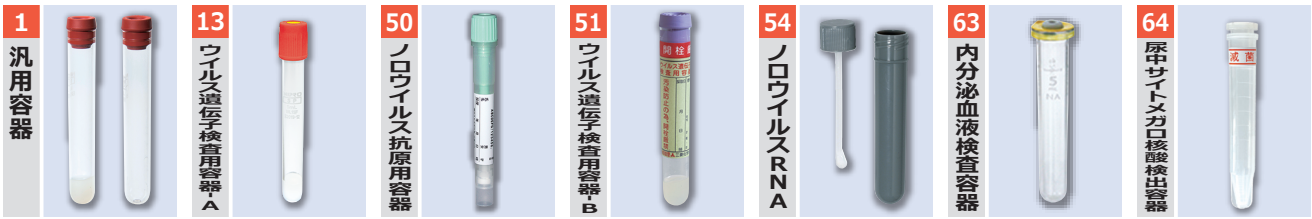
項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
肝炎ウイルス関連検査									
870 5F019	HBe抗原	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	COI 1.0未満(−) 1.0以上(+)	98 免疫	2〜3	11	1週
871 5F019	HBe抗体	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	% 60.0未満(−) 60.0以上(+)	98 免疫	2〜3	11	1週
872 5F018	HBc抗体IgG HBc抗体半定量・定量	1 遠心	血清 0.3 冷	CLEIA	COI 1.0未満(−) 1.0以上(+)	130 免疫	2〜3	11	2週
689 5F018	HBc抗体IgM HBc-IgM抗体	1 遠心	血清 0.3 冷	CLIA	S/CO 1.00未満(−) 1.00以上(+)	146 免疫	3〜4	02	3カ月
2665 5F020	B型肝炎ウイルス コア関連抗原(HBcrAg) HBVコア関連抗原(HBcrAg)	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	LogU/mL 2.1未満	252 免疫 ※1	3〜6	04	
2574 5F015	HBV-DNA定量〔TaqMan〕 HBV核酸定量	13 遠心	血清 1.8 冷	リアルタイムPCR	下表参照	256 微生	2〜3	必ず単独検体にてご依頼ください。 11	1カ月
2681 5F015	HBVジェノタイプ判定	1 遠心 91	血清 0.5 凍	EIA		340 免疫 ※2	4〜10	注1、2 02	

注1：HBs抗原量が少なく型判定が不能な場合、判定保留とご報告いたします。抗原量が十分に存在する場合でも、重複感染や抗体の非特異反応の問題により、判定保留となる場合があります。
注2：HBVジェノタイプがA〜D以外の場合、判定結果はC.Dもしくは判定保留と判定されます。

※1 HBVコア関連抗原(HBcrAg)は、HBV感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で、血清又は血漿中のHBVコア関連抗原(HBcrAg)を測定した場合に1月に1回に限り算定する。なお、HBV核酸定量を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
※2 HBVジェノタイプ判定は、B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。

HBV-DNA定量〔TaqMan〕結果の解釈

結果		結果の解釈
定量結果(LogIU/mL)	HBV増幅反応シグナル	
9.0以上	(+)	HBV-DNAを検出
1.0〜9.0	(+)	HBV-DNAを検出
1.0未満	(+)	HBV-DNAを検出
1.0未満	検出せず	HBV-DNAを検出しなかった



項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
肝炎ウイルス関連検査									
547 5F360	**HCV抗体** HCV抗体定性・定量	1 遠心	血清 0.3 冷	CLEIA	COI 1.0未満(−) 1.0以上(+)	102 免疫	1	C型肝炎ウイルス(HCV)感染の診断は、本検査結果のみで行わず、HCV-RNA測定等、他の検査結果及び臨床経過を考慮して総合的に判断してください。 11	1週
794 5F360	**HCVコア抗原** HCVコア蛋白	1 遠心	血清 0.5 冷	CLIA	fmol/L 3.0未満	102 免疫	3〜4	本検査が「定量下限未満」でも、ただちにウイルスの存在は否定できません。 02	
503 5F360	**HCV群別〔グルーピング〕** HCV血清群別判定	1 遠心	血清 0.3 冷	CLEIA	(グループ)	215 免疫 ※1	3〜4	02	
2717 5F360	**HCVサブタイプ系統解析**	13 遠心	血清 0.5 凍 -20℃以下	RT-PCR/ ダイレクトシーケンス	型別判定 (1a、1b、1c、1d、2a、2b、2c、3a、3b、4、5a、6a)		7〜12	必ず単独検体にてご依頼ください。 02	
2559 5F360	**HCV-RNA定量〔TaqMan〕** HCV核酸定量	13 遠心	血清 1.8 冷	リアルタイムRT-PCR	下表参照	412 微生 ※2	2〜3	必ず単独検体にてご依頼ください。 11	1カ月
2786 5F363	**HCV薬剤耐性変異解析〔NS5A〕**	13 遠心	血清 0.5 凍 -20℃以下	RT-PCR/ ダイレクトシーケンス			注1	必ず単独検体にてご依頼ください。 注2、3 02	

注1：測定は月1回(不定期)
注2：検査に必要なウイルス量が十分(3.0Log IU/mL以上)存在し、ウイルスの遺伝子型(Genotype)が、1b型であることをご確認の上、検体をご提出ください。
注3：L31、Q54およびY93それぞれにおいて検出したアミノ酸をご報告いたします。Q54単独変異(L31、Y93の変異を伴わない)では、耐性に関与しないことが報告されています。(C型肝炎治療ガイドライン第4.1版より)

※1 HCV血清群別判定は、C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。
※2 ア.HCV核酸定量は、急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。
イ.治療経過の観察の場合において、HCV核酸検出及びHCV核酸定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

HCV-RNA定量〔TaqMan〕結果の解釈

結果		結果の解釈
定量結果(Log IU/mL)	HCV増幅反応シグナル	
8.0以上	(+)	HCV-RNAを検出
1.2〜7.9	(+)	HCV-RNAを検出
1.2未満	(+)	HCV-RNAを検出
1.2未満	検出せず	HCV-RNAを検出しなかった

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
感染症血清反応									
656 5E106	**マイコプラズマ抗体** マイコプラズマ抗体半定量	1 遠心	血清 0.5 冷	PA	倍 40未満	32 免疫	2	11	2週
781 5E106		1 遠心	血清 0.3 冷	CF	倍 4未満	32 免疫	4～6	02	1カ月
2707 6B616	**マイコプラズマ核酸同定** マイコプラズマ核酸検出	15 または 56	喀痰 咽頭 鼻咽頭 凍	LAMP	陰性(−)	291 微生	2	専用容器にてご提出ください。 喀痰の場合は、採痰容器(15)にてご提出ください。 11	
2769 5E156	**トキソプラズマ抗体IgG** トキソプラズマ抗体	1 遠心	血清 0.3 冷	CLIA	IU/mL 陰性(−) 1.6未満 判定保留(±) 1.6～2.9 陽性(+) 3.0以上	93 免疫	2～3	11	1週
2770 5E157	**トキソプラズマ抗体IgM**	1 遠心	血清 0.3 冷	CLIA	S/CO 陰性(−) 0.83未満 判定保留(±) 0.83～0.99 陽性(+) 1.00以上	95 免疫	2～3	11	1週
729 5E026	**オウム病抗体**	1 遠心	血清 0.3 冷	CF	倍 4未満	79 免疫	4～6	**髄液も検査可** 02	
2912 5E020	**クラミジア・トラコマチス抗体IgA&IgG** グロブリンクラス別クラミジア・トラコマチス抗体	1 遠心	血清 0.3 冷	EIA	index 陰性(−) 0.900未満 判定保留(±) 0.900～1.099 陽性(+) 1.100以上	200 免疫 ※1	4～6	02	
2913 5E032	**クラミジア・ニューモニエ抗体IgA** クラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体	1 遠心	血清 0.4 冷	EIA	EIU 陰性(−) 8未満 判定保留(±) 8～12 陽性(+) 13以上	75 免疫	4～6	02	
2914 5E031	**クラミジア・ニューモニエ抗体IgG** クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体	1 遠心	血清 0.4 冷	EIA	EIU 陰性(−) 30未満 判定保留(±) 30～45 陽性(+) 46以上	70 免疫	4～6	02	
2134 5E033	**クラミジア・ニューモニエ抗体IgM** クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体	1 遠心	血清 0.4 冷	EIA	S/CO 陰性(−) 0.5未満 判定保留(±) 0.5～1.1 陽性(+) 1.2以上	152 免疫 ※2	4～6	02	

※1 ア.グロブリンクラス別クラミジア・トラコマチス抗体は、クラミジア・トラコマチス抗原検出不能又は検体採取の困難な疾患(骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等)の診断に際し、IgG抗体価又はIgA抗体価を測定した場合又は新生児・乳幼児肺炎の診断に際し、IgM抗体価を測定した場合に算定する。
イ.IgG抗体価、IgA抗体価及びIgM抗体価のうち2項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※2 クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体を、クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体又はクラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
感染症血清反応									
2694 5E054	**百日咳菌抗体**	1 遠心	血清 0.2 冷	EIA	EU/mL 10未満(−)	257 免疫	2〜4	11	1週
2860 5E101	**百日咳抗体 IgA** 百日咳菌抗体半定量	1 遠心	血清 0.2 冷	EIA	NTU 陰性(−) 8.5未満 判定保留(±) 8.5〜11.5 陽性(+) 11.6以上	80 免疫	3〜5	04	1カ月
2861 5E102	**百日咳抗体 IgM** 百日咳菌抗体半定量	1 遠心	血清 0.2 冷	EIA	NTU 陰性(−) 8.5未満 判定保留(±) 8.5〜11.5 陽性(+) 11.6以上	80 免疫	3〜5	04	1カ月
2845 6B636	**百日咳菌核酸同定** 百日咳菌核酸検出	62	後鼻腔ぬぐい液 冷	LAMP	陰性(−)	360 微生 ※1	2〜3	専用容器にてご提出ください。 11	
2045 5E225	**エキノコックス抗体**	1 遠心 91	血清 0.3 凍	EIA	陰性		5〜9	02	
2286 5E128	**ツツガ虫抗体 ギリアム** IgG ツツガムシ抗体半定量	1 遠心	血清 0.2 冷	FAT	倍 10未満	203 免疫 ※2	4〜8	04	
2287 5E129	**ツツガ虫抗体 ギリアム** IgM ツツガムシ抗体半定量	1 遠心	血清 0.2 冷	FAT	倍 10未満	203 免疫 ※2	4〜8	04	
2290 5E125	**ツツガ虫抗体 カトー** IgG ツツガムシ抗体半定量	1 遠心	血清 0.2 冷	FAT	倍 10未満	203 免疫 ※2	4〜8	04	
2291 5E126	**ツツガ虫抗体 カトー** IgM ツツガムシ抗体半定量	1 遠心	血清 0.2 冷	FAT	倍 10未満	203 免疫 ※2	4〜8	04	
2288 5E122	**ツツガ虫抗体 カープ** IgG ツツガムシ抗体半定量	1 遠心	血清 0.2 冷	FAT	倍 10未満	203 免疫 ※2	4〜8	04	
2289 5E123	**ツツガ虫抗体 カープ** IgM ツツガムシ抗体半定量	1 遠心	血清 0.2 冷	FAT	倍 10未満	203 免疫 ※2	4〜8	04	
696 5E065	**ヘリコバクター・ピロリ抗体**	1 遠心	血清 0.3 冷	LA	U/mL 10未満	80 免疫 ※3	2〜4	11	
482 6Z100	**尿素呼気試験**	48	呼気 室	IR	‰ 2.5未満	70 微生 ※3	2〜3	検体の採取については147頁をご参照ください。 11	
2122 5E068	**便中ヘリコバクター・ピロリ抗原** ヘリコバクター・ピロリ抗原定性	49	糞便 冷	EIA	陰性(−)	142 免疫 ※3	3〜4	検体の採取については152頁をご参照ください。 02	1週

※1 百日咳菌核酸検出は、関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床判断例の定義を満たす患者に対して測定した場合に算定できる。
※2 ツツガムシ抗体半定量又は同定性は、各株ごとに算定する。
※3 ヘリコバクター・ピロリ抗体を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」(平成12年10月31日保険発第180号)に即して行うこと。

感染症血清反応

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
340 6B610	淋菌核酸同定 淋菌核酸検出	〈ぬぐい液〉	23	ぬぐい液 冷	リアルタイムPCR	検出せず	198 微生 ※1	2	検体の採取については148頁をご参照ください。 11	1年
2331 6B610		〈咽頭〉	23	咽頭 冷	リアルタイムPCR	検出せず	198 微生 ※1	2	検体の採取については148頁をご参照ください。 11	1年
344 6B610		〈 尿 〉	24	初尿 4.5 冷	リアルタイムPCR	検出せず	198 微生 ※1	2	検体の採取については149頁をご参照ください。 11	1年
2332 6B610		〈うがい液〉	24	うがい液 4.5 冷	リアルタイムPCR	検出せず	198 微生 ※1	2	検体の採取については149頁をご参照ください。 11	1年
127 5E021	クラミジア・トラコマチス核酸同定 クラミジア・トラコマチス核酸検出	〈ぬぐい液〉	23	ぬぐい液 冷	リアルタイムPCR	検出せず	188 微生 ※2	2	検体の採取については148頁をご参照ください。 11	1年
2329 5E021		〈咽頭〉	23	咽頭 冷	リアルタイムPCR	検出せず	188 微生 ※2	2	検体の採取については148頁をご参照ください。 11	1年
126 5E021		〈 尿 〉	24	初尿 4.5 冷	リアルタイムPCR	検出せず	188 微生 ※2	2	検体の採取については149頁をご参照ください。 11	1年
2330 5E021		〈うがい液〉	24	うがい液 4.5 冷	リアルタイムPCR	検出せず	188 微生 ※2	2	検体の採取については149頁をご参照ください。 11	1年
2510 6B615	淋菌およびクラミジア・トラコマチス核酸同定 淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出	〈ぬぐい液〉	23	ぬぐい液 冷	リアルタイムPCR	検出せず	262 微生 ※3	2	検体の採取については148頁をご参照ください。 11	1年
2333 6B615		〈咽頭〉	23	咽頭 冷	リアルタイムPCR	検出せず	262 微生 ※3	2	検体の採取については148頁をご参照ください。 11	1年
2511 6B615		〈 尿 〉	24	初尿 4.5 冷	リアルタイムPCR	検出せず	262 微生 ※3	2	検体の採取については149頁をご参照ください。 11	1年
2334 6B615		〈うがい液〉	24	うがい液 4.5 冷	リアルタイムPCR	検出せず	262 微生 ※3	2	検体の採取については149頁をご参照ください。 11	1年

※1 ア.淋菌核酸検出、淋菌抗原定性又は細菌培養同定検査(淋菌感染を疑って実施するもの)を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。
イ.淋菌核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体(尿検体を含む。)によるものである。

※2 ア.クラミジア・トラコマチス核酸検出とクラミジア・トラコマチス抗原定性を併用した場合は、主なもののみ算定する。
イ.クラミジア・トラコマチス核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できる。

※3 ア.淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、クラミジア・トラコマチス感染症若しくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査による病原微生物鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。ただし、クラミジア・トラコマチス抗原定性、淋菌抗原定性、細菌培養同定検査(淋菌及びクラミジアによる感染を疑って実施するもの)、クラミジア・トラコマチス核酸検出又は淋菌核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
イ.淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体(尿検体を含む。)によるものである。

1 汎用容器


23 STD核酸同定容器-A


24 STD核酸同定容器-B


48 呼気採取バッグ


49 便中ヘリコバクター・ピロリ抗原


62 百日咳菌核酸同定容器


項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
感染症血清反応									
2358 6B643	腟トリコモナスおよびマイコプラズマ・ジェニタリウム核酸同定 〈ぬぐい液〉	23	ぬぐい液 冷	リアルタイムPCR	検出せず	350 微生 ※1	2	検体の採取については150頁をご参照ください。 11	1年
2359 6B643	腟トリコモナスおよびマイコプラズマ・ジェニタリウム核酸同定 〈尿〉 腟トリコモナス核酸及びマイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出	24	初尿 4.5 冷	リアルタイムPCR	検出せず	350 微生 ※1	2	検体の採取については151頁をご参照ください。 11	1年
203 5E035	ASO定量(ASLO) 抗ストレプトリジンO(ASO)定量	1 遠心	血清 0.3 冷	LA	239以下 IU/mL	15 免疫	1	11	2週
204 5E105	寒冷凝集反応	1 遠心	血清 0.3 冷 注1	HA	64未満 倍	11 免疫	4〜6	02	1カ月
2314 5E142	カンジダマンナン抗原 カンジダ抗原定量	1 遠心	血清 0.8 冷	EIA	0.05未満 U/mL	134 免疫 ※2	3〜5	フィブリン除去時に竹串を使用すると、高値傾向を示す場合がありますので、検体の取り扱いに充分ご注意ください。 04	
525 5E148	アスペルギルス抗原	1 遠心 91	血清 0.7 凍	EIA	0.5未満(−) C・I	157 免疫 ※3	3〜5	ピペラシリン/タゾバクタム合剤投与患者では陽性となる場合があります。 02	5週

注1：血清分離するまでは37℃に保ってください。

※1 腟トリコモナス及びマイコプラズマ・ジェニタリウム核酸同時検出は、以下のいずれかに該当する場合に算定する。
ア.腟トリコモナス感染症を疑う患者であって、鏡検が陰性又は実施できないもの若しくはマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症を疑う患者に対して、治療法の選択を目的として行った場合。
イ.腟トリコモナス感染症又はマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症の患者に対して、治療効果判定を目的として実施した場合。
※2 カンジダ抗原定性、半定量又は定量は、カンジダ血症又はカンジダ肺炎の診断の目的で行った場合に算定する。
※3 アスペルギルス抗原は、侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合にのみ算定できる。

感染症血清反応

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
2759 5E154	抗トリコスポロンアサヒ抗体	1 遠心 91	血清 0.3 凍	EIA	CAI 0.15未満(−)	822 免疫	9〜18	02	
2708 6B611	レジオネラ核酸同定 レジオネラ核酸検出	15	喀痰 冷	LAMP	陰性(−)	292 微生	2〜7	同一検体での他項目との重複依頼は避けてください。 11	
439 5E140	クリプトコッカス抗原 クリプトコックス抗原定性	1 遠心 91	血清 0.8 凍	LA	陰性(−)	169 免疫	4〜7	02	
851 5E048	エンドトキシン定量〔ES法〕	37	血液 3.0 冷 凍結不可	比濁時間分析法	pg/mL 5.0未満	229 免疫 ※1	3〜4	検体は、エンドトキシンフリーの専用容器にて無菌的に採取してください。エンドトキシンのみ測定。 02	5日
2046 5E048	透析液中エンドトキシン A液	47	透析液 4.0 冷 凍結不可	合成基質法	EU/mL		3〜4	検体は必ず専用の安定剤入り透析液採取管にてご提出ください。また、透析液の採取場所(A液)を必ずご明記ください。 注1 02	1週
2047 5E048	B液	47	透析液 4.0 冷 凍結不可	合成基質法	EU/mL		3〜4	検体は必ず専用の安定剤入り透析液採取管にてご提出ください。また、透析液の採取場所(B液)を必ずご明記ください。 注2 02	1週
2048 5E048	RO水	47	透析液 4.0 冷 凍結不可	合成基質法	EU/mL		3〜4	検体は必ず専用の安定剤入り透析液採取管にてご提出ください。また、透析液の採取場所(RO水)を必ずご明記ください。 02	1週
2049 5E048	調整液	47	透析液 4.0 冷 凍結不可	合成基質法	EU/mL		3〜4	検体は必ず専用の安定剤入り透析液採取管にてご提出ください。また、透析液の採取場所(調整液)を必ずご明記ください。 02	1週
2050 5E048	その他	47	透析液 4.0 冷 凍結不可	合成基質法	EU/mL		3〜4	検体は必ず専用の安定剤入り透析液採取管にてご提出ください。また、透析液の採取場所(その他)を必ずご明記ください。 02	1週
908 5E151	(1→3)-β-D-グルカン(β-D-グルカン) (1→3)-β-D-グルカン	37	血液 2.0 冷 凍結不可	発色合成基質法	pg/mL 20以下	195 免疫 ※2	3〜4	検体は、エンドトキシンフリーの専用容器にて無菌的に採取してください。 02	5日
2772 5C216	プレセプシン	6 遠心 91	血漿 0.4 凍 注3	CLEIA	pg/mL 敗血症(細菌性)診断のカットオフ値:500	301 生I ※3	3〜4	専用検体として、ご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。 **ヘパリン血漿も検査可** 02	3カ月
2645 5C215	プロカルシトニン(PCT) プロカルシトニン(PCT)定量	1 遠心 91	血清 0.3 凍	CLEIA	ng/mL 0.065以下 注4	276 生I ※1	1	11	

注1:A液は40倍希釈して測定します。
注2:B液は20倍希釈して測定します。
注3:ボルテックミキサーなどによる強い撹拌は、測定値が上昇しますので、使用しないでください。
注4:重篤な敗血症又は敗血症ショックのリスク　低い:0.500未満ng/mL　中等度:0.500〜2.000ng/mL　高い:2.001以上ng/mL

※1　プロカルシトニン(PCT)定量又は同半定量は、敗血症(細菌性)を疑う患者を対象として測定した場合に算定できる。ただし、エンドトキシンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
※2　(1→3)-β-D-グルカンは、深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択又は深在性真菌感染症に対する治療効果の判定に使用した場合に算定する。なお、本検査をカンジダ抗原定性、同半定量、同定量、アスペルギルス抗原、D-アラビニトール、クリプトコックス抗原半定量又はクリプトコックス抗原定性と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
※3　ア.プレセプシン定量は、敗血症(細菌性)を疑う患者を対象として測定した場合に算定できる。
イ.プレセプシン定量とプロカルシトニン(PCT)定量、同半定量又はエンドトキシンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

1 汎用容器

6 内分泌検査容器

15 採痰容器

23 STD核酸同定容器-A

24 STD核酸同定容器-B

37 血中エンドトキシン容器

47 透析液エンドトキシン容器


項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
感染症血清反応									
260 5E074	**梅毒RPR定性** 梅毒血清反応(STS)定性	1 遠心	血清 0.2 冷	LA	(−)	15 免疫 ※1	1	11	2週
2965 5E074	**梅毒RPR定量** 梅毒血清反応(STS)定量	1 遠心	血清 0.2 冷	LA	R.U. 1.0未満	34 免疫 ※1	1	11	2週
253 5E075	**梅毒TP抗体定性** 梅毒トレポネーマ抗体定性	1 遠心	血清 0.2 冷	LA	(−)	32 免疫	1	治癒後も長期間検出 11	2週
2966 5E075	**梅毒TP抗体定量** 梅毒トレポネーマ抗体定量	1 遠心	血清 0.2 冷	LA	T.U. 10.0未満	53 免疫	1	治癒後も長期間検出 11	2週
254 5E079	**梅毒FTA-ABS定性** 梅毒トレポネーマ抗体(FTA-ABS試験)定性	1 遠心	血清 0.4 冷	FAT	陰性(−)	134 免疫	3〜5	02	2週

※1　梅毒血清反応(STS)定性、梅毒血清反応(STS)半定量及び梅毒血清反応(STS)定量は、従来の梅毒沈降反応(ガラス板法、VDRL法、RPR法、凝集法等)をいい、梅毒血清反応(STS)定性、梅毒血清反応(STS)半定量及び梅毒血清反応(STS)定量ごとに梅毒沈降反応を併せて2種類以上ずつ行った場合でも、それぞれ主たるもののみ算定する。

梅毒血清反応検査の結果の解釈

STS	TP抗体または FTA-ABS	結果の解釈
(−)	(−)	非梅毒まれに梅毒感染の初期
(+)	(−)	生物学的偽陽性(BFP)まれに梅毒感染初期
(+)	(+)	梅毒(早期から晩期)梅毒治療後の抗体保有者
(−)	(+)	梅毒治療後の抗体保有者Tp抗原系の偽陽性(ごくまれ)

梅毒感染初期が疑われる場合は3〜4週間後に再検査する

1 汎用容器

5 滅菌スピッツ

血漿蛋白成分

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
222 5C070	CRP定性 C反応性蛋白(CRP)定性	1 遠心	血清 0.3 冷	LA	(−)	16 免疫 ※1	1	11	1週
202 5C070	CRP定量 C反応性蛋白(CRP)	1 遠心	血清 0.3 冷	LA	mg/dL 0.30以下	16 免疫 ※1	1	11	1週
2071 5C080	アミロイドA (SAA)	1 遠心	血清 0.5 冷	LA	mg/L 3.0以下	47 免疫 ※1	3〜4	02	
586 5C010	プレアルブミン トランスサイレチン(プレアルブミン)	1 遠心	血清 0.3 冷	TIA	mg/dL 22〜40	101 免疫	3〜4	02	1カ月
767 3A015	尿中アルブミン〔クレアチニン補正値〕 アルブミン定量(尿)	5	随時尿 1.0 冷	TIA	mg/g・Cre 30.0未満	99 尿・便 ※2	1	11	
2120 3A015	尿中アルブミン・蓄尿 アルブミン定量(尿)	5	蓄尿 1.0 冷	TIA	mg/day 30.0未満	99 尿・便 ※2	1	11	
649 5C060	トランスフェリン (Tf)	1 遠心	血清 0.5 冷	TIA	mg/dL 190〜320	60 免疫	3〜4	02	1週
700 5C060	尿中トランスフェリン トランスフェリン(尿)	5	尿 1.0 冷 凍結不可	LA	mg/g・Cre 1.0以下	98 尿・便 ※2	3〜4	02	
2726 5C100	尿中L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP)	5	尿 1.0 凍	LA	μg/g・Cre 8.4以下	210 尿・便 ※3	3〜4	注1 02	
645 5C020	α1アンチトリプシン (α1AT)	1 遠心	血清 0.4 冷	ネフェロメトリー	mg/dL 94〜150	80 血液	3〜6	02	
395 5C025	α1アシドグリコプロテイン(α1AG)	1 遠心	血清 0.3 冷	免疫比濁法	mg/dL 42〜93		3〜6	02	1カ月
884 5C015	α1マイクログロブリン (α1M) 〈血清〉	1 遠心	血清 0.5 冷	LA	mg/L 9.1〜18.4	129 免疫	3〜4	02	3カ月
885 5C015	α1マイクログロブリン (α1M) 〈尿〉	5	尿 1.0 冷	LA	mg/L 8.3以下	129 免疫	3〜4	02	3週
754 5C065	β2マイクログロブリン (β2M) 〈血清〉	1 遠心	血清 0.5 冷	LA	mg/L 0.9〜1.9	98 免疫	1	11	1週
755 5C065	β2マイクログロブリン (β2M) 〈尿〉	5	尿 1.0 冷	LA	μg/L 200以下	98 免疫	2〜3	pH5.5以下の尿は検査不可。 11	

注1：クレアチニン補正値(μg/g・Cre)及び濃度(ng/mL)をご報告いたします。濃度が0.50未満ng/mLの場合は、0.50ng/mLを用いてクレアチニン補正し、未満を付記してご報告いたします。

※1 血清アミロイドA蛋白(SAA)をC反応性蛋白(CRP)定性又はC反応性蛋白(CRP)と併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
※2 トランスフェリン(尿)、アルブミン定量(尿)及びⅣ型コラーゲン(尿)は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
※3 L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)(尿)は、原則として3月に1回に限り算定する。ただし、医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
血漿蛋白成分									
658 5C040	ハプトグロビン (Hp)	1 遠心	血清 0.3 冷	TIA	mg/dL 19～170	129 免疫	3～4	02	
657 5C035	α2マクログロブリン (α2M)	1 遠心	血清 0.4 冷	ネフェロメトリー	mg/dL M 100～200 F 130～250	138 血液	3～6	02	1カ月
655 5C045	セルロプラスミン (Cp)	1 遠心	血清 0.4 冷	ネフェロメトリー	mg/dL 21～37	90 免疫	3～4	02	
633 5A160	クリオグロブリン クリオグロブリン定性	1 遠心	血清 1.0 室	寒冷沈澱法	(－)	42 免疫	5～8	11	
860 5C090	ミオグロビン〈血清〉 ミオグロビン定量	1 遠心	血清 0.5 冷	FEIA	ng/mL 73以下	131 生Ⅰ	1	11	1週
861 5C090	ミオグロビン〈尿〉 ミオグロビン定量	31	尿 6.0 冷	CLEIA	ng/mL 2.0未満	131 生Ⅰ	3～5	検体は必ず安定化剤入り専用容器にてご提出ください。 02	10日
296 5C092	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	1 遠心 91	血清 0.4 凍	EIA	ng/mL 2.5以下	184 生Ⅰ ※1	3～6	02	3カ月
490 5C094	高感度心筋トロポニンⅠ 心筋トロポニンⅠ	1 遠心 91	血清 0.5 凍	CLIA	pg/mL 26.2以下 (急性心筋梗塞のカットオフ値:26.2)	109 生Ⅰ ※2	1	11	1週
2041 5C091	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP) 心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)定量	1 遠心 91	血清 0.3 凍	LA	ng/mL 5.0以下	131 生Ⅰ ※3	3～9	02	1カ月
584 5C030	レチノール結合蛋白 (RBP)	1 遠心	血清 0.3 冷	LA	mg/dL M 2.7～6.0 F 1.9～4.6	132 免疫	3～4	02	1カ月
801 5C130	プロコラーゲンⅢペプチド (P-Ⅲ-P)	1 遠心	血清 0.4 冷	CLIA	ng/mL 3.62～9.52 注1	136 生Ⅰ ※4	3～6	検体に溶血が認められた場合は低値となる可能性があるため使用を避けてください。 注2 02	
376 5C134	Ⅳ型コラーゲン	1 遠心	血清 0.3 冷	LA	ng/mL 150以下	131 生Ⅰ ※4	3～4	02	

注1:カットオフ値(肝に線維化のみられる疾患):6.95ng/mL
注2:ビオチンを1日5mg以上投与・摂取している患者からの採血は、投与後、少なくとも8時間以上経過してから実施してください。

※1 心室筋ミオシン軽鎖Ⅰは、同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は、1回のみ算定する。
※2 心筋トロポニンⅠと心筋トロポニンT(TnT)定性・定量を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
※3 心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)定性及び定量は、急性心筋梗塞の診断を目的に用いた場合に限り算定する。ただし、心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)定性又は定量とミオグロビン定性又は定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
※4 Ⅳ型コラーゲン又はⅣ型コラーゲン・7Sは、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)又はMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体と併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
血漿蛋白成分									
2806 5C141	Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体(M2BPGi)	1 遠心	血清 0.3 冷	CLEIA	0.84未満 AU/mL	194 生I ※1	1	11	1週
2890 5C240	オートタキシン(ATX)	1 遠心	血清 0.3 冷	FEIA	下表参照 mg/L	194 生I ※2	3〜5	02	1カ月
補体成分									
185 5B010	血清補体価(CH50)	1 遠心 91	血清 0.4 凍 -20℃以下	Mayer変法	30.0〜46.0 CH_{50}/mL	38 免疫	3〜4	注1、2 02	
697 5B023	C3 (β_1C/β_1Aグロブリン)	1 遠心	血清 0.2 冷	TIA	86〜160 mg/dL	70 免疫	2〜3	11	1週
698 5B024	C4 (β_1Eグロブリン)	1 遠心	血清 0.2 冷	TIA	17〜45 mg/dL	70 免疫	2〜3	11	1週
2416 5B045	C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性) C_1インアクチベータ	4 遠心 91 注3	血漿 0.2 凍	発色性合成基質法	70〜130 %	253 免疫	3〜5	04	2週

注1:採血後、速やかに遠心分離し、血清を直ちに凍結(-20℃以下)してください。
注2:同時に他の項目の検査がある場合は、必ず別にして「血清補体価」は単独にて検体をご提出ください。
注3:3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5〜6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。

※1 ア.Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体は、慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。
イ.本検査とⅣ型コラーゲン、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)、Ⅳ型コラーゲン・7S又はヒアルロン酸を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
※2 ア.オートタキシンは、慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。
イ.本検査とⅣ型コラーゲン、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)、Ⅳ型コラーゲン・7S、ヒアルロン酸又はMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

オートタキシン(ATX)判定基準(カットオフ値)

	① 線維化進展例(mg/L)	② 肝硬変(mg/L)
M	0.910	1.690
F	1.270	2.120

①線維化進展例はC型肝炎治療ガイドライン(第5.4版)の「肝線維化F2以上」に相当します。
①より高い検体は、肝線維化進展例と判定します。
②より高い検体は、肝硬変と判定します。

判定上の留意事項
・妊婦では週数が進むに従いATX濃度が高値となることが確認されているため、妊婦検体の測定には適しません。
・悪性リンパ腫患者、進行した悪性腫瘍患者では、ATX濃度が高値となることが確認されています。また、重度の心不全患者でも高値を示す場合があります。
・副腎皮質ステロイドを服用している人ではATX濃度が低値を示す場合があります。
・肝炎ウイルスを原因としない慢性肝疾患においては、肝線維化ステージとATX濃度の関係がウイルス性肝疾患と異なる場合があります。

1 汎用容器

4 凝固検査容器

31 尿中ミオグロビン容器


項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
免疫グロブリン									
565 5A135	**免疫電気泳動** **〔免疫固定法によるM蛋白同定〕** 免疫電気泳動法(特異抗血清)	1 遠心	血清 0.3 冷	免疫固定電気泳動法		218 免疫	4～6	02	
771 5A145	**尿中免疫電気泳動** **(ベンス・ジョーンズ蛋白同定)** Bence Jones蛋白同定(尿)	5	尿 5.0 冷	免疫固定電気泳動法		201 免疫	4～6	ベンス・ジョーンズ蛋白同定には、起床時第一尿を推奨します。 酸性蓄尿は、検査不可。 02	
2700 5A141	**遊離L鎖κ/λ比(FLC)** 免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比	1 遠心	血清 0.4 冷	LA	κ鎖 3.3～19.4 mg/L λ鎖 5.7～26.3 mg/L κ/λ比 0.26～1.65	388 免疫	3～4	02	
2832 5A120	**IgGインデックス**	1 遠心 および 5	血清0.7 冷 および 髄液0.7 冷	TIA/ ネフェロメトリー法	インデックス 0.73以下	390 尿・便 ※1	3～4	注1、2 02	
481 5A150	**オリゴクローナルバンド**	1 遠心 および 5	血清0.4 冷 および 髄液0.4 冷	等電点電気泳動法	陰性:バンド数0～1 本 注3	522 尿・便 ※1	6～9	02	1カ月
2843 5G821	**抗アクアポリン4抗体**	1 遠心 91	血清 0.3 凍	EIA	3.0未満 U/mL	1000 免疫 ※2	4～10	02	2週
195 5A010	**IgG**	1 遠心	血清 0.5 冷	TIA	870～1700 mg/dL	38 免疫 ※3	2～3	11	2週
196 5A015	**IgA**	1 遠心	血清 0.5 冷	TIA	110～410 mg/dL	38 免疫 ※3	2～3	11	2週
197 5A020	**IgM**	1 遠心	血清 0.5 冷	TIA	M 33～190 F 46～260 mg/dL	38 免疫 ※3	2～3	11	2週
2661 5A058	**IgGサブクラスIgG4** IgG4	1 遠心	血清 0.4 冷	LA	11.0～121.0 mg/dL	377 免疫	3～4	02	2週
2356 5A110	**鳥特異的IgG** 鳥特異的IgG抗体	1 遠心 91	血清 0.5 冷	FEIA	判定 陰性(－) mgA/L ｾｷｾｲｲﾝｺ 8未満 ﾊﾄ 24未満	873 免疫 ※4	4～7	02	3週

注1:インデックス、IgG髄液、IgG血清、アルブミン髄液、アルブミン血清の値をご報告いたします。
注2:インデックスの算出方法は次の通りです。IgGインデックス=(髄液IgG/髄液アルブミン)/(血清IgG/血清アルブミン)
注3:バンド数1本とは、血清中にはなく髄液中にのみ検出されるバンドを意味します。

※1 IgGインデックス、オリゴクローナルバンド及びミエリン塩基性蛋白(MBP)(髄液)は、多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。
※2 抗アクアポリン4抗体は、視神経脊髄炎の診断(治療効果判定を除く。)を目的として測定した場合に算定できる。なお、当該検査の結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して、疾患の診断を行う必要があり、当該検査を再度実施した場合においても算定できる。ただし、この場合、前回の検査実施日及び検査を再度実施する医学的な必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
※3 免疫グロブリンは、IgG、IgA、IgM及びIgDを測定した場合に、それぞれ所定点数を算定する。
※4 鳥特異的IgG抗体は、診察又は画像診断等により鳥関連過敏性肺炎が強く疑われる患者を対象として、測定した場合に算定する。なお、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
アレルギー									
199 200 5A090	**非特異的IgE(IgE)** 非特異的IgE定量	1 遠心	血清 0.2 冷	FEIA	170以下 IU/mL	100 免疫	1	11	1週
298 5A100	**アトピー鑑別試験(特異的吸入性アレルゲン)** アトピー鑑別試験定性	1 遠心	血清 0.2 冷	FEIA	陰性	194 免疫 ※1	1	吸入性アレルゲンのスクリーニング。 11	1週
756 5A100	**特異的IgE** 特異的IgE半定量・定量	1 遠心	血清 各0.1 冷	FEIA	0.35未満 UA/mL	各110 免疫 ※2	1〜4	判定基準は、下表をご参照ください。アレルゲンの一覧は94,95頁をご参照ください。 02, 11	1週
2775 5A100	**View アレルギー39** 特異的IgE半定量・定量	1 遠心	血清 0.9 冷	FEIA	0.27未満 index	1430 免疫 ※2	2〜3	アレルゲン構成は、下表をご参照ください。判定基準は、下表をご参照ください。 注1 11	1週
2612 5J228	**TARC**	1 遠心	血清 0.3 冷	CLEIA	下表参照 pg/mL	179 免疫 ※3	1	中等症以上のアトピー性皮膚炎の目安は、成人700pg/mL以上、小児(2歳以上)760pg/mL以上です。 11	2週

注1:アレルゲン39種に対し、検査優先順位の指定はお受けできません。

※1 アトピー鑑別試験定性は、12種類の吸入性アレルゲン(ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、ネコ皮屑、イヌ皮屑、ギョウギシバ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、シラカンバ(属)、スギ、カンジダ、アルテルナリア)に対する特異的IgEを測定した場合に算定する。
※2 特異的IgE半定量・定量検査は、特異抗原の種類ごとに所定点数を算定する。ただし、患者から1回に採取した血液を用いて検査を行った場合は、1430点を限度として算定する。
※3 アトピー性皮膚炎の重症度評価の補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合に、月1回を限度として算定できる。

IgEの年齢別正常参考値

年齢	参考値(IU/mL)
1歳未満	20以下
1〜3歳	30以下
4〜6歳	110以下
7歳〜成人	170以下

特異的IgEの判定基準

測定値(UA/mL)	クラス	判定
0.35未満	0	陰性
0.35〜0.69	1	陽性
0.70〜3.49	2	
3.50〜17.49	3	
17.50〜49.99	4	
50.00〜99.99	5	
100.00以上	6	

Viewアレルギー39の判定基準

測定値(index値)	クラス	判定
0.27未満	0	陰性
0.27〜0.49	1	疑陽性
0.50〜1.79	2	陽性
1.80〜7.04	3	
7.05〜17.34	4	
17.35〜29.30	5	
29.31以上	6	

Ara h 2の判定基準

測定値(UA/mL)	判定
0.35未満	陰性
0.35〜3.99	疑陽性
4.00以上	陽性

TARC

年齢	基準値(pg/mL)
小児(6〜12カ月未満)	1367未満
小児(1〜2歳未満)	998未満
小児(2歳以上)	743未満
成人	450未満

Viewアレルギー39の構成アレルゲン

構成するアレルゲン名	
ハウスダスト1	牛乳
ヤケヒョウヒダニ	卵白
スギ	オボムコイド
ヒノキ	米
ハンノキ(属)	コムギ(実)
シラカンバ(属)	ソバ
カモガヤ	大豆
オオアワガエリ	ピーナッツ
ブタクサ	リンゴ
ヨモギ	バナナ
アルテルナリア	キウイ
アスペルギルス	ゴマ
カンジダ	牛肉
マラセチア(属)	豚肉
ネコ(フケ)	鶏肉
イヌ(フケ)	エビ
ゴキブリ	カニ
ガ	サバ
ラテックス	サケ
	マグロ

シングルアレルゲン一覧

室内塵		
H–1	ハウスダスト1	401
H–2	ハウスダスト2	402
ダニ		
D–1	ヤケヒョウヒダニ	411
D–2	コナヒョウヒダニ	412
D–70	アシブトコナダニ	413
D–71	サヤアシニクダニ	414
D–72	ケナガコナダニ	415
樹木花粉		
T–1	かえで（属）	471
T–2	はんのき（属）	472
T–3	かば（しらかんば属）	473
T–5	ぶな（属）	475
T–6	ぴゃくしん（属）	476
T–7	こなら（属）	477
T–8	にれ（属）	478
T–9	オリーブ	479
T–10	くるみ（属）	480
T–12	やなぎ（属）	482
T–16	まつ（属）	485
T–17	すぎ	486
T–19	アカシア（属）	488
T–24	ひのき	491
T–70	くわ（属）	490
動物上皮		
E–1	ネコのフケ	421
E–3	ウマのフケ	423
E–4	ウシのフケ	424
E–5	イヌのフケ	425
E–6	モルモット上皮	426
E–70	ガチョウ羽毛	428
E–77	セキセイインコのふん	435
E–78	セキセイインコ羽毛	436
E–80	ヤギ上皮	438
E–81	羊上皮	439
E–82	家兎上皮	440
E–83	豚上皮	441
E–84	ハムスター上皮	442
E–85	ニワトリ羽毛	443
E–86	アヒル羽毛	444
E–87	ラット	445
E–88	マウス	446
イネ科植物花粉		
G–1	はるがや	501
G–2	ぎょうぎしば	502
G–3	かもがや	503
G–4	ひろはうしのけぐさ	504
G–5	ほそむぎ	505
G–6	おおあわがえり	506
G–7	あし	507
G–8	ながはぐさ	508
G–9	こぬかぐさ（属）	509
G–10	せいばんもろこし	510
G–15	小麦（属）	515
G–16	おおすずめのてっぽう	516
G–17	すずめのひえ（属）	517
雑草花粉		
W–1	ぶたくさ	521
W–2	ぶたくさもどき	522
W–3	おおぶたくさ	523
W–5	にがよもぎ	525
W–6	よもぎ	526
W–7	ふらんすぎく	527
W–8	たんぽぽ（属）	528
W–9	へらおおばこ	529
W–10	しろざ	530
W–12	あきのきりんそう	532
W–18	ひめすいば	537
W–20	いらくさ（属）	539
W–22	カナムグラ	540
職業性アレルゲン		
K–72	オオバコ種子	629
K–75	イソシアネート TDI	632
K–76	イソシアネート MDI	633
K–77	イソシアネート HDI	634
K–78	エチレンオキサイド	635
K–79	無水フタル酸	636
K–80	ホルマリン	638
K–82	ラテックス	637
K–220	Hev b 6.02（ラテックス由来）	639
昆虫		
I–1	ミツバチ	551
I–3	スズメバチ	557
I–4	アシナガバチ	558
I–6	ゴキブリ	554
I–7	ユスリカ（成虫）	552
I–8	蛾	553
I–71	ヤブカ（属）	555
食餌性アレルゲン		
F–1	卵白	571
F–2	牛乳	572
F–3	タラ	573
F–4	小麦	574
F–5	ライ麦	575
F–6	大麦	576
F–7	オート麦	577
F–8	とうもろこし	578
F–9	米	579
F–10	ごま	580
F–11	そば	581
F–12	えんどう	582
F–13	ピーナッツ	583
F–14	大豆	584
F–15	いんげん豆	585
F–17	はしばみの実	586
F–18	ブラジルナッツ	587
F–20	アーモンド	588
F–23	かに	589
F–24	えび	590
F–25	トマト	591
F–26	豚肉	592
F–27	牛肉	593
F–31	にんじん	594
F–33	オレンジ	595
F–35	ポテト（じゃがいも）	596
F–36	ココナッツ	597
F–37	ムラサキイガイ	598
F–40	マグロ	599
F–41	サケ	600
F–44	いちご	601
F–45	ビール酵母	602
F–47	にんにく	603
F–48	たまねぎ	604
F–49	リンゴ	605
F–50	サバ	628
F–51	タケノコ	651
F–54	サツマイモ	652
F–55	キビ	653
F–56	アワ	654
F–58	イカ	656
F–59	タコ	657
F–60	アジ	630
F–61	イワシ	658
F–75	卵黄	606
F–76	α–ラクトアルブミン	607
F–77	β–ラクトグロブリン	608
F–78	カゼイン	609
F–79	グルテン	610
F–80	ロブスター	611
F–81	チーズ	612
F–82	モールドチーズ	622
F–83	鶏肉	613
F–84	キウイ	614
F–85	セロリ	615
F–86	パセリ	616
F–87	メロン	617
F–88	羊肉	618
F–89	マスタード	619
F–90	麦芽	620
F–91	マンゴ	621
F–92	バナナ	623
F–93	カカオ	624
F–94	洋ナシ	625
F–95	モモ	626
F–96	アボカド	627
F–97	ヤマイモ	669
F–202	カシューナッツ	673
F–207	アサリ	666
F–209	グレープフルーツ	659
F–214	ホウレンソウ	660
F–225	カボチャ	661
F–233	オボムコイド	663
F–254	カレイ	662
F–256	クルミ	670
F–290	カキ（牡蠣）	667
F–329	スイカ	671
F–338	ホタテ	668
F–349	イクラ	664
F–350	タラコ	665
F–353	Gly m4（大豆由来）	650
F–416	ω-5グリアジン（小麦由来）	672
F–423	Ara h 2（ピーナッツ由来）	640
F–441	Jug r 1（クルミ由来）	641
F–443	Ana o 3（カシューナッツ由来）	642
寄生虫		
P–1	回虫	561
P–4	アニサキス	564
真菌・細菌		
M–1	ペニシリウム	451
M–2	クラドスポリウム	452
M–3	アスペルギルス	453
M–4	ムコール	454
M–5	カンジダ	455
M–6	アルテルナリア	456
M–8	ヘルミントスポリウム	458
M–80	エンテロトキシンA	469
M–81	エンテロトキシンB	470
M–205	トリコフィトン	468
M–218	Asp f1（アスペルギルス由来）	643
M–227	マラセチア（属）	674
その他		
C–73	ヒトインスリン	691
C–74	ゼラチン	692
O–1	綿	695

「マルチアレルゲン」・「特異的吸入性アレルゲン」一覧

項目コード	項目名		混合アレルゲンの内容
705	FX5	食物・マルチ	卵白、牛乳、小麦、ピーナッツ、大豆
706	FX6	穀物・マルチ	米、小麦、とうもろこし、ごま、そば
702	EX2	動物上皮・マルチ	ネコのフケ、イヌのフケ、モルモット上皮、ラット、マウス
704	WX5	雑草・マルチ	ぶたくさ、よもぎ、ふらんすぎく、たんぽぽ(属)、あきのきりんそう
703	GX5	イネ科・マルチ	はるがや、ぎょうぎしば、かもがや、おおあわがえり、あし
701	MX2	カビ・マルチ	ペニシリウム、クラドスポリウム、アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア、ヘルミントスポリウム
298	アトピー鑑別試験		ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、ネコのフケ、イヌのフケ、ぎょうぎしば、かもがや、ぶたくさ、よもぎ、しらかんば(属)、すぎ、カンジダ、アルテルナリア

アレルギーセット一覧

	鼻炎・結膜炎 通年性	鼻炎・結膜炎 春～夏	鼻炎・結膜炎 秋～冬	小 児	皮膚炎 学童～成人	喘息 学童～成人
広範囲セット 血清：1.0mL 13項目 1430点	No.11	No.10	No.13	No.14	No.17	No.16
	ヤケヒョウヒダニ ハウスダスト1 すぎ ひのき かもがや ぶたくさ よもぎ ゴキブリ ユスリカ(成虫) 蛾 ネコのフケ イヌのフケ カビ・マルチ	ヤケヒョウヒダニ ハウスダスト1 はんのき(属) すぎ ひのき はるがや かもがや ゴキブリ ユスリカ(成虫) 蛾 ネコのフケ イヌのフケ カビ・マルチ	ヤケヒョウヒダニ ハウスダスト1 かもがや ぶたくさ よもぎ あきのきりんそう カナムグラ ゴキブリ ユスリカ(成虫) 蛾 ネコのフケ イヌのフケ カビ・マルチ	ヤケヒョウヒダニ すぎ ゴキブリ 牛乳 卵白 オボムコイド イワシ えび そば 小麦 大豆 ピーナッツ 動物上皮・マルチ	コナヒョウヒダニ すぎ 蛾 カンジダ マラセチア(属) エンテロトキシンA エンテロトキシンB かに えび そば 小麦 ピーナッツ 動物上皮・マルチ	ヤケヒョウヒダニ ハウスダスト1 すぎ かもがや ぶたくさ よもぎ ゴキブリ ユスリカ(成虫) 蛾 ネコのフケ イヌのフケ 穀物・マルチ カビ・マルチ
簡易セット 血清：0.7mL 10項目 1100点	No.21	No.22	No.23	No.24	No.25	No.26
	ヤケヒョウヒダニ すぎ ひのき かもがや ぶたくさ よもぎ ユスリカ(成虫) 蛾 動物上皮・マルチ カビ・マルチ	ヤケヒョウヒダニ はんのき(属) すぎ ひのき はるがや かもがや ユスリカ(成虫) 蛾 動物上皮・マルチ カビ・マルチ	ヤケヒョウヒダニ かもがや ぶたくさ よもぎ あきのきりんそう カナムグラ ユスリカ(成虫) 蛾 動物上皮・マルチ カビ・マルチ	ヤケヒョウヒダニ すぎ 牛乳 卵白 オボムコイド えび そば 小麦 ピーナッツ 動物上皮・マルチ	コナヒョウヒダニ すぎ マラセチア(属) かに えび そば 小麦 ピーナッツ 動物上皮・マルチ カビ・マルチ	ヤケヒョウヒダニ すぎ かもがや ぶたくさ よもぎ ゴキブリ ユスリカ(成虫) 蛾 動物上皮・マルチ カビ・マルチ
ミニセット 血清：0.5mL 6項目 660点	No.31	No.32	No.33	No.34	No.35	No.36
	ヤケヒョウヒダニ すぎ かもがや ぶたくさ 動物上皮・マルチ カビ・マルチ	ヤケヒョウヒダニ すぎ ひのき かもがや 動物上皮・マルチ カビ・マルチ	ヤケヒョウヒダニ ぶたくさ よもぎ ユスリカ(成虫) 動物上皮・マルチ カビ・マルチ	ヤケヒョウヒダニ 牛乳 卵白 えび 小麦 ピーナッツ	コナヒョウヒダニ すぎ マラセチア(属) 小麦 動物上皮・マルチ カビ・マルチ	ヤケヒョウヒダニ すぎ かもがや ぶたくさ 動物上皮・マルチ カビ・マルチ

シックハウス	シニア	食品アレルギー	アレルギー学校用
No.29 血清：0.6mL 7項目 770点	No.20 血清：1.0mL 13項目 1430点	No.39 血清：0.7mL 10項目 1100点	No.40 血清：1.0mL 13項目 1430点
イソシアネートTDI イソシアネートMDI イソシアネートHDI 無水フタル酸 ホルマリン ヤケヒョウヒダニ カビ・マルチ	コナヒョウヒダニ すぎ ひのき かもがや ぶたくさ 蛾 かに えび イカ そば 小麦 アニサキス カビ・マルチ	牛乳 卵白 かに えび そば 小麦 大豆 ピーナッツ バナナ キウイ	牛乳 チーズ 卵白 鶏肉 かに えび ごま そば 小麦 大豆 ピーナッツ キウイ 動物上皮・マルチ

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
自己免疫関連									
695 5G160	**リウマチ因子定量(RF)** リウマトイド因子(RF)定量	1 遠心	血清 0.3 冷	LA	15以下 IU/mL	30 免疫 ※1	1	11	1週
506 5G161	**IgG型リウマチ因子** IgG型リウマトイド因子	1 遠心	血清 0.3 冷	EIA	2.0未満 index	198 免疫 ※1	4～6	02	1カ月
2132 5G167	**抗CCP抗体(ACPA)** 抗シトルリン化ペプチド抗体定量	1 遠心	血清 0.3 冷	CLIA	4.5未満 U/mL	193 免疫 ※2	2～3	11	1週
956 5G166	**抗ガラクトース欠損IgG抗体(CA・RF)** 抗ガラクトース欠損IgG抗体定量	1 遠心 91	血清 0.3 凍	CLEIA	6.0未満 AU/mL	111 免疫 ※1 ※3	4～6	02	1カ月
502 3B503	**マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)**	1 遠心	血清 0.3 冷	LA	M 36.9～121.0 F 17.3～59.7 ng/mL	116 免疫 ※1	2～3	11	
212 5G010	**抗核抗体(ANA)** 抗核抗体(蛍光抗体法)半定量	1 遠心	血清 0.5 冷	FAT	40未満 倍	99 免疫	2～3	11	2週
701 5G020	**抗DNA抗体** 抗DNA抗体定量	1 遠心	血清 0.3 冷	RIA (硫安塩析法)	6以下 IU/mL	159 免疫	3～4	02	3カ月
457 5G036	**抗ds-DNA・IgG抗体** 抗DNA抗体定量	1 遠心	血清 0.4 冷	CLEIA	12.0以下 IU/mL	159 免疫	3～4	02	1カ月
2052 5G026	**抗ss-DNA・IgG抗体** 抗DNA抗体定量	1 遠心	血清 0.4 冷	CLEIA	25.0以下 AU/mL	159 免疫	3～4	02	1カ月
466 5G065	**抗Sm抗体**	1 遠心	血清 0.4 冷	CLEIA	10.0未満 U/mL	147 免疫	3～4	02	1カ月
484 5G066	**抗RNP抗体(抗U1-RNP抗体)** 抗RNP抗体定量	1 遠心	血清 0.4 冷	CLEIA	10.0未満 U/mL	144 免疫	3～4	02	1カ月
501 5G076	**抗SS-A抗体** 抗SS-A/Ro抗体定量	1 遠心	血清 0.4 冷	CLEIA	10.0未満 U/mL	161 免疫	3～4	02	1カ月
592 5G077	**抗SS-B抗体** 抗SS-B/La抗体定量	1 遠心	血清 0.4 冷	CLEIA	10.0未満 U/mL	157 免疫	3～4	02	1カ月
593 5G085	**抗Scl-70抗体(抗トポイソメラーゼ抗体)** 抗Scl-70抗体定量	1 遠心	血清 0.4 冷	CLEIA	10.0未満 U/mL	157 免疫	3～4	02	1カ月

※1 リウマトイド因子(RF)定量、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)、C_1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体及びIgG型リウマトイド因子のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。

※2 ア.抗シトルリン化ペプチド抗体定性又は同定量は、以下のいずれかの場合に算定できる。

(イ)関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として1回を限度として算定できる。ただし、当該検査結果が陰性の場合においては、3月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

(ロ)(イ)とは別に、関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者1人につき原則として1回に限り算定する。ただし、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、再度治療薬を選択する必要がある場合においては、6月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

イ.抗シトルリン化ペプチド抗体定性、同定量、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)、C_1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体及びIgG型リウマトイド因子のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定する。

※3 リウマトイド因子(RF)定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

自己免疫関連

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
2675 5G087	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	1 遠心 91	血清 0.3 凍	EIA	index 陰　性(−) 28未満 判定保留(±) 28〜49 陽　性(+) 50以上	170 免疫 ※1	4〜10	02	
2768 5G120	抗Jo-1抗体	1 遠心	血清 0.4 冷	CLEIA	U/mL 10.0未満	140 免疫 ※2	3〜5	02	1カ月
2835 5G121	抗ARS抗体	1 遠心	血清 0.3 冷	EIA	index 陰性(−) 25.0未満	190 免疫 ※2	4〜10	02	18日
2974 5G122	抗MDA5抗体 (抗CADM-140抗体)	1 遠心	血清 0.3 冷	EIA	index 陰性(−) 32未満	270 免疫 ※3	3〜6	02	1カ月
2400 5G123	抗Mi-2抗体	1 遠心	血清 0.3 冷	EIA	index 陰性(−) 53未満	270 免疫 ※3	3〜6	02	
2975 5G124	抗TIF1-γ抗体	1 遠心	血清 0.3 冷	EIA	index 陰性(−) 32未満	270 免疫 ※3	3〜6	02	
245 5G501	ループスアンチコアグラント ループスアンチコアグラント定量	4 遠心 91	血漿 0.5 凍	希釈ラッセル蛇毒試験法(dRVVT)	Normalized Ratio 1.2以下	265 免疫 ※4	3〜4	血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意ください。抗凝固薬は、測定結果に影響を与える可能性があります。 02	2週
374 5G504	抗カルジオリピン・β2GPⅠ複合体抗体 抗カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体	1 遠心 91	血清 0.3 凍	EIA	U/mL 3.5未満	223 免疫 ※5	3〜5	02	
248 5G508	抗カルジオリピンIgG抗体	1 遠心 91	血清 0.4 凍	EIA	U/mL 12.3以下	226 免疫 ※6	4〜7	02	
247 5G510	抗カルジオリピンIgM抗体	1 遠心	血清 0.3 冷	EIA	U/mL 20.8以下	226 免疫 ※6 ※7	3〜5	04	2週
2411 5G519	抗リン脂質抗体(APL)パネル	1 遠心 91	血清 0.6 凍	CLIA	U/mL 各20.0以下 注1	678 免疫 ※6	4〜6	4種(抗CLIgG、抗CLIgM、抗β2GPⅠIgG、抗β2GPⅠIgM)の抗リン脂質抗体をご報告します。 02	3カ月
524 5G090	抗セントロメア抗体 抗セントロメア抗体定量	1 遠心	血清 0.4 冷	CLEIA	U/mL 10.0未満	174 免疫 ※8	3〜4	02	

注1：基準値は、健常人の99%タイル値に基づいて設定しています。

※1 抗RNAポリメラーゼⅢ抗体は、びまん性型強皮症の確定診断を目的として行った場合に、1回を限度として算定できる。また、その際陽性と認められた患者に関し、腎クリーゼのリスクが高い者については治療方針の決定を目的として行った場合に、また、腎クリーゼ発症後の者については病勢の指標として測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。
※2 抗ARS抗体と抗Jo-1抗体定性、同半定量又は同定量を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。
※3 抗MDA5抗体、抗TIF1-γ抗体及び抗Mi-2抗体は、厚生労働省難治性疾患克服研究事業自己免疫疾患に関する調査研究班による「皮膚筋炎診断基準」を満たす患者において測定した場合に算定できる。
※4 ループスアンチコアグラント定量及び同定性は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定する。
※5 抗カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体と抗カルジオリピンIgG抗体、抗カルジオリピンIgM抗体、抗β2グリコプロテインⅠIgG抗体又は抗β2グリコプロテインⅠIgM抗体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
※6 抗カルジオリピンIgG抗体、抗カルジオリピンIgM抗体、抗β2グリコプロテインⅠIgG抗体及び抗β2グリコプロテインⅠIgM抗体を併せて実施した場合は、主たるもの3つに限り算定する。
※7 抗カルジオリピンIgM抗体は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。
※8 抗セントロメア抗体定量又は同定性は、原発性胆汁性胆管炎又は強皮症の診断又は治療方針の決定を目的に用いた場合に限り算定できる。

1 汎用容器

4 凝固検査容器

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
自己免疫関連									
786 5G175	**抗ミトコンドリア抗体(AMA)** 抗ミトコンドリア抗体半定量	1 遠心	血清 0.3 冷	FAT	20未満 倍	181 免疫	3～5	02	1カ月
2056 5G176	**抗ミトコンドリアM2抗体(抗PDH抗体)** 抗ミトコンドリア抗体定量	1 遠心	血清 0.4 冷	CLEIA	7.0未満 index	189 免疫	3～4	02	
2554 5G396	**抗デスモグレイン1抗体**	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	20.0未満 U/mL	300 免疫 ※1	3～5	04	
2555 5G397	**抗デスモグレイン3抗体**	1 遠心	血清 0.5 冷	CLEIA	20.0未満 U/mL	270 免疫 ※2	3～5	04	
2556 5G398	**抗BP180抗体** 抗BP180-NC16a抗体	1 遠心	血清 0.4 冷	CLEIA	9.0未満 U/mL	270 免疫 ※3	3～4	02	1週
825 5G180	**抗平滑筋抗体**	1 遠心	血清 0.3 冷	FAT	20未満 倍		3～5	02	1カ月
2057 5G190	**抗内因子抗体**	1 遠心	血清 0.8 冷	CLEIA	(−)		3～7	ビタミンB_{12}摂取後1週間以内の検体は、偽陽性を呈する可能性がありますので、ご依頼は避けてください。 04	
2125 5G555	**抗LKM-1抗体**	1 遠心	血清 0.4 冷	EIA	陰性(−) 17.0未満 判定保留(±) 17.0～49.9 陽性(+) 50.0以上 index	215 免疫 ※4	4～10	02	
2858 5C235	**便中カルプロテクチン** カルプロテクチン(糞便)	22	糞便 1g 凍	FEIA	mg/kg 注1	268 尿・便 ※5	4～7	02	
2319 5C245	**ロイシンリッチα2グリコプロテイン(LRG)** ロイシンリッチα2グリコプロテイン	1 遠心	血清 0.4 冷	LA	16.0未満 μg/mL	268 生I ※6	3～4	02	1週

注1：炎症性腸疾患の診断補助の指標　50.0以下 mg/kg
潰瘍性大腸炎の病態把握の指標　300.0以下 mg/kg
クローン病の病態把握の指標　80.0以下 mg/kg

※1　ア.抗デスモグレイン1抗体は、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。
イ.落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン3抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※2　ア.抗デスモグレイン3抗体は、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省　難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。
イ.尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン1抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※3　抗BP180-NC16a抗体は、水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。

※4　ア.抗LKM-1抗体は、ウイルス肝炎、アルコール性肝障害及び薬剤性肝障害のいずれでもないことが確認され、かつ、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合に限り算定できる。
イ.本検査を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性を確認した年月日を記載すること。

※5　ア.カルプロテクチン(糞便)を慢性的な炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病等)の診断補助を目的として測定する場合に算定できる。ただし、腸管感染症が否定され、下痢、腹痛や体重減少などの症状が3月以上持続する患者であって、肉眼的血便が認められない患者において、慢性的な炎症性腸疾患が疑われる場合の内視鏡前の補助検査として実施すること。また、その要旨を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
イ.本検査を潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として測定する場合、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
ウ.慢性的な炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病等)の診断補助又は病態把握を目的として、本検査及び大腸内視鏡検査を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

※6　ア.ロイシンリッチα2グリコプロテインは、潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として測定した場合に3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
イ.ロイシンリッチα2グリコプロテインと、カルプロテクチン(糞便)又は大腸内視鏡検査を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
自己免疫関連									
917 5G551	抗好中球細胞質抗体 (PR3-ANCA)(C-ANCA)	1 遠心	血清 0.4 冷	FEIA	陰性(−) 2.0未満 IU/mL 判定保留(±) 2.0〜3.0 陽性(+) 3.1以上	252 免疫	3〜4	02	1カ月
924 5G552	抗好中球細胞質 ミエロペルオキシダーゼ抗体 (MPO-ANCA)(P-ANCA)	1 遠心	血清 0.4 冷	FEIA	陰性(−) 3.5未満 IU/mL 判定保留(±) 3.5〜5.0 陽性(+) 5.1以上	251 免疫 ※1	3〜4	02	1カ月
2127 5G420	抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体)	1 遠心	血清 0.4 冷	FEIA	陰性(−) 7.0未満 U/mL 判定保留(±) 7.0〜10.0 陽性(+) 10.1以上	262 免疫 ※2	3〜4	02	2週
2058 5G185	抗胃壁細胞抗体 (抗パリエタル細胞抗体)	1 遠心	血清 0.3 冷	FAT	10未満(−) 倍		5〜7	02	2週
2059 5G205	抗副腎皮質抗体	1 遠心	血清 2.0 冷	FAT	10未満(−) 倍		16〜20	02	1カ月
2757 5G803	抗GM1IgG抗体	1 遠心 91	血清 0.3 凍	EIA	陰性(−) 0.70未満 COI 判定保留(±) 0.70〜0.99 陽性(+) 1.00以上	460 免疫 ※3	9〜18	02	
2758 5G806	抗GQ1bIgG抗体	1 遠心 91	血清 0.3 凍	EIA	陰性(−) 0.70未満 COI 判定保留(±) 0.70〜0.99 陽性(+) 1.00以上	460 免疫 ※4	9〜18	02	
886 5G385	抗アセチルコリン レセプター結合抗体 抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	1 遠心 91	血清 0.3 凍	RIA (抗ヒトIgG法)	0.2以下 nmol/L	775 免疫 ※5	4〜7	疑陽性 0.2<,≦0.5 陽性0.5< 02	
2783 5G386	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体(抗MuSK抗体)	1 遠心 91	血清 0.3 凍	RIA	0.02未満 nmol/L	1000 免疫 ※6	4〜10	02	
322 5G520	抗血小板抗体	1 遠心 91	血清 0.5 凍	MPHA	(−)	261 免疫	4〜6	02	2カ月

※1 抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(MPO-ANCA)は、急速進行性糸球体腎炎の診断又は経過観察のために測定した場合に算定する。
※2 抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)は、抗糸球体基底膜抗体腎炎及びグッドパスチャー症候群の診断又は治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定する。
※3 抗GM1IgG抗体は、進行性筋力低下又は深部腱反射低下等のギラン・バレー症候群が疑われる所見が見られる場合において、診断時に1回に限り算定でき、経過観察時は算定できない。
※4 抗GQ1bIgG抗体は、眼筋麻痺又は小脳性運動失調等のフィッシャー症候群が疑われる場合において、診断時に1回に限り算定でき、経過観察時は算定できない。
※5 ア.抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)は、重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できる。
イ.本検査と抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
※6 ア.抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体は、重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察を目的として測定した場合に算定できる。
イ.本検査と抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

1 汎用容器

22 カルプロテクチン採便セット

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
自己免疫関連									
470 5G525	**血小板表面IgG (PA-IgG)** 血小板関連IgG(PA-IgG)	39	血液 7.0 冷	EIA	ng/10^7cells 30.2以下	190 免疫 ※1	2 〜 3	血小板数3万/μL以下の場合は2倍量の血液をご提出ください。(専用採血管2本使用) 予約検査 02	
2728 5G530	**血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体 (HIT抗体)** 血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG、IgM及びIgA抗体)	4 遠心 91	血漿 0.5 凍	ラテックス凝集法	U/mL 1.0未満	390 免疫 ※2	3 〜 4	注1、注2 02	2週
輸血関連									
311 5H010	**血液型 ABO式**	58	血液 2.0 冷	カラム遠心凝集法		24 免疫	1 〜 2	1歳未満は表検査のみ実施。毛細管での提出は新生児のみ。 11	
312 5H020	**血液型 Rho(D)**					24 免疫		Rho(−)の場合は、確認試験を行います。 11	
965 5H011	**ABO血液型亜型**	58 および 1 遠心	血液 5.0 室 および 血清 5.0 冷	試験管法		260 免疫	2 〜 3	11	
2087 5H025	**Rh因子型**	58	血液 2.0 冷	試験管法		148 免疫	2	11	
316 5H121	**クームス試験 直接**	58	血液 5.0 室	カラム遠心凝集法	(−)	34 免疫	1 〜 2	11	
319 5H122	**クームス試験 間接**	58	血液 5.0 室			47 免疫			
628 5H180	**不規則性抗体** 不規則抗体	58	血液 5.0 室	カラム遠心凝集法 (クームス法、酵素法)		159 免疫 ※3	1 〜 2	血液型不適合妊娠・輸血前後の産生抗体の検索・同定。 11	
330 315 5H160	**交差適合試験 (クロスマッチ)**	58 および 1 遠心	血液 2.0 室 および 血清 2.0 冷	カラム遠心凝集法 (クームス法、生食法)		一本に付 〔30 +47〕	1	間接抗グロブリン法実施時〔47〕加算。 11	

注1:本検査ではHIT抗体(IgG、IgM、およびIgA)を測定し、その濃度をご報告いたしますが、免疫グロブリンの各クラス別の濃度報告は行いません。
注2:容器番号4に血液1.8mLを正確に入れ、よく混和後に遠心分離し、血漿0.5mLを凍結し、ご提出ください。
(血清検体では検査できませんので、ご依頼の際はご注意ください)

※1 血小板関連IgG(PA-IgG)は、特発性血小板減少性紫斑病の診断又は経過判定の目的で行った場合に算定する。
※2 ア.血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG抗体)、血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG、IgM及びIgA抗体)及び血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体定性は、ヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定する。
イ.一連の検査で、血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG抗体)、血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG、IgM及びIgA抗体)及び血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体定性を測定した場合は、主たるもののみ算定する。
※3 不規則抗体は、輸血歴又は妊娠歴のある患者に対し、胸部手術、心・脈管手術、腹部手術又は子宮全摘術、子宮悪性腫瘍手術、子宮附属器悪性腫瘍手術(両側)、帝王切開術若しくは異所性妊娠手術が行われた場合に、手術の当日に算定する。また、手術に際して輸血が行われた場合は、本検査又は不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。この場合、診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴がある患者又は妊娠歴がある患者のいずれに該当するかを記載する。

細胞形態検査

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
4003 5I021	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)	IgG	2	血液 3.0 室	フローサイトメトリー	3～12 % 44～271 /μL	155 免疫	5～6	予約検査 02	
4004 5I022		IgA	2	血液 3.0 室	フローサイトメトリー	3～9 % 35～205 /μL	155 免疫	5～6	予約検査 02	
4005 5I023		IgM	2	血液 3.0 室	フローサイトメトリー	2～7 % 24～138 /μL	155 免疫	5～6	予約検査 02	
4006 5I024		IgD	2	血液 3.0 室	フローサイトメトリー	1～6 % 1～145 /μL	155 免疫	5～6	予約検査 02	
4007 5I025		κ鎖	2	血液 3.0 室	フローサイトメトリー	1～13 % 4～279 /μL	155 免疫	5～6	予約検査 02	
4008 5I026	B細胞表面免疫グロブリン	λ鎖	2	血液 3.0 室	フローサイトメトリー	1～10 % 8～204 /μL	155 免疫	5～6	予約検査 02	

1 汎用容器


2 血球容器


4 凝固検査容器


39 PA-IgG容器


58 輸血専用容器


項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
細胞形態検査									
219 5I020	**T細胞・B細胞百分率**	2	血液 3.0 室	フローサイトメトリー	下表参照	193 免疫	5〜6	予約検査 02	
	Single-color解析による細胞表面マーカー検査 T細胞サブセット検査(一連につき)	2	血液 3.0 室	フローサイトメトリー	103頁参照	185 免疫	5〜6	予約検査 02	
	Two-color解析による細胞表面マーカー検査 T細胞サブセット検査(一連につき)	2	血液 3.0 室	フローサイトメトリー	103頁参照	185 免疫	5〜6	予約検査 02	
221	**白血病・リンパ腫解析検査(造血器悪性腫瘍細胞検査)** 造血器腫瘍細胞抗原検査(一連につき)	8	血液 5.0 室	フローサイトメトリー		1940 血液	5〜6	腫瘍細胞膜抗原解析による由来の分類。 予約検査 02	

T細胞・B細胞百分率　基準値

	陽性細胞百分率(%)	陽性細胞絶対数(/μL)
T細胞	72〜90	605〜2564
B細胞	7〜30	70〜 663

白血病・リンパ腫解析におけるマーカーの組み合わせと意義

マーカー名 FITC標識	マーカー名 PE標識	Two-color解析の意義	主な対象疾患
IgG2a	IgG1	negative control	
CD1a	CD2	T細胞系列の同定と分化成熟度(胸腺皮質T細胞の有無)の判定	T-ALL(胸腺型),T-CLL
CD3	CD56	成熟T細胞とNK細胞の同定	LGLL
CD4	CD8	T細胞系腫瘍の判定	T-ALL,T-CLL,ATL
CD20	CD5	B細胞系列($CD20^+$)とT細胞系列($CD5^+$)の分別	B-CLL
CD34	CD7	未分化型白血病細胞の同定	ANLL(M0,M1),T-ALL
HLA-DR	CD10	B細胞系列の同定と分化成熟度(未熟B細胞の有無)の判定	cALL
CD19	CD13	B細胞系列($CD19^+$)と骨髄細胞系列($CD13^+$)の分別	biphenotypic leukemia,non T-ALL,B-CLL,ANLL
CD14	CD33	骨髄性白血病の病型鑑別($CD14^+$:骨髄単球系/$CD33^+$:骨髄系全般)	ANLL(M1,M2,M3,M4,M5)
CD41	GLYCO	骨髄性白血病の病型鑑別($CD41^+$:M7/$GLYCO^+$:M6)	ANLL(M6,M7)

マーカーの組み合わせは、「FSC-SSC法」および「CD45ゲーティング法」において共通です。

ALL　: acute lymphocytic leukemia
CLL　: chronic lymphocytic leukemia
LGLL : large granular lymphocyte leukemia
ATL　: adult T cell leukemia
ANLL : acute non-lymphocytic leukemia
cALL : common ALL
GLYCO : glycophorin A

Single-color 解析による細胞表面マーカー検査

項目名（CD分類）		抗原分布（別名、機能）	陽性細胞百分率（%）	陽性細胞絶対数（/μL）
T細胞系	CD1a	胸腺細胞	1以下	25以下
	CD2	T細胞、NK細胞、LFA-2（E-ロゼットレセプター）	72～90	605～2564
	CD3	成熟T細胞（TCRα･β･γ･δに結合）	56～86	547～2155
	CD4	helper/inducer T細胞（HIV-レセプター）	29～55	344～1289
	CD5	T細胞、B細胞サブセット	56～84	688～1861
	CD8	suppressor/cytotoxic T細胞、NK細胞サブセット	19～41	110～1066
	CD38	前駆細胞、形質細胞、活性化T細胞、B細胞、胸腺細胞	26～63	373～1126
B細胞系	CD10	common ALL、pre-B細胞、胸腺細胞サブセット、顆粒球	1以下	31以下
	CD19	pro-B細胞を含むB細胞	6～23	77～470
	CD20	B細胞、濾胞内樹状細胞	7～30	70～663
NK細胞・骨髄球系・その他	CD11b	単球、NK細胞、顆粒球、マクロファージ（MAC-1α、インテグリンαM、CR3）	11～41	171～1187
	CD13	単球、顆粒球、骨髄細胞	4以下	89以下
	CD14	単球、樹状細胞、マクロファージ	2以下	43以下
	CD16	NK細胞、顆粒球、マクロファージ、単球（Fc-γレセプターⅢA/ⅢB）	3～33	22～572
	CD25	活性化T細胞、B細胞、活性化マクロファージ（Tac抗原、IL-2Rα）	8以下	178以下
	CD33	単球、骨髄細胞	2以下	56以下
	CD57	NK細胞サブセット、T細胞サブセット（HNK1）	4～30	74～547
	抗HLA-DR	B細胞、単球、活性化T細胞（HLAクラスⅡ-DR抗原）	11～36	146～722

Two-color 解析による細胞表面マーカー検査

モノクローナル抗体の組み合せ		陽性細胞百分率（%）	陽性細胞絶対数（/μL）
CD4×抗HLA−DR	$CD4^{+}$抗$HLA-DR^{+}$	4以下	70以下
	$CD4^{+}$抗$HLA-DR^{-}$	28～56	364～1234
	$CD4^{-}$抗$HLA-DR^{+}$	4～19	29～391
	$CD4^{-}$抗$HLA-DR^{-}$	25～60	289～1319
CD8×抗HLA−DR	$CD8^{+}$抗$HLA-DR^{+}$	7以下	126以下
	$CD8^{+}$抗$HLA-DR^{-}$	16～39	88～1009
	$CD8^{-}$抗$HLA-DR^{+}$	4～19	35～405
	$CD8^{-}$抗$HLA-DR^{-}$	46～67	516～1645
CD8×CD11b	bright$CD8^{+}CD11b^{+}$	9以下	150以下
	bright$CD8^{+}CD11b^{-}$	6～25	83～480
	bright$CD8^{-}$dull$CD8^{+}CD11b^{+}$	40以下	806以下
	$CD8^{-}CD11b^{-}$	34～73	334～1753
CD57×CD16	$CD57^{+}CD16^{+}$	19以下	308以下
	$CD57^{+}CD16^{-}$	22以下	358以下
	$CD57^{-}CD16^{+}$	7以下	133以下
	$CD57^{-}CD16^{-}$	55～95	651～2165

上記以外の抗体で測定を依頼される場合は、予めお問い合わせください。

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
細胞機能検査										
233 5I010	リンパ球幼若化試験(リンパ球分離培養法) リンパ球刺激試験(LST)	PHA	38	血液 5.0 室	^{3}H-サイミジン取込能測定法		免疫 ※1	7〜9	白血球数が3000/μL以下の場合は、倍量採血しご提出ください。 予約検査 02	
234 5I011	リンパ球幼若化試験(リンパ球分離培養法) リンパ球刺激試験(LST)	ConA	38	血液 5.0 室	^{3}H-サイミジン取込能測定法		免疫 ※1	7〜9	白血球数が3000/μL以下の場合は、倍量採血しご提出ください。 予約検査 02	
240 5I012	リンパ球幼若化試験(リンパ球分離培養法) リンパ球刺激試験(LST)	PWM	38	血液 5.0 室	^{3}H-サイミジン取込能測定法			8〜10	白血球数が3000/μL以下の場合は、倍量採血しご提出ください。 予約検査 02	
459 5I014	薬剤によるリンパ球幼若化試験(LST) リンパ球刺激試験(LST)		38 および 8	血液 15 室 血液 2.0 室	^{3}H-サイミジン取込能測定法	陽性 200以上 % 疑陽性 180〜199 陰性 179以下	免疫 ※1	7〜9	リンパ球数(WBC×リンパ球%)が1000/μL以下の場合、採血量を増やす必要があります。 予約検査 注1 02	
898 5I900	NK細胞活性		38	血液 6.0 室	^{51}Cr遊離法	105頁参照		3〜4	白血球数が3000/μL以下の場合は、倍量採血しご提出ください。 予約検査 02	
487 5I970	好中球貪食能		8	血液 2.0 室	フローサイトメトリー	70〜87 %		4〜5	予約検査 02	
488 5I990	好中球殺菌能		8	血液 2.0 室	フローサイトメトリー	93〜97 %		4〜5	予約検査 02	
組織適合性抗原										
390 5K020	HLA型判定〔A,BLocus〕		2	血液 2.0 冷	PCR-rSSO法		1000加算輸血 ※2	5〜7	予約検査 02	
391 5K065	HLA型判定〔DRLocus〕		2	血液 2.0 冷	PCR-rSSO法		1400加算輸血 ※2	5〜7	予約検査 02	

注1: ①検体量は、1薬剤追加ごとに保存液加血液6mLを追加してご提出ください。
②本案内書表記の血液量でも、検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。
特に2薬剤以上のご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示ください。
ご指示のない場合は、依頼書上のご記入順に従って検査します。
③検体と同時に1回投与量の薬剤をご提出ください。
薬剤が粉末のものは粉末を、油溶性薬剤でも粉末があるものは粉末を、座薬またはシロップ剤で粉末もしくはカプセルのあるものは粉末もしくはカプセルをご提出ください(規制薬はお預かりできません)。
④上記①③と併せて、1薬剤につきヘパリン加血液2mLをご提出ください。

薬剤数(種類)	保存液加血液 *	リンパ球保存容器(容器番号38)	ヘパリン加血液	ヘパリン容器(容器番号8)
1	15 mL	2本	2 mL	1本
2	21 mL	3本	4 mL	1本
3	27 mL	4本	6 mL	1本
4	33 mL	5本	8 mL	1本
5	39 mL	5本	10 mL	2本
6	45 mL	6本	12 mL	2本

リンパ球保存液加血液と、ヘパリン加血液を併せてご提出ください。
*リンパ球数(WBC×リンパ球%)が1000/μL以下の場合、保存液加血液の採血量を増やす必要がありますので、お問い合わせください。

※1 リンパ球刺激試験(LST)は、Con−A、PHA又は薬疹の被疑医薬品によるものである。
(イ)1薬剤 345点 (ロ)2薬剤 425点 (ハ)3薬剤以上 515点
※2 HLA型適合血小板輸血は、白血病又は再生不良性貧血の場合であって、抗HLA抗体のために血小板輸血に対して不応状態となり、かつ、強い出血傾向を呈しているものに限る。なお、この場合において、対象となる白血病及び再生不良性貧血の患者の血小板数は概ね、それぞれ2万/㎣以下及び1万/㎣以下を標準とする。

NK活性 健常者対照表

E/T比　50:1

	男性（%）	女性（%）
$\bar{X}$	59.79	50.09
S.D.	15.65	13.36
$\bar{X}$±1S.D.	44.1～75.4	36.7～63.4

年齢別・性別対照表E/T比　50:1

年齢		男性（%）	女性（%）	男女（%）
20～29歳	$\bar{X}$	58.71	52.62	55.53
	S.D.	15.50	12.68	14.28
	$\bar{X}$±1S.D.	43.2～74.2	39.9～65.3	41.2～69.8
30～39歳	$\bar{X}$	58.97	44.05	52.39
	S.D.	16.11	11.91	16.07
	$\bar{X}$±1S.D.	42.8～75.0	32.1～55.9	36.3～68.4
40～49歳	$\bar{X}$	60.54	51.40	56.73
	S.D.	13.65	17.24	15.66
	$\bar{X}$±1S.D.	46.8～74.1	34.1～68.6	41.0～72.3
50～59歳	$\bar{X}$	62.38	50.97	55.72
	S.D.	20.15	11.16	16.19
	$\bar{X}$±1S.D.	42.2～82.5	39.8～62.1	39.5～71.9

2 血球容器

8 ヘパリン容器

38 リンパ球保存容器

染色体検査

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
669 8B200	G分染法	8 または 41	ヘパリン加血液各3.0 冷 または 骨髄液各0.5 冷	分染法		2477 + 397 加算 遺・染 ※1	16 〜 23	Qバンド、Rバンド、Cバンド分染法は、最初にGバンド分染法を実施し、さらに検査の必要な場合に実施させていただきます。 判定にあたり、精査が必要な場合は、さらに10日前後報告日数が延長となります。	
4011 8B200	Q分染法	8 または 41		分染法			16 〜 23		
4013 8B200	C分染法	8 または 41		分染法			16 〜 23		
4014 8B200	R分染法	8 または 41		分染法			16 〜 23		
4015 8B200	高精度分染法	8 または 41		分染法			16 〜 23	予約検査 02	
4016 8B395	BCR::ABL1 (フィラデルフィア染色体)	8 または 41		FISH			7 〜 11	慢性骨髄性白血病(CML)診断。 予約検査 02	

※1　染色体検査の所定点数には、フィルム代、現像代、引伸印画作製代を含む。染色体検査の分染法加算については、その種類、方法にかかわらず、1回の算定とする。

染色体検査のご依頼について

1. 依頼書

ご依頼に際しては、専用依頼書をご使用ください。

2. 採血・採取

①血液は、滅菌採取器具(ヘパリン加真空採血管)を用いて、無菌的に採取してください。
②骨髄液は専用試験管を用いて、無菌的に採取してください。
③採取後、速やかに転倒混和を4〜5回行ってください。検体に微小な凝固が見られた場合、分裂像が得られず検査不可となることがあります。
④ご提出検体は、冷室温(4〜20℃)で保存してください。

[検体保存時間]

	ヘパリン加検体	専用保存液入り検体
血　液	24時間以内	—
骨髄液	—	24時間以内

左記時間以上経過した検体では検査できません。
骨髄液は専用保存液入り容器をご使用の場合、24時間保存可能です。
ご連絡により専用容器をお届けします。

2 血球容器

8 ヘパリン容器

12 プレパラート

41 骨髄液保存容器

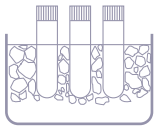
項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
血球算定・形態										
310 2A010	末梢血液一般検査	白血球数(WBC)	2	血液 2.0 冷	フローサイトメトリー法	3500～9800 /μL	21 血液 ※1	1	11	
310 2A020		赤血球数(RBC)			シースフロー DC検出法	M 427～570 F 376～500 万/μL				
310 2A030		ヘモグロビン(Hb)			SLS ヘモグロビン法	M 13.5～17.6 F 11.3～15.2 g/dL				
310 2A040		ヘマトクリット(Ht)			シースフロー DC検出法	M 39.8～51.8 F 33.4～44.9 %				
310 2A060		平均赤血球容積(MCV)			自動計算法	M 82.7～101.6 F 79.0～100.0 fL				
310 2A070		平均赤血球血色素量(MCH)			自動計算法	M 28.0～34.6 F 26.3～34.3 pg				
310 2A080		平均赤血球血色素濃度(MCHC)			自動計算法	M 31.6～36.6 F 30.7～36.6 %				
310 2A050		血小板数(Plt)			シースフロー DC検出法	13.0～36.9 万/μL				
307 2A110	網状赤血球数(レチクロ)		2	血液 2.0 冷	フローサイトメトリー法	2～27 ‰	12 血液	1	11	
2716 2A160	白血球分類(血液像)		2 または 12	血液 2.0 冷 または 塗抹標本 3枚 室	鏡検法 (メイ・ギムザ染色)	% St 好中球桿状型 2～ 7 Seg 好中球分葉型 40～63 Eo 好酸球 0～ 5 Mo 単球 3～11 Ly リンパ球 22～46 Ba 好塩基球 0～ 1	25 血液 ※2	1	11	
306 2A160	白血球分類(血液像)		2	血液 2.0 冷	自動機械法	% Neut 好中球 42～70 Eo 好酸球 0～ 5 Mo 単球 3～11 Ly リンパ球 22～46 Ba 好塩基球 0～ 1	15 血液 ※2	1	11	
550 2A180	アルカリフォスファターゼ染色(ALP染色)		2 または 12	血液 2.0 冷 または 塗抹標本 3枚 室	鏡検法 (朝長法)	ALP染色NAP-score Score M 170～335 F 189～369 Rate % M 60.5～99.5 F 67.5～99.5	37 加算 血液	2 ～ 4	採血後8時間以上のものは、血球形態破壊が著しくなるため検査不可能になることがあります。 11	
2088 2A190	エステラーゼ染色		2 または 12	血液 2.0 冷 または 塗抹標本 2枚以上 室	αNBエステラーゼ法		37 加算 血液	2 ～ 4	採血後8時間以上のものは、血球形態破壊が著しくなるため検査不可能になることがあります。 染色のみ実施します。 11	
321 2A230	ペルオキシダーゼ染色				国際標準法		37 加算 血液	2 ～ 4	採血後8時間以上のものは、血球形態破壊が著しくなるため検査不可能になることがあります。 染色のみ実施します。 11	
2089 2A200	PAS染色				McManus変法		37 加算 血液	2 ～ 4	採血後8時間以上のものは、血球形態破壊が著しくなるため検査不可能になることがあります。 染色のみ実施します。 11	

※1 末梢血液一般検査は、赤血球数、白血球数、血色素測定(Hb)、ヘマトクリット値(Ht)、血小板数の全部又は一部を行った場合に算定する。
※2 末梢血液像(自動機械法)、末梢血液像(鏡検法)及び骨髄像の検査については、少なくともリンパ球、単球、好中球、好酸球、好塩基球の5分類以上の同定・比率計算を行った場合に算定する。同一検体について、好酸球数及び末梢血液像(自動機械法)又は末梢血液像(鏡検法)を行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。

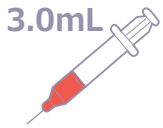
項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
骨髄・その他									
314 2A170	骨髄像	12	塗抹標本 3枚以上 室	鏡検法 (メイ・ギムザ染色)		788 血液	3～4	専用依頼書を用意しております。メイ・ギムザ染色以外の特殊染色は各60点加算。 11	
2090 2A400	血中微生物 マラリア原虫	2	血液 2.0 冷	鏡検法 (メイ・ギムザ染色)	(−)	40 血液	2～3	塗抹標本でご提出の場合は、薄層塗抹標本と濃塗標本をご提出ください。 11	
2091 2A410	血中微生物 ミクロフィラリア								
303 2A090	鼻汁好酸球 好酸球(鼻汁・喀痰)	12	塗抹標本 1枚 室	鏡検法 (メイ・ギムザ染色)	(−)	15 血液	1	11	
2140 2A090	喀痰好酸球 好酸球(鼻汁・喀痰)	12	塗抹標本 1枚 室	鏡検法 (メイ・ギムザ染色)	(−)	15 血液	1	11	
血小板活性化検査									
379 2B600	β-トロンボグロブリン (β-TG)	40 遠心 91	血漿 0.3 凍	EIA	50以下 ng/mL	171 血液	3～10	検体採取方法は、下表をご参照ください。 04	1カ月
378 2B620	血小板第4因子 (PF-4)	40 遠心 91	血漿 0.3 凍	EIA	20以下 ng/mL	173 血液	3～10	検体採取方法は、下表をご参照ください。 04	1カ月

β-トロンボグロブリン(β-TG)、血小板第4因子(PF-4)の採血方法

操作を2分以内に行う

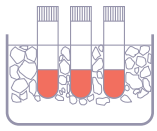


あらかじめ専用容器(容器番号40)を冷却しておいてください。
砕氷水の水面よりも専用容器中の液面が下になるようにしてください。
角氷は使用しないでください。



できるだけ20ゲージ(19～21ゲージでも可)の針を用いたプラスチック注射器で血液3.0mL採取してください。
(採血にあたって、専用容器(容器番号40)を使用しての直接採血は絶対にしないでください)
真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。また、止血帯も使用しないでください。
10mL以上の採血は避け、出来るだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取してください。

針を取って静かに専用容器(容器番号40)の蓋を開け、血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2～3回転倒混和してください。
指定の専用容器以外は使用しないでください。専用容器は振とうさせないでください。



専用容器を速やかに砕氷と水の入ったラックに入れてください。
砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにしてください。

砕氷水に15～30分間放置後、採取血液を2000Gで30分間、2～4℃で遠心分離してください。
(右表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します)
※遠心器回転数の計算式

$G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$

r :遠心器のローター半径(cm)
n : 1分間あたりの回転数(rpm)　1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。

上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで0.3mL検体容器へ採取してください。
血餅に近い部分よりの採取は絶対に避けてください。(血漿の全量採取は避けてください)
検体は必ず凍結保存してください。(1カ月安定)

換算表

半径(cm)	回転数(r.p.m)
10	4200
12	3800
14	3500
16	3300
18	3100
20	3000
22	2800
24	2700
26	2600
28	2500
30	2400

出血凝固検査

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
832 2B030	プロトロンビン時間(PT)	4 3.2%クエン酸Na:血液=1:9 遠心 91 注1	血漿 各0.5 凍 複数項目ご依頼では1項目につき0.2	Quick一段法	時間 10.5〜13.5秒 活性値 70〜130 % INR 0.85〜1.15	18 血液	1	INR(International Normalized Ratio,国際標準化) PTの測定値は各試薬の感受性差や機種間差による施設間差が大きいので、共通のものさしで比較できるようにしたWHOが推奨している表現方法です。 11	
833 2B020	活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)			エラジン酸法	24.0〜34.0 秒	29 血液	1	11	
318 2B100	フィブリノーゲン フィブリノゲン定量			トロンビン時間法	149〜341 mg/dL	23 血液	1	11	
213 2B120	血中FDP フィブリン・フィブリノゲン分解産物(FDP)定量			LA	5.0以下 μg/mL	80 血液	1	11	
214 2B120	尿中FDP フィブリン・フィブリノゲン分解産物(FDP)(尿)	9	尿 2.0 冷	LPIA	100以下 ng/mL	72 尿・便	3〜4	02	
294 2B140	Dダイマー Dダイマー定性	4 3.2%クエン酸Na:血液=1:9 遠心 91 注1	血漿 0.5 凍	LA	(−)	121 血液	1	11	
2502 2B140	Dダイマー精密 Dダイマー		血漿 0.5 凍	LA	1.0以下 μg/mL	127 血液	1	11	
562 2B200	アンチトロンビン活性(AT) アンチトロンビン活性		血漿 0.5 凍	合成基質法	81〜123 %	70 血液	3〜4	02	2週
840 2B260	プラスミノーゲン活性(PLG) プラスミノゲン活性		血漿 0.5 凍	合成基質法	71〜128 %	100 血液	3〜4	02	2週

注1:3.2%クエン酸ナトリウム液0.2mL入り容器に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和後、1500Xgで15分間遠心分離し、血漿を凍結してください。(19頁「遠心力の換算表」参照)

INRの算出方法

$$INR = PR^{ISI}$$

$$PR: \frac{\text{患者血漿の凝固時間(秒)}}{\text{正常標準血漿の凝固時間(秒)}}$$

ISI:International Sensitivity Index,国際感受性指数

出血凝固検査

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
397 2B270	アンチプラスミン活性(α2PI) プラスミンインヒビター(アンチプラスミン)	4 3.2%クエン酸Na:血液=1:9 遠心 91 注1	血漿 0.5 凍	合成基質法	85～118 %	128 血液	3～4	02	2週
555 2B280	α2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PIC) プラスミン・プラスミン インヒビター複合体(PIC)		血漿 0.3 凍	LPIA	0.8未満 μg/mL	150 血液	3～4	02	
291 2B210	トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)		血漿 0.5 凍	CLEIA	3.0未満 ng/mL	171 血液	3～4	02	
918 2B700	プロテインC抗原量 プロテインC抗原		血漿 0.3 凍	LPIA	62～131 %	226 血液	3～6	02	2週
491 2B700	プロテインC活性		血漿 0.5 凍	合成基質法	64～135 %	227 血液	3～4	02	2週
497 2B710	プロテインS活性		血漿 0.4 凍	凝固時間法	M 67～164 F 56～126 %	163 血液	3～5	04	
2064 2B711	プロテインS遊離型抗原量 プロテインS抗原		血漿 0.3 凍	LA	M 74～132 F 60～127 %	154 血液	3～4	02	2週
988 2B110	可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC) フィブリンモノマー複合体定性		血漿 0.5 凍	エタノールゲル化	(－)	93 血液	1	11	
2751 2B110	可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)定量 フィブリンモノマー複合体		血漿 0.4 凍	LA	6.1以下 μg/mL	215 血液 ※1	3～6	02	2カ月
2065 2B730	トロンボモジュリン(TM) 〈血清〉	1 遠心 91	血清 0.3 凍	CLEIA	12.1～24.9 U/mL	204 血液 ※2	3～6	02	1カ月
3065 2B730	トロンボモジュリン(TM) 〈血漿〉	4 遠心 91 注1	血漿 0.3 凍	CLEIA	8.7～22.7 U/mL	204 血液 ※2	3～6	02	1カ月

注1：3.2%クエン酸ナトリウム液0.2mL入り容器に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和後、1500Xgで15分間遠心分離し、血漿を凍結してください。(19頁「遠心力の換算表」参照)

※1 ア.フィブリンモノマー複合体は、DIC、静脈血栓症又は肺動脈血栓塞栓症の診断及び治療経過の観察のために実施した場合に算定する。
イ.トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)、プロトロンビンフラグメントF1+2及びフィブリンモノマー複合体のうちいずれか複数を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※2 トロンボモジュリンは、膠原病の診断若しくは経過観察又はDIC若しくはそれに引き続いて起こるMOF観察のために測定した場合に限り算定できる。

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
出血凝固検査										
2072 2B350	凝固因子活性	第Ⅱ因子	4 遠心 91 注1	血漿 0.4 凍	凝固時間法	75～135 %	223 血液	3～5	04	3週
2073 2B370	凝固因子活性	第Ⅴ因子	4 遠心 91 注1	血漿 0.4 凍	凝固時間法	70～135 %	223 血液	3～5	04	3週
2074 2B380	凝固因子活性	第Ⅶ因子	4 遠心 91 注1	血漿 0.4 凍	凝固時間法	75～140 %	223 血液	3～5	04	3週
2075 2B390	凝固因子活性	第Ⅷ因子	4 遠心 91 注1	血漿 0.4 凍	凝固時間法	60～150 %	223 血液	3～5	04	3週
2076 2B400	凝固因子活性	第Ⅸ因子	4 遠心 91 注1	血漿 0.4 凍	凝固時間法	70～130 %	223 血液	3～5	04	3週
2077 2B410	凝固因子活性	第Ⅹ因子	4 遠心 91 注1	血漿 0.4 凍	凝固時間法	70～130 %	223 血液	3～5	04	3週
2078 2B420	凝固因子活性	第Ⅺ因子	4 遠心 91 注1	血漿 0.4 凍	凝固時間法	75～145 %	223 血液	3～5	04	3週
2079 2B430	凝固因子活性	第Ⅻ因子	4 遠心 91 注1	血漿 0.4 凍	凝固時間法	50～150 %	223 血液	3～5	04	3週
356 2B440	凝固因子活性	第XIII因子	4 遠心 91 注1	血漿 0.4 凍	合成基質法	70～140 %	223 血液	3～5	04	3週
2080 2B460	凝固抑制因子	第Ⅷ因子	4 遠心 91 注1	血漿 1.0 凍	ベセスダ法	ベセスダ U/mL 検出せず	144 血液 ※1	3～5	04	
2081 2B470	凝固抑制因子	第Ⅸ因子	4 遠心 91 注1	血漿 1.0 凍	ベセスダ法	ベセスダ U/mL 検出せず	144 血液 ※1	3～5	04	3週
2082 2B480	フォン・ウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター) von wille brand因子(VWF)活性		4 遠心 91 注1	血漿 0.5 凍	固定血小板凝集法	60～170 %	126 血液	3～5	04	3週
558 2B450	フォン・ウィルブランド因子定量(第Ⅷ因子様抗原) von wille brand因子(VWF)抗原		4 遠心 91 注1	血漿 0.5 凍	LA	血液型O型: 42.0～140.8 % 血液型A,B,AB型: 66.1～176.3	147 血液	3～6	02	2週

注1:3.2%クエン酸ナトリウム液0.2mL入り容器に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和後、1500Xgで15分間遠心分離し、血漿を凍結してください。(19頁「遠心力の換算表」参照)

※1　凝固因子インヒビターは、第Ⅷ因子又は第Ⅸ因子の定量測定を行った場合に、それぞれの測定1回につきこの項で算定する。

1 汎用容器

4 凝固検査容器

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
尿検査										
511 1A020	尿一般定性検査	糖	5	尿 5.0 冷	試験紙法	(−)	26 (院内) ※1	1	11	
511 1A010		蛋白				(−)				
511 1A040		ウロビリノーゲン				(±)				
511 1A100		潜血				(−)				
511 1A035		pH				5.0〜7.5 ★1				
529 1A055	ビリルビン定性		5	尿 5.0 冷	試験紙法	(−)	26 (院内) ※1	1	11	
552 1A060	ケトン体定性		5	尿 5.0 冷	試験紙法	(−)	26 (院内) ※1	1	11	
570 1A030	比重		5	尿 5.0 冷	屈折率法	1.006〜1.022	26 (院内) ※1	1	11	
512 1A015	蛋白定量 尿蛋白		5	蓄尿又は部分尿 5.0 冷	ピロガロールレッド法	0.02〜0.06 g/day	7 尿・便	1	11	
516 1A025	糖定量 尿グルコース		5	蓄尿又は部分尿 5.0 冷	酵素法	40以下 mg/dL 0.13〜0.50 g/day	9 尿・便	1	11	
513 1A105	沈渣 尿沈渣(鏡検法)		5	尿 10.0 冷	鏡検法		27 (院内) 尿・便 ※2	1	11	
207 4F080	妊娠反応定性 ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定性		5	尿 5.0 冷	ICA		55 生Ⅱ	1	11	

★1 基準値上限は、臨床検査法提要33版、基準値下限は試験紙法測定下限を参照しています。

※1 尿中一般物質定性半定量検査を実施した場合は、当該検査に係る判断料は算定できない。
尿中一般物質定性半定量検査は当該検査の対象患者の診療を行っている保険医療機関内で実施した場合にのみ算定できるものであり、委託契約等に基づき当該保険医療機関外で実施された検査の結果報告を受けるのみの場合は算定できない。ただし、委託契約等に基づき当該保険医療機関内で実施された検査について、その結果が当該保険医療機関に対して速やかに報告されるような場合は、所定点数を算定できる。

※2 尿沈渣(鏡検法)は、尿中一般物質定性半定量検査若しくは尿中特殊物質定性定量検査において何らかの所見が認められ、又は診察の結果からその実施が必要と認められて実施した場合に算定すること。
尿沈渣(鏡検法)は当該検査の対象患者の診療を行っている保険医療機関内で実施した場合にのみ算定できるものであり、委託契約等に基づき当該保険医療機関外で実施された検査の結果報告を受けるのみの場合は算定できない。ただし、委託契約等に基づき当該保険医療機関内で実施された検査について、その結果が当該保険医療機関に速やかに報告されるような場合は、所定点数により算定する。
尿路系疾患が強く疑われる患者について、診療所が尿沈渣(鏡検法)を衛生検査所等に委託する場合であって、当該衛生検査所等が採尿後4時間以内に検査を行い、検査結果が速やかに当該診療所に報告された場合は、所定点数を算定できる。
当該検査と尿沈渣(フローサイトメトリー法)を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
糞便検査										
522 1B010	虫卵	塗抹	20	糞便 親指頭大 冷	直接塗抹法	(−)	20 尿・便	1	11	
523 1B015	虫卵	集卵	20	糞便 親指頭大 冷	集卵法	(−)	15 尿・便	1	11	
780 1B025	虫卵	蟯虫卵	21	セロテープ 冷	セロテープ法	(−)	20 尿・便	1	11	
309 1B040	ヘモグロビン 糞便中ヘモグロビン定性		19	糞便 冷	LA	(−)	37 尿・便	1	11	
360 1B040	ヘモグロビン2日法		19	糞便 冷	LA	(−)	37×2 尿・便	1	11	
2669 1B040	ヘモグロビン3日法		19	糞便 冷	LA	(−)	37×3 尿・便	1	容器を1つの袋に入れて、ご提出ください。 11	
370 1B040	ヘモグロビン定量 糞便中ヘモグロビン		19	糞便 冷	LA	130未満(−) ng/mL	41 尿・便	1	11	
372 1B040	ヘモグロビン定量2日法		19	糞便 冷	LA	130未満(−) ng/mL	41×2 尿・便	1	11	
2670 1B040	ヘモグロビン定量3日法		19	糞便 冷	LA	130未満(−) ng/mL	41×3 尿・便	1	容器を1つの袋に入れて、ご提出ください。 11	
352 5E110	クロストリジオイデス・ディフィシルGDH抗原・毒素検出 クロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性		20	糞便 1g 冷 注1	イムノクロマトグラフィー法	GDH抗原(−) 毒素 (−)	80 免疫	3〜4	ToxinA・ToxinBの区別はできません。 02	3日
2904 6B642	クロストリジオイデス・ディフィシル毒素遺伝子検出 クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出		18	糞便 1g 冷	リアルタイムPCR	検出せず	450 微生 ※1	3〜4	必ず専用検体としてご提出ください。コンタミネーション防止などのため、検体採取後は容器を開栓しないでください。 注2 02	
594 1B080	赤痢アメーバ シスト		20	糞便 親指頭大 室	ホルマリン・エーテル集卵法(ヨード染色)	(−)	67 微生	1	11	

注1：液状便で1mL、固形便で小指頭大
注2：Toxin B遺伝子、Binary toxin遺伝子、変異型tcdC遺伝子の全てが検出された場合に、027型 様株と判定されます。

※1 ア.クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出は、以下の(イ)から(ハ)をいずれも満たす入院中の患者に対して実施した場合に限り算定する。
(イ)クロストリジオイデス・ディフィシル感染症を疑う場合であって、クロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性において、クロストリジオイデス・ディフィシル抗原陽性かつクロストリジオイデス・ディフィシルトキシン陰性であること。
(ロ)2歳以上でBristol Stool Scale 5以上の下痢症状があること。
(ハ)24時間以内に3回以上、又は平常時より多い便回数があること。
イ.本検査は、関連学会の定める指針に沿って実施した場合に限り算定できる。なお、下痢症状並びに本検査を行う前のクロストリジオイデス・ディフィシル抗原及びクロストリジオイデス・ディフィシルトキシンの検査結果について診療録に記載すること。

5 滅菌スピッツ


18 CD毒素遺伝子検出用容器


19 便ヘモグロビン容器


20 採便容器


21 セロテープ


項目コード 統一コード	検査項目		容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
髄液検査										
531 1C030	髄液一般検査	細胞数	67	髄液 2.0 冷	Fuchs Rosenthal法	/μL 5以下(乳児以降)	62 尿・便	1	11	
531 1C035		細胞種類			鏡検	%				
533 1C010	蛋白定量		67	髄液 1.0 冷	ピロガロールレッド法	mg/dL 10～35(15歳以上)	11 生I	1	11	
532 1C015	糖定量		67	髄液 0.5 冷	酵素法	mg/dL 50～80	11 生I	1	11	
534 3H020	クロール定量		67	髄液 0.5 冷	電極法	mmol/L 118～130	11 生I	1	11	

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
穿刺液(胸水・腹水)検査									
543 1Z010	蛋白定量	68 または 69	穿刺液 5~10 冷	ビューレット法	g/dL 滲出液　4以上	11 生I	1	11	
541 1Z020	比重	68 または 69	穿刺液 5~10 冷	比重計		※1	1	11	
542 1Z035	リバルタ反応	68 または 69	穿刺液 5~10 冷	リバルタ反応	滲出液(+) 漏出液(−)	※1	1	11	
544 1Z030	細胞種類	68 または 69	穿刺液 5~10 冷	鏡検 (メイギムザ染色)		※1	1	11	
関節液検査									
2558 1Z505	結晶	66	関節液 2.0 冷	鏡検(偏光顕微鏡)	尿酸Na結晶(−) ピロリン酸Ca結晶(−)	50 尿・便 ※2	1	11	
精液検査									
734 1Z605	精液一般検査	量	15	精液全量 室	肉眼的測定	mL 2.0以上	70 尿・便	1	検体の採取については153頁をご参照ください。 11	
734 1Z615	精液一般検査	精子数	15	精液全量 室	鏡検法	$\times10^6$/mL 20以上	70 尿・便	1	検体の採取については153頁をご参照ください。 11	
734 1Z625	精液一般検査	運動率	15	精液全量 室	鏡検法	%	70 尿・便	1	検体の採取については153頁をご参照ください。 11	
734 1Z620	精液一般検査	正常形態率	15	精液全量 室	鏡検法	% 15以上	70 尿・便	1	検体の採取については153頁をご参照ください。 11	

※1　胸水・腹水採取の所定点数には、採取及び簡単な液検査(肉眼的性状観察、リバルタ反応、顕微鏡による細胞の数及び種類の検査)の費用が含まれる。なお、塗抹染色顕微鏡検査を行った場合は、排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査により、血液化学検査を行った場合は、穿刺液・採取液検査のその他により、細胞診検査を行った場合は、細胞診により算定する。

※2　関節液検査については、関節水腫を有する患者であって、結晶性関節炎が疑われる者に対して実施した場合、一連につき1回に限り算定する。なお、当該検査と排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

5 滅菌スピッツ

15 採痰容器

66 関節液検査容器

67 髄液検査容器

68 胸水検査容器

69 腹水検査容器

一般細菌検査

項目コード 統一コード	検査項目		検査材料	容器	検査方法	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
420 6A010 6A105	塗抹		冷 尿・喀痰/その他	129頁参照	グラム染色法	67 微生	1～2	KOH法は皮膚、毛、爪の塗抹で実施します。 11	1日
			冷 皮膚・毛・爪		KOH法（白癬菌等）				
421 6B010	培養・同定	口腔・気道・呼吸器	冷 喀痰・咽頭液/その他		初代分離に用いる培地は、目的菌、検査材料によって各種培地を使用。	180 微生	3～5	11	
422 6B010		消化器	冷 糞便・胆汁・胃液/その他			200 微生	3～5	11	
423 6B010		泌尿器・生殖器	冷 尿・分泌物/その他			190 微生	3～5	11	
424 6B010		血液	室 血液 3～10mL（範囲） 血液 8～10mL（最適） 小児血液 1～ 3mL			225 微生 ※1	2～9	血液ボトル（嫌気用）は、自動的に嫌気培養を行います。 11	
		穿刺液	室 髄液 冷 穿刺液			225 微生	3～5	11	
425 6B010		その他の部位	冷 膿・耳漏・分泌物/その他			180 微生	3～5	11	
426 6B010		簡易培養	冷 尿 5～10mL 生殖器分泌物、皮膚、糞便		平板法（Streak法） ダイアスライド	60 微生	3～15	生殖器分泌物はカンジダ、便はサルモネラ・赤痢、皮膚はカンジダ・白癬菌のみ検査可能です。 11	
427 6B010	定量培養		冷 尿 10mL		平板法（Streak法） ダイアスライド		3～4	採尿当日ご依頼のみとなります。 11	1日
428 6B010	嫌気性培養		冷 膿・分泌物、血液・穿刺液・胆汁、その他		HK半流動培地 BHK寒天培地 他	122 加算 微生	3～10	11	1日

検査項目によって翌日の追加依頼ができない場合がございます。
検体の保存期間は依頼日から4日とし、菌株保存期間は10日としています。
所要日数を超える場合は、中間報告を行います。

※1 血液を2か所以上から採取した場合に限り、血液又は穿刺液を2回算定できる。この場合、嫌気性培養加算は2回算定できる。

一般細菌検査

項目コード 統一コード	検査項目		検査材料	容器	検査方法	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
949 952 6C010	薬剤感受性検査	1菌種	培養同定に同じ	129頁参照	微量液体希釈法 (淋菌はディスク拡散法)	185 微生 ※1	3 ～ 4	「系統別分類表」をご参照ください。 (122,123頁) 11	
950 953 6C010		2菌種	培養同定に同じ		微量液体希釈法 (淋菌はディスク拡散法)	240 微生 ※1	3 ～ 4	「系統別分類表」をご参照ください。 (122,123頁) 11	
951 954 6C010		3菌種以上	培養同定に同じ		微量液体希釈法 (淋菌はディスク拡散法)	310 微生 ※1	3 ～ 4	「系統別分類表」をご参照ください。 (122,123頁) 11	
903 6C050	酵母様真菌薬剤感受性検査		培養同定に同じ		微量液体希釈法	150 微生 ※2	6 ～ 7	対象薬剤は下表をご参照ください。 11	
415 6B830	大腸菌血清型別		冷 糞便		血清抗体法	175 免疫 ※3	3 ～ 5	11	
416 5E115	腸管出血性大腸菌 大腸菌ベロトキシン定性		大腸菌菌株		RPLA	184 微生 ※4	2 ～ 4	11	
406 6B056	黄色ブドウ球菌 ペニシリン結合蛋白2'定性 (PBP2')		黄色ブドウ球菌菌株		LA	55 微生 ※5	3 ～ 4	MRSAの確認に有用。 11	

※1　細菌薬剤感受性検査は、結果として菌が検出できず実施できなかった場合においては算定しない。
※2　酵母様真菌薬剤感受性検査は、深在性真菌症（カンジダ、クリプトコックスに限る。）であり、原因菌が分離できた患者に対して行った場合に限り算定する。
※3　大腸菌血清型別は、細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、及び大腸菌ベロトキシン定性により毒素が確認又は腸管出血性大腸菌用の選択培地に菌の発育が確認され、並びに血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。この場合において細菌培養同定検査の費用は別に算定できない。
※4　大腸菌ベロトキシン定性は、細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。
※5　ア.黄色ブドウ球菌ペニシリン結合蛋白2'（PBP2'）定性は、血液培養により黄色ブドウ球菌が検出された患者又は免疫不全状態であって、MRSA感染症が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。
イ.本検査とブドウ球菌メチシリン耐性遺伝子検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

酵母様真菌薬剤感受性

略語	薬剤名
MCFG	ミカファンギン
AMPH-B	アムホテリシンB
5-FC	フルシトシン
FLCZ	フルコナゾール
ITCZ	イトラコナゾール
VRCZ	ボリコナゾール
MCZ	硝酸ミコナゾール
CPFG	カスポファンギン

特殊目的菌検査

項目コード 統一コード	検査項目		検査材料	容器	検査方法	実施料判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	培養・同定	百日咳菌	冷 咽頭粘液・後鼻腔粘液	129頁参照	ボルデジャング寒天培地 35℃培養	★ 微生	5 〜	特殊な培地を用いますので、培地代として別途、料金設定をさせていただきます。	
		カンピロバクター	冷 糞便		CCDA寒天培地 35℃・42℃微好気培養	★ 微生	3 〜		1 日
		淋菌	室 尿・分泌物／その他		サイアマーチン寒天培地 35℃CO_2培養	★ 微生	4 〜	11	1 日
		髄膜炎菌	室 髄液・血液		サイアマーチン寒天培地または 血液培地、35℃CO_2培養	★ 微生	3 〜	11	1 日
		C.ディフィシール	冷 糞便		CCMA寒天培地 35℃嫌気培養	★ 微生	3 〜	嫌気性培養を自動的に行います。 11	1 日
		ウエルシュ菌	冷 糞便		嫌気性分離用培地 35℃嫌気培養	★ 微生	3 〜	嫌気性培養を自動的に行います。 11	1 日
		アクチノマイセス（放線菌）	冷 全材料		血液寒天培地など 35℃嫌気培養	★ 微生	3 〜	嫌気性培養を自動的に行います。 11	1 日
		ノカルジア（放線菌）	冷 全材料		サブロー寒天培地など	★ 微生	3 〜	11	
		血清型別同定（サルモネラ・シゲラ・大腸菌血清型別）	冷 糞便から分離した菌株		診断用免疫血清	★ 微生	3 〜	11	
		ヘリコバクター・ピロリ	冷 胃組織		ヘリコバクター寒天培地 35℃微好気培養	★ 微生	4 〜	専用輸送培地を予約ください。 11	
		MRSA	冷 全材料		CLSI法に基づく検査法	★ 微生	3 〜	特殊な培地を用いますので、培地代として別途、料金設定をさせていただきます。 11	
		MRSAのみ	冷 全材料		CLSI法に基づく検査法	★ 微生	3 〜	スクリーニングに適しています。 11	
		黄色ブドウ球菌	冷 全材料		マンニット食塩卵黄寒天培地など	★ 微生	3 〜	11	
		VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）	冷 全材料		CLSI法に基づく検査法	★ 微生	3 〜	VRE判定には、薬剤感受性試験のご依頼が必要です。 11	
		カンジダ	冷 全材料		サブロー寒天培地	★ 微生	3 〜	11	
		クリプトコッカス	冷 全材料		サブロー寒天培地	★ 微生	4 〜	11	

目的菌によって翌日の追加依頼ができない場合がございます。
検体の保存期間は依頼日から4日とし、菌株保存期間は10日としています。

★採取部位によって実施料が異なります。

特殊目的菌検査

項目コード 統一コード	検査項目		検査材料	容器	検査方法	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	培養・同定	白癬菌	冷 皮膚・毛・爪	129頁参照	サブロー寒天培地、マイコセル寒天培地25℃培養	★微生	14～	11	
		癜風菌（マラセジア）	冷 皮膚		サブロー寒天培地	★微生	14～	11	
		アスペルギルス	冷 喀痰・耳ろう		サブロー寒天培地	★微生	3～	11	
		真菌	冷 喀痰など		サブロー寒天培地	★微生	3～	カンジダ、アスペルギルスなど（白癬菌除く） 11	
		赤痢菌	冷 糞便		SS寒天培地など	★微生	3～	11	
		サルモネラ（チフス・パラチフス）	冷 糞便・血液など		SS寒天培地など	★微生	3～	11	
		腸炎ビブリオコレラ菌	室 糞便		TCBS寒天培地など	★微生	3～	11	
		腸管出血性大腸菌（O157含む）	冷 糞便		CT-SMAC寒天培地など	★微生	3～	11	
		セレウス菌	冷 糞便		血液寒天培地など	★微生	3～	11	
		溶連菌	冷 咽頭粘液・膿・血液など		血液寒天培地	★微生	3～	11	
		肺炎球菌	冷 呼吸器・髄液・血液など		血液寒天培地	★微生	3～	11	
		B群レンサ球菌	冷 生殖器分泌物・血液など		血液寒天培地	★微生	3～	11	
		インフルエンザ菌	冷 呼吸器・髄液・血液など		チョコレート寒天培地	★微生	3～	11	
		ガードネラ	冷 尿・生殖器分泌物／その他		血液寒天培地	★微生	3～	11	
		トリコモナス	室 尿・生殖器分泌物／その他		鏡検にて確認	★微生		11	1日
		GBS健診（B群レンサ球菌のみ）	冷 生殖器分泌物（膣・直腸内検体）		GBS半流動培地		2～	容器は必ずGBS半流動培地をご使用ください。 11	

一般細菌検査　報告可能な菌種

目的菌	分類	呼吸器	消化器（臨床便）	泌尿器	生殖器
明示（チェック）しなくても報告可能な菌種	腸内細菌 （グラム陰性桿菌）	大腸菌 肺炎桿菌 プロテウス セラチア エンテロバクター その他腸内細菌	赤痢菌 サルモネラ菌 チフス・パラチフス菌 エルシニア属 プレジオモナス属	大腸菌 肺炎桿菌 プロテウス セラチア エンテロバクター その他腸内細菌 サルモネラ菌 チフス・パラチフス菌	大腸菌 肺炎桿菌 プロテウス セラチア エンテロバクター その他腸内細菌
	その他 グラム陰性桿菌	アエロモナス属 インフルエンザ菌	アエロモナス属 カンピロバクター 腸炎ビブリオ コレラ菌 ビブリオ属	アエロモナス属 ▲インフルエンザ菌 ▲ガードネラ	アエロモナス属 インフルエンザ菌 ガードネラ
	ブドウ糖非発酵菌 （グラム陰性桿菌）	緑膿菌 ブドウ糖非発酵菌	▲緑膿菌 ▲ブドウ糖非発酵菌	緑膿菌 ブドウ糖非発酵菌	緑膿菌 ブドウ糖非発酵菌
	グラム陽性球菌	肺炎球菌 A群溶連菌 B群溶連菌 黄色ブドウ球菌 腸球菌	▲黄色ブドウ球菌 ▲腸球菌	▲肺炎球菌 A群溶連菌 B群溶連菌 黄色ブドウ球菌 腸球菌	肺炎球菌 A群溶連菌 B群溶連菌 黄色ブドウ球菌 腸球菌
	グラム陰性球菌	M.カタラーリス			▲髄膜炎菌
	真菌	▲カンジダ属	▲カンジダ属	▲カンジダ属	▲カンジダ属
明示が必要な菌種		淋菌 VRE	腸管出血性大腸菌 VRE C.ディフィシル（嫌気）	淋菌 VRE	淋菌 VRE トリコモナス

目的菌	分類	血液・髄液	耳漏・眼脂	膿・その他	皮膚・毛・爪
明示（チェック）しなくても報告可能な菌種	腸内細菌 （グラム陰性桿菌）	大腸菌 肺炎桿菌 プロテウス セラチア エンテロバクター その他腸内細菌 サルモネラ菌 チフス・パラチフス菌 プレジオモナス属	大腸菌 肺炎桿菌 プロテウス セラチア エンテロバクター その他腸内細菌	大腸菌 肺炎桿菌 プロテウス セラチア エンテロバクター その他腸内細菌 サルモネラ菌 チフス・パラチフス菌	
	その他 グラム陰性桿菌	ビブリオ属 アエロモナス属 インフルエンザ菌	アエロモナス属 インフルエンザ菌	▲ビブリオ属 アエロモナス属	
	ブドウ糖非発酵菌 （グラム陰性桿菌）	緑膿菌 ブドウ糖非発酵菌	緑膿菌 ブドウ糖非発酵菌	緑膿菌 ブドウ糖非発酵菌	
	グラム陽性桿菌	リステリア			
	グラム陽性球菌	肺炎球菌 A群溶連菌 B群溶連菌 黄色ブドウ球菌 腸球菌	黄色ブドウ球菌 腸球菌	A群溶連菌 B群溶連菌 黄色ブドウ球菌 腸球菌	
	グラム陰性球菌	髄膜炎菌			
	真菌	カンジダ属 ▲クリプトコッカス	▲カンジダ属	▲カンジダ属	カンジダ属 白癬菌
明示が必要な菌種		VRE	VRE	VRE 白癬菌	

▲：目的菌を明示した方が検出率が上がる菌種

一般細菌検査　耐性菌情報一覧

耐性菌名	報告書の表記
ペニシリン耐性肺炎球菌（髄膜炎以外の基準）	PISP（ペニシリン中等度耐性肺炎球菌：PCG 4）を認めます。
	PRSP（ペニシリン高度耐性肺炎球菌：PCG ≧8）を認めます。
メチシリン耐性コアグラーゼ陰性ブドウ球菌	MR-CNS：メチシリン耐性コアグラーゼ陰性ブドウ球菌
VCM耐性黄色ブドウ球菌	バンコマイシンに対し、中等度耐性を示すMRSAを認めます。
	バンコマイシンに対し、高度耐性を示すMRSAを認めます。
VCM耐性腸球菌	バンコマイシンに対し、中等度耐性を示す腸球菌を認めます。
	バンコマイシンに対し、高度耐性を示す腸球菌を認めます。
多剤耐性緑膿菌	多剤耐性緑膿菌を認めます。（IPM≧16、AMK≧32、CPFX≧4）
カルバペネム耐性緑膿菌	カルバペネム耐性緑膿菌を認めます。（IPM≧16）
多剤耐性アシネトバクター	多剤耐性アシネトバクターを認めます。（IPM≧16、AMK≧32、CPFX≧4）
カルバペネム耐性腸内細菌	カルバペネム耐性腸内細菌（MEPM≧2）を認めます。
フルオロキノロン耐性大腸菌	フルオロキノロン耐性大腸菌を認めます。

耐性菌名		報告書の表記
第三世代セファロスポリン耐性	大腸菌	第三世代セファロスポリンCAZ耐性大腸菌を認めます。
	肺炎桿菌	第三世代セファロスポリンCAZ耐性肺炎桿菌を認めます。
ESBL産生菌	大腸菌	ESBL（基質拡張型β－ラクタマーゼ）産生大腸菌を認めます。
	肺炎桿菌	ESBL（基質拡張型β－ラクタマーゼ）産生肺炎桿菌を認めます。
	クレブシェラ・オキシトカ	ESBL（基質拡張型β－ラクタマーゼ）産生クレブシェラを認めます。
	プロテウス	ESBL（基質拡張型β－ラクタマーゼ）産生プロテウスを認めます。
メタロβラクタマーゼ産生菌	緑膿菌	メタロβ-ラクタマーゼ産生緑膿菌を認めます。
	セラチア	メタロβ-ラクタマーゼ産生セラチアを認めます。
	アシネトバクター・バウマニー	メタロβ-ラクタマーゼ産生アシネトバクターを認めます。
	大腸菌	メタロβ-ラクタマーゼ産生大腸菌を認めます。
	肺炎桿菌	メタロβ-ラクタマーゼ産生肺炎桿菌を認めます。
	クレブシェラ・オキシトカ	メタロβ-ラクタマーゼ産生クレブシェラを認めます。
	プロテウス	メタロβ-ラクタマーゼ産生プロテウスを認めます。

腸管出血性大腸菌検査の進め方

材料：糞便・消化管など
目的菌：腸管出血性大腸菌

培養・同定
〔腸管出血性大腸菌用選択培地〕
細菌培養同定検査　200点（微生物）

大腸菌発育

- **陰　性**
  細菌培養同定検査　200点（微生物）
- **陽　性**
  ベロトキシン産生
  大腸菌ベロトキシン定性　184点（微生物）※1
  - **陰　性**
    細菌培養同定検査　200点（微生物）
    大腸菌ベロトキシン定性　184点（微生物）
    計　384点
  - **陽　性**
    腸管出血性大腸菌
    大腸菌血清型別
    大腸菌ベロトキシン定性　184点（微生物）
    大腸菌血清型別　175点（免疫）
    計　359点※2

※1　大腸菌ベロトキシン定性は、細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。
※2　大腸菌血清型別は、細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、及び大腸菌ベロトキシン定性により毒素が確認又は腸管出血性大腸菌用の選択培地に菌の発育が確認され、並びに血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。この場合において細菌培養同定検査の費用は別に算定できない。

一般細菌薬剤感受性検査　菌種別薬剤セット表

系　統	コード	略語	一般名	腸内細菌	緑膿菌	インフルエンザ菌	M・カタラーリス	肺炎球菌	連鎖球菌	ブドウ球菌	腸球菌	カンピロバクター	嫌気性菌	淋菌	ヘリコバクターピロリ
ペニシリン系	131	PCG	ベンジルペニシリン					◎	◎	●	●		◎		
	133	MPIPC	オキサシリン							◎	◎				
	134	ABPC	アンピシリン	◎	◎	◎	◎	●	●	◎	◎		◎		
	135	AMPC	アモキシシリン	●	●	●	●	●	●	●	●				◎
	141	PIPC	ピペラシリン	◎	◎	●	●	●	●	●	●		◎		
β−ラクタマーゼ阻害薬配合剤	136	ACV	クラブラン酸・アモキシシリン	●	●	●	●	●	●	●	●		◎	○	
	138	T/P	タゾバクタム/ピペラシリン	◎	◎	●	●	●	●	●	●		◎		
	143	SBTPC	スルタミシリン	●	●	●	●	●	●	●	●				
	155	S/A	スルバクタム/アンピシリン	◎	◎	◎	◎	●	●	◎	◎				
	186	S/C	スルバクタム/セフォペラゾン	◎	◎	●	●	●	●	●	●		◎		
	189	T/C	タゾバクタム/セフトロザン	●	●	●	●	●	●						
第一世代セフェム系（経口）	161	CEX	セファレキシン			●	●	●	●	●	●				
	165	CCL	セファクロル	●	●	◎	◎	◎	◎	●	●				
第二世代セフェム系（経口・注射）	164	CXM	セフロキシム	●	●	●	●	●	●	●	●				
	167	CTM	セフォチアム	●	●	◎	◎	◎	◎	●	●				
第三世代セフェム系（経口）	178	CPDX	セフポドキシム	◎	◎	◎	◎	◎	◎	●	●				
	179	CFIX	セフィキシム			●	●	●	●	●	●			○	
	188	CFTM	セフテラム	●	●	●	●	●	●	●	●				
	201	CFDN	セフジニル	●	●	◎	◎	◎	◎	●	●				
	205	CDTR	セフジトレン	●	●	◎	◎	◎	◎	●	●				
	208	CFPN	セフカペン	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎		
第一世代セフェム系	162	CEZ	セファゾリン	◎	◎	●	●	●	●	◎	◎				
	193	CET	セファロチン			●	●	●	●	●	●				
	195	CXD	セフロキサジン	●	●	●	●	●	●	●	●				
セファマイシン系	163	CFX	セフォキシチン							●	●				
	166	CMZ	セフメタゾール	◎	◎	●	●	●	●	◎	◎		◎		
	180	CMNX	セフミノクス			●	●	●	●	●	●				
第三世代セフェム系	168	CTX	セフォタキシム	●	●	◎	◎	◎	◎	●	●		◎		
	169	CPZ	セフォペラゾン	●	●	●	●	●	●	●	●				
	170	CZX	セフチゾキシム	●	●	●	●	●	●	●	●				
	171	CMX	セフメノキシム	●	●	●	●	●	●	●	●				
	173	CAZ	セフタジジム	◎	◎	●	●	●	●	●	●				
	174	CTRX	セフトリアキソン	◎	◎	◎	◎	◎	◎	●	●		◎	○	
第四世代セフェム系	206	CFPM	セフェピム	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
	203	CPR	セフピロム			●	●			●	●				
	207	CZOP	セフォゾプラン	●	●	●	●	●	●	●	●				
モノバクタム系	184	AZT	アズトレオナム	◎	◎	◎	◎								
オキサセフェム系	181	LMOX	ラタモキセフ	●	●	●	●	●	●	●	●				
	182	FMOX	フロモキセフ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎		
カルバペネム系	187	IPM	イミペネム	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	333	MEPM	メロペネム	◎	◎	◎	◎	●	●	●	●		◎		
	337	BIPM	ビアペネム	●	●	◎	◎	●	●	●	●				
	338	DRPM	ドリペネム	●	●	●	●	●	●	●	●				

◎：MICセット基本薬剤　●：報告可能薬剤　○：淋菌はセンターセット薬剤

一般細菌薬剤感受性検査菌種別薬剤セットの特徴
●菌種により薬剤を選択し感受性検査を行います。
●CLSI（Clinical and Laboratory Standards Institute）に準拠した微量液体希釈法で実施します。淋菌はディスク拡散法で実施します。

一般細菌薬剤感受性検査　菌種別薬剤セット表

系　統	コード	略語	一般名	腸内細菌	緑膿菌	インフルエンザ菌	M・カタラーリス	肺炎球菌	連鎖球菌	ブドウ球菌	腸球菌	カンピロバクター	嫌気性菌	淋菌	ヘリコバクターピロリ
経口カルバペネム系	339	TBPM	テビペネム	●	●	●	●	●	●	●	●				
ペネム系	334	FRPM	ファロペネム	◎	◎	◎	◎	●	●	●	●				
マクロライド系	210	AZM	アジスロマイシン			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	
	211	EM	エリスロマイシン			●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	214	CAM	クラリスロマイシン			◎	◎	◎	◎	●	●	◎			◎
	220	RXM	ロキシスロマイシン			●	●	●	●	●	●				
テトラサイクリン系	221	TC	テトラサイクリン	●	●	●	●	●	●	●	●				
	222	DOXY	ドキシサイクリン	●	●	●	●	●	●	●	●				
	223	MINO	ミノサイクリン	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
アミノグリコシド系	231	KM	カナマイシン	●	●					●	●				
	232	GM	ゲンタマイシン	◎	◎	●	●	●	●	◎	◎				
	233	DKB	ジベカシン	●	●	●	●	●	●	●	●				
	234	TOB	トブラマイシン	●	●	●	●	●	●	●	●				
	235	AMK	アミカシン	◎	◎	●	●			●	●				
	237	ISP	イセパマイシン	●	●	●	●	●	●	●	●				
	240	ABK	アルベカシン							◎	◎				
リンコシン系	251	LCM	リンコマイシン					●	●	●	●				
	252	CLDM	クリンダマイシン			●	●	◎	◎	◎	◎		◎		
ニューキノロン系	256	OFLX	オフロキサシン	●	●	●	●	●	●	●	●				
	257	CPFX	シプロフロキサシン	◎	◎	◎	◎	●	●	●	●	◎			
	258	NFLX	ノルフロキサシン	●	●	●	●	●	●	●	●	◎			
	260	LFLX	ロメフロキサシン			●	●	●	●	●	●				
	261	TFLX	トスフロキサシン	●	●	●	●	●	●	●	●	◎			
	321	LVFX	レボフロキサシン	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
	322	GFLX	ガチフロキサシン	●	●	●	●	●	●	●	●				
	323	PZFX	パズフロキサシン	●	●	●	●	●	●	●	●	◎			
	324	PUFX	プルリフロキサシン	●	●	●	●	●	●	●	●				
	325	MFLX	モキシフロキサシン	●	●	●	●	●	●	●	●				
	326	GRNX	ガレノキサシン	●	●	●	●	●	●	●	●				
	327	STFX	シタフロキサシン	●	●	●	●	●	●	●	●				◎
ホスホマイシン	259	FOM	ホスホマイシン	◎	◎	●	●	●	●	◎	◎	◎			
グリコペプチド系	269	TEIC	テイコプラニン					●	●	◎	◎				
	279	VCM	バンコマイシン					◎	◎	◎	◎				
その他	245	CP	クロラムフェニコール	◎	◎	●	●	●	●	◎	◎		◎		
	254	ST	サルファ剤合剤	◎	◎	●	●	●	●	◎	◎				
	281	LZD	リネゾリド					●	●	◎	◎				
	280	RFP	リファンピシン			●	●	●	●	●	●				
	387	DAP	ダプトマイシン					●	●	●	●				

◎：MICセット基本薬剤　●：報告可能薬剤　○：淋菌はセンターセット薬剤

抗酸菌検査

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器	検査方法	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
411 6A205	塗抹	冷 喀痰、尿、穿刺液など	129頁参照	蛍光法 ※陽性時、チール・ネルゼンで確認実施	50 微生	2	集菌法で実施しております。 11	
563 6A206	集菌塗抹法			抗酸菌検査ガイド2025に基づく検査法	35 加算 微生	2		
774 6B305	分離培養〔MGIT法〕 抗酸菌分離培養（液体培養法）	冷 喀痰、気管支洗浄液など		酸素感受性 蛍光センサー法 2週間（中間報告） 6週間（最終報告）	300 微生 ※1	3〜42	11	
419 6C105	薬剤感受性検査 結核菌群（MTB） 注2	冷 喀痰、尿、穿刺液などから分離した菌株		一濃度比率法	400 微生 ※2	1カ月〜☆1	菌株接種培地にてご提出される場合は、室温保存にてご提出ください。 注1 ☆1: 検査に入ってからの所要日数です。 ☆2: 分離培養で抗酸菌を認め次第検査します。 ☆3: 質量分析を開始してからの所要日数です。	
2402 6C105	遅発育抗酸菌（SGM）	冷 喀痰、尿、穿刺液などから分離した菌株		液体培地希釈法	400 微生 ※2	1カ月〜☆1		
2403 6C105	迅速発育抗酸菌（RGM） 抗酸菌薬剤感受性検査（培地数に関係なく）	冷 喀痰、尿、穿刺液などから分離した菌株		液体培地希釈法	400 微生 ※2	1カ月〜☆1		
2776 6C105	薬剤感受性検査PZA〔対象：結核菌〕 抗酸菌薬剤感受性検査（培地数に関係なく）	冷 喀痰、尿、穿刺液などから分離した菌株		液体培地希釈法	※2	1カ月〜☆1		
405 6B325	結核菌群抗原 結核菌群抗原定性	冷 喀痰、尿、穿刺液などから分離した菌株		ICA	291 免疫	1〜2 ☆1 ☆2		
414 6B315	抗酸菌同定	冷 喀痰、尿、穿刺液などから分離した菌株		質量分析	361 微生 ※3	1〜7 ☆3	11	

注1：輸送にバイオハザード専用容器を準備しますので、お知らせください。
注2：PZAについては、感受性セットとは別となっています。ご依頼の際はご注意願います。

※1 抗酸菌分離培養検査は、検体の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体を採取した場合は、1回のみ所定点数を算定する。
抗酸菌分離培養（液体培地法）は、液体培地を用いて培養を行い、酸素感受性蛍光センサー、二酸化炭素センサー又は酸化還元呈色色素を用いて検出を行った場合に算定する。
抗酸菌分離培養検査は、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。
※2 抗酸菌薬剤感受性検査は、培地数にかかわらず、感受性検査を行った薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。混合薬剤耐性検査においても、使われた薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。
※3 抗酸菌同定は、検査方法、培地数にかかわらず、1回のみ所定点数を算定する。

結核菌群（MTB）

［ビットスペクトル：S（感受性）・R（耐性）］

略語	薬剤名	略語	薬剤名
SM	ストレプトマイシン	TH	エチオナミド
EB	エタンブトール	PAS	パラアミノサリチル酸
KM	カナマイシン	INH	イソニアジド
RFP	リファンピシン	CS	サイクロセリン
LVFX	レボフロキサシン		

遅発育抗酸菌（SGM）

［プロスミックSGM：MIC値 μg/mL］

略語	薬剤名	略語	薬剤名
KM	カナマイシン	STFX	シタフロキサシン
AMK	アミカシン	LZD	リネゾリド
CAM	クラリスロマイシン	RBT	リファブチン
AZM	アジスロマイシン	RFP	リファンピシン
MINO	ミノサイクリン	EB	エタンブトール
DOXY	ドキシサイクリン	INH	イソニアジド
MFLX	モキシフロキサシン	TH	エチオナミド

迅速発育抗酸菌（RGM）

［プロスミックRGM：MIC値 μg/mL］

略語	薬剤名	略語	薬剤名
FRPM	ファロペネム	DOXY	ドキシサイクリン
IPM	イミペネム	LVFX	レボフロキサシン
MEPM	メロペネム	MFLX	モキシフロキサシン
AMK	アミカシン	STFX	シタフロキサシン
TOB	トブラマイシン	LZD	リネゾリド
CAM	クラリスロマイシン	CLF	クロファジミン
AZM	アジスロマイシン	ST	スルファメトキサゾール・トリメトプリム

抗酸菌検査

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器	検査方法	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
408 6B620	**結核菌PCR** 結核菌群核酸検出	冷 体液、組織、気管支洗浄液など	129頁参照	リアルタイムPCR法	410 微生 ※1	2～3	抗酸菌検査以外の重複依頼、ヘパリン入り容器での依頼は避けてください。糞便材料での検査は実施しておりません。 11	5日
413 6B620	**結核菌LAMP** 結核菌群核酸検出	冷 体液、組織、気管支洗浄液など		LAMP	410 微生 ※1	1～2	**専用容器にてご提出ください。** 11	5日
409 6B621	**アビウム・イントラセルラーPCR（MAC核酸検出）** マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー（MAC）核酸検出	冷 体液、組織、気管支洗浄液など		リアルタイムPCR法	421 微生 ※2	2～3	抗酸菌検査以外の重複依頼、ヘパリン入り容器での依頼は避けてください。糞便材料での検査は実施しておりません。 11	5日
2889 5E301	**Quanti FERON TBゴールドプラス（QFTゴールドプラス）** 結核菌特異的インターフェロン-γ産生能	冷 血液 6.0mL 注1	53	EIA	593 免疫 ※3	2～3	1日のご依頼が20検体を超える場合は、前日までにお知らせください。**月～土 受託** 11	48時間
2734 5E301	**T-SPOT.TB** 結核菌特異的インターフェロン-γ産生能	18～25℃ 血液 9.0mL 注2、3	42	ELISPOT法	593 免疫 ※3	4～5	1日のご依頼が20検体を超える場合は、前日までにお知らせください。**月～金 受託（祝日の前日は受託不可）** 02	54時間

注1：採血後、48時間以上経過した検体での検査はできませんので、ご依頼状況によっては受託できない場合があります。
注2：採血後、54時間以上経過した検体での検査はできませんので、ご依頼状況によっては受託できない場合があります。
注3：検査に十分な細胞（末梢血単核球）数が得られない場合は、検査不能となる場合があります。

※1 結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。
※2 ア.マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー（MAC）核酸検出は、他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。
イ.抗酸菌同定と併せて実施された場合にあっては、主なもののみ算定する。
※3 結核菌特異的インターフェロン-γ産生能は、診察又は画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。

Quanti FERON TB（QFT）ゴールドプラスおよびT-SPOT.TB　データの解釈

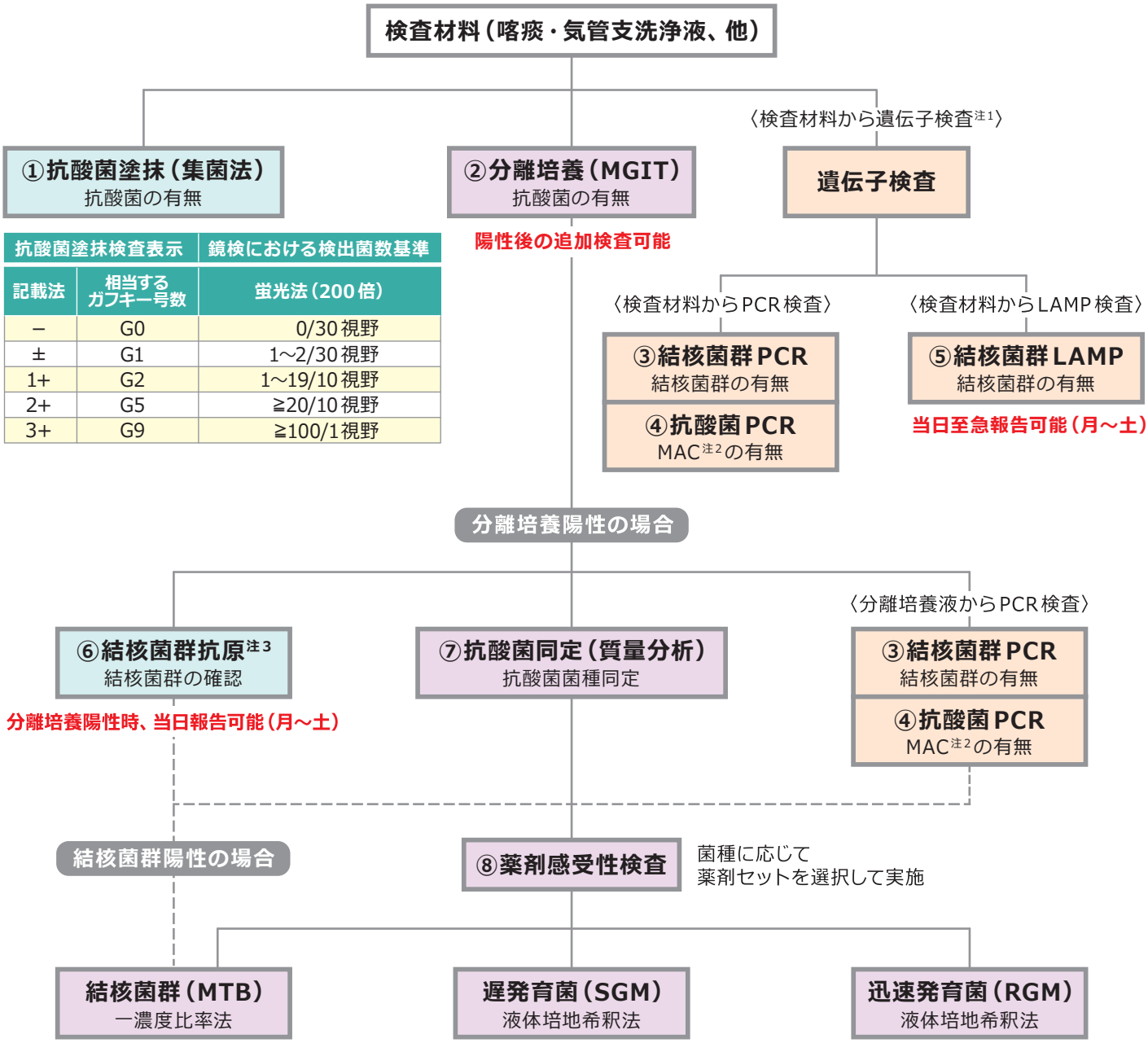
	Quanti FERON TB（QFT）ゴールドプラス	T-SPOT.TB
陰性	結核感染していない	結核感染していない
判定保留	―	初回：再度採血して、再検査を行う 再検：感染リスクの度合を考慮し、総合的に判断する
陽性	結核感染を疑う	結核感染を疑う
判定不可 判定不能	①免疫不全などが考えられるため、判定できません ②陰性コントロール（Nil値）に非特異的反応が認められるため、判定できません	①免疫不全などが考えられるため、判定できません ②陰性コントロールに非特異的反応が認められるため、判定できません

被検者の病歴や臨床所見等にもとづいて医師による総合的な判断を行ってください。

42 T-SPOT用容器

53 QFT用容器

抗酸菌検査の進め方（例）



抗酸菌塗抹検査表示		鏡検における検出菌数基準
記載法	相当するガフキー号数	蛍光法（200倍）
−	G0	0/30視野
±	G1	1～2/30視野
1+	G2	1～19/10視野
2+	G5	≧20/10視野
3+	G9	≧100/1視野

抗酸菌検査項目について

	検査項目		対象	所要日数	備考
①	抗酸菌塗抹		材料	2日	蛍光集菌法で実施します。抗酸菌の有無を検査します。
②	分離培養（MGIT）		材料	3～42日	陽性となれば菌種同定、薬剤感受性検査の検査が実施可能です。
③	遺伝子検査	結核菌群PCR	材料・菌株	2～3日	結核菌群の有無を検査します。
④		抗酸菌PCR	材料・菌株	2～3日	MAC注2の有無を検査します。
⑤		結核菌群LAMP	材料	1～2日	結核菌群の有無を当日報告ができます。
⑥	結核菌群抗原（分離培養陽性時）		菌株	1～2日	分離培養陽性となれば、結核菌群の有無が当日報告可能です。
⑦	抗酸菌同定（分離培養陽性時）		菌株	1～7日	質量分析器により菌種同定を行います。
⑧	薬剤感受性検査（分離培養陽性時）		菌株	1カ月～	検出された菌種に応じて薬剤を選択して実施します。

注1　結核菌感染が強く疑われる場合、検査材料から直接結核菌群PCR検査または結核菌群LAMP検査をおすすめします。
注2　M.アビウム　M.イントラセルラー
注3　結核菌が産生する分泌蛋白（MPB64）抗原を検出します。
　　MPB64遺伝子変異がある場合は陰性となりますので、臨床所見や他の検査結果と併せてご判断ください。

項目コード 統一コード	検査項目・材料		目的菌・検査内容・意義	所要日数	備考	検体の安定性
環境細菌検査						
461	培養・同定	検診便	目的菌にチェックが無い場合はサルモネラ菌、赤痢菌のみを検査実施します。	3～	腸管出血性大腸菌検査は目的菌のチェックが必要です。 11	
2191	培養・同定	落下細菌	病室等の汚染状況調査	3～	11	
2192	培養・同定	無菌試験	手洗い水、ふきとり、消毒液の汚染、スタンプ培地の培養判定	3～	11	
469	培養・同定	環境・その他	咽頭、鼻腔ぬぐい液、手指ふき取り等による院内感染制御を目的とした培養同定検査	3～	11	
2149 2150	透析液細菌検査		定量培養、培養同定の検査による、透析用水の清浄化の確認 R2A培地を用いた拡散培養検査	7～	検体量10mL 11	

微生物学検査のご依頼について

①材料採取部位ならびに材料名を必ずご明記ください。

②薬剤投与中の材料採取の場合は、使用薬剤名をご明記ください。

③菌株接種培地にて、培養・同定ご依頼の場合は、培地を室温にて保存してください。

④**必要な場合は目的菌をご依頼ください。特に性行為感染症における淋菌、腸管感染症におけるカンピロバクター、腸管出血性大腸菌を疑う場合は必ずご依頼ください。**

主要材料の採取保存方法

①口腔・気道・呼吸器系材料

●喀痰

口腔内常在菌による汚染を防ぐため、滅菌生理食塩水で2～3回うがいしてから喀出痰を採取します。できるだけ唾液・鼻粘液の混入は避けるようにしてください。

●咽頭液

滅菌生理食塩水でうがいした後、滅菌綿棒（シードスワブ２号）で病変部をよく擦って粘液を採取してください。

②消化器系材料

●糞便

急性期の排出便を採取します。糞便の量は1ｇ程度とし、輸送培地（シードスワブ２号）の深部に入れてください。便の状態を含め臨床所見は病原菌検出に大きな手がかりとなりますので、必ずご記入願います。

●胆汁

胆管内胆汁（A胆汁）、胆嚢内胆汁（B胆汁）、肝内胆汁（C胆汁）のうち、検査には通常、胆嚢内胆汁（B胆汁）を培養します。滅菌スピッツに2～3mL採取してください。

③泌尿器・生殖器系材料

●尿

患者自身が採尿する場合、適切な指示をしてください。男性の場合は、陰茎先端部を滅菌水で拭いた後に滅菌尿コップ等に取り、直ちに滅菌スピッツに入れてください。

女性の場合は、膣などの常在菌汚染があるため、充分洗浄してからの採尿となります。消毒綿で消毒後、滅菌水を浸したガーゼで数回洗浄します。ガーゼは一回毎に取り替えるように指示してください。尿は滅菌尿コップ等に取り、直ちに滅菌スピッツに入れてください。いずれの場合も早朝尿が望ましく、前半尿を捨て、中間尿を取ってください。

●生殖器分泌物

男性は、陰茎をしごき、分泌物を採取してください。

女性は、外陰部を消毒した後、膣鏡を用いて滅菌綿棒で後膣内蓋部より採取してください。淋菌の疑いがある場合、検出率向上のため必ず目的菌に指定してください。**淋菌を疑われる場合は、室温保存してください。**

④血液・穿刺液

●血液

採血に当たり、穿刺部位を充分に消毒してください。消毒方法は、70%アルコールで穿刺部位を中心として円を外側に向かい描くように拭いていきます。その後、少し擦るようにします。乾燥後、ヨードチンキで同様の方法で消毒します。1分後に注射器で採血します。血液培養用ボトルは、あらかじめキャップを取り、ゴム上部を70%アルコールで消毒します。培養用ボトルへの血液採取量は3～10mLです。

接種後の培養用ボトルは、室温保存です。**ふ卵器には入れないでください。**

●髄液

採取に当たっての皮膚の消毒は、血液培養の場合に準じて行ってください。

⑤その他の部位

●膿瘍・創傷

皮下組織や粘膜下の閉鎖性の膿瘍は、穿刺部位を消毒後注射器で採取し、滅菌スピッツに入れてください。嫌気性菌の検査の場合は、注射器で嫌気用指定容器（シードチューブⅡ）のゴム栓に刺し、注入します。開放性病巣のものは、化膿巣の周囲を清掃後、滅菌綿棒で膿性部を採取し、指定容器（シードスワブ２号）に入れてください。ガーゼでの提出は検出率の低下をまねくおそれがありますので、ご遠慮ください。

主な微生物輸送培地・容器

	容器 容器一覧（巻末）ページを参照ください 使用期限にご注意ください		材料														保存
			尿	尿道分泌物	膣分泌物	咽頭粘液	喀痰	膿（開放）	膿（非開放）	胃粘膜組織	胆汁	髄液	腹水	血液	耳漏	便	
輸送培地	14 シードスワブ2号			●	●	●		●	●						●	●	注1
輸送培地	17 ダイアスライド		●														室温
輸送培地	16 血液ボトル（好気用）													●			室温
輸送培地	16 血液ボトル（嫌気用）													●			室温
輸送培地	16 血液ボトル（小児用）													●			室温
輸送培地	45 ヘリコポーター									●							冷蔵
輸送培地	60 GBS半流動培地				●												冷蔵
輸送容器	5 滅菌スピッツ		●								●						注1
輸送容器	67 髄液検査容器											●					注1
輸送容器	69 腹水検査容器												●				注1
輸送容器	15 採痰容器						●										冷蔵
輸送容器	57 結核菌LAMP容器						●										冷蔵
輸送容器	20 採便管															▲	冷蔵

●：主として用いられる容器　　▲：必要に応じて用いられる容器

嫌気性培養は、シードスワブ2号、シードチューブⅡまたは血液ボトル（嫌気用）をご利用ください。

注1：目的菌により保存方法は異なります。

産業医学（鉛、有機溶剤）関連検査

産業医学関連検査は、鉛作業者、有機溶剤作業者を対象として体内に鉛や有機溶剤がどの程度取り込まれているかを定期的にチェックすることを主な目的としているため、結果の評価については、正常・異常の鑑別を目的としたものでなく、作業環境を含めた総合的な判断が必要とされています。

また、労働安全衛生法に基づく各中毒予防規則では、各健康診断結果報告書を所轄の労働基準監督署長に提出する事が定められています。

産業医学関連検査

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量（mL） 保存	検査方法	基準値（単位）	所要日数	備考	検体の安定性
262 3K110	鉛	8	血液 1.0 冷	原子吸光法	μg/dL	5～6	02	1カ月
264 3J075	δ-アミノレブリン酸（δ-ALA）	30	尿 1.0 冷 遮	HPLC	mg/L	5～6	02	1カ月
263 3J055	赤血球プロトポルフィリン	8	血液 0.5 冷 遮	HPLC	μg/dL 全血	5～11	02	3週
268 3K025	馬尿酸（HA）	30	尿 1.0 冷	LC-MS	g/L	5～6	検体採取時期：採取日は連続した作業日の2日目以降。 注1 02	1カ月
266 3K030	メチル馬尿酸（MHA）	30	尿 1.0 冷	LC-MS	g/L	5～6	検体採取時期：採取日は連続した作業日の2日目以降。 注1 02	1カ月
2316 3K042	スチレン代謝物	30	尿 1.0 冷	LC-MS	g/L 0.43以下（合算値） 注2、注3	5～6	検体採取時期：採取日は連続した作業日の2日目以降。 注1 02	1カ月
265 3K040	マンデル酸	30	尿 1.0 冷	LC-MS	g/L	5～6	検体採取時期：採取日は連続した作業日の2日目以降。 注1 02	1カ月
267	総三塩化物（TTC）	30	尿 1.0 冷	GC	mg/L	5～6	検体採取時期：採取日は連続した作業日の5日目以降（週末）。 注1 02	1カ月
269	トリクロル酢酸（TCA）	30	尿 1.0 冷	GC	mg/L	5～6	検体採取時期：採取日は連続した作業日の5日目以降（週末）。 注1 02	1カ月
270 3K045	N-メチルホルムアミド	30	尿 2.0 冷	GC	mg/L	5～6	検体採取時期：採取日は連続した作業日の2日目以降。 注1 02	1カ月
271 3K050	2,5-ヘキサンジオン（2,5-HD）	30	尿 3.0 冷	GC	mg/L	5～6	検体採取時期：採取日は連続した作業日の2日目以降。 注1 02	1カ月
2322 3K043	尿中メチルイソブチルケトン（MIBK）	65	尿 5.0 冷	GC	mg/L 1.0以下	6～12	必ず専用検体（単独検体）として、ご提出ください。 注1、注4 02	1カ月
2781 3K121	インジウム（In）	1 遠心	血清 0.5 冷	ICP-MS	μg/L 注5	6～12	02	1カ月

注1：作業終了の2時間前に一度排尿し、その後は排尿せずに作業終了後に採尿したものをご提出ください。
注2：マンデル酸（MA）、フェニルグリオキシル酸（PGA）および合算値（MA+PGA）の3つの値を報告します。
注3：生物学的許容値：0.43以下g/Lは、ほとんど全ての労働者に健康上の悪い影響がみられないと判断される濃度です。
注4：測定対象物質が揮発性物質のため、採尿後は直ちに専用容器（65）に移注し、冷蔵にてご提出ください。
注5：日本産業衛生学会では、血清中インジウムの生物学的許容値（ほとんど全ての労働者に健康上の悪い影響がみられないと判断される濃度）として3μg/Lが示されています。

名称および分布区分

対象物質	検査項目	単　位	分　布		
			1	2	3
鉛	鉛	μg/dL	≦20	20<, ≦40	40<
	δ-アミノレブリン酸	mg/L	≦5	5<, ≦10	10<
	赤血球プロトポルフィリン	μg/dL 全血	≦40	40<, ≦100	100<
トルエン	馬尿酸	g/L	≦1	1<, ≦2.5	2.5<
キシレン	メチル馬尿酸	g/L	≦0.5	0.5<, ≦1.5	1.5<
スチレン	スチレン代謝物	g/L	-	-	-
エチルベンゼン	マンデル酸	g/L	-	-	-
N,N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド	mg/L	≦10	10<, ≦40	40<
ノルマルヘキサン	2, 5-ヘキサンジオン	mg/L	≦2	2<, ≦5	5<
1,1,1-トリクロルエタン	総三塩化物	mg/L	≦10	10<, ≦40	40<
	トリクロル酢酸	mg/L	≦3	3<, ≦10	10<
トリクロルエチレン	総三塩化物	mg/L	(≦100)	(100<, ≦300)	(300<)
	トリクロル酢酸	mg/L	(≦30)	(30<, ≦100)	(100<)
テトラクロルエチレン	総三塩化物	mg/L	(≦3)	(3<, ≦10)	(10<)
	トリクロル酢酸	mg/L	(≦3)	(3<, ≦10)	(10<)
メチルイソブチルケトン	尿中メチルイソブチルケトン	mg/L	-	-	-

出典：鉛健康診断結果報告書（鉛中毒予防規則、様式第3号）、有機溶剤等健康診断個人票（有機溶剤中毒予防規則、様式第3号）
有機溶剤等健康診断結果報告書（有機溶剤中毒予防規則、様式第3号の2）、特定化学物質健康診断結果報告書（特定化学物質等障害予防規則、様式第3号）

1 汎用容器

8 ヘパリン容器

30 褐色スピッツ

65 尿中メチルイソブチルケトン容器

その他の検査

項目コード 統一コード	検査項目	容器	検体量(mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要日数	備考	検体の安定性
	農薬スクリーニング	8 または 5	血液 4.0 凍 または 尿 4.0 凍	LC-MS/MS	検出せず		9〜15	対象薬物は下表をご参照ください。 02	
	幻覚剤検査	5	尿 8.0 冷	EMIT法(スクリーニング) LC-MS/MS法(確認検査)	検出せず		6〜9	対象薬物は下表をご参照ください。 注1、注2 02	
	大麻・マリファナ検査	5	尿 8.0 冷		検出せず			対象薬物は下表をご参照ください。 注1、注2 02	
	コカイン系麻薬検査	5	尿 8.0 冷		検出せず			対象薬物は下表をご参照ください。 注1、注2 02	
3L975	アヘン系麻薬検査	5	尿 8.0 冷		検出せず			対象薬物は下表をご参照ください。 注1、注2、注3 02	
867 3L965	覚せい剤検査	5	尿 8.0 冷		検出せず			対象薬物は下表をご参照ください。 注1、注2、注4 02	
3L970	乱用薬物スクリーニング	5	尿 8.0 冷		検出せず			対象薬物は下表をご参照ください。 注1、注2、注3、注4 02	

注1:規制薬物関連検査につきましては、検体妥当性試験を実施いたします。クレアチニン濃度、比重、pHおよび亜硝酸塩濃度を測定し、検査材料である尿が薬物検査に適しているか否かを確認します。
注2:スクリーニング検査で陽性が疑われる場合、LC-MS/MSにて確認後にご報告いたします。
注3:感冒薬・漢方薬などの投与によって陽性となる場合があります。
注4:一部の臨床薬剤(セレギリンなど)の投与によって、尿中にその代謝物である覚せい剤が検出される場合があります。

検査対象薬物

*1:「覚せい剤取締法」の規制対象薬物
*2:「麻薬及び向精神薬取締法」の規制対象薬物
*3:当該薬剤の定性分析のみを実施(他の農薬は定量分析)

			農薬スクリーニング	幻覚剤検査	大麻・マリファナ検査	コカイン系麻薬検査	アヘン系麻薬検査	覚せい剤検査	乱用薬物スクリーニング
覚せい剤*1		アンフェタミン、メタンフェタミン(ヒロポン)						●	●
麻薬	アヘンアルカロイド系麻薬*2	コデイン、6-アセチルモルヒネ、モルヒネ					●		●
麻薬	コカアルカロイド系麻薬*2	コカイン、ベンゾイルエクゴニン(コカイン代謝物)				●			●
麻薬	幻覚剤*2	MDA(メチレンジオキシアンフェタミン) MDMA(メチレンジオキシメタンフェタミン) MDEA(メチレンジオキシエチルアンフェタミン)、フェンシクリジン		●					●
大麻・マリファナ		THCカルボン酸体			●				●
有機リン系農薬		スミチオン(MEP)、マラチオン、CYAP、エチルチオメトン、EPN、ダイアジノン、MPP、メチダチオン、イソキサチオン*3、ピリミホスメチル*3、DDVP*3、トリクロルフォン*3	●						
ピレスロイド剤		フェンバレレート、シペルメトリン、ペルメトリン	●						
トリアジン系農薬		メトリブジン、シマジン(CAT)	●						
カーバメート系農薬		フェノブカルブ、カルバリル*3、メソミル*3	●						
アニリン系農薬		アラクロール、プロパニル	●						

5 滅菌スピッツ

8 ヘパリン容器

生化学検査

総ビリルビン …… 徳田邦明,谷本和仁:臨床化学 22(2),116-122,1993.
直接ビリルビン …… 同　上
間接ビリルビン …… 同　上
総蛋白 …… 金井正光 監修:臨床検査法提要(改訂第33版),2010.
アルブミン …… 同　上
A/G比 …… 同　上
蛋白分画 …… 伊藤喜久:Med.Technol.39(3),278-284,2011.
AST …… 日本臨床化学会酵素専門委員会:臨床化学 23,1994.
日本臨床化学学術連絡委員会:臨床化学 25,1996.
濱崎直孝,他:医学のあゆみ1998共有可能な基準範囲設定と病態識別値の付記
ALT …… 同　上
乳酸脱水素酵素 …… TIETZ Textbook of Clinical Chemistry and Molecular Diagnostics,4th Ed,602,2006.
アルカリフォスファターゼ …… Clin Chem Lab Med:49(9),1439-1446,2011.
ロイシンアミノペプチダーゼ …… 日本臨床化学会酵素専門委員会:臨床化学 23,1994.
日本臨床化学学術連絡委員会:臨床化学 25,1996.
濱崎直孝,他:医学のあゆみ1998共有可能な基準範囲設定と病態識別値の付記
γ-グルタミルトランスペプチターゼ …… 同　上
コリンエステラーゼ …… 同　上
CK …… 同　上
アルドラーゼ …… 宮原洋一:Med.Technol.12,157,1984.
グアナーゼ …… 杉山正康,他:臨床化学 12,304,1983.
アミラーゼ …… 森下芳孝,他:Clinical Chemistry 46,928-933,2000.
日本臨床 57増 359-369,1999.
リパーゼ …… 臨床検査提要(改訂第34版)
トリプシン …… 河野幹彦,櫻林郁之介:医学と薬学 53,635-641,2005.
宮谷博幸,他:医学と薬学 56,771-775,2006.
膵ホスホリパーゼA_2 …… 上田章,他:臨床病理 37,561,1989.
N-アセチル-β-D-グルコサミニダーゼ …… 野戸章,他:臨床病理(特集第56号),65,1983.
リゾチーム …… 北村元仕:実践臨床化学,増補,432-436,1982.
アデノシンデアミナーゼ …… 山田満廣,大西将則:日臨検自動化会誌 17,135,1992.
ペプシノゲン …… 三木一正:医学と薬学 37(4),1013-1021,1997.
LDHアイソザイム …… 井出純子,他:日臨検自動化会誌 28,364,2003.
アルカリフォスファターゼアイソザイム …… 同　上
CKアイソザイム …… 同　上
CK-MB …… 米田孝司,他:機器・試薬 22(1),51-56,1999.
アミラーゼアイソザイム …… 星野忠:JJCLA 37(3),:293-297,2012.
膵アミラーゼ …… 池田勝義,他:日臨検自動化会誌 27,183,2002.
尿素窒素 …… 濱崎直孝,他:医学のあゆみ Vol184,8,1998.共有可能な基準範囲設定と病態識別値の付記
クレアチニン …… 安原正善,他:臨床検査機器・試薬 17(1),59-67,1994.
濱崎直孝,他:医学のあゆみ Vol184,8,1998.
シスタチンC …… 富野康日己:Medical Technology 34(7),737-742,2006.
クレアチン …… 金井正光,他:臨床検査法提要(改訂第33版)金原出版,126, 2010.
尿酸 …… 日本痛風・核酸代謝学会「高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン」
アンモニア …… 奥田拓道:最新医学 21,622-627,1966.
アミノ酸分画 …… 植木眞琴,他:臨床病理 28(補),138,1980.
大沢恵津子,他:臨床化学シンポジウム 20,142,1980.
Stein,W.H.and Moore,S:J.Biol.Chem.176,337,1948.
アミノ酸11分画 …… 小田治,他:第24回液体クロマトグラフ研究会請演要旨集 22,32,1981.
総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比 …… 飯塚誠一,他:現代医療 26(増Ⅱ),99-107,1994.
総ホモシステイン …… Christian Hellmuth, et al:Journal of Chromatography B, 879:83～89, 2011.
グルコース …… 日本糖尿病学会「糖尿病治療ガイド2012-2013」

参考文献

グリコアルブミン …… 藤田知代,他:医学と薬学 47,141,2002.
永峰康孝:検査と技術 31,11,2003.
ヘモグロビンA1c …… 日本糖尿病学会「糖尿病治療ガイド2012-2013」
1,5AG …… 森脇貴美,他:機器・試薬 24,139,2001.
ケトン体分画 …… Harano,Y.et al.:Clin.Chim.Acta 134,327,1983.
乳酸 …… 浅沼和子,他:生物試科分析 8,16,1985.
ピルビン酸 …… 同　上
ヒアルロン酸 …… 島村朗,他:医学と薬学 44:1141,2000.
シアル化糖鎖抗原 …… 西村順,他:医学と薬学 41:1159-1172,1999.
肺サーファクタントプロテインA …… 大木卓,他:医学と薬学 71:161-166,2014.
肺サーファクタントプロテインD …… 土居耕介,他:医学と薬学 78(3):261-267,2021.
総コレステロール …… 日本動脈硬化学会「動脈硬化性疾患診療ガイドライン2012」
遊離コレステロール …… 長山早苗,他:臨床検査機器・試薬 17,341,1994.
HDL-コレステロール …… 日本動脈硬化学会「動脈硬化性疾患診療ガイドライン2012」
LDL-コレステロール …… 同　上
リン脂質 …… 北村元仕,橋本寿美子:総合臨床 28,2042,1979.
中性脂肪 …… 日本動脈硬化学会「動脈硬化性疾患診療ガイドライン2012」
リポ蛋白分画〔定性〕 …… 大島寿美子,他:臨床検査 19,988,1975.
リポ蛋白(a) …… 久保信彦,他:機器・試薬 17,369,1994.
レムナント様リポ蛋白コレステロール …… 滝野豊,他:医学と薬学 56,269,2006.
酸化LDL …… 小谷一夫:酸化ストレスマーカー学術出版センター 243-246,2005.
小谷一夫,他:Medical Technology 37(2),121-126,2009.
総胆汁酸 …… 今野捻:機器・試薬 16,472-479,1993.
脂肪酸分画〔24成分〕 …… 小沢昭夫,他:分析化学 31,87-91,1982.
脂肪酸分画〔4成分〕 …… 同　上
アポリポ蛋白 …… 野間昭夫,他:動脈硬化 16,832,1988.
β-カロチン …… 加美山茂利,他:臨床検査 31(3),268-274,1987.
ビタミンA …… Henry,R.et al.:Clinical Chemistry Principles and Technics 2nd Ed.,p.1375.
Harper & Row Publishers,1974.
ビタミンB_1 …… 木村美恵子,他:ビタミン 55,185,1981.
ビタミンB_2 …… 安田和人,他:臨床病理 29,564,1981.
ビタミンB_6 …… 吉田継親,他:薬学雑誌 98,(10),1319-1326,1978.
ビタミンB_{12} …… 佐伯ひろみ:臨床検査 45,1098-1102,2001.
葉酸 …… 内山幸信:日本臨床 62(増刊号1),195-200,2010.
カルニチン …… 市本景子,他:新薬と臨牀 66(9),1176, 2017 .
松井朝義,他:生物試料分析 35(4),271, 2012 .
ビタミンC …… Lykkesteldt J et.et al.:Analytical Biochemistry.229,329-335,1995.
25-OHビタミンD〔骨粗鬆症〕 …… Tamaki J, et al.:Osteoporosis Int 28(6),1903-1913, 2017
岡崎 亮, 他:日本内分泌学会雑誌 93(Suppl. March),1-10, 2017.
25-OHビタミンD〔くる病〕 …… ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き(日本小児内分泌学会)
25-OHビタミンD分画 …… 渭原博,橋詰直孝:ビタミン85,280-290,2011.
Saenger AK,et al.:Am J Clin Pathol 125,914-920,2006.
1α,25-$(OH)_2$ビタミンD …… 鈴木正司,他:臨床透析 14,371,1998.
ビタミンE …… 阿部皓一,他:栄養と食糧 28,277,1975.
ナトリウム …… 小出輝:日本臨床 38巻(春季臨増),331,1980.
濱崎直孝,他:医学のあゆみ 1998,共有可能な基準範囲設定と病態識別の付記
玄番昭夫:日本臨床 43巻(秋季臨増),441,1985.
クロール …… 小出輝:日本臨床 43巻(秋季臨増),449,1985.
濱崎直孝,他:医学のあゆみ 1998,共有可能な基準範囲設定と病態識別の付記
カリウム …… 玄番昭夫:日本臨床 43巻(秋季臨増),445,1985.
濱崎直孝,他:医学のあゆみ 1998,共有可能な基準範囲設定と病態識別の付記

マグネシウム〈血清〉 …… 神林敬一郎:総合臨床 17,2336-2344,1968.
マグネシウム〈尿〉 …… 北村元仕:実践臨床化学1版,166-171,1974.

カルシウム……金井正光 監修:臨床検査法提要(改訂第33版),2010.
濱崎直孝,他:医学のあゆみ 1998,共有可能な基準範囲設定と病態識別の付記
無機リン……金井正光 監修:臨床検査法提要(改訂第33版),2010.
濱崎直孝,他:医学のあゆみ 1998,共有可能な基準範囲設定と病態識別の付記
銅〈血清〉……長谷川浩子,他:機器・試薬 19,814,1996.
銅〈尿〉……奥田稔,林康之:臨床病理(特集第17号),84,1970.
アルミニウム……Mazzeo-Farina,A.and Cerulli,N.:Clin.Chim.Acta147,247,1985.
鉄……金井正光 監修:臨床検査法提要(改訂第29版),487-491,1983.
総鉄結合能……刈米重夫:日本臨床 43巻(秋季臨増),583,1985.
不飽和鉄結合能……刈米重夫:日本臨床 43巻(秋季臨増),583,1985.
フェリチン……臨床医19増 1019-1020 1993.
亜鉛〈血清〉……井上哲,他:医療と検査機器・試薬 41(3),283,2018.
クロム……田中俊行,他:医学と生物学 101,277,1980.
鉛……労働省労働基準局労働衛生課(監修)鉛健康診断のすすめ方,p.56,
(社)全国労働衛生団体連合会事務局,1990.
δ-アミノレブリン酸……岡山明,他:医学のあゆみ 139,845,1986.
ウロポルフィリン……Nuttall,K.L.et al.:Ann.Clin.Lab.Sci.26,313,1996.
近藤雅雄:日本臨牀,1377,1995.
コプロポルフィリン〔定量〕〈血液〉……Salmi,M.:Clin.Chem.26,1832,1980.
コプロポルフィリン〔定量〕〈尿〉……Nuttall,K.L.et al.:Ann.Clin.Lab.Sci.26,313,1996.
近藤雅雄:日本臨牀 53,1377,1995.
赤血球プロトポルフィリン……労働省労働基準局労働衛生課(監修)鉛健康診断のすすめ方,p.81,
(社)全国労働衛生団体連合会事務局,1990.
アミラーゼクレアチニンクリアランス……金井正光 監修:臨床検査法提要(改訂第29版),778,1983.
エタノール……鈴木加奈子:薬毒物分析実践ハンドブック,118,じほう,東京,2002.
結石鑑別……亀田治男:医化学実験講座B,p.525,中山書店,東京,1973.
浸透圧〈血清〉……鈴木明,他:検査と技術 6,759-762,1978.
浸透圧〈尿〉……越川昭三,他:日本臨床 43巻(秋季臨増),464-468,1985.

薬物検査

フェノバルビタール……田村善蔵,堀岡正義:薬物血中濃度測定の実際,1982.
五味田裕,他:日本臨床(増刊)601,1137-1139,1990.
プリミドン……Oellerich,M:J.Clin.Chem.Clin.Biochem.18,197,1980.
フェニトイン……田村善蔵,堀岡正義:薬物血中濃度測定の実際,1982.
福田保,他:日本臨床(秋季増刊)535,501-504,1985.
カルバマゼピン……日本TDM学会TDMガイドライン策定委員会抗てんかんワーキンググループ:
抗てんかん薬ガイドラインTDM研究 30(2),53-108,2013.
バルプロ酸ナトリウム……田村善蔵,堀岡正義:薬物血中濃度測定の実際,1982.
幸田幸直:日本臨床(秋季増刊)535,508-510,1985.
トリメタジオン……Wolfgang,S.and Beelen,C.C.M.:抗けいれん薬.
ドラッグレベルモニタリング(斉藤正行,田村善蔵監訳),p.100-109,廣川書店,東京,1982.
ジアゼパム……Drouet-Coassolo.C.et al.:J.Chromatogr.487,295,1989.
ゾニサミド……篠田正彦,他:病院薬学,vol.21,No.3,1995.
レベチラセタム……赤松直樹,他:Epilepsy 4(2), 129,2010.
トピラマート……小嶺幸弘:沖縄医報 45(9), 51,2009.
金澤治:こころの科学(157),45,2011.
スチリペントール……Fisher JL.:Epilepsia 52(Suppl.2),76,2011.

ルフィナミド……山内敏雄,他:臨床医薬15(8),1341,1999.
Perucca E,et.:Epilepsia49(7),1123.2008.

ペランパネル …… 花田敬久：脳21 16,322-328, 2013.
Yuji Mano et al.：J. Pharm. Biomed. Ana. 107,56-62,2015.
ラコサミド …… Kim JS,et al：Brain Dev 36（6）,510-515,2014.
ブリーバラセタム …… Moseley,BD.et al.:Epilepsy Res.127,179,2016.
炭酸リチウム …… 清瀬閎，前畑英介：臨床検査 20,793,1976.
ハロペリドール …… 上野哲，他：日本臨床検査自動化学会会誌29（4）,360,2004.
ブロムペリドール …… 同　上
クロザピン …… 矢田勇慈：臨床精神薬理 25（1）,9.2022.
野村信行：臨床精神薬理 23（1）,85.2020.
クロルプロマジン …… Curry,S.H.：Anal Chem.40,1251,1968.
ジゴキシン …… 金子礼子，他：医学と薬学 42（5）,765-773,1999.
メチルジゴキシン …… 同　上
シクロスポリン …… 古屋実，他：医学と薬学 70（5・6）,961,2013.
タクロリムス …… 同　上
エベロリムス …… 小谷一夫：今日の移植 26（6）,505,2013.
ミコフェノール酸 …… 小林昌宏，他：TDM研究 25（4）,133.2008.
テオフィリン …… 田村善蔵・堀岡正義，薬物血中濃度測定の実際,1982.
西原カズヨ：日本臨床（増刊）601,1169-1172,1990.
プロプラノロール …… Ahnoff,M.et al.：Journal of Chromatography 340,73-138,1985.
プロカインアミド …… Jolley,M.E.et al.：Clin.Chem.27,1575,1981.
ジソピラミド …… 同　上
リドカイン …… 宮本侃治：臨床化学 6（3）,202-211,1978.
アプリンジン …… Jolley,M.E.et al.：Clin.Chem.27,1575,1981.
ピルシカイニド …… 上野和行：Pharma Medica.11（4）,97-99,1993.
メキシレチン …… 松本高広，他：TDM研究，áZ（2）,179-184,1990.
プロパフェノン …… 小杉隆祥：TDM研究 11,23,1994.
フレカイニド …… Piovan,D.et al.：Pharmacol.Res.Commun.18,739, 1986.
シベンゾリン …… 寺川雅人，他：薬物動態 3,761-771,1988.
ピルメノール …… 市川林，他：臨床医薬 11,903,1995.
アミオダロン …… 正置耕一，他：病院薬学 25,28,1999.
ベプリジル …… 鎌倉令，他：心電図 31（2）,150,2011.
ソタロール …… Tagawa M.et al：Jpn.Circ.J.65（Sup1-A）.386, 2001.
ゲンタマイシン …… Jolley,M.E,et al.：Clin.Chem.27,1575,1981.
トブラマイシン …… Anhalt J.P.：Interpretation of antimicrobial concentrations in serum.American Association for Clinical Chemistry Therapeutic Drug Monitoring Continuing Education and Quality Control Program, April,1981.
アミカシン …… 同　上
アルベカシン …… Jolley,M.E.et al.：Clin.Chem.27,1575,1981.
バンコマイシン …… 伊賀立二，他：薬剤師・薬学生のための実践TDMマニュアル，じほう，東京，2004.
テイコプラニン …… 松本文夫，他：医学と薬学 38,621,1997.
アセトアミノフェン …… Rumack BH：Arch Intern Med.141,380-385,1981.
サリチル酸 …… 野口佳男，他：基礎と臨床 21,511,1981.
メトトレキサート …… Jolley,M.E,et al.：Clin.Chem.27,1575,1981.
イマチニブ …… Picard S.et al.：Blood.109（8）,3496,2007.
L・ドーパ …… Martins HF.et al.：Quimica Nova36(1)：171-176,2013.

内分泌学検査

甲状腺刺激ホルモン …… 楚南盛正，他：医学と薬学 46（5）,759-771,2001.
プロラクチン …… 高加国男，他：医学と薬学 56（4）,577-586,2006.
黄体形成ホルモン …… 板倉啓一郎，他：ホルモンと臨床 53（5）,124-129,2005.
卵胞刺激ホルモン …… 同　上

成長ホルモン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 小山沙世,他:医学と薬学 68(5),899-910,2012.
副腎皮質刺激ホルモン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 阿部正樹,他:医学と薬学 57,239,2007.
バゾプレシン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 田中誠仁,他:医学と薬学 72,1379-1388,2015.
ソマトメジン-C・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Isojima T,et al.:Endocrine J, 59(9),771,2012.
トリヨードサイロニン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 楚南盛正,他:医学と薬学 46(5),759-771,2001.
サイロキシン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 同　上
遊離トリヨードサイロニン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 猪俣啓子,他:医学と薬学 51(1),187-196,2004.
遊離サイロキシン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 楚南盛正,他:医学と薬学 46(5),759-771,2001.
サイロキシン結合グロブリン ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 伴良雄,他:ホルモンと臨床 27,1287,1979.
サイログロブリン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 北川亘,他:医学と薬学 71(9),1655-1666,2014.
抗サイログロブリン抗体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 森田新二,他:医学と薬学 55(5),775-782,2006.
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体・・・・・・・・・・・・・・・ 森田新二,他:医学と薬学 55(5),775-782,2006.
TSHレセプター抗体Ⅲ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 吉村弘,他:医学と薬学 59(6),1111-1120,2008.
TSH刺激性レセプター抗体 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 保科元気,他:医学と薬学 79(8),1079-1086,2022.
田上哲也,他:医学と薬学 79(8),1087-1095,2022.
カルシトニン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 北川亘,他:医学と薬学 72(1),97-108,2015.
岩瀬克己:外科治療 105(4),347-352,2011.
副甲状腺ホルモン intact ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 山岡美穂,他:医学と薬学 46,753-758,2001.
副甲状腺ホルモン whole ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 古屋実,他:　医学と薬学 67(5),757-765,2012.
副甲状腺ホルモン関連蛋白intact ・・・・・・・・・・・・・ 福本誠二,他:ホルモンと臨床 40,1309,1992.
オステオカルシン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 戸来孝,他:日本臨床検査自動化学会会誌 40:52-57,2015.
骨型アルカリフォスファターゼ ・・・・・・・・・・・・・・・ 倉澤健太郎,他:医学と薬学 55,279,2006
Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド・・・・・・・・・ 日高好博:医学と薬学 70(2),357-365,2013.
デオキシピリジノリン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 山本逸雄,他:ホルモンと臨床 44(7),747-757,1996.
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド ・・・・・・・・ Hanson DS et al.:Journal of Bone and Mineral Research 7(11),1251-1258,1992.
酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ ・・・・・・・・・・・・・ 三木隆巳,他:医学と薬学 55,443,2006.
カテコールアミン3分画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 辻潮,他:機器・試薬 11,635,1988.
遊離カテコールアミン3分画 ・・・・・・・・・・・・・・・ 守和子:第47,48回島津デュポン高速液体クロマトグラフィー請座,高速液体クロマトグラフィー
セミナー要旨集,P.6-8,1977.
Anderson,G.M.et al.:Clin.Chem.27,2060,1981.
メタネフリン2分画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 守和子:第47,48回島津デュポン高速液体クロマトグラフィー請座,高速液体クロマトグラフィー
セミナー要旨集,P.6-8,1977.
バニリルマンデル酸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Flood,J.G.et al.:Clin.Chem.25,1234,1979.
ホモバニリン酸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Rosano,T.G.et al.:Clin.Chem.27,228,1981.
ドーパミン・総 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Hansson,C.et al.:J.Chromatogr 162,7,1979.
セロトニン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Picard,M.et al.:J.Chromatogr 341,445,1985.
5-ハイドロキシインドール酢酸・・・・・・・・・・・・・・ Rosano,T.G.et al.:Clin.Chem.28,207,1982.
血漿レニン活性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 荻原俊男,他:医学と薬学 5,589,1981.
レニン濃度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 濱野久美子,他:臨床化学 50(3),261-266,2021.
アルドステロン〈血漿〉 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 西川哲男,他:糖尿病・内分泌代謝科 52(5),496-503,2021.
アルドステロン〈尿〉 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 同　上
アンジオテンシンⅠ転換酵素 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ Kasahara Y,et al.:Clin Chem 27,1922,1981.
コルチゾール〈血清〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 花田浩之,他:医学と薬学 55,145,2006.
コルチゾール〈尿〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 関口昌江,他:医学と薬学 69(6),985-991,2013.
デハイドロエピアンドロステロンサルフェート ・・・・・・ 市原清志:日本臨床検査自動化学会会誌 37(Suppl 1),36-54,2012.
増戸梨恵,他:医学と薬学 56(3),443-448,2006.
プレグナンジオール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Suzuki,T.et al.:Endocrine J.50,571,2003.
プレグナントリオール ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 同　上
テストステロン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 松崎利也,他:医学と薬学 70(2),331-339,2013.
遊離テストステロン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 森本勲夫,他:ホルモンと臨床 36,985,1988.
プロゲステロン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 松崎利也,他:医学と薬学 73(3),323-333,2016.
抗ミュラー管ホルモン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 浅田義正,他:医学と薬学 72(1),109-118,2015.
エストラジオール ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 松崎利也,他:医学と薬学 72(5),931-941,2015.
ヒト絨毛性ゴナドトロピン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 花川準司,他:臨床検査機器・試薬 20(4),609-613,1997.

遊離HCG-β ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 菅原由人,他:機器・試薬 14,467,1991.
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ ・・・・・・・・ 北村光,他:機器・試薬 21,357,1998.
高田竜二,他:医学と薬学 33,979,1995.
頸管膣分泌液中癌胎児性フィブロネクチン ・・ 一條元彦,他:産婦人科治療 67,212,1993.
インスリン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 唐澤美佳,他:医療と検査機器・試薬 29(5),479-484,2006.
インスリン抗体 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 内潟安子,他:医学と薬学 65(4),525-530,2011.
抗GAD抗体 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 及川洋一,他:医学と薬学 72,1551-1560,2015.
抗IA-2抗体 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 川﨑英二,他:医学と薬学 75,669-680,2018.
C-ペプチド〈血清〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 唐澤美佳,他:医療と検査機器・試薬 29(5),485-491,2006.
C-ペプチド〈尿〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 同　上
膵グルカゴン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 菊池唯史,他:臨床検査 61(7),878-883,2017.
菊池唯史,他:医学と薬学 75(4),417-424,2018.
ヒト心房性Na利尿ペプチド ・・・・・・・・・・・・・・・・ 下迫賢一,他:医学と薬学 57,901,2007.
NT-proBNP ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ryoji Taniguchi、他;Circ J.68,1160-1164,2004.
ヒト脳性Na利尿ペプチド ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 伊藤洋子,他:医学と薬学 64(6),931-939,2010.
エリスロポエチン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 増田詩織,他:医学と薬学 67,297-306,2012.
市原清志:日本臨床検査自動化学会会誌 37(suppl.1),15-35,2012.
サイクリックAMP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Honma,M.et al.:Biochem.Med.18,257,1977.
肝細胞増殖因子 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 武藤泰敏,他:肝胆膵 25,541,1992.
sFlt-1/PlGF比 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Bian X,et al.:Hypertension74(1),164-172, 2019.

腫瘍関連検査

癌胎児性抗原 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 鈴木尚子,他:医学と薬学 56(6),897-907,2006.
α-フェトプロテイン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 鈴木尚子,他:医学と薬学 56(6),897-907,2006.
AFP-L_3分画比 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Shimizu,K.et al.:Clin.Chim.Acta 214,3,1993.
PIVKA-Ⅱ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 高津和子,他:臨床と研究 73(11),2656-2664,1996.
DUPAN-2 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 櫻林郁之介,他:臨床病理 34(6),705-710,1986.
APOA2アイソフォーム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 十亀麻子,他:医学と薬学 80(11),1089-1096,2023.
エラスターゼ1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 大井勝也,他:臨床病理 50,376,2002.
CA19-9 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 鈴木尚子,他:医学と薬学 56(6),897-907,2006.
SPan-1抗原 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 梅山馨,他:膵臓 3,528,1988.
NCC-ST-439 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 大倉久直,他:癌と化学療法 14,1901,1987.
扁平上皮癌関連抗原 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 渡邉万里子,他:医学と薬学 74(2),181-188,2017.
サイトケラチン19フラグメント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 黒田雅顕,:医療と検査機器・試薬 29(6),597-602,2006.
ガストリン放出ペプチド前駆体 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 前川知子,他:医学と薬学 71(9),1643-1653,2014.
神経特異エノラーゼ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 堀田多恵子,他:生物試料分析 34(5),345-353,2011.
抗p53抗体 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 橋本礼輔,他:医学と薬学 75(8),955-964,2018.
塩基性フェトプロテイン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 石井勝,他:癌と化学療法 15,2107,1988.
CA125 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 黒田雅顕,:医療と検査機器・試薬 29(6),589-596,2006.
ヒト精巣上体蛋白4 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 木村英三,:産婦人科の実際 64(8),1055-1061,2015.
竹内聡,他:Biotherapy23(2),136-142,2009.
CA72-4 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 矢田紗世,他:医学と薬学 74(7),831-840,2017.
CA54/61 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 野澤志朗,他:癌と化学療法 19-12-2085～2093,1992.
シアリルTn抗原 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 井村裕夫,他:癌と化学療法 16,3213,1989.
CA15-3 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 黒田雅顕,:医療と検査機器・試薬 29(6),597-602,2006.
BCA225 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 小林美耶子,他:医学と薬学 72,1249-1259,2015.
シアリルLe^x-i抗原 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 井村裕夫,他:癌と化学療法 14,1322,1987.
シアリルLe^x抗原 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 三嶋芳樹,他:医学と薬学 29(5),1193-1200,1993.
可溶型メソテリン関連蛋白・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ordonez,N.G.:Mod.Pathol.16(3),192.2003.
中町衛,他:医学と薬学 65,261,2011.
前立腺特異抗原 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 栗山学,他:医学と薬学 40(5),925-929,1998.

PSA F/T比 …… 栗山学,他:医学と薬学 40(5),925-929,1998.
γ-セミノプロテイン …… 佐藤達郎,他:医学と薬学 43,97,2000.
Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド …… 清原剛,他:ホルモンと臨床 42,1189,1994.
骨型アルカリフォスファターゼ …… 倉澤健太郎,他:医学と薬学 55,279,2006.
デオキシピリジノリン …… 山本逸雄,他:ホルモンと臨床 44(7),747-757,1996.
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド …… Hanson DA et al.:Journal of Bone and Mineral Research 7(11),1251-1258,1992.
HER2蛋白定量 …… Luftner,D.et al.:Int.J.Biol.Markers 19,1,2004.
可溶性インターロイキン−2レセプター …… 伏見美津恵,他:医学と薬学 73,875-883,2016.
古川亜紀,他:機器・試薬 39,263-269,2016.

ウイルス学検査

ウイルス抗体の検出〔CF〕 …… 井上栄:臨床検査 17,838,1973.
厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査(第3版),第ⅠⅡⅢ分冊,
日本公衆衛生協会,東京,1978.
国立予防衛生研究所学友会(編):ウイルス実験学各論(改訂二版),133-135,丸善,東京,1982.
ウイルス抗体の検出〔HI〕 …… 臨床ウイルス談話会(編):ウイルス実験室診断法,76-86,101-105,日本栄養化学,東京,1964.
芦原義守:臨床とウイルス 別冊,77,1975.
国立予防衛生研究所学友会(編):ウイルス実験学各論(改訂二版),133-135,丸善,東京,1982.
ウイルス抗体の検出〔NT〕 …… 石井慶蔵:免疫血清検査(臨床検査技術全書4),235-262,医学書院,東京,1973.
国立予防衛生研究所学友会(編):ウイルス実験学各論(改訂二版),52,72-73,132-139,丸善,東京,1982.
ウイルス抗体の検出〔FAT〕 …… 日沼頼夫,他:臨床病理(特集第35号)179,1978.
単純ヘルペスウイルスIgG …… 厚生省監修:微生物検査必携ウイルス・リケッチア検査(第3版第Ⅰ分冊),48-61,日本公衆衛生協会,東京,1987.
単純ヘルペス ウイルスIgM …… 川名尚,他:医学と薬学 69(3),517-522,2013.
水痘・帯状ヘルペスウイルス IgG …… 同　上
水痘・帯状ヘルペスウイルス IgM …… 同　上
サイトメガロウイルスIgG …… 熊田洋高,他:医学と薬学 72(6),1087,2015.
サイトメガロウイルスIgM …… 同　上
インフルエンザウイルスA・B型 …… 北村元仕,他:臨床検査マニュアル(文光堂),880-886,1988.
パラインフルエンザウイルス …… 国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学 総論 2版(丸善),214-225,1973.
RSウイルス …… 国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学 総論 2版(丸善),260-274,1973.
北村元仕,他:臨床検査マニュアル(文光堂),880-886,1988.
ムンプスウイルス〔CF〕 …… 北村元仕,他:臨床検査マニュアル(文光堂),880-886, 1988.
ムンプスウイルス IgG …… 尾崎隆男,他:臨床とウイルス50(3),129-133,2022.
尾崎隆男,他:臨床とウイルス47(5),420-426,2019.
ムンプスウイルス IgM …… 厚生省監修:微生物検査必携ウイルス・リケッチア検査(第3版第Ⅰ分冊),48-61,日本公衆衛生協会,東京,1987.
パルボウイルスB19 IgG …… 要藤裕孝,他:感染症学雑誌 69(10),1135-1140,1995.
パルボウイルスB19 IgM …… 同　上
麻疹 ウイルスIgG …… 厚生省監修:微生物検査必携ウイルス・リケッチア検査(第3版第Ⅰ分冊),48-61,日本公衆衛生協会,東京,1987.
麻疹ウイルス IgM …… 同　上
風疹 ウイルスIgG …… 同　上
風疹ウイルス IgM …… 同　上
HIV-抗原・抗体 …… 桜庭尚哉,他:医学と薬学 65(5),663-672,2011.
HIV-1/2抗体〔確認〕 …… Moon HW.et al.:PLoS One 10(9),e0139169,2015.
HIV-1RNA定量〔TaqMan〕 …… 目崎和久,他:医学と薬学 73,705-709,2016.
HTLV-1抗体 …… 植柳泰,他:医学と薬学 73(8),1031-1035,2016.
HTLV-1抗体〔精密〕 …… 同　上
HTLV-1抗体〔確認〕 …… Zrein M.et al.:Clin Diagn Lab Immunol.5(1),45-49.1998.
Umeki K.et al.:Clin Lab.63(2),227-233,2017.
単純ヘルペスウイルス特異抗原 …… Espy.M.J.et al.:J.Clin,Microbiol.26,22,1988.
水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原 …… 紺野謙治,他:臨床とウイルス 17(1),89-96,1989.
ヒトパピローマウイルスDNA同定 …… 石和久,他:医学と薬学 39,849,1998.

ヒトパピローマウイルス簡易ジェノタイプ判定〔9種判別〕 Söderlund-Strand A.et al.:J Med Virol.86（4）,634-41,2014.
Sasagawa T.et al.:J Med Virol.88（2）,324-35,2016.
サイトメガロウイルスpp65抗原〔c10,c11〕 浅井隆善,他:今日の移植 7,553.,1994.
サイトメガロウイルスpp65抗原〔c7-HRP〕 権藤久司,他:臨床血液 34（11）,1438-1444,1993.
サイトメガロウイルス核酸検出〔新生児尿〕 Mitani Y,et al:Nat Methods 4（3）:257-262, 2007.
ノロウイルス抗原〔BLEIA〕 林麻貴,中川弘:Jpn.J.Food Microbil.,30（4）,193-197,2013.
ノロウイルスRNA Broadly Reactive and Highly Sensitive Assay for Norwalk-Like Viruses Based on Real-Time Quantitative Reverse Transcription-PCR（J.Clin. Microbiol 41,1548-1557. (2003)）
HA抗体IgM 矢野公士,他:医学と薬学 58,151,2007.
HA抗体IgG 同　上
HBs抗原 戸来孝,他:医学と薬学 72（9）,1569-1577,2015.
HBs抗原定量精密 同　上
HBs抗体 大根久美子,他:臨床病理 63（8）,907-912,2015.
HBs抗体定量精密 同　上
HBe抗原 中尾瑠美子,他:Progress in Medicine,24-11,2839-2852,2004.
HBe抗体 同　上
HBc抗体IgG 八橋弘,他:医学と薬学 66（6）,1075-1081,2011.
HBc抗体IgM 中尾瑠美子,他:医学と薬学 52,847,2004.
B型肝炎ウイルスコア関連抗原 Inoue T,et al :J Hepatol 75（2）,302-310,2021.
HBV-DNA定量PCR〔TaqMan〕 狩野吉康,他:医学と薬学 58,137-149,2007.
HCV抗体 利光昭次,他:医学と薬学 60（6）,853-861,2008.
HCVコア抗原 八橋弘,他:医学と薬学 68（1）,157,2012.
HCV群別〔グルーピング〕 長谷川瞳,他:医学と薬学 70（3）,633,2013.
HCVサブタイプ系統解析 P. Simmonds, J. Mellor, T. Sakuldamrongpanich et. al.:Journal of General Virology , 77, 3013-3024,1996.
Evolutionary analysis of variants of hepatitis C virus found in South-East Asia: comparison with classifications based upon sequence similarity.
HCV-RNA定量〔TaqMan〕 狩野吉康,他:医学と薬学 58,137-149,2007.

免疫血清学検査

マイコプラズマ抗体〔PA〕 巴山顕次:検査と技術 16,738,1988.
マイコプラズマ抗体〔CF〕 富山哲雄:臨床検査 19,1240,1975.
マイコプラズマ核酸同定〔LAMP〕 Notomi T.,et al.:Nucleic Acids Research.28,No.12,e63,2000.
トキソプラズマ抗体 IgG Sickinger E.et al.:Diagn Microbiol Infect Dis.62（3）,235-244,2008.
トキソプラズマ抗体 IgM 同　上
オウム病抗体 厚生省監修:微生物検査必携 ウィルス・リケッチア検査（第2版）73,日本公衆衛生協会,東京,1978.
クラミジア・トラコマチス抗体 IgA & IgG 梶原祥子,他:医学と薬学 37,711,1997.
クラミジア・ニューモニエ抗体 IgA 宮下修行,他:小児科診療 71（1）,95-99,2008.
Miyashita N.et al.:J Infect Chemother.21（7),497-501,2015.
クラミジア・ニューモニエ抗体 IgG 同　上
クラミジア・ニューモニエ抗体 IgM 同　上
百日咳菌抗体 岡田賢司,他:医学と薬学 65（4）,531-536,2011.
百日咳菌核酸同定 Notomi T.et al.:Nucleic Acids Research,28（12）,e63,2000.
岡藤輝夫,他:診療と新薬 52（12）,1133-1140,2015.
エキノコックス抗体 佐藤秀男,他:道衛研究報 33,8,1983.
ツツガ虫抗体 山本正悟:臨床とウイルス 12（3）,270-274,1984.
ヘリコバクター・ピロリ抗体 三木一正:胃がんリスク層別化検診（ABC検診）胃がんを予知・予防し、診断・治療するために,1-4,2019.
尿素呼気試験 Ohara,S.et al.:Helicobactor 3（1）,49-53,1998.
便中ヘリコバクター・ピロリ抗原 神谷茂,他:感染症誌 76,378,2002.

淋菌核酸同定 …… Higuchi R.et al.:Simultaneous amplification and detection of specific DNA sequences. Biotechnology（NY）（10）,413-417,1992.
Heid.C.A .et al.:Real time quantitative PCR.Genome Research（6）,986-994, 1996.
Longo.M.C .et al.:Use of uracil DNA glycosylase to control carry-over contamination in polymerase chain reactions.Gene（93）,125-128,1990.

クラミジア・トラコマチス核酸同定 …… Higuchi R.et al.:Simultaneous amplification and detection of specific DNA sequences. Biotechnology（NY）（10）,413-417,1992.
Heid.C.A .et al.:Real time quantitative PCR.Genome Research（6）,986-994, 1996.
Longo.M.C .et al.:Use of uracil DNA glycosylase to control carry-over contamination in polymerase chain reactions.Gene（93）,125-128,1990.

腟トリコモナスおよびマイコプラズマ・ジェニタリウム核酸同定 …… 濵砂良一:モダンメディア 66(10),281-288,2020.
Jensen, J. S., Bjornelius, E., Dohn, B.Lidbrink, P. Use of TaqMan 5' nuclease real-time PCR for quantitative detection of Mycoplasma genitalium DNA in males with and without urethritis who were attendees at a sexually transmitted disease clinic. J Clin Microbiol 2004; 42: 683-692.
Yoshida, T., Deguchi, T., Ito, M., Maeda, S., Tamaki, M.Ishiko, H. Quantitative detection of Mycoplasma genitalium from first-pass urine of men with urethritis and asymptomatic men by real-time PCR. J Clin Microbiol 2002; 40: 1451-1455.

ASO定量 …… 望月照次,他:検査と技術 29（6）,525-530,2001.

寒冷凝集反応 …… 岩本幸子,免疫と疾患 6,335,1983.

カンジダマンナン抗原 …… 新崎晃弘,他:臨床検査機器・試薬 23-3,197-203,2000.

アスペルギルス抗原 …… 見手倉久治,他:医学と薬学 42,207,1999.

レジオネラ核酸同定〔LAMP〕 …… Notomi T.,et al.:Nucleic Acids Research.28,No.12,e63,2000.

エンドトキシン定量〔ES法〕 …… 石原美弥子,他:検査と技術 30,739,2003.

透析液中エンドトキシン …… 渡邊真紀,他:臨床透析別冊 149,1996.

（1→3）-β-Dグルカン …… 吉田耕一郎,他:医学と薬学 67,859-902,2012.
大林民典:臨床病理 44,528-532,1996.

プレセプシン …… Shozushima T,et al,J Infect Chemother,17（6）,764-769,2011.
Okamura Y,et al,Clin Chim Acta,412（23-24）,2157-2161,2011.

梅毒RPR …… 大里和久,他:日本性感染症学会誌 13,124-130,2002.

梅毒TP抗体 …… 同　上

FTA-ABS …… 金井正光 監修:臨床検査法提要（改訂第31版）,1998.

CRP定性 …… 大蔵ひろ枝,他:JJ CLA 27（5）,2002.

CRP定量 …… 同　上

アミロイドA …… 旭由香里,他:医学と薬学 78（2）,175-181,2021.

プレアルブミン …… 河合忠,他:臨床病理 44（5）,429,1996.

尿中アルブミン …… 前田士郎,他:検査と技術 20,76-77,1992 増刊
猪股茂樹,他:糖尿病 48（10）,757-759,2005.

尿中アルブミン〔クレアチニン補正値〕 …… 同　上

トランスフェリン …… 島英明,他:医学と薬学 32,145,1994.

尿中トランスフェリン …… 遠藤隆,他:医学と薬学 28,1055,1992.

尿中L型脂肪酸結合蛋白 …… 山田暁,他:日本臨床検査自動化学会会誌 43（3）,252-259,2018.

α_1アンチトリプシン …… 山下順香,他:医学と薬学 29,1239,1993.

α_1アシドグリコプロテイン …… 同　上

α_1マイクログロブリン …… 中野卓,他:機器・試薬 11,469,1988.

β_2マイクログロブリン …… 野月満,他:医学と薬学 12,117,1984.

ハプトグロビン …… 河合忠,他:臨床病理（特集第101号）,207,1996.

α_2マクログロブリン …… 飯村康夫,他:日本臨牀 42（春季臨増）,1209,1984.

セルロプラスミン …… 同　上

クリオグロブリン …… 青木紀生:Med.Technol.6,619,1978.

ミオグロビン〈血清〉 …… 戸田圭三,他:医学と薬学 62,331-340,2009.

ミオグロビン〈尿〉 …… 吉川文雄,他:医学と薬学 37,1255,1997.

心室筋ミオシン軽鎖I …… 宮崎修一,他:医学と薬学 52,443,2004.

高感度心筋トロポニンI …… Ricchiuti V,et al.:Clin Chem45（12）,2129,1999.
Buiten MS,et al.:PLoS One10（8）,e0134245,2015.

ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白	奥田優子,他:日本臨床検査自動化学会会誌 35(3),283,2010.
レチノール結合蛋白	三浦信樹,他:臨床病理 57(3),195,2009.
プロコラーゲンⅢペプチド	北原志穂,他:医学と薬学 72(9):1579-1590,2015.
Ⅳ型コラーゲン	重村雅彦,他:日臨検自動化会誌 28,513,2003.
Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体	柴田宏,他:臨床病理 63:72-77,2015.
オートタキシン	池田均:医学のあゆみ 263(13):1050-1054, 2017.
	島本怜史,他:東ソー研究・技術報告 61:99-104, 2017.
血清補体価(CH50)	稲井真彌,安田令子:日本臨床 42(春季臨増),1232,1984.
C3(β1C/β1Aグロブリン)	菅野剛史,他:臨床検査機器試薬 20(6),817-821,1997.
C4(β1Eグロブリン)	菅野剛史,他:臨床検査機器試薬 20(6),817-821,1997.
C1インアクチベーター活性	Dick W et al:Immun Infekt,13-113～118, 1985.
免疫電気泳動〔免疫固定法によるM蛋白同定〕	Richie,R.F.et al.:Clin,Chem.22,497,1976.
	広瀬美子,他:臨床検査機器・試薬 16,253,1993.
尿中免疫電気泳動	長縄謹子:検査と技術 12,401,1984.
遊離L鎖κ/λ比	守田由香,他:医学と薬学 74(8), 945-950,2017.
IgGインデックス	中島一郎:Animus 8,38,2003.
オリゴクローナルバンド	同　上
抗アクアポリン4抗体	松下拓也,他:医学と薬学 70(4), 821,2013.
	「多発性硬化症治療ガイドライン」作成委員会:多発性硬化症治療ガイドライン2010, 2010.
IgG	河合忠,他:臨床病理別冊 44(5),429-434,1996.
IgA	同　上
IgM	同　上
IgGサブクラスIgG4	Usami Y.et al,:Clin Chim Acta 2019 in press.(doi:10.1016/j.cca.2019.10.032)
	松木友里,他:医学と薬学 75(7),849-858,2018.
鳥特異的IgG	Shirai,T.et al.:Allergology International 70(2),208,2021.
IgE	島津信一郎,他:アレルギーの領域 2(7),1995.
アトピー鑑別試験	我妻義則,他:医学と薬学 75(7),849-858,2018.
特異的IgE	同　上
TARC	石田俊雄,他:医学と薬学 58,901,2007.
	藤澤隆夫,他:日本小児アレルギー学会誌 19,744,2005.
	玉置邦彦,他:日本皮膚科学会雑誌 116,27,2006.
	Sugawara,N.et al.:Allergy 57,180,2002.
リウマチ因子定量	吉野谷定美:日本臨床増刊号 53,1995.
抗CCP抗体	Suzuki,K.et al.:Scand JRheumatol.32:197-204,2003.
抗ガラクトース欠損IgG抗体	山田雄二,他:基礎と臨床 31,81,1997.
マトリックスメタロプロティナーゼ-3	氏家真二,他:医学と薬学 51(3),503-506,2004.
抗核抗体	林伸英,他:臨床病理 64(2),142-151,2016.
抗DNA抗体	宮脇晶二,他:日臨免疫会誌 17,164,1994.
抗 ds-DNA・IgG抗体	西山進,他:医学と薬学 69(4),689-698,2013.
	礒田健太郎,他:医学と薬学 70(1),119-128,2013.
抗 ss-DNA・IgG抗体	同　上
抗 Sm抗体	西山進,他:医学と薬学 68(2),345,2012.
抗 RNP抗体	同　上
抗 SS-A抗体	同　上
抗 SS-B抗体	同　上
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	Kuwana M.et al.Arthritis Rheum.52,2425,2005.
抗Jo-1抗体	松下雅和,他:医学と薬学 70(1),109,2013.
抗ARS抗体	吉藤元:医学のあゆみ 239(1),71,2011.
抗MDA5抗体	佐藤慎二:炎症と免疫 22(6),443,2014.
抗Mi-2抗体	室慶直:医学のあゆみ 239(1),83,2011.
	佐藤慎二:リウマチ科 55(2),227,2016.
抗TIF1-γ抗体	同　上
ループスアンチコアグラント	藤岡貴:医学と薬学 73(5),621-626,2016.
抗カルジオリピン・β2GPⅠ複合体抗体	小池隆夫,他:医学と薬学 26,535,1991.

抗カルジオリピンIgG抗体	岡田純,他:医学と薬学 36,1389,1996.
抗カルジオリピンIgM抗体	小川昌起,他:医学と薬学 78(4),447-459,2021.
抗リン脂質抗体パネル	出口雅士,他:産科と婦人科 87(suppl),230,2020.
	渥美達也:腎と透析 84(4),572,2018.
抗セントロメア抗体	宮脇昌二,浅沼浩子:医学と薬学 45,129,2001.
抗ミトコンドリア抗体	長島秀夫,小出典男:日本臨床 42(春季臨増),1430,1984.
抗ミトコンドリアM2抗体	丹野瑞木,他:医学と薬学 67(3),485,2012.
抗デスモグレイン1抗体	黒田慶子,他:医学と薬学 49(1),108-116,2003.
抗デスモグレイン3抗体	黒田慶子,他:医学と薬学 49(1),108-116,2003.
抗BP180抗体	吉田かおり,他:医学と薬学 70(5・6),989,2013.
抗平滑筋抗体	長島秀夫,小出典男:日本臨床 42(春季臨増),1430,1984.
抗内因子抗体	Elizabeth,A.Gomez.et al.:Clinical Chemistry 51(1),232-235,2005.
抗LKM-1抗体	宮川浩,他:医学と薬学 44,121,2000.
便中カルプロテクチン	松岡克善,他:医学と薬学 74(6),717-726,2017.
ロイシンリッチα2グリコプロテイン	伊藤いづみ,他:臨床栄養 135(6),748-750,2019.
	飯田智哉,他:IBD Research 10(4),212-217,2016.
抗好中球細胞質抗体	平田寛之,他:医学と薬学 66,1099-1108,2011.
	宮原涼馬,他:医学と薬学 73,91-98,2016.
抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体	同　上
抗糸球体基底膜抗体	平田寛之,他:医学と薬学 66,1099-1108,2011.
抗胃壁細胞抗体	Jeffries,G.H.et al.:J.Clin.Invest.44,2021,1965.
抗副腎皮質抗体	Scherbaum,W.A.et al.:Clin.Endocrinol 16,345,1982.
抗アセチルコリンレセプター結合抗体	太田光熙,他:ホルモンと臨床 48,89,2000.
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体(抗MuSK抗体)	本村政勝,他:医学と薬学 70(2),421,2013.
	Hoch,W.et al.:Nature Medicine7(3),365,2001.
抗血小板抗体	坂本久浩:Med.Technol.11,724,1983.
PA-IgG(血小板表面IgG)	倉田義之,他:臨床検査 32,641,1988.
HIT抗体(血小板第4因子-ヘパリン複合体)	阪田俊幸:医学と薬学 68(3),547,2012.
	宮田茂樹:日本検査血液学会雑誌 12(1),60,2011.
血液型ABO式,Rho(D)	AMERICAN ASSOCIATION OF BLOOD BANKS編,Technical Manual(第13版),2002.
Rh因子型試験	同　上
クームス試験　直接	同　上
クームス試験　間接	同　上
不規則性抗体	同　上
交差適合試験(クロスマッチ)	AMERICAN ASSOCIATION OF BLOOD BANKS編,Technical Manual(第13版),2002.

細胞性免疫検査

B細胞表面免疫グロブリン	田沢裕光,他:臨床病理 33,426,1985.
T細胞・B細胞百分率	松元康治,他:臨床免疫 16,862,1984.
	網野信行,他:細胞性免疫機能検査のすべて,p.102,医歯薬出版,東京,1985.
Single-color解析による細胞表面マーカー検査	網野信行,他:細胞性免疫機能検査のすべて,p.102,医歯薬出版,東京,1985.
Two-color解析による細胞表面マーカー検査	坂東史郎,他:臨床病理 35,631,1987.
	高橋英則,吉田象二:検査と技術16,17,1988.
白血病・リンパ腫解析検査	Borowitz,M.J.et al.:Am.J.Clin.Pathol.100,534,1993.
	佐藤尚武:Med.Technol.26,1351,1998.
リンパ球幼若化試験	大野竜三,三島秀人:免疫実験操作法B,P.1417,日本免疫学会(編),1976.
薬剤によるリンパ球幼若化試験	北見啓之,他:臨床免疫 15,727,1983.
NK細胞活性	原田弘智,他:臨床検査 28,72,1984.
好中球貪食能	関秀俊,多賀千之:Immunohaematol 7,486,1985.
好中球殺菌能	関秀俊,他:臨床病理 33,371,1985.

遺伝子関連検査

HLA型判定〔A,B Locus〕 …… 吉川枝里,他:MHC 10,21,2003.
HLA型判定〔DR Locus〕 …… 同　上
染色体 …… 福島義光,井上信男:臨床検査 28,759,1984.
寺島寛:病理形態検査（臨床検査技術全書8）,p.456,医学書院,東京,1978.

血液学検査

白血球数 …… 日臨技,血液正常値設定委員会:全国の健康な臨床・衛生検査技師を中心とした血液正常値の現状,1985.
赤血球数 …… 同　上
ヘモグロビン …… 同　上
ヘマトクリット …… 同　上
平均赤血球容積 …… 同　上
平均赤血球血色素量 …… 同　上
平均赤血球血色素濃度 …… 同　上
血小板数 …… 同　上
網状赤血球数 …… 同　上
白血球分類 …… 糸賀敬:臨床検査技術全書 3 血液検査,98,1972.
アルカリフォスファターゼ染色 …… 古沢新平:臨床検査技術全書 3 血液検査,134,1972.
エステラーゼ染色 …… 斎藤準一,他:Med.Technol.（別冊染色法のすべて）,213,1988.
ペルオキシダーゼ染色 …… 亀井喜恵子:Med.Technol.（別冊染色法のすべて）,213,1988.
PAS染色 …… 安達真二:Med.Technol.（別冊染色法のすべて）,242,1988.
骨髄像 …… 八幡義人:血液細胞へのダイナミックアプローチ,288,1985.
西 国広:血液形態観察のすすめ方,231,1987.
三輪史朗:血液細胞アトラス,509,1991.
マラリア原虫 …… 金井正光 監修:臨床検査法提要（改訂第29版）,313,1983.
ミクロフィラリア …… 同　上
鼻汁好酸球 …… 丹波欣正:Med.Technol.（別冊染色法のすべて）,202,1988.
喀痰抗酸球 …… 同　上
β-トロンボグロブリン …… 高橋芳右,他:血液と脈管 18（4）,326-335,1987.
血小板第4因子 …… 同　上
プロトロンビン時間 …… 佐守友博,藤巻道男:検査と技術 15,857,931,1987.
活性化部分トロンボプラスチン時間 …… O.kumano et al:Journal of Thrombosis and Haemostasis Vol.10,2338-2343,2012.
フィブリノーゲン …… 佐守友博,藤巻道男:検査と技術 15,931,1987.
血中FDP …… 雨宮憲彦:日本検査血液学会雑誌 7（3）,2006.
尿中FDP …… 堀内伸純,他:機器・試薬 14,267,1991.
Dダイマー …… 雨宮憲彦:日本検査血液学会雑誌 7（3）,2006.
Dダイマー精密 …… 同　上
アンチトロンビン活性 …… 板東史郎,他:機器・試薬 8,811,1985.
プラスミノーゲン活性 …… 同　上
アンチプラスミン活性 …… 同　上
α_2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体 …… 徐吉夫,他:機器・試薬 16,1107,1993.
トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体 …… 木村真波,他:機器・試薬 33,525,2010.
プロテインC抗原量 …… 有村国明,木村典子:機器・試薬 15,159,1992.
可溶性フィブリンモノマー複合体 …… 林 滋:臨床血液 19,331,1978.
可溶性フィブリンモノマー複合体定量 …… Hamano.A.et al.:Clin.Chim Acta.318（1-2）,25,2002.
トロンボモジュリン …… 天野景裕,他:臨床病理 39,967,1991.
第Ⅱ因子活性 …… 安達眞二:Medical Technology 24（6）,629-633,1996.
第Ⅴ因子活性 …… 同　上
第Ⅶ因子活性 …… 同　上
第Ⅷ因子活性 …… 同　上
第Ⅸ因子活性 …… 同　上
第Ⅹ因子活性 …… 同　上
第Ⅺ因子活性 …… 同　上

第XII因子活性 …… 安達眞二：Medical Technology 24（6）,629-633,1996.
第XIII因子活性 …… Fickenscher K et al：Thrombosis and Haemostasis 65（5）,535-540,1991.
凝固抑制因子検査第VIII因子 …… Sirridge MS et al：Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis,3rd :196-198,1983.
凝固抑制因子検査第IX因子 …… 同　上
フォン・ウィルブランド因子活性…… Macfarlane DE et al：Thrombos Diathes Haemorth 34：306-308,1975.
フォン・ウィルブランド因子定量…… Peltier,J.Y.et al：Proceeding of XVI th Congress of the ISTH,513,1997.

一般臨床検査

○高橋正宣，他：図説尿沈渣教本，宇宙堂八木書店，1979.
○金井正光 監修：臨床検査法提要（改訂第33版），金原出版，2010.
○Med.Technol. 編集委員会編：内分泌検査のすべてMed.Technol 9（13），医歯薬出版，1981.
○吉田幸雄：図説人体寄生虫学，南山堂，1980.
○伊藤機一：尿中細胞アトラス，医歯薬出版，1989.
○奥田 清監修：尿沈渣 臨床検査アトラス1，医歯薬出版，1983.
○阿部正和・井川幸雄：Urodynamics（尿検査に対する考え方），メディカル・ジャーナル，1980.
○伊藤機一，他：尿沈渣検査法 2010
○西国広：尿沈渣検査法のすすめ方「尿沈渣検査法」の標準化に向けて 1996.
○日本臨床衛生検査技師会：髄液検査技術教本2015.
クロストリジオイデス・ディフィシルGDH抗原・毒素検出 …… 西尾美津留，他：医学検査 63（5）,635,2014.
クロストリジオイデス・ディフィシル毒素遺伝子検出 …… 吉澤定子：小児内科 44（7）,1145,2012.
日本臨床微生物学会：Clostridium difficile 毒素遺伝子検査を踏まえた検査アルゴリズム，2017.

微生物学検査

○那須勝：微生物学（新臨床検査技術全書 11），医学書院，1984.
○山口英世：病原真菌学，1987.
○橋本雅一：微生物学（臨床検査講座 16），医学書院，1972.
○坂崎利一（訳）：医学細菌学，南山堂，1975.
○森・天児（編）：戸田新細菌学，南山堂，1986.
○瀬尾昌亮：医真菌図説，1973.
○植手鉄男：抗生物質（選択と臨床の実際），医学ジャーナル，1977.
○坂崎利一：腸内細菌Ⅰ～Ⅸ，近代出版，1980.
○清水・上田（編）：新化学療法ハンドブック，永井書店，1975.
○小酒井望：微生物学検査（臨床検査技術全書 7），医学書院，1972.
○坂崎利一：新細菌培地学講座上・下，近代出版，1980.
○青野明男，他：日本臨床微生物学雑誌 8,91-94,1998.
○日本結核・非結核性抗酸菌症学会：抗酸菌検査ガイド 2025
○小栗豊子：臨床微生物検査ハンドブック，三輪書店
非結核性抗酸菌感受性 …… 日本結核病学会非定型抗酸菌症対策委員会：非定型抗酸菌症の治療に関する見解2012年改訂
抗酸菌同定 …… 大楠清文：モダンメディア58（4）,113-122,2012.
結核菌PCR …… 渡邉あゆみ，他：医学と薬学 58,331-337,2007.
アビウム・イントラセルラーPCR …… 同　上
結核菌LAMP …… Notomi T.,et al.：Nucleic Acids Research.28,No.12,e63,2000.
Quanti FERON TBゴールドプラス …… Rozot,V. et al.：（2013）Mycobacterium tuberculosis-specific CD8+ T cell are functionally and phenotypically different between latent infection and active disease.Eur.J.Immunol.43,1568.
Chiacchio,T.,et al.：（2014）Polyfunctional T-cells and effector memory phenotype are associaled with active TB in HIV-infected patients.Js.Infect.doi:10.1016/j.jinf.2014.06.009.Epub.
T-SPOT.TB …… 原田登之他：モダンメディア54（5）,148-158,2008.

産業医学関連検査

鉛 …… 労働省労働基準局労働衛生課（監修）：鉛健康診断のすすめ方56,（社）全国労働衛生団体連合会事務局,東京1990.
δ-アミノレブリン酸 …… 岡山明,他：医学のあゆみ139,845,1986.
赤血球プロトポルフィリン …… 労働省労働基準局労働衛生課（監修）：鉛健康診断のすすめ方81,（社）全国労働衛生団体連合会事務局,東京1990.
馬尿酸 …… 労働省労働基準局労働衛生課（監修）：有機剤溶健康診断のすすめ方135,（社）全国労働衛生団体連合会事務局,東京1990.
メチル馬尿酸 …… 労働省労働基準局労働衛生課（監修）：有機剤溶健康診断のすすめ方135,（社）全国労働衛生団体連合会事務局,東京1990.
スチレン代謝物 …… 産業衛生学雑誌61（5）,170,2019.
マンデル酸 …… 労働省労働基準局労働衛生課（監修）：有機剤溶健康診断のすすめ方135,（社）全国労働衛生団体連合会事務局,東京1990.
総三塩化物 …… 労働省労働基準局労働衛生課（監修）：有機剤溶健康診断のすすめ方135,（社）全国労働衛生団体連合会事務局,東京1990.
トリクロル酢酸 …… 労働省労働基準局労働衛生課（監修）：有機剤溶健康診断のすすめ方135,（社）全国労働衛生団体連合会事務局,東京1990.
N-メチルホルムアミド …… 労働省労働基準局労働衛生課（監修）：有機剤溶健康診断のすすめ方135,（社）全国労働衛生団体連合会事務局,東京1990.
2,5-ヘキサンジオン …… 労働省労働基準局労働衛生課（監修）：有機剤溶健康診断のすすめ方135,（社）全国労働衛生団体連合会事務局,東京1990.
インジウム …… 大前和幸：分子呼吸器病 24（1）,88,2020.

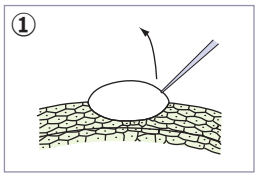
その他の検査

農薬スクリーニング …… 福島実：第24回日本環境化学会講演会資料集,p.30-45,1998.
幻覚剤検査 …… Fletcher,S.M.：J.Forensic Sci.Soc.21,327,1981.
Asselin,W.M.et al：J. Anal.Toxicol.12,207,1988.
大麻・マリファナ検査 …… 同　上
コカイン系麻薬検査 …… 同　上
アヘン系麻薬検査 …… 同　上
覚せい剤検査 …… 同　上
乱用薬物スクリーニング …… 同　上

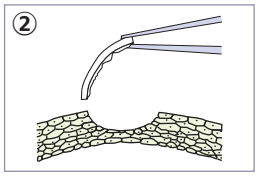
単純ヘルペスウイルス特異抗原/水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原

1. 検体の採取方法

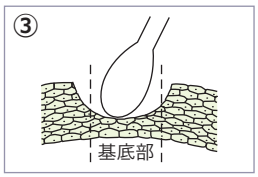
◆水疱の場合：小水疱、膿疱、痂疱



針を挿入し、上部の皮あるいは痂皮を剥がします。

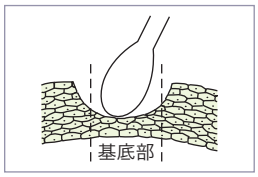


ピンセットで、剥がした皮を除去します。



ポリエステル綿棒を生理食塩水や精製水で軽く湿らせ、病巣基底部全面を綿棒で強く拭います。

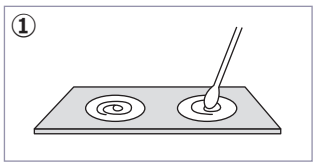
◆水疱でない場合



ポリエステル綿棒を生理食塩水や精製水で軽く湿らせ、病巣基底部全面を綿棒で強く拭います。

[注 意]
- 早期の水疱病巣が検体として最適です。
- 水疱内溶液は検体として不適です。
- ウイルス感染細胞は病巣基底部にありますので、患者が痛いというくらい強く拭い、基底部の細胞を採取します。
- 膿が出ている場合は、病巣基底部をかき乱さないように注意し、綿棒でまず膿を拭いさり、別の綿棒で検体を採取してください。

2. 検体の塗抹方法



スライドグラスの2つのウェルに内側から円を描くようにこすらず、軽く叩くように塗抹してください。
この際綿棒に付着している検体全てが、塗抹されるよう綿棒を少しずつ回転させ、ウェルからはみ出さないように塗抹してください。

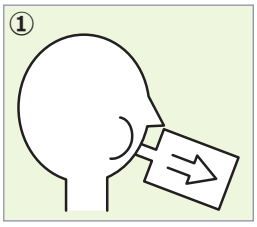
②風乾

操作中検体がはがれ落ちる原因となりますので完全に乾燥させてください。
ドライヤーの冷風で乾燥させることも可能です。

③アセトン固定

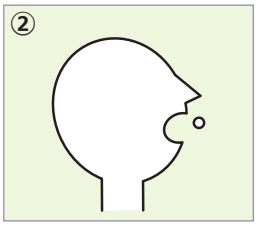
検体の塗抹してあるウェルにアセトンを滴下して固定し、蒸発させます。

尿素呼気試験の採取法



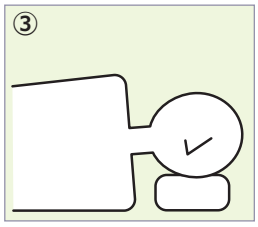
吹く

ユービット錠の服用前に呼気を採取してください。



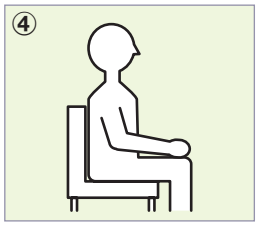
飲む

ユービット錠1錠を潰したりせず、空腹時に水100mLとともに噛まずに速やかに（5秒以内）服用してください。



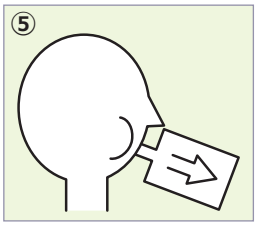
左側臥位で5分待つ

服用後、5分間体の左側を下にして横になってください。



座位で15分待つ

その後は15分間座ってください。



吹く

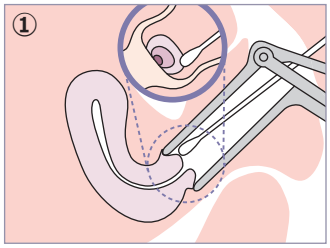
ユービット錠服用20分後に、もう一度呼気を採取してください。

[呼気採取方法のポイント]

①呼気採取バッグを口にあて（鼻から）息を吸って、5～10秒程度息をとめてください。
②その後、呼気バッグにゆっくりと息を入れてください。
③息止めが苦しい場合は、2～3回に分けて入れても大丈夫です。
④呼気採取バッグには肺の中の息を入れるようにしてください。

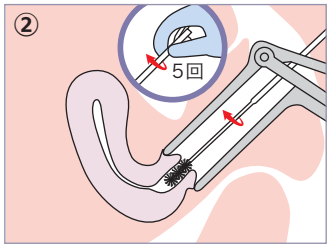
淋菌／クラミジア・トラコマチス核酸同定

1. 子宮頸管

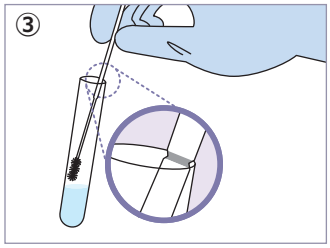


付属のドライスワブで子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を十分拭い取ります。

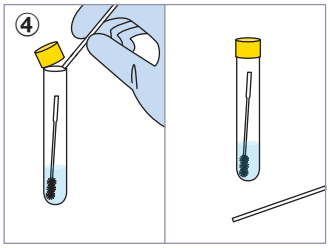
【注意】粘液をぬぐったスワブは廃棄します。



付属されているフロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。(回しすぎないでください。)スワブを引き抜く際は膣の粘膜に触れないように注意してください。



容器のキャップを開けます。採取したスワブの先端が、容器の溶液につからないように注意しながら入れ、柄につけられた黒い線を容器の縁に合わせます。



容器の縁を利用して、スワブの柄につけられた線の部分でスワブの柄を折ります。容器のキャップをしっかりと閉めます。

【注意】手元に残った折れた柄は廃棄してください。スワブの柄を折る際は絶対にはさみを使用しないでください。

[検体採取上の注意]

- 付属のスワブ以外は使用しないでください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。
- 粘液を十分除いてから、検体を採取してください。
- 容器には検体を採取したスワブのみ入れてください。

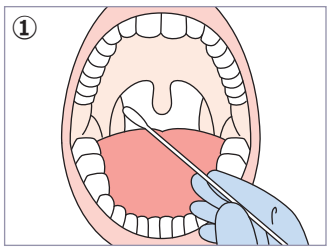
[一般的な注意]

- 子宮頸管検体を採取する前に、スワブを容器に浸さないでください。
- 容器の液体の飛散には十分ご注意ください。
- 検体を採取したスワブは、速やかに容器に入れてください。
- 容器は絶対に凍結しないでください。

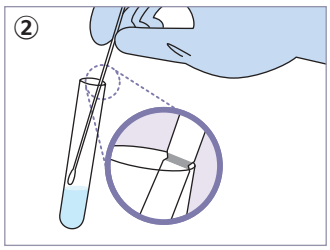
[外因性妨害物質による検討結果(メーカー添付文書)]

子宮頸管擦過物と尿に存在する可能性のある女性用の一般用医薬品又は医療用医薬品について検討した結果、Metronidazole Vaginal Gel,Replens,Rep Hreshにおいて通常検体に存在しうる濃度で本品への影響(偽陰性化もしくは無効な結果)が認められました(Azo Standardは尿検体のみ検討)。
これら3製品はカルボマー(カルボキシビニルポリマー)を含んでいます。膣潤滑剤、クリーム、ゲルなどカルボマーを含む製品は、検査結果に影響する可能性があるため、子宮頸管擦過物及び尿の採取中または採取前に使用しないでください。

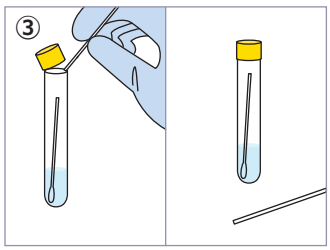
2. 咽頭



付属のドライスワブを使用し、後咽頭部および扁桃腺、口蓋垂を擦過します。スワブを引き抜く際は口腔内に触れないように注意してください。



容器のキャップを開けます。採取したスワブの先端が、容器の溶液につからないように注意しながら入れ、柄につけられた黒い線を容器の縁に合わせます。



容器の縁を利用して、スワブの柄につけられた線の部分でスワブの柄を折ります。容器のキャップをしっかりと閉めます。

【注意】手元に残った折れた柄は廃棄してください。スワブの柄を折る際は絶対にはさみを使用しないでください。

[検体採取上の注意]

- 付属のドライスワブ以外は使用しないでください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。

[一般的な注意]

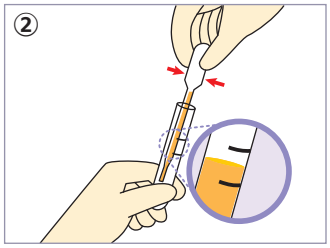
- 検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けてください。
- 咽頭検体を採取する前に、ドライスワブを容器に浸さないでください。
- 容器の液体の飛散には十分ご注意ください。
- 検体を採取したドライスワブは、速やかに容器に入れてください。
- 容器は絶対に凍結しないでください。

淋菌／クラミジア・トラコマチス核酸同定

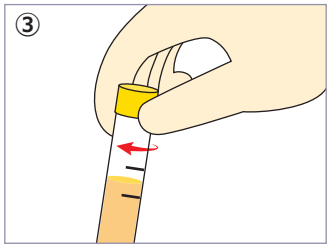
3.尿

滅菌済み容器に初尿を採取します。滅菌済みスポイトを用いて、初尿を容器に移します。

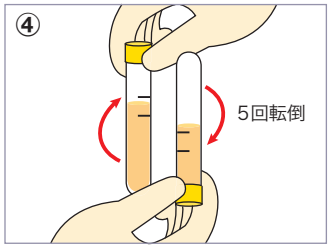
【注意】初尿は採取後2～30℃で24時間以内に容器に移してください。



容器に記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。



容器のキャップをしっかりと閉めてください。



容器を5回転倒混和させてください。

[検体採取上の注意]

- 初尿は容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。
- 初尿は2～30℃で24時間以内に容器に移してください。

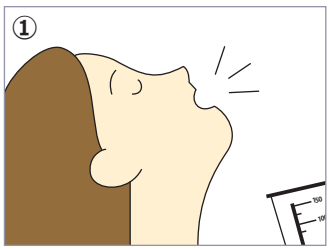
[一般的な注意]

- 女性の尿を採取する前は、消毒しないでください。
- 月経中の患者からは、尿検体を採取しないでください。
- 最後の尿から少なくとも1時間以上経過していることを確認してください。
- 容器の液体飛散に十分ご注意ください。
- 容器は絶対に凍結しないでください。

[外因性妨害物質による検討結果（メーカー添付文書）]

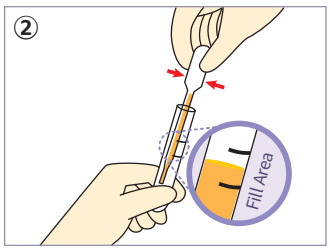
子宮頸管擦過物と尿に存在する可能性のある女性用の一般用医薬品又は医療用医薬品について検討した結果、Metronidazole Vaginal Gel,Replens,Rep Hreshにおいて通常検体に存在しうる濃度で本品への影響（偽陰性化もしくは無効な結果）が認められました（Azo Standardは尿検体のみ検討）。
これら3製品はカルボマー（カルボキシビニルポリマー）を含んでいます。膣潤滑剤、クリーム、ゲルなどカルボマーを含む製品は、検査結果に影響する可能性があるため、子宮頸管擦過物及び尿の採取中または採取前に使用しないでください。

4.うがい液



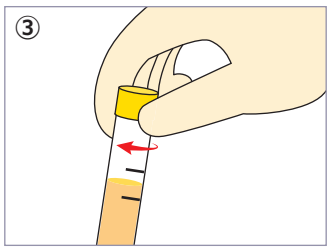
生理食塩水（日局方など）をコップに15～20mL入れてください。生理食塩水15～20mLを口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢いよく「ガラガラ」とうがいを行います。

【注意】口に含んで吐き出した液とうがい用容器に残した液を合わせて「うがい液」とします。

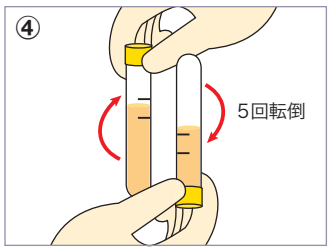


「うがい液」全量をうがい用容器に回収し、スポイトで容器（尿・うがい用）に必要量添加します。

【注意】「うがい液」は容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。



容器のキャップをしっかりと閉めてください。



容器を5回転倒混和させてください。

[検体採取上の注意]

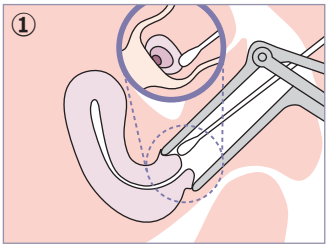
- うがい液は容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。

[一般的な注意]

- 食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどから2時間以上経過してから採取してください。
- 容器の液体飛散に十分ご注意ください。
- 容器は絶対に凍結しないでください。

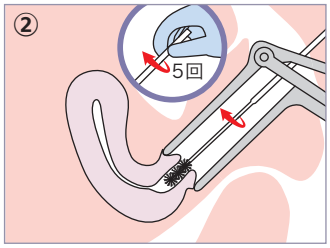
腟トリコモナスおよびマイコプラズマ・ジェニタリウム核酸同定

1. 子宮頸管

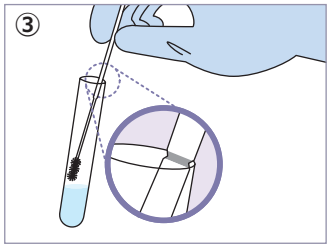


付属のドライスワブで子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を十分拭い取ります。

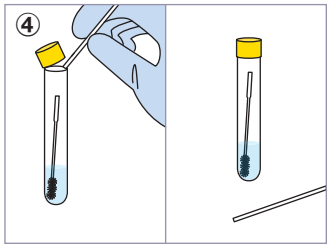
【注意】粘液をぬぐったスワブは廃棄します。



付属されているフロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。(回しすぎないでください。)スワブを引き抜く際は腟の粘膜に触れないように注意してください。



容器のキャップを開けます。採取したスワブの先端が、容器の溶液につからないように注意しながら入れ、柄につけられた黒い線を容器の縁に合わせます。



容器の縁を利用して、スワブの柄につけられた線の部分でスワブの柄を折ります。容器のキャップをしっかりと閉めます。

【注意】手元に残った折れた柄は廃棄してください。スワブの柄を折る際は絶対にはさみを使用しないでください。

[検体採取上の注意]

- 付属のスワブ以外は使用しないでください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。
- 粘液を十分除いてから、検体を採取してください。
- 容器には検体を採取したスワブのみ入れてください。

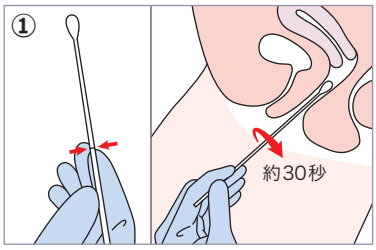
[一般的な注意]

- 子宮頸管検体を採取する前に、スワブを容器に浸さないでください。
- 容器の液体の飛散には十分ご注意ください。
- 検体を採取したスワブは、速やかに容器に入れてください。
- 容器は絶対に凍結しないでください。

[外因性妨害物質による検討結果(メーカー添付文書)]

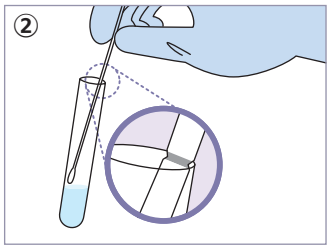
子宮頸管擦過物と尿に存在する可能性のある女性用の一般用医薬品又は医療用医薬品について検討した結果、Metronidazole Vaginal Gel,Replens,Rep Hreshにおいて通常検体に存在しうる濃度で本品への影響(偽陰性化もしくは無効な結果)が認められました(Azo Standardは尿検体のみ検討)。
これら3製品はカルボマー(カルボキシビニルポリマー)を含んでいます。腟潤滑剤、クリーム、ゲルなどカルボマーを含む製品は、検査結果に影響する可能性があるため、子宮頸管擦過物及び尿の採取中または採取前に使用しないでください。

2. 腟

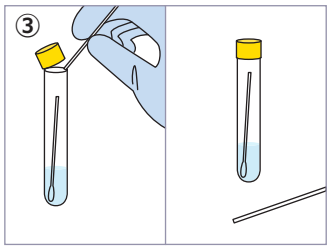


片手でドライスワブの黒い線の下側の柄を持ち、腟口から5㎝ほど挿入します。ドライスワブを腟壁にこすりつけるようにして時計回りに約30秒ほどゆっくりと回します。スワブを慎重に引き抜きます。容器に保管するまでは先端部がどこにも触れないようにしてください。

【注意】付属されているドライスワブのみを使用します。フロックスワブは使用しないでください。



容器のキャップを開けます。採取したスワブの先端が、容器の溶液につからないように注意しながら入れ、柄につけられた黒い線を容器の縁に合わせます。



容器の縁を利用して、スワブの柄につけられた線の部分でスワブの柄を折ります。容器のキャップをしっかりと閉めます。

【注意】手元に残った折れた柄は廃棄してください。スワブの柄を折る際は絶対にはさみを使用しないでください。

[検体採取上の注意]

- 付属のスワブ以外は使用しないでください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。

[一般的な注意]

- 腟検体を採取する前に、スワブを容器に浸さないでください。
- 容器の液体の飛散には十分ご注意ください。
- 検体を採取したドライスワブは、速やかに容器に入れてください。
- 容器は絶対に凍結しないでください。

[外因性妨害物質による検討結果(メーカー添付文書)]

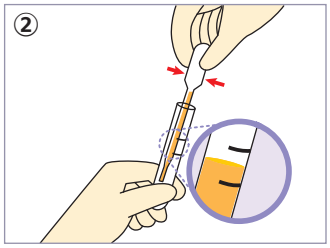
子宮頸管擦過物と尿に存在する可能性のある女性用の一般用医薬品又は医療用医薬品について検討した結果、Metronidazole Vaginal Gel,Replens,Rep Hreshにおいて通常検体に存在しうる濃度で本品への影響(偽陰性化もしくは無効な結果)が認められました(Azo Standardは尿検体のみ検討)。
これら3製品はカルボマー(カルボキシビニルポリマー)を含んでいます。腟潤滑剤、クリーム、ゲルなどカルボマーを含む製品は、検査結果に影響する可能性があるため、子宮頸管擦過物及び尿の採取中または採取前に使用しないでください。

腟トリコモナスおよびマイコプラズマ・ジェニタリウム核酸同定

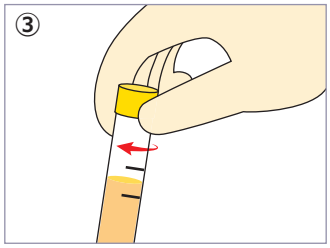
3.尿

滅菌済み容器に初尿を採取します。滅菌済みスポイトを用いて、初尿を容器に移します。

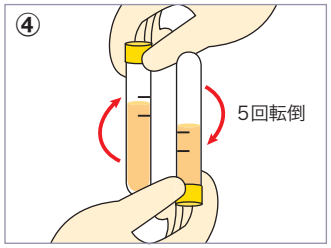
【注意】初尿は採取後2～30℃で24時間以内に容器に移してください。



容器に記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。



容器のキャップをしっかりと閉めてください。



容器を5回転倒混和させてください。

[検体採取上の注意]

- 初尿は容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。
- 初尿は2～30℃で24時間以内に容器に移してください。

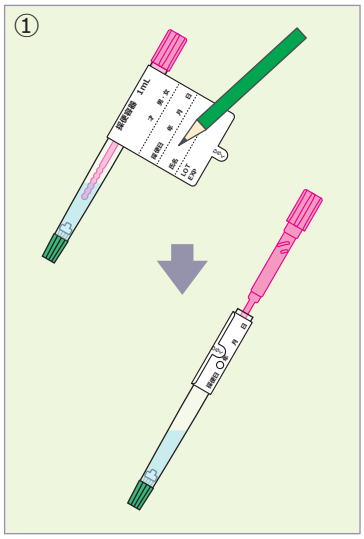
[一般的な注意]

- 女性の尿を採取する前は、消毒しないでください。
- 月経中の患者からは、尿検体を採取しないでください。
- 最後の尿から少なくとも1時間以上経過していることを確認してください。
- 容器の液体飛散に十分ご注意ください。
- 容器は絶対に凍結しないでください。

[外因性妨害物質による検討結果（メーカー添付文書）]

子宮頸管擦過物と尿に存在する可能性のある女性用の一般用医薬品又は医療用医薬品について検討した結果、Metronidazole Vaginal Gel,Replens,Rep Hreshにおいて通常検体に存在しうる濃度で本品への影響（偽陰性化もしくは無効な結果）が認められました（Azo Standardは尿検体のみ検討）。
これら3製品はカルボマー（カルボキシビニルポリマー）を含んでいます。腟潤滑剤、クリーム、ゲルなどカルボマーを含む製品は、検査結果に影響する可能性があるため、子宮頸管擦過物及び尿の採取中または採取前に使用しないでください。

便中ヘリコバクター・ピロリ抗原

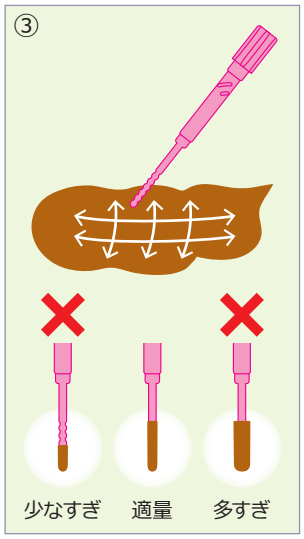


容器の白ラベルを途中まではがし、氏名・日付などを記入し、また巻いてください。
ピンクの採取棒を回して、引き抜いてください。

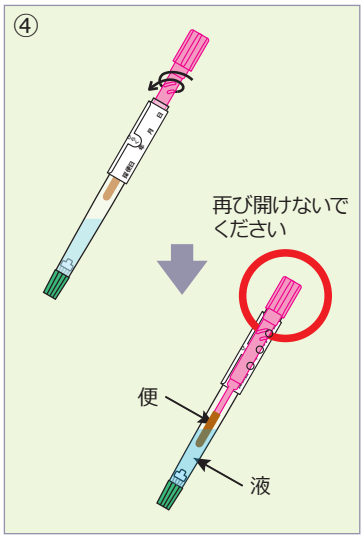
【注意】採便容器の緑キャップは、絶対に外したり、緩めたりしないでください。

洋式の場合は、便器にいつもと反対向きに座り、便に水洗水が付かないように、必ずトイレットペーパーを敷いて便を採取してください。

【注意】採便棒を肛門に差し込まないようにしてください。



採便棒先端の溝すべてが便でうまるように、便の表面をこすりとってください。



便を採取後、採便棒を容器にもどし、根元までしっかりねじ込んでください。
一度容器に入れた採便棒は、再び開けないようにしてください。
添付のビニール袋に入れ、提出まで冷暗所に保管し、速やかに提出してください。

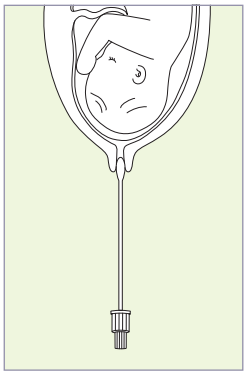
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ

1. 検体採取

①子宮膣部の粘液を綿球で丁寧に拭い取ります。

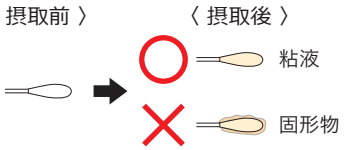
②綿球を子宮頸管内腔に挿入します。

③綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液を採取します。

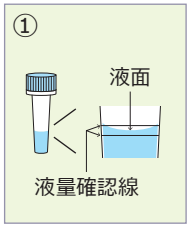


[注 意]

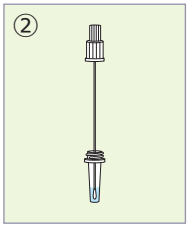
- 子宮頸管部より採取してください。
- 検体採取は膣部洗浄前に行ってください。
- 綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにしてください。綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入してください。
- 綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液を浸み込ませるようにしてください。少量の固形物が付着した場合には、ピンセットなどで取り除いてください。また、大量の固形物が付着した場合には、検体採取をやり直してください。
- 採取した検体は15分以内に抽出作業を行ってください。



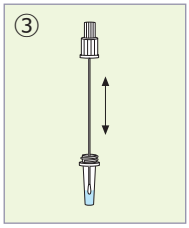
2. 抽出方法



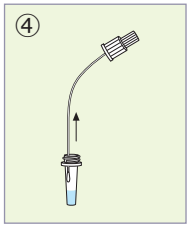
抽出液の液面が、抽出容器の液量確認線の間にあることを確認します。
なお、抽出液がキャップ中栓に付着している場合があるので、振り落とした後に液面の確認を行ってください。



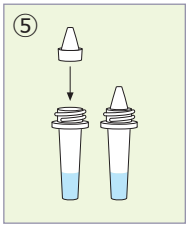
頸管粘液を採取した綿棒を浸けて、2~3分間放置します。



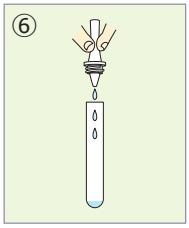
綿棒を20~30回細かく上下させて検体を抽出します。



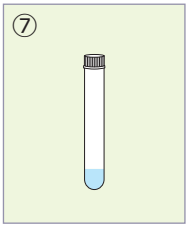
検体抽出液がしみ込んだ綿棒を抽出容器壁面に軽く押しつけて、抽出液が滴らない程度にした後、取り除きます。



フィルターをセットします。

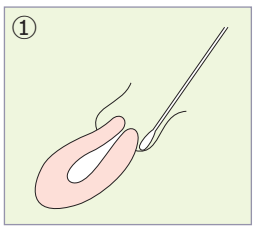


検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。
この時の加圧は1回のみとし、5～7滴(約300μL)を分取します。
必要量が得られない場合は検体採取からやり直してください。

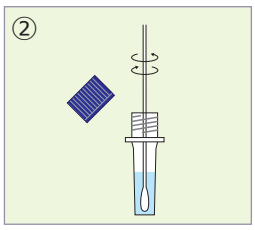


検体保存容器に白色キャップをし、凍結でご提出ください。

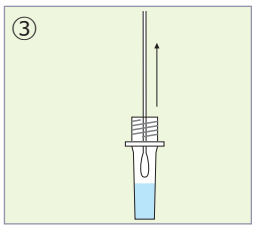
頸管膣分泌液中癌胎児性フィブロネクチン



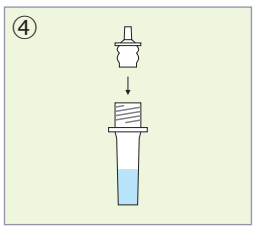
専用綿棒を後膣円蓋に挿入し、約10秒間綿棒の軸を小さく回して分泌物を吸収させます。
（膣表面を強くこすらないでください）



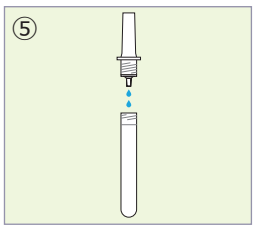
検体抽出容器のキャップをはずし、分泌液を吸収させた綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。
（この際、容器から液がこぼれないよう注意してください）



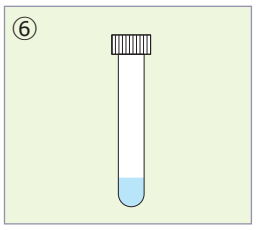
綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。



検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付けます。



検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し、チューブの蓋を閉めてください。シールを貼り、冷凍保存してください。



測定試料

［注意］

- 必ず専用採取器具（容器番号27）を用い、抽出・濾過検体にてご提出ください。
- 検体の採取は膣洗浄前に行ってください。
- 検体中に精液が混入している場合は、その検体は使用しないでください。
- 検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。

精液検体

精液検査のご利用に際して、射精可能な場合の精液の採取は、以下の手順により行ってください。

①禁欲期間は２日以上、７日以内が理想的です。氏名、禁欲期間、採取日時を記録してください。

②検査は２回行い、その間隔は７日以上、３カ月以内とすることが推奨されます。
これら２回の検査結果が著しく異なる場合には、追加検査を行ってください。

③採取は（院内）検査室近くのプライバシーの保てる部屋で行うか、採取後１時間以内に持参させるようにしてください。

④精液はマスターベーションで採取します。
容器は滅菌した広口のガラス製のものを温めて（20～40℃）使用してください。プラスチック製のものは精子に対する毒性がないことを確かめてから、用いる必要があります。潤滑剤は使用しないでください。
細菌学的検査を行う場合には、排尿後に手とペニスを洗浄・消毒してから滅菌した容器に採取してください。

⑤通常のコンドームは、精子運動性に干渉する薬剤が含まれているため、精液採取には使用しないでください。
マスターベーションで採取できない場合には、精液採取用コンドームを利用することが推奨されます。

〔上掲の記述は、日本不妊学会編「新しい生殖医療技術のガイドライン」に準じたものです。〕

容器一覧

1 汎用容器

容量
8.5mL・5mL（分離剤入り）
9mL（分離剤なし）

保管方法
室温

有効期間
8.5mL・5mL（分離剤入り）
→ 1年
9mL（分離剤なし）
→ 1年6カ月

2 血球容器

容量
2mL

添加剤
EDTA-2K

保管方法
室温

有効期間
1年6カ月

3 血糖容器

容量
2mL

添加剤
NaF

保管方法
室温

有効期間
1年6カ月

4 凝固検査容器

容量
1.8mL

添加剤
3.2%クエン酸Na

保管方法
室温（専用保管容器）

有効期間
1年

5 滅菌スピッツ

容量
10mL

保管方法
室温

有効期間
1年

6 内分泌検査容器

容量
5mL

添加剤
EDTA-2Na

保管方法
室温

有効期間
1年6カ月

7 アプロチニン容器

容量
2mL

添加剤
EDTA-2Na
アプロチニン
（トラジロール）

保管方法
室温

有効期間
1年

8 ヘパリン容器

容量
10mL

添加剤
ヘパリンNa

保管方法
室温

有効期間
2年

9 尿中FDP容器

容量
2mL

添加剤
抗プラスミン剤

保管方法
室温

有効期間
2年

10 血中アンモニア容器

容量
1mL

添加剤
除蛋白液4mL

保管方法
室温

有効期間
1年

注意事項
真空採血は絶対に行わないでください。

11 乳酸・ピルビン酸用容器

容量
1mL

添加剤
除蛋白液1mL
(0.8N過塩素酸)

保管方法
冷蔵

有効期間
6カ月

12 プレパラート

保管方法
室温

13 ウイルス遺伝子検査用容器−A

容量
5mL

添加剤
分離剤入り

保管方法
室温

有効期間
1年

14 シードスワブ２号

添加剤
培地

保管方法
室温

有効期間
容器表示

15 採痰容器

保管方法
室温

有効期間
3年

16 血液ボトル

好気用

嫌気用

小児用

容量
3〜10mL

添加剤
培地

保管方法
室温

有効期間
容器表示

17 ダイアスライド

添加剤
培地

保管方法
冷蔵

有効期間
6カ月

18 CD毒素遺伝子検出用容器

保管方法
室温

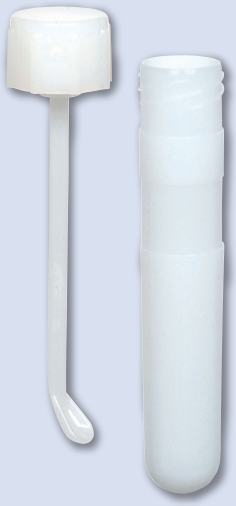
19 便ヘモグロビン容器

添加剤
保存液

保管方法
室温

有効期間
容器表示

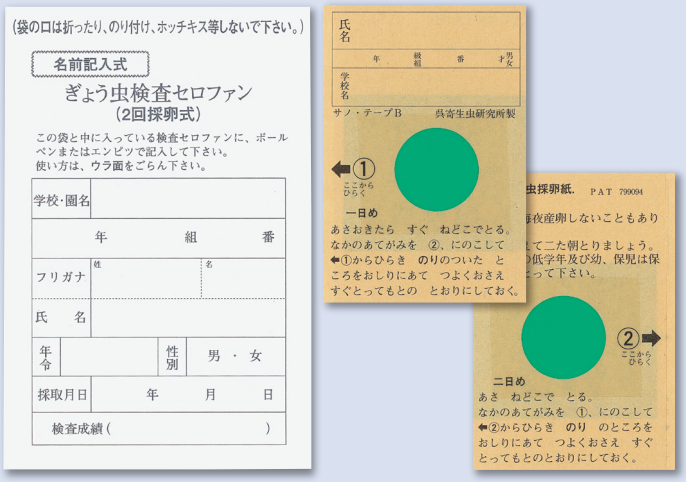
20 採便容器



保管方法
室温

有効期間
3年

21 セロテープ

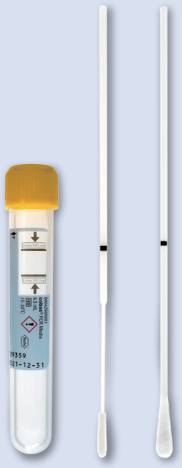


保管方法
室温

22 カルプロテクチン採便セット

保管方法
室温

23 STD核酸同定容器-A



子宮頸管・咽頭用

添加剤
塩酸グアニジン

保管方法
室温

有効期間
容器表示

24 STD核酸同定容器-B

尿・うがい液用

添加剤
塩酸グアニジン

保管方法
室温

有効期間
容器表示

25 HPV-DNA同定容器

添加剤
保存液

保管方法
室温

有効期間
容器表示

26 顆粒球エラスターゼ容器

添加剤
抽出液

保管方法
冷蔵

有効期間
1年

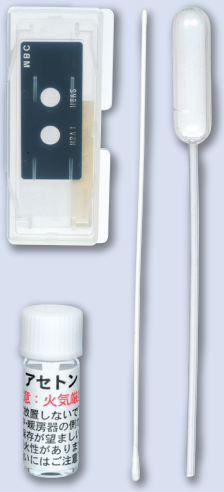
27 癌胎児性フィブロネクチン容器

添加剤
抽出液

保管方法
室温

有効期間
外装表示

28 抗原検査採取セット



保管方法
室温

30 褐色スピッツ

容量
10mL

保管方法
室温

有効期間
3年

31 尿中ミオグロビン容器

容量
6mL

添加剤
安定化剤

保管方法
室温

有効期間
1年

注意事項
2つのラインの間に入れてください。

34 尿中金属分析用容器

保管方法
室温

有効期間
3年

37 血中エンドトキシン容器

容量
3mL

添加剤
ヘパリンNa

保管方法
室温

有効期間
2年

38 リンパ球保存容器

容量
7.5mL

添加剤
CPD

保管方法
室温

有効期間
1年

39 PA-IgG容器

容量
7mL

添加剤
保存液

保管方法
室温

有効期間
1年

40 β-TG、PF-4用容器

容量
2.7mL

添加剤
テオフィリン
アデノシン
ジピリダモール
クエン酸
クエン酸Na

保管方法
冷蔵

有効期間
1年

注意事項
使用時まで遮光保存してください。

41 骨髄液保存容器

容量
1mL

添加剤
保存液

保管方法
冷蔵

有効期間
1カ月

42 T−SPOT用容器

容量
9mL

添加剤
ヘパリンNa

保管方法
室温

有効期間
1年6カ月

44 血中金属分析用容器

容量
3mL

添加剤
凝固促進剤

保管方法
室温

有効期間
1年

45 ヘリコポーター

添加剤
培地（半流動）

保管方法
冷蔵

有効期間
4カ月

46 透析用容器

容量
8mL

添加剤
急速凝固促進剤

保管方法
室温

有効期間
1年

47 透析液エンドトキシン容器

容量
4mL

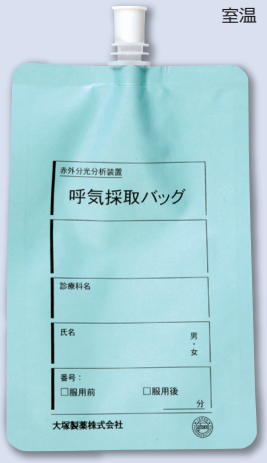
添加剤
0.64%トリエタノールアミン
0.16%ポリエチレングリコール
0.01Mクエン酸3Na

保管方法
冷蔵

有効期間
容器表示

48 呼気採取バッグ

保管方法
室温



49 便中ヘリコバクター・ピロリ抗原

添加剤
リン酸バッファー

保管方法
室温

有効期間
容器表示

50 ノロウイルス抗原用容器

保管方法
室温

有効期間
容器表示

51 ウイルス遺伝子検査用容器－B

容量
8mL

添加剤
EDTA-2K

保管方法
室温

有効期間
1年

52 ビタミンC容器

添加剤
0.8N過塩素酸

保管方法
冷蔵

有効期間
1年

53 QFT用容器

容量
6mL

添加剤
ヘパリンリチウム

保管方法
室温

有効期間
1年5カ月

54 ノロウイルスRNA

保管方法
室温

55 水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原容器

保管方法
室温

56 マイコプラズマ核酸同定容器

保管方法
室温

有効期間
3年

57 結核菌LAMP容器

保管方法
室温

58 輸血専用容器

容量
5mL

添加剤
EDTA-2Na

保管方法
室温

有効期間
1年6カ月

59 ビタミンB1・B2用容器

容量
4mL

添加剤
EDTA-2Na

保管方法
室温

有効期間
1年6カ月

60 GBS半流動培地

添加剤
培地

保管方法
冷蔵

61 液状細胞診（LBC）婦人科用

添加剤
固定液

保管方法
室温

有効期間
容器表示

62 百日咳菌核酸同定容器

保管方法
室温

有効期間
容器表示

63 内分泌血液検査容器

容量
5mL

添加剤
EDTA-2Na

保管方法
室温

有効期間
2年

64 尿中サイトメガロ核酸検出容器

容量
8mL

保管方法
室温

65 尿中メチルイソブチルケトン容器

容量
10mL

保管方法
室温

66 関節液検査容器

容量
10mL

保管方法
室温

有効期間
2年

67 髄液検査容器

容量
10mL

保管方法
室温

有効期間
2年

68 胸水検査容器

容量
10mL

保管方法
室温

有効期間
2年

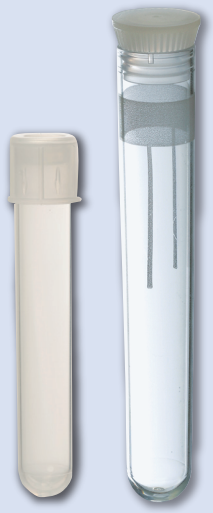
69 腹水検査容器

容量
10mL

保管方法
室温

有効期間
2年

91 分離用管



保管方法
室温

検体保存期間

検査終了後の検体保存期間

分類	検査項目・材料	検体保存日数
生化学 血液一般 免疫・血清 尿検査	血清	15日間
	血球	5日間
	血糖	
	尿	
	凝固	
	便	3日間
	血液標本	6カ月間
輸血検査	血液型	1カ月間
	不規則性抗体	
	クロスマッチ	6カ月間
一般細菌	呼吸器材料	依頼日から4日間
	消化器材料、胃組織	
	泌尿器材料	
	血液ボトル、髄液	
	体腔液	
	その他の材料	
	培養株	依頼日から10日間
抗酸菌	臨床材料全て	依頼日から4日間
遺伝子・特殊免疫	淋菌、クラミジア（PCR）	3週間
	腟トリコモナスおよび マイコプラズマ・ジェニタリウム（PCR）	
	MTB、MAI（TaqMan）	4日間
	QFTゴールドプラス	7日間
	ノロウイルス（BLEIA）	5日間
	ノロウイルス（RNA）	
	HCV（TaqMan）	1カ月間
	HBV（TaqMan）	
	結核菌群LAMP	10日間
	マイコプラズマLAMP	2週間
	百日咳菌LAMP	
	レジオネラLAMP	
	尿素呼気試験	3日間
	HPV 9種判別	2週間

検体の保存期間と追加検査や再検査が可能な期間は、異なります。

項目コード 統一コード	検　査　項　目	容器	検体量 (mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要 日数	備　　考	検体の安定性

項目コード 統一コード	検　査　項　目	容器	検体量 (mL) 保存	検査方法	基準値(単位)	実施料 判断料	所要 日数	備　　考	検体の安定性